

健康福祉学部

社会福祉学科

(授業科目名 五十音順)

科目名	医学概論	前期	2 単位
サブタイトル	医学の基礎知識	講義	
担当者	津田 理恵子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	○
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.ライフステージごとの心身の変化と健康課題が理解できる。</li> <li>2.康・疾病について理解できる。</li> <li>3.身体構造と心身機能について理解できる。</li> <li>4.病と障害の成り立ちや回復過程が理解できる。</li> <li>5.公衆衛生の観点から健康に及ぼす要因や健康課題の解決策が理解できる。</li> <li>6.こころとからだのしくみが理解できる。</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>看護師として病院や介護保険対象の事業所で勤務したことがある教員が以下の内容を指導します。  人のライフステージごとに特徴があるこころとからだのしくみや変化と健康課題について学ぶとともに、健康・疾病の捉え方、身体構造と心身機能、疾病と障害の成り立ち及び回復過程について学習し、公衆衛生の観点から、人々の健康に影響を及ぼす要因や健康課題を解決するための対策を学びます。  社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士として現場で実践するために必要な、人体の構造・機能や医学的知識を学びます。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>毎回の授業内容の復習としてノート整理に取り組むことを各回3時間程度行う。次回の授業の予習として教科書を読んでおくことを各回1時間程度行う。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.ライフステージにおける心身の変化と健康課題</li> <li>2.こころのしくみの理解 ライフステージにおける心身の変化と健康課題</li> <li>3.心身の加齢・老化 ライフステージ別の健康課題</li> <li>4.健康及び疾病の捉え方</li> <li>5.健康の概念 疾病の概念</li> <li>6.国際生活機能分類(ICF)</li> <li>7.身体構造と心身機能 からだのしくみの理解</li> <li>8.人体部位の名称</li> <li>9.基幹系と臓器の役割</li> <li>10.疾病と障害の成り立ち及び回復過程 疾病の発生原因 病変の成立機序 障害の概要</li> <li>11.リハビリテーションの概要と範囲 疾病と障害及びその予防・治療・予後・リハビリテーション</li> <li>12.公衆衛生 公衆衛生の概要 健康増進と保健医療対策</li> <li>13.まとめ</li> </ol>			

科目名	医学概論	前期	2 単位
サブタイトル	医学の基礎知識	講義	
担当者	津田 理恵子		
<p>[ 成績評価方法 ]  筆記試験の成績(50%)  小テスト(10%)  復習ノート(40%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  復習ノートを適宜確認し、コメントする。  ミニテストを授業の後半で適宜実施し、成績が悪い場合は個別に面談する。  毎回の授業の最初に前回の授業を振り返りコメントする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。  成績評価方法:筆記試験、小テスト、復習ノート</p> <p>学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。  成績評価方法:筆記試験、小テスト、復習ノート</p> <p>学科DP番号／DP内容:福祉3-2／現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。  成績評価方法:筆記試験、小テスト、復習ノート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:筆記試験、小テスト、復習ノート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:復習ノート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:小テスト、復習ノート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  書籍名:医学概論 著者名:一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟(編) 出版社名:中央法規出版  ISBN:9784805882313</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	医療的ケア I	前期	2 単位
サブタイトル	医療を必要としている生活者	講義	
担当者	神原 珠美		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療的ケアを行う上での専門的役割を理解できる</li> <li>2. 医療的ケアのニーズが増加する社会背景や医療制度を理解する</li> <li>3. チーム医療と経管栄養、喀痰吸引を行う上での連携を理解する</li> <li>4. 安全に行うための方法やリスクマネジメントを理解し、応急処置を学ぶ</li> <li>5. 医療的ケアに関して清潔や感染予防の必要性を学ぶ</li> <li>6. 健康状態の把握の方法を学ぶ</li> <li>7. 喀痰吸引の知識、手順を理解する</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>「医療的ケア I」ではこれに続く「医療的ケア II」「医療的ケア III・IV」とともにその資格取得講習会の「医療的ケア実施の基本研修(講義)(演習)」の一部にあたる内容である。介護福祉士として安全な医療的ケアを実施するために必要な基礎知識である、医療的ケアに関する制度、医療的ケアを必要とする人の理解、医療チームとの連携などに必要な基礎的知識、実施手順などについて、教員の医療行為の経験を活かして指導する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>これまでに履修したなかで、解剖生理学、感染、応急処置緊急時の対応など、医療に関係深い分野について、予習復習を合わせて4時間程度行う。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション・医療的ケア実施に向けての基礎的知識       <ol style="list-style-type: none"> <li>第1章(1)人間と社会、個人の尊厳と自立、(2)医療の倫理、(3)利用者の気持ちの・安全な療養生活</li> </ol> </li> <li>2. 第2章(1)保健医療に関する制度、(2)医行為に関する法律       <ol style="list-style-type: none"> <li>(3)保健医療制度とチーム医療・介護職員との連携</li> </ol> </li> <li>3. 第3章(1)たんの吸引や経管栄養の安全な実施 (2)救急蘇生法</li> <li>4. 第4章(1)感染予防、(2)職員の感染予防、(3)療養環境の清潔・消毒法</li> <li>5. 第4章(4)滅菌と消毒 汚物の処理とガウンテクニック</li> <li>6. 第5章(1)身体・精神の健康、(2)健康状態を知る項目(バイタルサインなど)       <ol style="list-style-type: none"> <li>(3)急変状態について</li> </ol> </li> <li>7. 第5章 救急蘇生法</li> <li>8. 第6章(1)呼吸のしくみとはたらき</li> <li>9. 第6章(2)いつもと違う呼吸状態、(3)たんの吸引とは①</li> <li>10. 第6章(3)たんの吸引とは②、(4)人工呼吸器と吸引①</li> <li>11. 第6章(4)人工呼吸器と吸引②</li> <li>12. 第6章(5)子どもの吸引について、(6)吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意</li> <li>13. まとめ(振り返り)</li> </ol>			

科目名	医療的ケア I	前期	2 単位
サブタイトル	医療を必要としている生活者	講義	
担当者	神原 珠美		

[ 成績評価方法 ]

受講態度40%、課題10%、筆記試験50%

医療的ケアは全ての授業を受講しなければ、修了を認定できない授業です。欠席することがないよう、日ごろから健康管理に重々注意してください。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

提出を求めた課題については添削して返却する。

毎回の授業開始時に前回の授業を振り返りコメントする。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。

成績評価方法:受講態度、課題、筆記試験

学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。

成績評価方法:受講態度、課題、筆記試験

学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。

成績評価方法:受講態度、課題、筆記試験

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢

成績評価方法:受講態度、課題、筆記試験

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢

成績評価方法:受講態度、課題、筆記試験

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法:受講態度、課題、筆記試験

[ 教科書(ISBN) ]

書籍名:新版 介護職員等による喀痰吸引・経管栄養研修テキスト 著者名:一般社団法人全国訪問看護事業協会 出版社名:中央法規出版 ISBN:9784805883747

[ 参考書(ISBN) ]

科目名	医療的ケアⅡ	前期	2 単位
サブタイトル	吸引・経管栄養	講義	
担当者	津田 理恵子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	○
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <p>吸引に関係する呼吸器系の感染と予防について説明ができる。  痰の吸引により生じる危険、事後の安全確認について説明ができる。  痰の吸引による急変、事故発生時の対応と事前対策について説明できる。  自然な食物摂取から排泄までの機序を理解した上で、経管栄養の必要な状況を説明できる。  経鼻、経口、経ろうによる栄養法、またそのしくみを理解する。  経管栄養実施上の留意点がわかり、経管栄養によって生じる危険や感染が予防できる。  経管栄養を受ける利用者(児)、家族の気持ちを理解することやその対応、説明と同意のそれぞれの重要性と方法を説明できる。  経管栄養に関しての急変や事故が予測できる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>看護師として現場での経験が5年以上ある教員が、医療的ケアについて指導します。  施設や在宅で医療的ケアを必要としながら生活する人が増加し、介護福祉士が一部の医療的ケアを医療職と連携して担うことが制度化された経緯があり、「医療的ケアⅡ」は、「医療的ケアⅠ」に引き続き、医療的ケア実施の基本研修(講義)の一部であり、介護福祉士として、医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できることを目的に、喀痰吸引の続きと経管栄養の基礎的知識、実施手順を学びます。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>前回の授業内容を復習し次回の授業の予習として教科書の内容確認を各回4時間程度しておくこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>第6章(7)呼吸器の感染と予防(吸引と関連して)、(8)たんの吸引により生じる危険、事後の安全確認①</li> <li>第6章(8)たんの吸引により生じる危険、事後の安全確認②、(9)急変・事故発生時の対応と事前対策①</li> <li>第6章(9)急変・事故発生時の対応と事前対策②、第7章(1)たんの吸引で用いる用具、器材とそのしくみ、清潔の保持①</li> <li>第7章(1)たんの吸引で用いる器具、器材とそのしくみ、清潔の保持②、(2)吸引の技術と留意点①</li> <li>第7章(3)たんの吸引に伴うケア、(4)報告及び記録</li> <li>第8章(1)消化器のしくみとはたらき</li> <li>第8章(2)消化・吸収とよくある消化器の症状、(3)経管栄養とは①</li> <li>第8章(3)経管栄養とは②、(4)注入する内容に関する知識</li> <li>第8章(5)経管栄養実施上の留意点、(6)子どもの経管栄養について①</li> <li>第8章(6)子どもの経管栄養について②、(7)経管栄養に関する感染と予防</li> <li>第8章(8)経管栄養を受ける利用者の気持ちと対応、説明と同意</li> <li>(9)経管栄養に生じる危険、注入後の安全確認</li> <li>まとめ(振り返り)</li> </ol>			

科目名	医療的ケアⅡ	前期	2 単位
サブタイトル	吸引・経管栄養	講義	
担当者	津田 理恵子		

[ 成績評価方法 ]

受講態度40%、課題10%、筆記試験50%

医療的ケアは全ての授業を受講しなければ、修了を認定できない授業です。欠席することがないよう、日ごろから健康管理に重々注意してください。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

課題提出時にコメントする。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。

成績評価方法:受講態度、課題、筆記試験

学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。

成績評価方法:受講態度

学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。

成績評価方法:受講態度

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢

成績評価方法:受講態度、課題、筆記試験

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢

成績評価方法:受講態度、課題、筆記試験

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法:受講態度、課題、筆記試験

[ 教科書(ISBN) ]

書籍名:新版 介護職員等による喀痰吸引・経管栄養研修テキスト 著者名:一般社団法人全国訪問看護事業協会(編集) 出版社名:中央法規 ISBN:978-4-8058-8374-7

[ 参考書(ISBN) ]

科目名	医療的ケアⅢ	前期	1 単位
サブタイトル	医行為	講義	
担当者	津田 理恵子、神原 珠美		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他	技術演習	実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <p>①安全で適切な経管栄養(経鼻経管栄養・胃ろう注入)の実施手順、留意点が説明できる。  ②利用者の実施前後、注入中の状態観察、留意点が説明できる。  ③経管栄養に関しての急変や事故が発生したときの対応と事前対策が説明できる。  ④報告方法と、記録の意義・内容が説明できる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>看護師として実践現場で5年以上ある教員が、吸引と経管栄養の知識と技術を指導する。  高齢化が進展するなか、医療的ケアを必要とする人は増加の一途をたどるが、残念ながら病院の病床数には限りがある。そこで、医療的ニーズをかかえながらも福祉施設や在宅で暮らす方たちのニーズに対応するため、一定の基礎研修と実地研修を修了した介護福祉士が、医療職と連携を図りながら、喀痰吸引や経管栄養などの支援にあたることが法的に認められた。「医療的ケアⅢ」は、「医療的ケアⅠ」「医療的ケアⅡ」に続く基本研修(講義)の一部と、経管栄養が安全、適切に行えるように経管栄養や胃ろう注入の演習を通じてその基礎的知識、実施手順を学ぶ。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>これまでに履修済みの科目のうち、解剖生理学、消化管疾患、呼吸器疾患、感染、応急処置緊急時の対応など、医療と関係深い分野の復習と医療的ケアの実技に必要な知識についての予習を各回4時間程度行うこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>第8章(10)急変・事故発生時の対応と事前対策、第9章(1)経管栄養(経鼻経管栄養法)で用いる器具・機材としくみ、清潔の保持①(津田・神原)</li> <li>第9章(1)経管栄養(胃ろう注入)で用いる器具・機材としくみ、清潔の保持②、(2)経管栄養の技術と留意点①(津田・神原)</li> <li>第9章(1)経管栄養で用いる器具・機材としくみ、清潔の保持③、(2)演習による経管栄養(経鼻経管栄養)の技術と留意の習得①(津田・神原)</li> <li>第9章(2)演習による経管栄養(胃ろう注入)の技術と留意点の習得②(津田・神原)</li> <li>第9章(2)演習による経管栄養の技術と留意点③、(3)演習による経管栄養の技術と留意点④(津田・神原)</li> <li>第9章(3)経管栄養に必要なケア⑤、(4)報告及び記録(津田・神原)</li> <li>まとめ(振り返り)(津田・神原)</li> </ol>			

科目名	医療的ケアⅢ	前期	1 単位
サブタイトル	医行為	講義	
担当者	津田 理恵子、神原 珠美		

[ 成績評価方法 ]

授業参加度50%、課題50%

医療的ケアは全ての授業を受講しなければ、修了を認定できない授業です。欠席することがないよう、日ごろから健康管理に重々注意してください。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

自分なりの手順書を作成するため、作成した手順書を提出してもらい確認コメントする。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容: 福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。

成績評価方法: 授業参加度、課題

学科DP番号/DP内容: 福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。

成績評価方法: 授業参加度、課題

学科DP番号/DP内容: 福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。

成績評価方法: 授業参加度、課題

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢

成績評価方法: 授業参加度、課題

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢

成績評価方法: 授業参加度、課題

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力

成績評価方法: 授業参加度、課題

[ 教科書(ISBN) ]

[ 参考書(ISBN) ]

科目名	医療的ケアⅣ(演習)	前期	1 単位
サブタイトル	医行為	演習	
担当者	津田 理恵子、神原 珠美、名田 敦美		

[アクティブラーニング授業]

PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他	技術演習と技術テスト	実務経験のある教員による授業	○

[到達目標]

- ①吸引、経管栄養の医療的ケア5項目を医療職との連携のもとで安全・適切に実施できる技術を習得する。
- ②救急蘇生法を習得する。

[授業概要]

看護師として5年以上の現場経験がある教員が、吸引と経管栄養の実技が身につくように指導する。「医療的ケアⅣ」は「介護職員によるたんの吸引等の研修」の「基本研修のなかの演習」の部分にあたる。本学での医療的ケアの「基本研修」の講義科目である「医療的ケアⅠ」「医療的ケアⅡ」と「医療的ケアⅢ(一部が講義)」を履修した後に、演習を通じて対象者の安全を守り、尊厳を保持しながら介護福祉士がひとりで適切にこれらの技術が提供できることを目指して3名の教員で指導を行う。具体的には喀痰吸引(口腔内・鼻腔内・気管カニューレ内)と経管栄養(経鼻経管・胃ろう)、救急蘇生法の演習を行う。「基本研修(演習)」には評価基準があり、シミュレーターを使い、テキストの「評価票」に準じて、喀痰吸引は口腔内吸引5回以上、鼻腔内吸引5回以上、気管カニューレ内吸引5回以上、経管栄養では胃ろうまたは腸ろう5回以上、経鼻経管5回以上、そして救急蘇生法1回以上を手順どおりに実施できることが合格の基準である。ただし、吸引と経管栄養は5回のうち、最後の1回に手順ミスがなければ合格である。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

これまでに履修したなかで、解剖生理学、感染、応急処置緊急時の対応など、医療に関係深い分野の復習をしたうえで、実技ができるように、実技に関する知識と技術を各回2時間程度予習・復習する。

[授業計画]

1. たんの吸引(口腔内・鼻腔内・気管カニューレ内)演習(神原 津田 名田)
2. 口腔内吸引演習(神原 津田 名田)
3. 鼻腔内吸引演習(神原 津田 名田)
4. 気管カニューレ内吸引演習(神原 津田 名田)
5. 経管栄養法(胃ろうまたは腸ろう・経鼻)演習(神原 津田 名田)
6. 胃ろうまたは腸ろう経管栄養演習(神原 津田 名田)
7. 救急蘇生法(神原 津田 名田)

科目名	医療的ケアⅣ(演習)	前期	1 単位
サブタイトル	医行為	演習	
担当者	津田 理恵子、神原 珠美、名田 敦美		

[ 成績評価方法 ]

実技試験(90%) 授業参加度(10%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

実技試験の際に個別にコメントする。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。

成績評価方法:実技試験、授業参加度

学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。

成績評価方法:実技試験、授業参加度

学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。

成績評価方法:実技試験、授業参加度

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢

成績評価方法:実技試験、授業参加度

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢

成績評価方法:実技試験、授業参加度

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力

成績評価方法:実技試験、授業参加度

[ 教科書(ISBN) ]

[ 参考書(ISBN) ]

科目名	医療福祉論	後期	2 単位
サブタイトル	人間の健康に関する総合的な理解。	講義	
担当者	阿江 善春		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]  WHOの健康定義を柱に人間の持つ様々な課題をからだ、こころ、くらしの全体にわたり理解すると同時に、日本の社会保障体系(3福祉+公的扶助+5保険)を押さえた「具体的な場面における相談援助」を理解する。</p> <p>[ 授業概要 ]  1 健康と医療について、からだ、こころ、くらしのすべての視点からその基礎的知識を学習する。  2 その中でも特に福祉専門職として対人援助の業務に就くものとして、その基礎的な知識と技術を学習する。またその中で自身の健康を大切にす知識と方法についても習得する。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]  前期履修の「保健医療と福祉」と、人体と疾病の理解、心理学支援、地域福祉、障がい者福祉、高齢者福祉、児童・家庭福祉、社会保障、公的扶助などのテキストに目を通しておくこと。</p> <p>[ 授業計画 ]  1.医療ソーシャルワークの全体像(業務指針と業務統計から)  2.業務指針の理解①(業務分野と範囲ー前半)  3.業務指針の理解②(業務分野と範囲ー後半)  4.業務指針の理解③(方法)  5.事例検討と関連分野の制度理解①(医療保障と医療保険)  6.事例検討と関連分野の制度理解②(介護保障と介護保険)  7.事例検討と関連分野の制度理解③(年金保障と年金保険)  8.事例検討と関連分野の制度理解④(雇用保障と雇用保険)  9.事例検討と関連分野の制度理解⑤(業務上災害と補償)  10.事例検討と関連分野の制度理解⑥(障がい者福祉とMSW)  11.事例検討と関連分野の制度理解⑦(高齢者福祉とMSW)  12.事例検討と関連分野の制度理解⑧(児童・家庭福祉とMSW)  13.事例検討と関連分野の制度理解⑨(地域福祉とMSW)</p>			

科目名	医療福祉論	後期	2 単位
サブタイトル	人間の健康に関する総合的な理解。	講義	
担当者	阿江 善春		

[ 成績評価方法 ]  
 授業レポート40%、試験60%

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  
 試験終了後に解説する。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  
 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]  
 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。  
 成績評価方法:授業レポート30%、定期試験70%

学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。  
 成績評価方法:授業レポート30%、定期試験70%

学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。  
 成績評価方法:授業レポート30%、定期試験70%

学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びととも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。  
 成績評価方法:授業レポート30%、定期試験70%

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  
 成績評価方法:授業レポート50%、定期試験50%

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  
 成績評価方法:授業レポート50%、定期試験50%

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  
 成績評価方法:授業レポート50%、定期試験50%

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  
 成績評価方法:授業レポート50%、定期試験50%

[ 教科書(ISBN) ]

[ 参考書(ISBN) ]

科目名	介護過程 I	前期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	木村 あい、津田 理恵子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.介護過程の全体の流れが説明できる。</li> <li>2.介護過程の各段階の内容を理解できる。</li> <li>3.思考過程で論理的思考、判断を行使していることが理解できる。</li> <li>4.問題解決にあたり思考過程を自覚することができる。</li> <li>5.個別介護に介護過程の展開が必要であることを知る。</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>介護の対象者の自立、自己実現にむけた支援のために、対象の状態・状況に応じた意図的、科学的で、適切で個別的な介護を提供できる介護過程展開の能力を養う。  介護過程の学習は、他の科目で学習した知識や技術を統合したうえで、情報収集やアセスメントの仕方、生活課題の抽出方法や介護の目標のとらえ方、具体的な支援方法などを学習する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>これまでの履修済みの「介護」に関する科目を復習しておく。予習復習を含めて2時間程度の学修を行う</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 介護の専門性と介護過程の意義と基礎的理解(木村)</li> <li>2. 介護過程の構造(木村)</li> <li>3. ICFの視点、介護の理念、医学モデル・社会モデル・生活支援モデル(木村)</li> <li>4. 観察、コミュニケーション 情報収集、記録(木村)</li> <li>5. 生活の仕方とアセスメント 健康・機能障害(木村)</li> <li>6. 活動・参加の障害 生活障害(木村)</li> <li>7. ノーマライゼーション、自立への支援と価値(木村)</li> <li>8. 多職種との連携の必要性和チームアプローチ(介護過程とチームアプローチ)(津田)</li> <li>9. 生活課題の抽出、具体的な支援の方法、目標設定(津田)</li> <li>10. 介護計画の立て方と評価方法(津田)</li> <li>11. 事例演習①(津田)</li> <li>12. 事例演習②(津田)</li> <li>13. まとめと評価 (津田)</li> </ol>			

科目名	介護過程 I	前期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	木村 あい、津田 理恵子		
<p>[ 成績評価方法 ] レポートなどの課題 (20%)、試験 (80%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] ・レポートなどの課題は授業内や、manabaでコメントします。 ・試験は終了後に解答の解説をします。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:グループワーク、試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:グループワーク、試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:グループワーク、試験</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:グループワーク、試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:グループワーク、試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:グループワーク、試験</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ] 書籍名:介護過程 著者名:柘崎 京子 出版社名:建帛社 ISBN:9784767934358</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ]</p>			

科目名	介護過程Ⅱ	前期	1 単位
サブタイトル	介護保険下におけるケアマネジメントと介護過程の展開	演習	
担当者	津田 理恵子、木村 あい		

[アクティブラーニング授業]

PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○

[到達目標]

1. ケアマネジメントの歴史、目的、方法が理解できる
2. 介護保険制度と障害者総合支援法のそれぞれを理解し、高齢者、障害のある人のケアマネジメントが理解できる
3. 多職種間の連携とチームアプローチが理解できる
4. 個別の介護計画の必要性を理解し、ICFに基づく介護計画を立案できる

[授業概要]

1. 介護保険制度の概要を知り、「ケアマネジメント」の位置づけを学ぶ
2. ケアマネジメントを支える多職種や介護支援専門員の役割について学ぶ
3. 介護支援専門員の立案するケアプランと介護過程との関係や介護職の役割と連携の方法を学ぶ
4. 介護実践場面での「ケアマネジメント」の意義を学ぶ
5. 日本における高齢者施設や事業所などで提供されている介護保険サービスのひとつとしての生活支援が、介護過程展開によって進められている実態を学ぶ
6. ケアマネジメントの考え方、介護保険制度下でのケアマネジメントの実際、ケアマネジメントと介護過程の関係を演習を通し学び、事例を用いて介護過程を展開させる
7. ケアマネジメントと介護福祉士の役割の関係を学ぶ
8. 介護の専門的実践の重要性に気づいて、地域社会での介護過程展開の実際について学ぶ

看護師の資格を持って5年以上実践現場で経験のある教員が、介護過程の展開を介護福祉実習につながるように指導する。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

これまでに学んだ社会福祉政策、介護の基本、科目「介護過程Ⅰ」がこの授業の基礎知識となるので、これらについて復習をしておく

予習・復習を合わせて2時間程度

[授業計画]

1. ケアマネジメントの理解①歴史、定義、方法(木村)
2. 介護保険制度と障害者総合支援法の理解(木村)
3. 介護保険法における介護サービス ケアプランの視点(ICFと生活支援)(木村)
4. 施設におけるケアマネジメント ケアプランや介護計画に使用されるツール(木村)
5. ケアプランと介護過程展開(事例)(木村)
6. 介護過程の展開の理解(事例1)①介護計画における情報収集(木村)
7. 介護過程の展開の理解(事例1)②アセスメント(木村)
8. 介護過程の展開の理解(事例1)③計画の立案(津田)
9. 介護計画の発表(津田)
10. 介護過程の展開の理解(事例2)①情報収集(津田)
11. 介護過程の展開の理解(事例2)②アセスメント(津田)
12. 介護過程の展開の理解(事例2)③計画の立案(津田)
13. 介護計画の発表 まとめ(津田)

科目名	介護過程Ⅱ	前期	1 単位
サブタイトル	介護保険下におけるケアマネジメントと介護過程の展開	演習	
担当者	津田 理恵子、木村 あい		

[ 成績評価方法 ]

課題(40%)・課題への取組み(30%)筆記試験(30%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

レポート・課題については、添削し返却する。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。

成績評価方法:課題 筆記試験

学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。

成績評価方法:課題 課題への取組み

学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。

成績評価方法:課題 課題への取組み 筆記試験

学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。

成績評価方法:課題 課題への取組み 筆記試験

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢

成績評価方法:課題 課題への取組み

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法:課題 課題への取組み 筆記試験

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法:課題 課題への取組み

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力

成績評価方法:課題 課題への取組み

[ 教科書(ISBN) ]

書籍名:介護過程 著者名:柘崎京子 出版社名:建帛社 ISBN:9784767934358

[ 参考書(ISBN) ]

科目名	介護過程Ⅲ	前期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	名定 慎也		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[ 到達目標 ]</p> <p>(1) ICF、利用者本意、尊厳、人権、自立支援の意味を理解し、介護過程の展開に取り入れることができる。</p> <p>(2) 提供された事例について実践的展開ができる。</p> <p>支援アプローチで各理論の示す自己実現や生活の質の向上を目指すケアの本質論を介護過程の思考に活用できる。</p> <p>(3) ICF、利用者本意、尊厳、人権、自立支援の意味を理解し、介護過程の展開に取り入れることができる。</p> <p>(4) 提供された事例について実践的展開ができる。</p> <p>支援アプローチの各理論が示す自己実現や生活の質の向上を目指すケアの本質論を介護過程の思考に活用できる。</p> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>介護福祉士もしくは看護師の資格を持って、5年以上実践現場での経験がある教員が、多くの臨床ケースをもとに介護過程において特性に応じた展開ができるように支援する。これまで介護過程ⅠⅡで介護過程の展開の基礎、方法論を学んでいる。ここでは介護実習Ⅰの課題であった「情報収集」の事例に対して、ICFに沿いながら情報収集・分析・支援計画・実践・評価といった一連の介護過程の展開を学ぶ。実際の現場では、個々の支援内容は多岐に渡り、一人として同じ支援の人はいない。介護過程の展開能力を習得するには、これまでに他科目で学習した知識や技術を統合して考える力が必要である。その能力を用いて、対象とする利用者の介護計画を立案する。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>介護実習Ⅰの情報収集用紙を整理する。各回、予習復習合わせて2時間程度、各事例を再度読み直し、記録内容や書式、アセスメントなどフェーズに合わせて整理しておくこと。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. ICF、ICIDHの理解と実習Ⅰ事例の介護過程振り返り</li> <li>3. アセスメントの思考の方法</li> <li>4. アセスメントの視点の提示</li> <li>5. 介護過程展開のためのアセスメントツールの活用 ①</li> <li>6. 介護過程展開のためのアセスメントツールの活用 ②</li> <li>7. 介護過程展開のためのアセスメントツールの活用 ③</li> <li>8. アセスメント(情報の解釈・関連付け・統合化)</li> <li>9. アセスメントによる生活課題の抽出、優先順位のつけ方</li> <li>10. 介護計画の立案(介護目標の設定・具体的な支援内容・支援方法の決定)</li> <li>11. 介護の実施(実施における留意点・実施の記録)</li> <li>12. 評価の修正の方法(評価の意義と目的・評価の内容と方法、再アセスメント)</li> <li>13. まとめ</li> </ol>			

科目名	介護過程Ⅲ	前期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	名定 慎也		

[ 成績評価方法 ]

授業課題(20%) 筆記試験(70%) 授業への取り組み(10%)の総合評価

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

個別指導及びmanabaを活用する。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。

成績評価方法:授業課題、筆記試験

学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。

成績評価方法:授業課題、筆記試験、授業への取り組み

学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。

成績評価方法:授業課題、筆記試験、授業への取り組み

学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。

成績評価方法:授業課題、筆記試験、授業への取り組み

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢

成績評価方法:授業課題、筆記試験、授業への取り組み

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢

成績評価方法:授業課題、筆記試験、授業への取り組み

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法:授業課題、筆記試験、授業への取り組み

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力

成績評価方法:授業課題、筆記試験、授業への取り組み

[ 教科書(ISBN) ]

書籍名:介護過程 著者名:柘崎 京子 出版社名:建帛社 ISBN:9784767934358

[ 参考書(ISBN) ]

科目名	介護過程Ⅳ		後期	1 単位
サブタイトル			演習	
担当者	名定 慎也			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業	○	
<p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICF、利用者本意、尊厳、人権、自立支援の意味を理解し、介護過程の展開に取り入れることができる。</li> <li>・提供された事例について実践的展開ができる。</li> <li>・文献検索や活用方法が理解できる。</li> </ul> <p>[授業概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで介護過程Ⅰ～Ⅲで介護過程の展開の基礎、方法論を学んだが、ここでは事例を用いて介護過程の展開を行う。</li> <li>・介護過程の展開能力を習得するにあたり、これまで他科目で学習した知識や技術を統合して、対象利用者の介護過程を展開する。</li> </ul> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>介護過程Ⅰ～Ⅲについて整理しておく。毎回、情報収集・アセスメントに関する文献・資料準備に2時間程度予習しておくこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 介護過程の振り返り</li> <li>3. 情報収集～アセスメント</li> <li>4. 介護計画立案</li> <li>5. 発表① 実践と評価①</li> <li>6. 発表② 実践と評価②</li> <li>7. 発表③ 実践と評価③</li> <li>8. 計画の修正・介護過程に伴う記録</li> <li>9. 福祉現場の事例紹介・事例検討①(高齢者等)</li> <li>10. 福祉現場の事例紹介・事例検討②(障害者等)</li> <li>11. 介護過程におけるチームアプローチの視点</li> <li>12. 介護過程の展開、事例研究に活かす文献とその活用方法</li> <li>13. まとめ</li> </ol>				

科目名	介護過程Ⅳ	後期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	名定 慎也		

[ 成績評価方法 ]

授業課題(20%)筆記試験(70%)授業への取り組み(10%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

課題はコメントを記入してフィードバックまたは授業内で講評する

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。

成績評価方法:授業課題、筆記試験

学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。

成績評価方法:授業課題、授業への取り組み

学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。

成績評価方法:授業課題、授業への取り組み

学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。

成績評価方法:授業課題、筆記試験

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢

成績評価方法:授業課題、筆記試験、授業への取り組み

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法:授業課題、筆記試験、授業への取り組み

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法:授業課題、筆記試験、授業への取り組み

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力

成績評価方法:授業課題、筆記試験、授業への取り組み

[ 教科書(ISBN) ]

書籍名:介護過程 著者名:柘崎 京子 出版社名:建帛社 ISBN:9784767934358

[ 参考書(ISBN) ]

科目名	介護過程Ⅴ(事例研究)		前期	1 単位
サブタイトル	ケーススタディ		演習	
担当者	名定 慎也、津田 理恵子、木村 あい			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)			反転授業	
ディスカッション・ディベート	○		グループワーク	○
プレゼンテーション	○		実習、フィールドワーク	
その他			実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <p>1 介護福祉実習Ⅲにおいて、個別介護の実践を体験した事例について、情報、アセスメント、計画の立案、実践、評価、再アセスメント、計画の修正の過程を整理し、介護過程の展開を事例研究としてまとめることができる。</p> <p>2 事例研究を発表会で報告し、他者からの評価を受け、修正をすることができる。</p> <p>3 他学生の事例発表について、批判的思考、意見を言うことができる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>介護福祉実習Ⅲで担当した利用者を通して、生活課題を明らかにし、実習で体験した介護計画の、基本情報シート、アセスメントシート、計画の実践、実践の評価を整理するとともに、これら介護過程の展開学習の自己評価、考察を行い、事例研究としてまとめる。一人一人に向き合い、互いに関わり合う事例研究は、当事者はもちろんの事、支援者も大きく成長できる場でもある。発信は、メゾ・マクロといった広義の支援体制構築につながり研究報告会を開催して、相互の発表、質疑応答を通して、多くの事例に触れて個別介護の重要性を学ぶ。1年生から学んだ介護過程の展開の集大成として、最終的に事例研究として文献にまとめ、報告会において発表し評価を受ける。</p> <p>介護福祉士もしくは看護師の資格を持って5年以上実践現場での経験がある教員が指導する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>介護福祉実習Ⅲの事例について、情報収集・アセスメント用紙・介護計画用紙・実践記録を整理しておく。情報収集・アセスメントに関連する文献・資料等を毎回2時間程度予習しておくこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.オリエンテーション(名定・津田・木村)</li> <li>2.研究とは 事例研究とは 発表と評価(名定・津田・木村)</li> <li>3.論文と抄録の作成(題名、はじめに、介護の実際)(名定・津田・木村)</li> <li>4.論文と抄録の作成(考察 おわりに謝辞、文献)(名定・津田・木村)</li> <li>5.論文の確認 PPTの作成方法 (名定・津田・木村)</li> <li>6.抄録様式・PPT様式確認(名定・津田・木村)</li> <li>7.論文指導 テーマ はじめに 介護の実際(名定・津田・木村)</li> <li>8.論文指導 評価、考察、おわりに 謝辞、文献(名定・津田・木村)</li> <li>9.発表指導 PPT(名定・津田・木村)</li> <li>10.発表指導・準備 完成発表原稿作成・予演(名定・津田・木村)</li> <li>11.発表会(名定・津田・木村)</li> <li>12.発表会(名定・津田・木村)</li> <li>13.まとめと評価(名定・津田・木村)</li> </ol>				

科目名	介護過程Ⅴ(事例研究)	前期	1 単位
サブタイトル	ケーススタディ	演習	
担当者	名定 慎也、津田 理恵子、木村 あい		

[ 成績評価方法 ]

研究への課題提出(30%)、論文内容(50%)、発表(20%)の総合評価  
課題は毎回添削して返却する

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

manabaに提出された課題にコメントをする。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。

成績評価方法:課題提出、論文内容、発表

学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。

成績評価方法:課題提出、論文内容、発表

学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。

成績評価方法:課題提出、論文内容、発表

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢

成績評価方法:課題提出、論文内容、発表

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢

成績評価方法:課題提出、論文内容、発表

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力

成績評価方法:課題提出、論文内容、発表

[ 教科書(ISBN) ]

書籍名:配布資料 著者名: 出版社名: ISBN:

[ 参考書(ISBN) ]

書籍名:適宜紹介 著者名: 出版社名: ISBN:

科目名	介護総合演習 I	前期	1 単位
サブタイトル	介護福祉実習 I 事前指導	演習	
担当者	木村 あい、津田 理恵子、名定 慎也		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.実習目標明確になり行動計画書を作成できる</li> <li>2.実習生としての社会的スキルが身につく</li> <li>3.介護老人保健施設の機能・役割が理解できる</li> <li>4.利用者の個別の特性や疾病について理解を深める</li> <li>5.介護福祉士の職業倫理が理解できる</li> <li>6.求められるコミュニケーション能力が発揮できる</li> <li>7.多職種協働ができる</li> <li>8.各領域で学んだ知識と技術の統合を図る</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>介護福祉士もしくは看護師の資格を持って5年以上実践現場での経験がある教員が介護福祉実習 I での学びが深まるように指導する。</p> <p>介護老人保健施設の理解を深め、実習生としての基本的なスキルとなる実習態度や求められる記録・報告・コミュニケーションについて学ぶ。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1)社会福祉の動向を理解する</li> <li>2)実習に関連する科目の知識・技術を整理しておく</li> </ol> <p>各回、予習・復習を合わせて2時間程度</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.オリエンテーション 介護福祉実習の進め方 (木村)</li> <li>2.実習目的と行動 (木村)</li> <li>3.実習施設の理解 介護老人保健施設・関連諸機関 (木村)</li> <li>4.実習施設の理解 法的根拠・多職種協働 (木村)</li> <li>5.生活理解 対象者の特性と理解 (木村)</li> <li>6.実習記録の意義 実習目標の明確化(木村)</li> <li>7.実習目標と行動計画書(木村)</li> <li>8.介護実習記録の実際 (木村)</li> <li>9.介護実習諸手続き(木村)</li> <li>10.生活支援技術の確認、生活リハビリ・レクリエーション、感染予防について (木村)</li> <li>11.社会人、実習生としてのルール・マナー、コミュニケーションの工夫 (木村・津田・名定)</li> <li>12.介護福祉士の倫理と求められる介護福祉士像 (木村・津田・名定)</li> <li>13.諸注意(事前訪問・記録と報告・実習態度・リスクマネジメント)(木村・津田・名定)</li> </ol>			

科目名	介護総合演習 I	前期	1 単位
サブタイトル	介護福祉実習 I 事前指導	演習	
担当者	木村 あい、津田 理恵子、名定 慎也		

[ 成績評価方法 ]  
授業への取り組み(50%) 提出物(50%)の総合評価

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  
提出課題にはコメントを記入した上で個別指導を行う。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]  
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。  
成績評価方法:レポート等の提出物

学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。  
成績評価方法:レポート等の提出物

学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。  
成績評価方法:レポート等の提出物、授業への取り組み

学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。  
成績評価方法:レポート等の提出物

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  
成績評価方法:授業への取り組み

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  
成績評価方法:レポート等の提出物、授業への取り組み

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢  
成績評価方法:□  
レポート等の提出物、授業への取り組み

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  
成績評価方法:レポート等の提出物、授業への取り組み

[ 教科書(ISBN) ]

[ 参考書(ISBN) ]

科目名	介護総合演習Ⅱ	後期	1 単位
サブタイトル	介護福祉実習Ⅰ 事後指導	演習	
担当者	木村 あい、津田 理恵子、名定 慎也		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.介護福祉士としての自己の介護観を説明できる</li> <li>2.自己の実習課題が説明できる</li> <li>3.施設・事業所の特徴、多職種との連携、個別介護の必要性が説明できる</li> <li>4.対象者の個別の生活が理解できる</li> <li>5.専門職としての態度が理解できる</li> <li>6.介護福祉士の役割や倫理が理解できる</li> <li>7.コミュニケーションを図る目的が理解できる</li> <li>8.各領域で学んだ知識と技術を統合の統合を図る</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>介護福祉士もしくは看護師の資格を持って5年以上実践現場での経験がある教員が以下の項目に従ってグループ指導及び個別指導をする。  学生は老人保健施設実習での学びの振り返り、介護の知識や技術を実践と結び付けて統合させるとともに、実習での目標の達成度を確認し、個々の課題を明確にする指導を、教員のケア経験を活かして行う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>実習の振り返り、記録類の整理・報告の準備について予習復習合わせて2時間程度を行っておく</p> <p>[授業計画]</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.帰校日 (実習の記録)(名定・津田・木村)</li> <li>2.帰校日 (実習目標の到達度)(名定・津田・木村)</li> <li>3.帰校日 (情報収集・アセスメント)(名定・津田・木村)</li> <li>4.帰校日 (実習目標の到達度・記録)(名定・津田・木村)</li> <li>5.オリエンテーション(名定・津田・木村・泉)</li> <li>6.課題・記録の整理 個別介護の整理(アセスメント、ニーズの把握、介護計画に向けて)(名定・津田・木村)</li> <li>7.老人保健施設での知識と技術の統合 施設事業所の特徴 多職種との連携(名定・津田・木村)</li> <li>8.介護福祉士の役割と態度(スーパービジョン)(名定・津田・木村)</li> <li>9.実習報告会の準備 まとめ(名定・津田・木村)</li> <li>10.実習報告会の準備 資料作成(名定・津田・木村)</li> <li>11.実習報告会前半(名定・津田・木村)</li> <li>12.実習報告会後半(名定・津田・木村)</li> <li>13.自己課題の明確化(名定・津田・木村)</li> </ol>			

科目名	介護総合演習Ⅱ	後期	1 単位
サブタイトル	介護福祉実習Ⅰ 事後指導	演習	
担当者	木村 あい、津田 理恵子、名定 慎也		

[ 成績評価方法 ]

授業への取り組み(30%)、提出課題(40%)、報告(30%)の総合評価  
提出した課題レポートは添削、評価をフィードバックします。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

対面による個別指導及びmanabaを活用する。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。

成績評価方法:提出課題

学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。

成績評価方法:報告(実習のまとめ発表)

学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。

成績評価方法:提出課題、発表

学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。

成績評価方法:授業への取り組み

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢

成績評価方法:グループワーク

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢

成績評価方法:グループワーク

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢

成績評価方法:授業への取り組み

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力

成績評価方法:提出課題、発表

[ 教科書(ISBN) ]

書籍名:介護福祉実習の手引き 著者名: 出版社名: ISBN:

[ 参考書(ISBN) ]

科目名	介護総合演習Ⅲ		後期	1 単位
サブタイトル	介護福祉実習Ⅱ 事前・事後指導		演習	
担当者	名定 慎也、木村 あい、津田 理恵子			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○	
その他		実務経験のある教員による授業		
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 訪問介護事業所の概要と訪問介護サービス内容が理解できる。</li> <li>2. 本人・家族の特徴や生活が理解できる。</li> <li>3. 個別に応じたケアマネジメントが理解できる。</li> <li>4. 地域で働く介護福祉士の役割や職種間の連携が理解できる。</li> <li>5. 実習目標・行動計画が明確になる。</li> <li>6. 各領域で学んだ知識と技術の統合を図る</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>介護福祉士もしくは看護師の資格を持って5年以上実践現場での経験がある教員が以下の項目に従ってグループ指導及び個別指導をする。</p> <p>事前指導として、全体指導・グループ指導・個別指導を各項目に従って行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1)訪問介護事業所の機能・役割が理解できる。</li> <li>2)実習目標・実習行動計画書が明確になる。</li> <li>3)地域における居宅サービスの内容・多職種連携の必要性を学ぶ。</li> <li>4)多職種協働や地域で働く介護福祉士の果たす役割が理解できる。</li> <li>5)地域で生活する本人や家族の生活ニーズにそった基礎的な知識・技術を学習する。</li> <li>6)地域における生活支援が理解できる。</li> </ol> <p>事後指導として、個別に各課題に従って指導を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1)自己の実習課題が明確になる。</li> <li>2)地域における生活支援が理解できる。</li> </ol> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>介護保険やケアマネジメント・訪問介護事業所・居宅サービスに必要な知識・技術を毎回2時間程度予習・復習しておく。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.オリエンテーション 訪問介護事業所・ケアマネジメント(名定)</li> <li>2.介護を実践する対象・本人主体生活・その人らしく生きることを支援するとは(名定)</li> <li>3.地域とのつながり・求められる介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力(名定)</li> <li>4.生活者としての理解・住み慣れた家で暮らす条件・福祉サービス(名定)</li> <li>5.多職種連携・チームアプローチ・求められる在宅支援(名定)</li> <li>6.実習目標の明確化(津田・木村・名定)</li> <li>7.実習行動計画書の作成Ⅰ(津田・木村・名定)</li> <li>8.訪問時のルールとマナー・専門職の倫理と価値(津田・木村・名定)</li> <li>9.帰校日(記録指導)(津田・木村・名定)</li> <li>10.帰校日(課題指導)(津田・木村・名定)</li> <li>11.帰校日(記録指導と評価)(津田・木村・名定)</li> <li>12.帰校日(記録指導と評価・課題)(津田・木村・名定)</li> <li>13.記録の整理と自己課題の明確化(津田・木村・名定)</li> </ol>				

科目名	介護総合演習Ⅲ	後期	1 単位
サブタイトル	介護福祉実習Ⅱ 事前・事後指導	演習	
担当者	名定 慎也、木村 あい、津田 理恵子		

[ 成績評価方法 ]

授業への取り組み(30%)、小テスト(20%)、提出書類/実習評価等の総合評価(50%)  
提出課題は毎回添削して返却する

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

個別による対面指導及びmanabaを活用する。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。

成績評価方法:授業への取り組み、小テスト、提出書類/実習評価等の総合評価

学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。

成績評価方法:授業への取り組み、小テスト、提出書類/実習評価等の総合評価

学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。

成績評価方法:授業への取り組み、小テスト、提出書類/実習評価等の総合評価

学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。

成績評価方法:授業への取り組み、小テスト、提出書類/実習評価等の総合評価

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢

成績評価方法:授業への取り組み、小テスト、提出書類/実習評価等の総合評価

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢

成績評価方法:授業への取り組み、小テスト、提出書類/実習評価等の総合評価

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法:授業への取り組み、小テスト、提出書類/実習評価等の総合評価

[ 教科書(ISBN) ]

書籍名:介護福祉実習の手引き 著者名: 出版社名: ISBN:

[ 参考書(ISBN) ]

書籍名:適宜配布 著者名: 出版社名: ISBN:

科目名	介護総合演習Ⅳ		後期	1 単位
サブタイトル	介護福祉実習Ⅲ事前指導		演習	
担当者	津田 理恵子、木村 あい、名定 慎也			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)			反転授業	
ディスカッション・ディベート		○	グループワーク	○
プレゼンテーション			実習、フィールドワーク	
その他			実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.自分自身の課題と実習目標・行動計画が明確になる</li> <li>2.介護老人福祉施設と併設のサービス、多職種協働のチームアプローチが理解できる</li> <li>3.介護の対象者(本人と家族)との信頼関係の築き方が理解できる</li> <li>4.介護保険制度と介護サービス、社会資源と地域が理解できる</li> <li>5.専門職としての介護福祉士の役割が理解できる</li> <li>6.介護過程の展開技法と事例研究の意義が理解できる</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>介護福祉士若しくは看護師の資格を持って5年以上実践現場での経験がある教員が介護福祉実習Ⅲでの学びが深まるように指導します。</p> <p>介護老人福祉施設とそれに併設している在宅サービスや介護保険制度について学び、社会資源や対象者を取り巻く人々、介護過程の展開について指導します。さらに、専門職としての役割や信頼関係の築き方について指導し、そのうえで、介護福祉実習Ⅲにおける実習目標に対して、自分自身の課題や実習の行動計画を整理できるように指導します。</p> <p>介護実践の科学的探究を通して知識と技術を統合し、専門職者としての価値感が整理できるように指導します。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 介護保険制度や介護老人福祉施設の働きなど実習に必要な知識・技術を各回、2時間予習・復習しておく</li> <li>2. 介護過程の展開技法について復習しておく</li> </ol> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.オリエンテーション・介護福祉実習と事例研究の概要・介護の対象者の理解と信頼関係の築き方(津田)</li> <li>2.老人福祉法と介護老人福祉施設の機能と役割・介護保険制度と介護サービス(津田)</li> <li>3. 介護過程の展開・科学的思考・社会資源・専門職としての介護福祉士・求められる介護福祉士像(津田・名定・木村)</li> <li>4.実習目標の明確化・実習行動計画書の作成Ⅰ(津田・名定・木村)</li> <li>5.実習行動計画書の作成Ⅱ(津田・名定・木村)</li> <li>6.介護老人福祉施設と併設の在宅サービスの種類・多職種とチームアプローチ・まとめ(津田)</li> <li>7.諸注意・記録と報告・感染予防(津田・名定・木村)</li> <li>8.帰校日(担当利用者・実習目標の到達度)(津田・名定・木村)</li> <li>9.帰校日(担当利用者・実習記録)(津田・名定・木村)</li> <li>10.帰校日(介護過程の展開・実習目標の到達度)(津田・名定・木村)</li> <li>11.帰校日(介護過程の展開・知識と技術の統合・実習目標の到達度)(津田・名定・木村)</li> <li>12.帰校日(介護過程の展開・介護実践のエビデンス・実習目標の到達度)(津田・名定・木村)</li> <li>13.帰校日(介護過程の展開・専門職者としての価値・実習目標の到達度)(津田・名定・木村)</li> </ol>				

科目名	介護総合演習Ⅳ	後期	1 単位
サブタイトル	介護福祉実習Ⅲ事前指導	演習	
担当者	津田 理恵子、木村 あい、名定 慎也		

[ 成績評価方法 ]

筆記試験(40%) 授業参加度(25%) 提出課題(35%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

提出課題については、コメントを記入したうえで学生への個別面接を実施する。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。

成績評価方法:筆記試験 授業参加度 提出課題

学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。

成績評価方法:授業参加度 提出課題

学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。

成績評価方法:授業参加度 提出課題

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢

成績評価方法:筆記試験 授業参加度 提出課題

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢

成績評価方法:授業参加度

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力

成績評価方法:筆記試験 授業参加度 提出課題

[ 教科書(ISBN) ]

[ 参考書(ISBN) ]

科目名	介護の基本 I	後期	2 単位
サブタイトル	自立に向けた介護福祉の理念とケア	講義	
担当者	木村 あい		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]  介護の基本となる倫理をベースとして、「質の高い介護とは何か」を理解し、その人らしい生活の実現に必要な知識・技術を学び実践できる能力を養う。</p> <p>[授業概要]  1)本人本位の生活を支援する専門職として基本となる考え方や姿勢を学ぶ  2)自分自身の生活と照らし合わせて「暮らし」「生活」「願い」について考える  3)介護を要する人がどのような人で、どのような生活をしているのかを具体的な事例を通して学ぶ。  4)自立に向けた介護とは何かを生活支援の視点から学ぶと共にその意義を学ぶ</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]  介護を取り巻く状況を把握し、生活を支える介護の重要性を理解する。関連した文献・新聞などを読み、毎回4時間程度予習復習の時間に充てる。</p> <p>[授業計画]  1.介護福祉の基本となる理念・介護の原則  2.介護を必要とする人の理解  3.生活の捉え方・私たちの生活  4.高齢者や障害を持った人たちの暮らしと介護  5.その人らしさの理解  6.生活環境の捉え方  7.生活障害の理解と生活ニーズ  8.自立に向けた介護・「生活支援」としての介護  9.様々な生活支援とその意義  10.尊厳を支える介護  11.ICFの概念・ICFにおけるアセスメント  12.リハビリテーションと介護  13.まとめ</p>			

科目名	介護の基本 I	後期	2 単位
サブタイトル	自立に向けた介護福祉の理念とケア	講義	
担当者	木村 あい		
<p>[ 成績評価方法 ] 課題、授業への取り組み:30% 確認テスト:70% の総合評価</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 授業内でコメントする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:課題、試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:課題、試験</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:課題、試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:課題、試験</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 書籍名:介護の基本 I 第2版 著者名:介護福祉士養成講座編集委員会 出版社名:中央法規出版 ISBN:9784805883921</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	介護の基本 I	後期	2 単位
サブタイトル	自立に向けた介護福祉の理念とケア	講義	
担当者	木村 あい		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]  介護の基本となる倫理をベースとして、「質の高い介護とは何か」を理解し、その人らしい生活の実現に必要な知識・技術を学び実践できる能力を養う。</p> <p>[授業概要]  1)本人本位の生活を支援する専門職として基本となる考え方や姿勢を学ぶ  2)自分自身の生活と照らし合わせて「暮らし」「生活」「願い」について考える  3)介護を要する人がどのような人で、どのような生活をしているのかを具体的な事例を通して学ぶ。  4)自立に向けた介護とは何かを生活支援の視点から学ぶと共にその意義を学ぶ</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]  介護を取り巻く状況を把握し、生活を支える介護の重要性を理解する。関連した文献・新聞などを読み、毎回4時間程度予習復習の時間に充てる。</p> <p>[授業計画]  1.介護福祉の基本となる理念・介護の原則  2.介護を必要とする人の理解  3.生活の捉え方・私たちの生活  4.高齢者や障害を持った人たちの暮らしと介護  5.その人らしさの理解  6.生活環境の捉え方  7.生活障害の理解と生活ニーズ  8.自立に向けた介護・「生活支援」としての介護  9.様々な生活支援とその意義  10.尊厳を支える介護  11.ICFの概念・ICFにおけるアセスメント  12.リハビリテーションと介護  13.まとめ</p>			

科目名	介護の基本 I	後期	2 単位
サブタイトル	自立に向けた介護福祉の理念とケア	講義	
担当者	木村 あい		

[ 成績評価方法 ]

課題、授業への取り組み:30% 確認テスト:70% の総合評価

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

授業内でコメントする。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。

成績評価方法:試験

学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。

成績評価方法:課題、試験

学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。

成績評価方法:課題、試験

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢

成績評価方法:課題

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢

成績評価方法:課題

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢

成績評価方法:課題、試験

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法:課題、試験

[ 教科書(ISBN) ]

書籍名:介護の基本 I 第2版 著者名:介護福祉士養成講座編集委員会 出版社名:中央法規出版 ISBN:9784805883921

[ 参考書(ISBN) ]

科目名	介護の基本Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	生活を支えるしくみ 協働する機能と役割	講義	
担当者	高岡 理恵		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <p>理論的な裏づけのある介護は、利用者の安全で安心できる支援となり、利用者との信頼関係の基本となる。介護サービスの質の向上には人間力・人間性が大きく影響することを理解し、専門職としての確かな知識と技術習得の必要性を学ぶ。</p> <p>[授業概要]</p> <p>1) 介護福祉の目的や原則について理解するとともに、介護サービスの意義や特性を理解できる。  2) 専門職として、身体的・精神的な変化に対する観察力やコミュニケーション力を養い、変化に速やかに対処できる知識を身につける。  3) 福祉現場における多職種連携の必要性を学ぶ。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>1) 介護の基本Ⅰを復習し、学習ノートを確認する  2) 介護福祉の理念と介護福祉士としての倫理観を身につける</p> <p>[授業計画]</p> <p>1. 利用者の人権と自立支援  2. 介護福祉士が守るべき義務規定  3. 介護福祉士の資質向上の責務  4. 介護福祉士の役割と機能  5. 介護福祉士の倫理  6. 介護サービスと介護福祉士の働く場  7. 介護を必要とする人の生活を支えるしくみ  8. 介護サービスの意味・種類・特性  9. 介護サービス提供の場・協働する他職種の機能と役割  10. 介護サービス提供の特性(高齢者関連)・介護実践における地域連携  11. 障害者総合支援法・介護サービス提供の特性(障害者関連)  12. 協働する多職種の機能と役割・チームアプローチ  13. まとめ</p>			

科目名	介護の基本Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	生活を支えるしくみ 協働する機能と役割	講義	
担当者	高岡 理恵		
<p>[ 成績評価方法 ] 筆記試験70% レポート20% 授業参加度10%</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 授業中にコメントをします。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:グループワーク、ディスカッション</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:グループワーク、ディスカッション</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:グループワーク、ディスカッション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:レポート、グループワーク、ディスカッション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:グループワーク、ディスカッション</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 書籍名:介護の基本Ⅱ 第2版 著者名:介護福祉士養成講座編集委員会 出版社名:中央法規出版 ISBN:9784805883938</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	介護の基本Ⅲ	前期	2 単位
サブタイトル	介護福祉学総論	講義	
担当者	名定 慎也		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標] 本講義では、介護福祉学総論として、各領域、人間と社会・介護・こころとからだのしくみ・医療的ケアなどの観点から、総合的に教授することを主たる目的とする。</p> <p>[授業概要] 1) 介護を必要とする者に対する全人的な理解や尊厳の保持、介護実践の基盤となる知識や技術を総合的に整理する。 2) コミュニケーション能力・アカウンタビリティや根拠に基づく介護実践の必要性を理解する。 3) 介護保険制度や社会保障制度などを整理し統合する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 4つの専門領域である、人間と社会・介護・こころとからだ・医療的ケアの各到達目標を見直し、学習内容を整理しておく。毎回模擬問題・過去問など予習復習に2時間程度取り組むこと。</p> <p>[授業計画] 1. 人オリエンテーション 人間の尊厳と自立 2. 人間関係とコミュニケーション 3. 生活と福祉 4. 社会保障制度 5. 介護保険制度と障害者総合支援法 6. 介護実践に関連する諸制度 7. 介護の基本 8. コミュニケーション技術 9. 生活支援技術 10. 介護過程 11. 発達と老化の理解・こころとからだのしくみ 12. 認知症の理解・障害の理解 13. まとめ</p>			

科目名	介護の基本Ⅲ	前期	2 単位
サブタイトル	介護福祉学総論	講義	
担当者	名定 慎也		

[ 成績評価方法 ]

模擬テスト(50%)確認テスト(50%)の総合評価

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

個別に対面指導及びmanabaを活用する。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。

成績評価方法:模擬テスト・確認テスト

学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。

成績評価方法:模擬テスト・確認テスト

学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。

成績評価方法:模擬テスト・確認テスト

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢

成績評価方法:模擬テスト・確認テスト

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法:模擬テスト・確認テスト

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法:模擬テスト・確認テスト

[ 教科書(ISBN) ]

書籍名:見て覚える介護福祉士国試ナビ2026 著者名:いとう総研資格取得支援センター編集 出版社名:中央法規出版  
ISBN:978-4-8243-0027-4

[ 参考書(ISBN) ]

書籍名:合格テキスト2023 著者名:介護福祉士国家試験受験対策研究会編集 出版社名:中央法規出版 ISBN:978-4-8058-8873-5

科目名	介護福祉実習 I (老人保健施設)	前期	4 単位
サブタイトル	老人保健施設	実習	
担当者	木村 あい、津田 理恵子、名定 慎也		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.介護老人保健施設の機能・役割が理解できる</li> <li>2.信頼関係の築き方が理解できる</li> <li>3.個別ケアの必要性が理解できる</li> <li>4.基本的な生活支援技術が実践できる</li> <li>5.介護福祉士の職業倫理とチームアプローチの必要性が理解できる</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>20日間の老人保健施設での実習において、以下の1)～5)を遂行する</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 20日間の介護老人保健施設実習を介護実習計画書に従って目標を達成する</li> <li>2) 対象者に応じた個々の生活リズムや特性を理解する</li> <li>3) 生活支援技術の理解・職種間連携・コミュニケーション等を通して介護福祉士の役割について学ぶ</li> <li>4) 併設されている通所リハビリにおいて在宅支援の必要性を理解する</li> <li>5) 職業倫理やチームアプローチの重要性を学ぶ</li> </ol> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>介護保険制度や事業所の概要を理解しておく。 予習・復習を合わせて2時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <p>実習計画書に沿って実習目標を達成する(木村・津田・名定) カンファレンスに参加する(木村・津田・名定) 本人・家族の理解を深める(木村・津田・名定) 本人を取り巻く環境について理解する(木村・津田・名定) 在宅支援の必要性を理解する(木村・津田・名定) 実習目標達成度の指導を受ける(木村・津田・名定) 社会人・実習生としてのルールとマナーを身につける(木村・津田・名定) 現場で求められる職業倫理を身につける(木村・津田・名定) コミュニケーションスキルを高める(木村・津田・名定) 基本的な生活支援技術を身につける(木村・津田・名定) 地域における生活支援の実践について理解する(木村・津田・名定) 介護過程の展開(情報収集・アセスメント)(木村・津田・名定) 課題や実習日誌・報告書を提出する(木村・津田・名定) 自己の課題を明確にする(木村・津田・名定) 感染予防や事故防止、防災計画について理解する(木村・津田・名定)</p>			

科目名	介護福祉実習 I (老人保健施設)	前期	4 単位
サブタイトル	老人保健施設	実習	
担当者	木村 あい、津田 理恵子、名定 慎也		

[ 成績評価方法 ]

実習評価票に基づく評価(100%)  
個別面談によるフィードバック

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

対面による個別指導及びmanabaを活用する。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。

成績評価方法:実習評価票に基づく評価

学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。

成績評価方法:実習評価票に基づく評価

学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。

成績評価方法:実習評価票に基づく評価

学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。

成績評価方法:実習評価票に基づく評価

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_: 責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢

成績評価方法:実習評価票に基づく評価

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_: 自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢

成績評価方法:実習評価票に基づく評価

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_: 協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢

成績評価方法:実習評価票に基づく評価

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢

成績評価方法:実習評価票に基づく評価

[ 教科書(ISBN) ]

書籍名:介護福祉実習の手引き 著者名: 出版社名: ISBN:

[ 参考書(ISBN) ]

科目名	介護福祉実習Ⅱ(在宅介護)		後期	1単位
サブタイトル	訪問介護実習		実習	
担当者	名定 慎也、津田 理恵子、木村 あい			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○	
その他		実務経験のある教員による授業		
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 訪問介護事業所の機能・役割が理解できる。</li> <li>2. 対象者の地域における生活支援が理解できる。</li> <li>3. ケアマネジメントが理解できる。</li> <li>4. 地域で働く介護福祉士の役割が理解できる。</li> <li>5. 多職種協働の実践・チームケアが理解できる。</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>介護福祉士若しくは看護師の資格を持って5年以上の実現場での経験がある教員が介護福祉実習Ⅱでの学びが深まるように以下の項目を中心に指導する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1)5日間の訪問介護実習を行い、個々の生活リズムや個性を理解し、地域の生活の場において個別ケアを学ぶ。</li> <li>2)対象となる人の能力を引き出し、本人主体の生活を地域で継続するための介護過程の展開ができる能力を養う。</li> <li>3)本人・家族の人とコミュニケーションの実践、特性に応じた生活支援技術を確認する。</li> <li>4)多職種協働や関連機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について学ぶ。</li> </ol> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>以下の項目を中心に、事前に根拠法令に基づく最新福祉サービス・改正点・課題など資料を作成しておく。毎日実習目標の立案と、終了後実習日誌・考察まとめに3時間の振り返り時間を要す。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1)事業所・施設の概要について調べる</li> <li>2)訪問実習に必要な知識、技術の復習をしておく</li> </ol> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.実習行動計画書にそって介護目標を達成する</li> <li>2.訪問介護場所の特徴を理解する</li> <li>3.対象となる人の生活ニーズを理解する</li> <li>4.家族の多様なニーズを理解する</li> <li>5.ケアマネジメントの流れを理解する</li> <li>6.社会資源の活用・福祉用具の活用</li> <li>7.介護福祉士の果たす役割</li> <li>8.記録・報告・連絡・相談の重要性</li> <li>9.本人や家族とのコミュニケーション</li> <li>10.多職種協働の実践とチームアプローチの重要性</li> <li>11.本人の望む生活・在宅支援と介護福祉士の役割</li> <li>12.地域における生活支援の実践</li> <li>13.介護福祉士の職業倫理</li> <li>14.実習目標到達度の確認と課題</li> </ol>				

科目名	介護福祉実習Ⅱ(在宅介護)	後期	1 単位
サブタイトル	訪問介護実習	実習	
担当者	名定 慎也、津田 理恵子、木村 あい		

[ 成績評価方法 ]

実習評価票に基づく評価(100%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

個別による対面指導・グループ演習・個別にmanabaを活用する。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。

成績評価方法:実習評価票に基づく評価

学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びとの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。

成績評価方法:実習評価票に基づく評価

学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。

成績評価方法:実習評価票に基づく評価

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_: 責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢

成績評価方法:実習評価票に基づく評価

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_: 協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢

成績評価方法:実習評価票に基づく評価

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法:実習評価票に基づく評価

[ 教科書(ISBN) ]

書籍名:介護福祉実習の手引き 著者名: 出版社名: ISBN:

[ 参考書(ISBN) ]

書籍名:適宜配布 著者名: 出版社名: ISBN:

科目名	介護福祉実習Ⅲ(老人福祉施設)		後期	6 単位
サブタイトル	特別養護老人ホーム		実習	
担当者	津田 理恵子、木村 あい、名定 慎也			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)		反転授業		
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク		○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク		○
その他		実務経験のある教員による授業		○
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.介護老人福祉施設の機能・役割が理解できる</li> <li>2.介護福祉士として介護の対象者と信頼関係を築くことができる</li> <li>3.介護過程の実践的展開ができる</li> <li>4.根拠に基づく生活支援技術が実践できる</li> <li>5.チームの一員として多職種協働の実践ができる</li> <li>6.地域・家族を視野に入れた支援が実践できる</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>介護福祉士若しくは看護師の資格を持ち実践現場で5年以上の経験がある教員が、32日間の介護老人福祉施設において、対象者のアセスメントを深め、介護計画に基づく実施・評価や、これを踏まえた計画の修正といった実践的な介護過程を、他科目で学習した知識や技術を統合して展開できるように指導します。さらに、チームの一員として多職種協働によるチームアプローチや社会資源の活用、介護福祉士の価値に基づいた、介護の対象者(利用者・家族)との信頼関係の築き方について実践を通して指導します。また、老人福祉施設に併設されている在宅サービスでの実習を通し、多様な視点から介護の対象者や対象者を取り巻く環境について指導します。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.施設や事業所、社会資源などの概要について調べておく</li> <li>2.実習に必要な知識、技術の復習をしておく</li> <li>3.学習環境・生活環境を整え健康管理に留意する</li> <li>4.実習場所での不明な点について自宅学習する</li> </ol> <p>1~4について各回2時間程度</p> <p>[授業計画]</p> <p>実習計画書にそった実習と達成度の確認(津田・木村・名定)  実習日誌による助言・指導(津田・木村・名定)  介護老人福祉施設の機能・特徴と施設サービス(津田・木村・名定)  実習先の施設に併設している在宅サービス(津田・木村・名定)  社会資源の活用(津田・木村・名定)  感染予防(津田・木村・名定)  地域・家族を視野に入れた支援(津田・木村・名定)  介護の対象者とのコミュニケーションと信頼関係(津田・木村・名定)  介護過程の実践的展開と科学的思考(アセスメント・介護計画立案・実践・評価・修正)(津田・木村・名定)  チームの一員として多職種との連携(津田・木村・名定)  夜勤実習(利用者の24時間の生活理解)(津田・木村・名定)  根拠に基づいた生活支援技術  専門職としての価値・倫理  目指すべき介護福祉士像</p>				

科目名	介護福祉実習Ⅲ(老人福祉施設)	後期	6 単位
サブタイトル	特別養護老人ホーム	実習	
担当者	津田 理恵子、木村 あい、名定 慎也		

[ 成績評価方法 ]

実習評価票に基づく評価(100%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

日々の実習日誌に対するコメントを入力し、manabaから配信し、必要時は個別面談を行う。  
 帰校日と実習施設でのカンファレンスでは、直接個別にコメントをする。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。

成績評価方法:実習評価票に基づく評価

学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。

成績評価方法:実習評価票に基づく評価

学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。

成績評価方法:実習評価票に基づく評価

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_: 責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢

成績評価方法:実習評価票に基づく評価

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_: 協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢

成績評価方法:実習評価票に基づく評価

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法:実習評価票に基づく評価

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力

成績評価方法:実習評価票に基づく評価

[ 教科書(ISBN) ]

[ 参考書(ISBN) ]

科目名	基礎演習 I	前期	2 単位
サブタイトル	社会福祉入門ゼミ	演習	
担当者	下司 実奈		

[アクティブラーニング授業]

PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	

[到達目標]

1. 大学で学ぶことの意義を理解する。
2. 社会福祉への関心を高めながら、福祉が身近な問題であり、対象とする分野が広いことを理解する。
3. ゼミでの課題を通して、聴く・読む技術、調べる・整理する技術、まとめる・書く技術、表現する・伝える技術を習得する。

[授業概要]

大学とはどのような使命を有する教育機関であるのか、前期の基礎ゼミナールでは学生が大学の存在意義を理解することと、長い人生のなかで学生はこの4年間をどのように学びの歩みを進めれば良いのか、大学生生活の基盤形成にかかわることを学ぶ。加えて、社会福祉学科で学ぶことは将来、社会でどのような役割を担うことになるのか、その基本についても学ぶ。学生ひとり一人が確かな学びの基盤を形成するために、基礎ゼミナールでは1年生全体で学んだり、その学びを後日、ゼミ単位で振り返るなど、学生が主体的に、かつ、自らが考えるよう、学習スタイルにも工夫を施している。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

各回についての予習・復習2時間程度

新聞・TVニュース、インターネット等で報道される社会福祉に関する事件や出来事はもとより、自分が暮らしている地域についても関心を持つ。ゼミでは、課せられた課題の発表に限らず、自己の問題意識をゼミで問い、議論を求めるような主体的な姿勢を期待する。

[授業計画]

1. オリエンテーション・大学での学び
2. 上級生との交流 or 学内オリエンティング
3. 上級生との交流 or 学内オリエンティング
4. 地域探求と振り返り
5. 図書館の活用(ゼミ毎) or グループワーク
6. 図書館の活用(ゼミ毎) or グループワーク
7. レポートの書き方
8. ボランティア活動の勧め
9. レポート発表
10. ゼミでの活動(テキスト講読と発表)
11. ゼミでの活動(テキスト講読と発表)
12. 教務説明/ゼミ毎の質疑応答
13. まとめ・夏休みの課題について

科目名	基礎演習 I	前期	2 単位
サブタイトル	社会福祉入門ゼミ	演習	
担当者	下司 実奈		

[ 成績評価方法 ]

授業参加状況(40%)、レポート等の課題(60%)により評価する。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

レポートは後日添削して返却する。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。

成績評価方法:授業参加状況 レポート等の課題

学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。

成績評価方法:授業参加状況 レポート等の課題

学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。

成績評価方法:授業参加状況 レポート等の課題

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢

成績評価方法:授業参加状況 レポート等の課題

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢

成績評価方法:授業参加状況 レポート等の課題

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法:授業参加状況 レポート等の課題

[ 教科書(ISBN) ]

書籍名:15歳からの社会保障 著者名:横山 北斗 出版社名:日本評論社 ISBN:9784535587663

[ 参考書(ISBN) ]

科目名	基礎演習 I	前期	2 単位
サブタイトル	社会福祉入門ゼミ	演習	
担当者	曾田 里美		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大学で学ぶことの意義を理解する。</li> <li>2. 社会福祉への関心を高めながら、福祉が身近な問題であり、対象とする分野が広いことを理解する。</li> <li>3. ゼミでの課題を通して、聴く・読む技術、調べる・整理する技術、まとめる・書く技術、表現する・伝える技術を習得する。</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>大学とはどのような使命を有する教育機関であるのか、前期の基礎ゼミナールでは学生が大学の存在意義を理解することと、長い人生のなかで学生はこの4年間をどのように学びの歩みを進めれば良いのか、大学生生活の基盤形成にかかわることを学ぶ。加えて、社会福祉学科で学ぶことは将来、社会でどのような役割を担うことになるのか、その基本についても学ぶ。学生ひとり一人が確かな学びの基盤を形成するために、基礎ゼミナールでは1年生全体で学んだり、その学びを後日、ゼミ単位で振り返るなど、学生が主体的に、かつ、自らが考えるよう、学習スタイルにも工夫を施している。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回についての予習・復習2時間程度  新聞・TVニュース、インターネット等で報道される社会福祉に関する事件や出来事はもとより、自分が暮らしている地域についても関心を持つ。ゼミでは、課せられた課題の発表に限らず、自己の問題意識をゼミで問い、議論を求めるような主体的な姿勢を期待する。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション・大学での学び</li> <li>2. 上級生との交流 or 学内オリエンティング</li> <li>3. 上級生との交流 or 学内オリエンティング</li> <li>4. 地域探求と振り返り</li> <li>5. 図書館の活用(ゼミ毎) or グループワーク</li> <li>6. 図書館の活用(ゼミ毎) or グループワーク</li> <li>7. レポートの書き方</li> <li>8. ボランティア活動の勧め</li> <li>9. レポート発表</li> <li>10. ゼミでの活動(テキスト講読と発表)</li> <li>11. ゼミでの活動(テキスト講読と発表)</li> <li>12. 教務説明/ゼミ毎の質疑応答</li> <li>13. まとめ・夏休みの課題について</li> </ol>			

科目名	基礎演習 I	前期	2 単位
サブタイトル	社会福祉入門ゼミ	演習	
担当者	曾田 里美		

[ 成績評価方法 ]

授業参加状況(40%)、レポート等の課題(60%)により評価する。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

レポートは後日添削して返却する。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。

成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題

学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。

成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題

学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。

成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢

成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢

成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題

[ 教科書(ISBN) ]

書籍名:15歳からの社会保障 著者名:横山 北斗 出版社名:日本評論社 ISBN:9784535587663

[ 参考書(ISBN) ]

科目名	基礎演習 I	前期	2 単位
サブタイトル	社会福祉入門ゼミ	演習	
担当者	渡辺 晴子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大学で学ぶことの意義を理解する。</li> <li>2. 社会福祉への関心を高めながら、福祉が身近な問題であり、対象とする分野が広いことを理解する。</li> <li>3. ゼミでの課題を通して、聴く・読む技術、調べる・整理する技術、まとめる・書く技術、表現する・伝える技術を習得する。</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>大学とはどのような使命を有する教育機関であるのか、前期の基礎ゼミナールでは学生が大学の存在意義を理解することと、長い人生のなかで学生はこの4年間をどのように学びの歩みを進めれば良いのか、大学生生活の基盤形成にかかわることを学ぶ。加えて、社会福祉学科で学ぶことは将来、社会でどのような役割を担うことになるのか、その基本についても学ぶ。学生ひとり一人が確かな学びの基盤を形成するために、基礎ゼミナールでは1年生全体で学んだり、その学びを後日、ゼミ単位で振り返るなど、学生が主体的に、かつ、自らが考えるよう、学習スタイルにも工夫を施している。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回についての予習・復習(2時間程度)  新聞・TVニュース、インターネット等で報道される社会福祉に関する事件や出来事はもとより、自分が暮らしている地域についても関心を持つ。ゼミでは、課せられた課題の発表に限らず、自己の問題意識をゼミで問い、議論を求めるような主体的な姿勢を期待する。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション・大学での学び</li> <li>2. 上級生との交流 or 学内オリエンテーリング</li> <li>3. 上級生との交流 or 学内オリエンテーリング</li> <li>4. 地域探求と振り返り</li> <li>5. 図書館の活用(ゼミ毎) or グループワーク</li> <li>6. 図書館の活用(ゼミ毎) or グループワーク</li> <li>7. レポートの書き方</li> <li>8. ボランティア活動の勧め</li> <li>9. レポート発表</li> <li>10. ゼミでの活動(テキスト講読と発表)</li> <li>11. ゼミでの活動(テキスト講読と発表)</li> <li>12. 教務説明/ゼミ毎の質疑応答</li> <li>13. まとめ・夏休みの課題について</li> </ol>			

科目名	基礎演習 I	前期	2 単位
サブタイトル	社会福祉入門ゼミ	演習	
担当者	渡辺 晴子		

[ 成績評価方法 ]

授業参加状況(40%)、レポート等の課題(60%)により評価する。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

レポートは後日添削して返却する。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。

成績評価方法:授業参加状況・レポート等の課題

学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。

成績評価方法:授業参加状況・レポート等の課題

学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。

成績評価方法:授業参加状況・レポート等の課題

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢

成績評価方法:授業参加状況・レポート等の課題

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢

成績評価方法:授業参加状況・レポート等の課題

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法:授業参加状況・レポート等の課題

[ 教科書(ISBN) ]

書籍名:15歳からの社会保障 著者名:横山 北斗 出版社名:日本評論社 ISBN:9784535587663

[ 参考書(ISBN) ]

科目名	基礎演習 I	前期	2 単位
サブタイトル	社会福祉入門ゼミ	演習	
担当者	名定 慎也		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大学で学ぶことの意義を理解する。</li> <li>2. 社会福祉への関心を高めながら、福祉が身近な問題であり、対象とする分野が広いことを理解する。</li> <li>3. ゼミでの課題を通して、聴く・読む技術、調べる・整理する技術、まとめる・書く技術、表現する・伝える技術を習得する。</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>大学とはどのような使命を有する教育機関であるのか、前期の基礎ゼミナールでは学生が大学の存在意義を理解することと、長い人生のなかで学生はこの4年間をどのように学びの歩みを進めれば良いのか、大学生生活の基盤形成にかかわることを学ぶ。加えて、社会福祉学科で学ぶことは将来、社会でどのような役割を担うことになるのか、その基本についても学ぶ。学生ひとり一人が確かな学びの基盤を形成するために、基礎ゼミナールでは1年生全体で学んだり、その学びを後日、ゼミ単位で振り返るなど、学生が主体的に、かつ、自らが考えるよう、学習スタイルにも工夫を施している。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回についての予習・復習2時間程度  新聞・TVニュース、インターネット等で報道される社会福祉に関する事件や出来事はもとより、自分が暮らしている地域についても関心を持つ。ゼミでは、課せられた課題の発表に限らず、自己の問題意識をゼミで問い、議論を求めるような主体的な姿勢を期待する。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション・大学での学び</li> <li>2. 上級生との交流 or 学内オリエンティング</li> <li>3. 上級生との交流 or 学内オリエンティング</li> <li>4. 地域探求と振り返り</li> <li>5. 図書館の活用(ゼミ毎) or グループワーク</li> <li>6. 図書館の活用(ゼミ毎) or グループワーク</li> <li>7. レポートの書き方</li> <li>8. ボランティア活動の勧め</li> <li>9. レポート発表</li> <li>10. ゼミでの活動(テキスト講読と発表)</li> <li>11. ゼミでの活動(テキスト講読と発表)</li> <li>12. 教務説明/ゼミ毎の質疑応答</li> <li>13. まとめ・夏休みの課題について</li> </ol>			

科目名	基礎演習 I	前期	2 単位
サブタイトル	社会福祉入門ゼミ	演習	
担当者	名定 慎也		

[ 成績評価方法 ]

授業参加状況(40%)、レポート等の課題(60%)により評価する。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

レポートは後日添削して返却する。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。

成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題

学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。

成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題

学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。

成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢

成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢

成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題

[ 教科書(ISBN) ]

書籍名:15歳からの社会保障 著者名:横山 北斗 出版社名:日本評論社 ISBN:9784535587663

[ 参考書(ISBN) ]

科目名	基礎演習Ⅱ	後期	2単位
サブタイトル	社会福祉入門ゼミ	演習	
担当者	下司 実奈		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会福祉への関心を高めながら、福祉が身近な問題であり、対象とする分野が広いことを理解する。</li> <li>2. ゼミでの課題を通して、聴く・読む技術、調べる・整理する技術、まとめる・書く技術、表現する・伝える技術を習得する。</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>多様な分野の福祉について、当事者や支援者、更には、卒業生等から話を聞くことで、問題や支援の実状を知るとともに、自身の経験や生活に引き付けて福祉を捉えていくことを学習する。また、地域でのサービラーニングの実践を通じて、社会的な活動の第一歩とする。一連の学びを確実にするため、事前に次の活動に関する概要等を調べておき、学びの後は必ず振り返りを行わない、気づきや考察を整理してゼミで発表・共有する。以上の積み重ねを通じて、社会福祉を学ぶための基礎作りを行う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回についての予習・復習2時間程度 新聞・雑誌・TVニュース等で社会福祉に関する出来事に関心をもつとともに、問題点や疑問点について考える。レポートやゼミ発表等の課題を進めるスケジュールを各自調整する。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション・夏休みの課題発表①</li> <li>2. 夏休みの課題発表②</li> <li>3. 赤ちゃん先生プロジェクト参加(第4回に参加予定のゼミはゼミ単位での活動)</li> <li>4. 赤ちゃん先生プロジェクト参加(第3回日に参加済みのゼミは振り返り)</li> <li>5. 赤ちゃん先生に関する振り返り(振り返りを終えたゼミはゼミ単位での活動)</li> <li>6. 地域でのサービラーニング参加と振り返り</li> <li>7. デートDV防止講座</li> <li>8. デートDV防止講座の振り返りレポート発表</li> <li>9. 社会福祉研究交流会(社会福祉現場で働く卒業生の講演)</li> <li>10. 社会福祉研究交流会の振り返り</li> <li>11. ゼミ単位での活動</li> <li>12. 福祉関係国家資格と国家試験</li> <li>13. まとめ</li> </ol>			

科目名	基礎演習Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	社会福祉入門ゼミ	演習	
担当者	下司 実奈		
<p>[ 成績評価方法 ] 授業参加状況(40%)、レポート等の課題(60%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] レポートは後日添削して返却する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:授業参加状況 レポート等の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びとの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:授業参加状況 レポート等の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:授業参加状況 レポート等の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:授業参加状況 レポート等の課題</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:授業参加状況 レポート等の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業参加状況 レポート等の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:授業参加状況 レポート等の課題</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 書籍名:15歳からの社会保障 著者名:横山 北斗 出版社名:日本評論社 ISBN:9784535587663</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	基礎演習Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	社会福祉入門ゼミ	演習	
担当者	曾田 里美		

[アクティブラーニング授業]

PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	

[到達目標]

1. 社会福祉への関心を高めながら、福祉が身近な問題であり、対象とする分野が広いことを理解する。
2. ゼミでの課題を通して、聴く・読む技術、調べる・整理する技術、まとめる・書く技術、表現する・伝える技術を習得する。

[授業概要]

多様な分野の福祉について、当事者や支援者、更には、卒業生等から話を聞くことで、問題や支援の実状を知るとともに、自身の経験や生活に引き付けて福祉を捉えていくことを学習する。また、地域でのサービラーニングの実践を通じて、社会的な活動の第一歩とする。一連の学びを確実にするため、事前に次の活動に関する概要等を調べておき、学びの後は必ず振り返りを行わない、気づきや考察を整理してゼミで発表・共有する。以上の積み重ねを通じて、社会福祉を学ぶための基礎作りを行う。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

各回についての予習・復習2時間程度

新聞・雑誌・TVニュース等で社会福祉に関する出来事に関心をもつとともに、問題点や疑問点について考える。レポートやゼミ発表等の課題を進めるスケジュールを各自調整する。

[授業計画]

1. オリエンテーション・夏休みの課題発表①
2. 夏休みの課題発表②
3. 赤ちゃん先生プロジェクト参加(第4回に参加予定のゼミはゼミ単位での活動)
4. 赤ちゃん先生プロジェクト参加(第3回日に参加済みのゼミは振り返り)
5. 赤ちゃん先生に関する振り返り(振り返りを終えたゼミはゼミ単位での活動)
6. 地域でのサービラーニング参加と振り返り
7. デートDV防止講座
8. デートDV防止講座の振り返りレポート発表
9. 社会福祉研究交流会(社会福祉現場で働く卒業生の講演)
10. 社会福祉研究交流会の振り返り
11. ゼミ単位での活動
12. 福祉関係国家資格と国家試験
13. まとめ

科目名	基礎演習Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	社会福祉入門ゼミ	演習	
担当者	曾田 里美		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業参加状況(40%)、レポート等の課題(60%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  レポートは後日添削して返却する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  書籍名:15歳からの社会保障 著者名:横山 北斗 出版社名:日本評論社 ISBN:9784535587663</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	基礎演習Ⅱ	後期	2単位
サブタイトル	社会福祉入門ゼミ	演習	
担当者	渡辺 晴子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会福祉への関心を高めながら、福祉が身近な問題であり、対象とする分野が広いことを理解する。</li> <li>2. ゼミでの課題を通して、聴く・読む技術、調べる・整理する技術、まとめる・書く技術、表現する・伝える技術を習得する。</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>多様な分野の福祉について、当事者や支援者、更には、卒業生等から話を聞くことで、問題や支援の実状を知るとともに、自身の経験や生活に引き付けて福祉を捉えていくことを学習する。また、地域でのサービスラーニングの実践を通じて、社会的な活動の第一歩とする。一連の学びを確実にするため、事前に次回の活動に関する概要等を調べておき、学びの後は必ず振り返りを行ない、気づきや考察を整理してゼミで発表・共有する。以上の積み重ねを通じて、社会福祉を学ぶための基礎作りを行う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回についての予習・復習(2時間程度)  新聞・雑誌・TVニュース等で社会福祉に関する出来事に関心をもつとともに、問題点や疑問点について考える。レポートやゼミ発表等の課題を進めるスケジュールを各自調整する。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション・夏休みの課題発表①</li> <li>2. 夏休みの課題発表②</li> <li>3. 赤ちゃん先生プロジェクト参加(第4回に参加予定のゼミはゼミ単位での活動)</li> <li>4. 赤ちゃん先生プロジェクト参加(第3回に参加済みのゼミは振り返り)</li> <li>5. 赤ちゃん先生に関する振り返り(振り返りを終えたゼミはゼミ単位での活動)</li> <li>6. 地域でのサービスラーニング参加と振り返り</li> <li>7. デートDV防止講座</li> <li>8. デートDV防止講座の振り返りレポート発表</li> <li>9. 社会福祉研究交流会(社会福祉現場で働く卒業生の講演)</li> <li>10. 社会福祉研究交流会の振り返り</li> <li>11. ゼミ単位での活動</li> <li>12. 福祉関係国家資格と国家試験</li> <li>13. まとめ</li> </ol>			

科目名	基礎演習Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	社会福祉入門ゼミ	演習	
担当者	渡辺 晴子		
<p>[ 成績評価方法 ] 授業参加状況(40%)、レポート等の課題(60%)により評価する。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] レポートは後日添削して返却する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:授業参加状況・レポート等の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びとの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:授業参加状況・レポート等の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:授業参加状況・レポート等の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:授業参加状況・レポート等の課題</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:授業参加状況・レポート等の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業参加状況・レポート等の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:授業参加状況・レポート等の課題</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 書籍名:15歳からの社会保障 著者名:横山 北斗 出版社名:日本評論社 ISBN:9784535587663</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	基礎演習Ⅱ	後期	2単位
サブタイトル	社会福祉入門ゼミ	演習	
担当者	名定 慎也		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会福祉への関心を高めながら、福祉が身近な問題であり、対象とする分野が広いことを理解する。</li> <li>2. ゼミでの課題を通して、聴く・読む技術、調べる・整理する技術、まとめる・書く技術、表現する・伝える技術を習得する。</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>多様な分野の福祉について、当事者や支援者、更には、卒業生等から話を聞くことで、問題や支援の実状を知るとともに、自身の経験や生活に引き付けて福祉を捉えていくことを学習する。また、地域でのサービスラーニングの実践を通じて、社会的な活動の第一歩とする。一連の学びを確実にするため、事前に次回の活動に関する概要等を調べておき、学びの後は必ず振り返りを行わない、気づきや考察を整理してゼミで発表・共有する。以上の積み重ねを通じて、社会福祉を学ぶための基礎作りを行う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回についての予習・復習2時間程度 新聞・雑誌・TVニュース等で社会福祉に関する出来事に関心をもつとともに、問題点や疑問点について考える。レポートやゼミ発表等の課題を進めるスケジュールを各自調整する。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション・夏休みの課題発表①</li> <li>2. 夏休みの課題発表②</li> <li>3. 赤ちゃん先生プロジェクト参加(第4回に参加予定のゼミはゼミ単位での活動)</li> <li>4. 赤ちゃん先生プロジェクト参加(第3回日に参加済みのゼミは振り返り)</li> <li>5. 赤ちゃん先生に関する振り返り(振り返りを終えたゼミはゼミ単位での活動)</li> <li>6. 地域でのサービスラーニング参加と振り返り</li> <li>7. デートDV防止講座</li> <li>8. デートDV防止講座の振り返りレポート発表</li> <li>9. 社会福祉研究交流会(社会福祉現場で働く卒業生の講演)</li> <li>10. 社会福祉研究交流会の振り返り</li> <li>11. ゼミ単位での活動</li> <li>12. 福祉関係国家資格と国家試験</li> <li>13. まとめ</li> </ol>			

科目名	基礎演習Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	社会福祉入門ゼミ	演習	
担当者	名定 慎也		
<p>[ 成績評価方法 ] 授業参加状況(40%)、レポート等の課題(60%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] レポートは後日添削して返却する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びとの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 書籍名:15歳からの社会保障 著者名:横山 北斗 出版社名:日本評論社 ISBN:9784535587663</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	刑事司法と福祉	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	中村 寛子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>1 刑事司法の近年の動向と制度の仕組みを理解する。  2 刑事司法における精神保健福祉士の役割について理解する。  3 刑事司法の制度に関わる関係機関等の役割について理解する。  上記の目的に向かって取り組むことにより、「刑事司法と福祉」分野におけるソーシャルワーカーとしての価値、技能、知識を獲得することをめざす。</p> <p>[授業概要]</p> <p>本科目は社会福祉士、精神保健福祉士の国家試験科目の一つである。  講師は地方行政機関で精神保健福祉士として、国の地方機関である保護観察所で社会復帰調整官として働いた実務経験をふまえて講義を行う。  刑事司法制度は平成の時代に大きな法改正がされた。また、その運用において、福祉制度、精神科医療の活用が進み、行政機関、福祉施設、精神科医療機関等の関係機関との連携が重要視されるようになった。  刑事司法制度は膨大な法律と下位法令によって規定されているが、制度を概観して説明する。その上で、罪を犯した人に司法手続き中にあるいは司法手続きを終えたのちに、ソーシャルワーカーが関わる現状と課題を提示する。犯罪被害者等支援についても同様に紹介する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>1 日頃から、事件報道や罪を犯した人への支援、犯罪被害者等支援について新聞、TV、ネットの報道をチェックし、最近の動向を知っておくこと。2 テキストの事前予習。3 毎回感想及び質問をミニツツペーパーとして提出を求め、そこに記載するなどして積極的に活用を。「毎回、予習復習合わせて4時間程度」</p> <p>[授業計画]</p> <p>第1回 オリエンテーション、総論、「令和6年版犯罪白書の概要」を読む  第2回 社会と犯罪  第3回 刑罰とは何か  第4回 刑事司法  第5回 少年司法  第6回 施設内処遇① 成人  第7回 施設内処遇② 少年  第8回 社会内処遇① 更生保護の理念と概要  第9回 社会内処遇② 更生保護の実際  第10回 精神障害者を対象とした医療観察制度  第11回 高齢者・障害者による犯罪・非行と福祉  第12回 アディクションを抱える人と司法  第13回 犯罪被害者等支援</p>			

科目名	刑事司法と福祉	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	中村 寛子		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業参加度65%  最終レポート35%</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  基本的に授業時間内で解説します。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。  成績評価方法:授業終了後提出のミニツツペーパーと最終レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。  成績評価方法:授業終了後提出のミニツツペーパーと最終レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。  成績評価方法:授業終了後提出のミニツツペーパーと最終レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。  成績評価方法:授業終了後提出のミニツツペーパーと最終レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  成績評価方法:最終レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:最終レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:最終レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:最終レポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  書籍名:刑事司法と福祉第2版 著者名:日本ソーシャルワーク教育学校連盟 出版社名:中央法規出版 ISBN:9784827301536</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	現代の精神保健の課題と支援 I		前期	2 単位
サブタイトル			講義	
担当者	中村 寛子			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)		反転授業		
ディスカッション・ディベート		グループワーク		
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業	○	
<p>[到達目標]</p> <p>①現代の精神保健分野の動向と課題を理解する。  ②精神保健の基本的考え方を理解する。  ③現代社会における精神保健の諸課題の実際を生活環境ごとに理解し、精神保健福祉士の役割について理解する。  ④精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種の役割と連携について理解する。  ⑤国際連合の精神保健活動や他の国々における精神保健の現状と対策について理解する。</p> <p>[授業概要]</p> <p>精神保健の視点から、ライフサイクルにおける精神保健、現代社会における精神保健の諸課題について、的確に支援できる精神保健福祉士を目指すため、精神保健の重要性と精神保健の基礎知識を習得しつつ、現代社会の個別課題への取り組みについて教科書に沿って理解する。  政令指定都市の保健所、精神保健福祉センターで精神保健福祉相談員として勤務経験があり、現在は精神科医療機関、司法機関で精神保健福祉士として勤務する教員が担当する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>・日ごろから精神保健に関心を持つ。自身や周りの人が持つ精神保健課題について考える。関連する報道に着目し、関心があるものについては、深く検索してみる。  ・毎回授業終了後、課題を提示するので、指示された方法で提出する。  「毎回、予習復習合わせて4時間程度」</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション、精神保健福祉士の仕事、法を学ぶ意義</li> <li>2. 精神保健の概要</li> <li>3. 現代の精神保健分野の動向と基本的考え方</li> <li>4. 家族に関連する精神保健の課題と支援①家族内暴力②出産・育児③介護④社会的引きこもり⑤家族関係</li> <li>5. 家族に関連する精神保健の課題と支援⑥グリーフケア⑦精神保健支援を担う機関</li> <li>6. 精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ①</li> <li>7. 精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ②</li> <li>8. 精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ①</li> <li>9. 精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ②</li> <li>10. 精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ①災害被災者②犯罪被害者等</li> <li>11. 精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ③自殺予防④身体疾患に伴う⑤貧困問題⑥社会的孤立</li> <li>12. 精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ⑦性的マイノリティ⑧多文化</li> <li>13. 精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ⑨反復違法行為⑩高齢化</li> </ol>				

科目名	現代の精神保健の課題と支援 I	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	中村 寛子		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業参加度65%  最終レポート35%</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  課題に関する説明は、次の授業の冒頭で行う。  その他、必要に応じて適宜の方法で行う。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。  成績評価方法:授業終了後提出のミニツツペーパーと最終レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。  成績評価方法:授業終了後提出のミニツツペーパーと最終レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。  成績評価方法:授業終了後提出のミニツツペーパーと最終レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。  成績評価方法:授業終了後提出のミニツツペーパーと最終レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。  成績評価方法:授業終了後提出のミニツツペーパーと最終レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:最終レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:最終レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:最終レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:最終レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  成績評価方法:最終レポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  書籍名:現代の精神保健の課題と支援 著者名:日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集 出版社名:中央法規出版  ISBN:9784805882535</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	現代の精神保健の課題と支援Ⅱ		後期	2 単位
サブタイトル			講義	
担当者	中村 寛子			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)		反転授業		
ディスカッション・ディベート		グループワーク		
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業	○	
<p>[到達目標]</p> <p>①現代の精神保健分野の動向と課題を理解する。  ②精神保健の基本的考え方を理解する。  ③現代社会における精神保健の諸課題の実際を生活環境ごとに理解し、精神保健福祉士の役割について理解する。  ④精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種との役割と連携について理解する。  ⑤国際連合の精神保健活動や他の国々における精神保健の現状と対策について理解する。</p> <p>[授業概要]</p> <p>精神保健の視点から、ライフサイクルにおける精神保健、現代社会における精神保健の諸課題について、的確に支援できる精神保健福祉士を目指すため、精神保健の重要性と精神保健の基礎知識を習得しつつ、話題となっている分野、考え方を深める。  政令指定都市の保健所、精神保健福祉センターで精神保健福祉相談員として勤務経験があり、現在は精神科医療機関、司法機関で精神保健福祉士として勤務する教員が担当する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>・日ごろから精神保健に関心を持つ。自身や周りの人が持つ精神保健課題について考える。関連する報道に着目し、関心があるものについては、深く検索してみる。  ・毎回授業終了後、課題を提示するので、指示された方法で提出する。  「毎回、予習復習合わせて4時間程度」</p> <p>[授業計画]</p> <p>第1回:メンタルヘルスリテラシー、アルコール依存症対策  第2回:薬物依存対策  第3回:軽度知的障害者への支援  第4回:ギャンブル障害等依存対策  第5回:①うつ病と自殺防止②災害時の精神保健  第6回:子育て支援と暴力、虐待予防  第7回:①発達障害者 ②社会的引きこもり  第8回:地域精神保健に関する偏見、差別等  第9回:専門職種と行政機関等の役割、諸外国の精神保健活動  第10回:女性の精神保健①  第11回:女性の精神保健②  第12回:ケアラーと精神保健  第13回:援助希求と精神保健、地域と精神保健</p>				

科目名	現代の精神保健の課題と支援Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	中村 寛子		
<p>[ 成績評価方法 ]  レポート( 35%):課題について、指示された内容を適切にまとめることができる  平常点( 65%):授業参加や毎回提出するミニツツペーパーに基づく</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  課題に関する説明は、次の授業の冒頭で行う。  その他、必要に応じて適宜の方法で行う。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。  成績評価方法:授業終了後提出のミニツツペーパーと最終レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。  成績評価方法:授業終了後提出のミニツツペーパーと最終レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。  成績評価方法:授業終了後提出のミニツツペーパーと最終レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。  成績評価方法:授業終了後提出のミニツツペーパーと最終レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。  成績評価方法:授業終了後提出のミニツツペーパーと最終レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:最終レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:最終レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:最終レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:最終レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  成績評価方法:最終レポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  書籍名:現代の精神保健の課題と支援 著者名:日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集 出版社名:中央法規出版  ISBN:9784805882535</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	権利擁護を支える法制度	後期	2 単位
サブタイトル	福祉サービス利用者の権利擁護とは	講義	
担当者	佐々木 勝一		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <p>利用者の権利擁護に関して、①相談援助活動と法(日本国憲法の基本原理、民法・行政法の理解を含む)との関わり、②相談援助活動において必要となる成年後見制度(後見人等の役割を含む)、③成年後見制度の実際、④社会的排除や虐待などの権利侵害や認知症などの日常生活上の支援が必要な者に対する権利擁護活動の実際について理解することを目標とします。</p> <p>[授業概要]</p> <p>社会福祉の相談援助活動と法の関わりについて、日本国憲法、行政法、民法の視点から概説し、成年後見制度や日常生活自立支援事業、成年後見制度利用支援事業について講義します。続いて、社会福祉士として関わった権利擁護にかかわる組織・団体、同じく専門職の役割、成年後見活動や権利擁護活動の実際についても言及します。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>日常的に新聞、雑誌、TVニュース等で人権に関する出来事に関心を深めておいてください。各回、予習復習合わせて1時間程度行ってください。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション・相談援助活動と法</li> <li>2. 日本国憲法の理解</li> <li>3. 行政法の理解</li> <li>4. 民法の理解</li> <li>5. 成年後見制度①-後見・保佐・補助</li> <li>6. 成年後見制度②-法定後見の申し立て・任意後見</li> <li>7. 成年後見制度③-成年後見人等の義務と責任</li> <li>8. 成年後見制度④-成年後見制度の最近の動向と課題</li> <li>9. 日常生活自立支援事業</li> <li>10. 成年後見制度利用支援事業</li> <li>11. 権利擁護にかかわる組織・団体</li> <li>12. 権利擁護にかかわる専門職の役割</li> <li>13. 成年後見活動・権利擁護活動の実際</li> </ol>			

科目名	権利擁護を支える法制度	後期	2 単位
サブタイトル	福祉サービス利用者の権利擁護とは	講義	
担当者	佐々木 勝一		

[ 成績評価方法 ]

授業への取り組み姿勢(30%)、毎回のmanabaレポート(20%)、最終試験(50%)の配分で評価する。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

毎回の授業で、manabaレポート作成を求めます。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。

成績評価方法:提出レポート内容、出席状況で評価します。

学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。

成績評価方法:提出レポート内容、出席状況で評価します。

学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。

成績評価方法:提出レポート内容、出席状況で評価します。

学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びととも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。

成績評価方法:提出レポート内容、出席状況で評価します。

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢

成績評価方法:提出レポート内容、出席状況で評価します。

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢

成績評価方法:提出レポート内容、出席状況で評価します。

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢

成績評価方法:提出レポート内容、出席状況で評価します。

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法:提出レポート内容、出席状況で評価します。

[ 教科書(ISBN) ]

書籍名:権利擁護を支える法制度 著者名:一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟 出版社名:中央法規 ISBN:978-4-8243-0152-9

[ 参考書(ISBN) ]

科目名	高齢者福祉	前期	2 単位
サブタイトル	高齢者問題と保健福祉対策	講義	
担当者	清水 弥生		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	○
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>この講義の目標は、1. 高齢者の定義と特性を踏まえ、高齢者とその家族の生活とこれを取り巻く社会環境について理解する、2. 高齢者福祉の歴史と高齢者観の変遷、制度の発展過程について理解する、3. 高齢者に対する法制度と支援の仕組みについて理解する、4. 高齢期における生活課題を踏まえて、社会福祉士としての適切な支援のあり方を理解する、5. 地域共生社会や地域包括ケアの基礎的な知識を習得する、6. 高齢者福祉、障害者福祉および権利擁護等の制度・施策について、介護実践に必要な観点から基礎的な知識を習得すること、の6点である。</p> <p>[授業概要]</p> <p>授業の前半では、高齢者福祉の基本的知識となる高齢社会や高齢者の生活実態等について学ぶ。その後高齢者福祉の歴史について学習し、高齢者の医療・保健・福祉制度の発展について学んでいく。高齢者を支援するためには、高齢者についての知識とさまざまな制度、支援のあり方を理解することが重要である。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>新聞を毎日読む、ニュースを見る等社会を理解する基本的な知識を身につけておく。予習よりも復習に重点を置き、授業で学んだ内容を教科書やプリントで確認しておく。各回、予習復習合わせて4時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者の定義と特性</li> <li>2. 高齢者の生活実態とこれを取りまく社会環境</li> <li>3. 高齢者福祉制度の発展過程①</li> <li>4. 高齢者福祉制度の発展過程②</li> <li>5. 高齢者に対する法制度</li> <li>6. 老人福祉法</li> <li>7. 高齢者福祉と介護保険制度</li> <li>8. 介護保険制度と介護実践に関する諸制度</li> <li>9. 高齢者と家族の支援における関係機関と専門職の役割</li> <li>10. 地域共生社会の実現に向けた制度や施策</li> <li>11. 高齢者と家族に対する支援の実際</li> <li>12. 地域包括ケアシステムにおける認知症高齢者支援</li> <li>13. まとめ</li> </ol>			

科目名	高齢者福祉	前期	2 単位
サブタイトル	高齢者問題と保健福祉対策	講義	
担当者	清水 弥生		

[ 成績評価方法 ]

授業中に行う小テスト・小レポート(20%)、試験(80%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

小テストは授業中に解答の解説を行います。試験は答案を回収後解説を行います。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。

成績評価方法:授業中に行う小テスト・小レポート、試験

学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。

成績評価方法:授業中に行う小テスト・小レポート、試験

学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。

成績評価方法:授業中に行う小テスト・小レポート、試験

学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。

成績評価方法:授業中に行う小テスト・小レポート、試験

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢

成績評価方法:授業中に行う小テスト・小レポート、試験

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法:授業中に行う小テスト・小レポート、試験

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法:授業中に行う小テスト・小レポート、試験

[ 教科書(ISBN) ]

書籍名:高齢者福祉 著者名:日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集 出版社名:中央法規出版 ISBN:9784805882450

[ 参考書(ISBN) ]

科目名	国際健康福祉プログラムⅢ	前期	1 単位
サブタイトル	北中欧の福祉	講義	
担当者	木村 あい、清水 弥生、渡辺 晴子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>福祉国家の中で上位に位置づけられる北欧型福祉について、その仕組みや制度を学び、実際に現地で社会福祉施設、教育機関等の見学や実習を通し、高度に構築された福祉システムを学ぶ。また、北中欧の学校を訪問し、教員や学生と交流することによって、障がいのある学生がどのように学んでいるか、またそれを支える制度を体験し、国際社会福祉に対する感覚を養うことができる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>北中欧諸国の福祉について、その仕組みや制度を学び事前学習のうえ、北中欧の社会福祉施設や、学校を訪問し、現地の人との交流を通して「福祉とは何か、幸せとは何か」を考える。また、現地の人たちとの触れ合いを通して、国際的なコミュニケーション能力の向上を目指す。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>1 前回の授業内容を復習して理解し、次回の授業の予習をしておくこと。  2 日頃から、授業に関するニュースに関心を持つこと。  3 訪問先の情報収集をすること。</p> <p>[授業計画]</p> <p>1. オリエンテーション 渡航先の文化と言語(渡辺)  2. 北欧の福祉 社会福祉(清水)  3. 北欧の福祉 医療、労働環境の実情(清水)  4. 北中欧の福祉(渡辺)  5. 北中欧の福祉(渡辺)  6. 北欧の介護福祉(木村)  7. 海外渡航における注意事項、北欧の介護福祉(木村)  8. 現地でのフィールドワーク①(渡辺)  9. 現地でのフィールドワーク②(渡辺)  10. 現地でのフィールドワーク③(渡辺)  11. 現地でのフィールドワーク④(渡辺)  12. 総合討論・まとめ  13. 神戸女子大学での報告会(渡辺・清水・木村)</p> <p>※8～12回目は現地で行う(引率あり:渡辺)。</p>			

科目名	国際健康福祉プログラムⅢ	前期	1 単位
サブタイトル	北中欧の福祉	講義	
担当者	木村 あい、清水 弥生、渡辺 晴子		
<p>[ 成績評価方法 ] レポート(研修報告含む)(60%)・授業への取り組みの総合評価(40%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 授業内や報告会で課題についてコメントする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:授業への取り組み、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:授業への取り組み、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:授業への取り組み、レポート、発表</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:授業への取り組み、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:授業への取り組み、レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業への取り組み、レポート、発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業への取り組み、レポート、発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業への取り組み、レポート、発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業への取り組み、レポート、発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:授業への取り組み、レポート、発表</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	こころとからだ I	前期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	木村 あい		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	

[到達目標]

休息・睡眠・移動・身じたく・食事・排泄に関連したからだところのしくみ、機能の低下・障害とその生活場面への影響が理解でき、支援の方法が理解できる。

[授業概要]

1. 介護実践に必要な根拠となる、心身の構造や機能及び発達段階とその課題について理解する。
2. 対象者の生活を支援するという観点から、身体的・心理的・社会的側面を統合的に捉えるための知識を身につける。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

1. 人体の構造と機能及び疾病を履修し、理解しておくこと。
2. 毎回の授業内容を復習し理解して、次回の授業の予習をしておくこと(2時間程度)。

[授業計画]

1. オリエンテーション生活支援における観察 環境整備(居室環境を整える、ペットメイキング)
2. 移動に関連した基礎知識とこころとからだのしくみ
3. 移動(機能低下や障害が生活に及ぼす影響)杖で歩行する体験学習
4. 移動(まとめ)
5. 身じたくに関連した基礎知識とこころとからだのしくみ
6. 身じたく(機能低下や障害が生活に及ぼす影響・まとめ)  
身じたくの心理社会的影響についてグループワーク
7. 食事に関連した基礎知識とこころとからだのしくみ 感じてみよう舌の動きや働き(体験)
8. 食事(機能低下や障害が生活に及ぼす影響)
9. 食事(まとめ)
10. 排泄に関連した基礎知識とこころとからだのしくみ 排泄動作の分析(ワーク)
11. 排泄(機能低下や障害が生活に及ぼす影響)
12. 排泄(まとめ)
13. まとめ

科目名	こころとからだ I	前期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	木村 あい		
<p>[ 成績評価方法 ] 授業への取り組み(30%)・筆記試験(70%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 授業内やmanabaでコメントします。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:筆記試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:授業への取り組み・筆記試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:授業への取り組み・筆記試験</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業への取り組み・筆記試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業への取り組み・筆記試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業への取り組み・筆記試験</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 書籍名:こころとからだのしくみ 第2版 著者名:介護福祉士養成講座編集委員会 出版社名:中央法規出版 ISBN:9784805884003</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	こころとからだⅡ	後期	1 単位
サブタイトル	生活支援技術の根拠となる知識	演習	
担当者	津田 理恵子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[ 到達目標 ]</p> <p>1.障害の特性に応じた移動、身じたく、食事、入浴・清潔保持、排泄、休息・睡眠に関連したからだのしくみが理解できる。</p> <p>2.基本的及び障害の特性に応じた介護実践に必要な入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみが理解できる。</p> <p>3.障害などが生活に及ぼす影響と心身の活性化につながる支援が理解できる。</p> <p>4.多職種連携が必要な内容が理解できる。</p> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>介護福祉士や看護師の資格を有し5年以上経験がある教員が、障害の特性に応じた介護実践に必要な、移動、身じたく、食事、入浴・清潔保持、排泄、休息・睡眠に関連したからだのしくみ、機能の低下・障害が生活に及ぼす影響、生活場面におけるこころとからだの変化の気づきと医療職との連携について指導します。</p> <p>介護技術の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解できるように指導します。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>各回の授業内容を復習し、次回の授業の予習を4時間程度しておくこと。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <p>1.オリエンテーション 心身の活性化につながるレクリエーションの意義と方法</p> <p>2.機能低下・障害が及ぼす影響と観察に関するこころとからだのしくみ</p> <p>3.観察を通じた医療職や他職種との連携に関する基礎的知識</p> <p>4.障害に応じた休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ</p> <p>5.視覚障害に応じた移動に関するこころとからだのしくみ</p> <p>6.視覚障害に応じた食事に関するこころとからだのしくみ</p> <p>7.身体障害に応じた身じたく・移動に関連したこころとからだのしくみ</p> <p>8.障害の特徴に応じた自助具の活用に関する知識</p> <p>9.障害に応じた排泄に関するこころとからだのしくみ</p> <p>10.障害の特性に応じた排泄方法</p> <p>11.入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみ</p> <p>12.機能の低下・障害が及ぼす入浴、清潔保持への影響</p> <p>13.入浴、清潔保持に関連した多職種との連携まとめ</p>			

科目名	こころとからだⅡ	後期	1 単位
サブタイトル	生活支援技術の根拠となる知識	演習	
担当者	津田 理恵子		

[ 成績評価方法 ]  
 授業参加度20%、提出物30%、筆記試験50%

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  
 毎回の授業の最初に前回の振り返りをしてコメントを返す。  
 授業態度については適宜面接をする。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  
 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]  
 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。  
 成績評価方法:提出物、筆記試験

学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。  
 成績評価方法:授業参加度、提出物

学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。  
 成績評価方法:授業参加度

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  
 成績評価方法:授業参加度、提出物、筆記試験

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  
 成績評価方法:授業参加度、提出物、筆記試験

[ 教科書(ISBN) ]

書籍名:こころとからだのしくみ 著者名:介護福祉士養成講座編集委員会=編集 出版社名:中央法規出版 ISBN:978-4-8058-5771-7

[ 参考書(ISBN) ]

科目名	こころとからだⅢ	前期	1 単位
サブタイトル	特性に応じたこころとからだのしくみを学ぶ	演習	
担当者	津田 理恵子		

[アクティブラーニング授業]

PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○

[到達目標]

【到達目標】

- 1.障害、または重複障害の特性に合わせた移動、身支度、食事、排泄・清潔、休息・睡眠、人生の最終段階に関連したこころとからだのしくみが理解できる。
- 2.障害が及ぼす移動、身支度、食事、排泄・清潔、休息・睡眠への影響と介護について理解する
- 3.人生の最終段階を支援するため、終末期の心身の変化が生活に及ぼす影響について理解する
- 4.人生の最終段階にある人と家族に関連した支援を理解する

[授業概要]

看護師の資格を持って5年事情実践現場での経験がある教員がこころとからだのしくみについて知識が深まるように指導する。様々な障害をもって介護を必要とする人の生活支援を行うため、根拠となる知識をベースに介護実践に必要な観察力を養う。また、人間の心理や心の変容が人体の構造や機能などと密接につながっていることを理解する。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

科目「医学概論」を復習しておく。毎回4時間程度、専門用語・組織の働き・各機能の予習、復習をする。

[授業計画]

- 1.オリエンテーション
- 2.感覚器障害、運動障害、内部疾患、認知症、知的障害、精神障害による機能低下
- 3.感覚器障害、運動障害、内部疾患、認知症、知的障害、精神障害による生活への影響
- 4.移動に関連したこころとからだ
- 5.食事に関連したこころとからだ
- 6.摂食障害と医療
- 7.移動に関連したこころとからだのしくみ
- 8.身支度に関連したこころとからだ
- 9.排泄に関連したこころとからだ/排泄障害と医療
- 10.清潔とこころとからだのしくみ
- 11.休息と睡眠に関連したこころとからだ
- 12.ターミナル期のこころとからだ・人生の最終段階に関連した支援
- 13.振り返りとまとめ

科目名	こころとからだⅢ	前期	1 単位
サブタイトル	特性に応じたこころとからだのしくみを学ぶ	演習	
担当者	津田 理恵子		
<p>[ 成績評価方法 ] 課題提出 (50%) 筆記試験 (50%)</p> <p>[ 課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法 ] 提出課題にはコメントを返す。</p> <p>[ オフィスアワー (質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP) ]</p> <p>学科DP番号 / DP内容: 福祉1-1 / 多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法: 課題提出、筆記試験</p> <p>学科DP番号 / DP内容: 福祉2-1 / 家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法: 課題提出、筆記試験</p> <p>学科DP番号 / DP内容: 福祉3-2 / 現代社会における人びとのダイバーシティ (多様性) を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法: 課題提出、筆記試験</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等 / 資質・能力等の内容: 主体性 / 自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 課題提出、筆記試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等 / 資質・能力等の内容: 論理的思考力 / 筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 課題提出、筆記試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等 / 資質・能力等の内容: 問題発見力 / 現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 課題提出、筆記試験</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ] 書籍名: こころとからだのしくみ 著者名: 介護福祉士養成講座編集委員会 = 編集 出版社名: 中央法規出版 ISBN: 978-4-8058-5771-7</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ]</p>			

科目名	コミュニケーション技術	前期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	名定 慎也		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	○

[ 到達目標 ]

- 1.他者に共感でき、相手の立場に立って考えることができる。
- 2.介護を必要とする人を理解し、支援関係を構築するための介護を必要とする人とのコミュニケーションのとり方が身につく。
- 3.家族のおかれている状況を理解した上で、介護における家族とのコミュニケーションのとり方が身につく。
- 4.障害の特性を理解した上で、障害の特性に応じたコミュニケーションのとり方が身につく。
- 5.情報をまとめ発信するための方法を理解し、チームにおけるコミュニケーションのとり方が身につく。

[ 授業概要 ]

対人支援技術を専門的に研究し回想法の実践経験がある教員が、対人支援者として自己理解や他者の価値の受け入れなど、自己と向き合う基本的スキルを指導します。介護の対象となる本人、家族などの理解を深め、本人や家族との関係性の構築やチームケアを実践するための、コミュニケーションの基礎的知識と技術の習得を目指して指導します。そのうえで、障害の特性に合わせたコミュニケーション技法や、情報を適切にまとめ情報を共有化する意義と方法が修得できるように指導します。

[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]

- 1.当授業内容及び生活支援技術を復習し、日頃から学習したコミュニケーション技術を活用すること。
- 2.次回の授業の予習として教科書の内容を確認しておくこと。予習復習を合わせて4時間程度の学修をしておく。

[ 授業計画 ]

- 1.オリエンテーション 自己紹介
- 2.コミュニケーションとは・自己理解 自己開示・他者理解・価値観の受け入れ
- 3.コミュニケーションの構造と機能 介護福祉士の価値と倫理・関わり記録とロールプレイ
- 4.利用者・家族・他職種・同職種とのコミュニケーションの必要性 記録の種類と報告・連絡・相談
- 5.傾聴・受容・共感(グループディスカッション)
- 6.コミュニケーションの基本技法・コミュニケーションの環境
- 7.個別コミュニケーションとグループワークにおけるコミュニケーション技法
- 8.対象者が生きてこられた時代の理解
- 9.レクリエーションを通じた対象者への支援
- 10.家族の理解と家族に合わせたコミュニケーション技法
- 11.家族の理解と家族に合わせたコミュニケーションの工夫
- 12.高齢者施設でのレクリエーション及びコミュニケーションの実施計画
- 13.高齢者に合わせたコミュニケーション技法・ライフストーリー
- 14.障害(認知症)に合わせたコミュニケーション技法
- 15.障害(言語障害・高次脳機能障害)に合わせたコミュニケーション技法
- 16.障害(視覚障害・聴覚障害)に合わせたコミュニケーション技法
- 17.障害(身体障害・難病)に合わせたコミュニケーション技法
- 18.障害(知的障害・精神障害)に合わせたコミュニケーション技法
- 19.高齢者施設でのレクリエーションの実践
- 20.高齢者施設で入居者とのコミュニケーションの実践
- 21.同職種の理解と同職種に合わせたコミュニケーション技法
- 22.同職種の理解と同職種に合わせたコミュニケーションの工夫
- 23.他職種の理解と他職種に合わせたコミュニケーション技法と連携
- 24.他職種の理解と他職種に合わせたコミュニケーション技法と連携の工夫
- 25.コミュニケーション技法の振り返り
- 26.まとめ

科目名	コミュニケーション技術	前期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	名定 慎也		
<p>[ 成績評価方法 ] 筆記試験60% レポート10% 実技発表20% 授業への取り組み10%</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] レポート課題に対してはコメントを記入して返却する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:筆記試験、レポート、実技発表、授業への取り組み</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:実技発表、授業への取り組み</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:実技発表、授業への取り組み</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:筆記試験、レポート、実技発表、授業への取り組み</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:筆記試験、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:実技発表、授業への取り組み</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:筆記試験、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:実技発表、授業への取り組み</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 書籍名:コミュニケーション技術 第2版 著者名:介護福祉士養成講座編集委員会 出版社名:中央法規出版 ISBN:9784805883945</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 書籍名:適宜お知らせする 著者名: 出版社名: ISBN:</p>			

科目名	在宅支援	後期	1 単位
サブタイトル	その人らしい生活の実現	演習	
担当者	木村 あい		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.「生活」とは何かを説明できる。</li> <li>2.生活障害を持ちながらの在宅生活者の支援のあり方を考える。</li> <li>3.生活障害を支えるための具体的な方法を理解し実践できる。</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在宅で生活する要介護者を支援するために、生活とは何かを定義していく。</li> <li>2. 生活の定義に基づいて、個々の生活課題(生活ニーズ)の多様性に気づき、尊厳ある生命維持のため、QOLの向上のために必要な生活の要素、生活の構成を学ぶ。</li> <li>3. 生活支援の基本的な考え方を理解し、自立を獲得するための具体的な支援の知識、技術を習得し、在宅でのあるいは地域においての、その人らしい生活ができるよう支援のあり方を学ぶ。</li> <li>4. 地域の社会資源について理解し、その活用の仕方や連携のあり方について学ぶ。</li> </ol> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「介護の基本」や社会福祉の諸制度を復習しておく。</li> <li>2. 前回の授業内容を復習して理解し、次回の授業の予習をしておく(各回4時間程度)。</li> </ol> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生活するということ</li> <li>2. 在宅生活の基本 環境 介護保険と在宅福祉サービス</li> <li>3. 在宅生活の支援と介護予防 社会資源の活用</li> <li>4. 家庭生活</li> <li>5. 在宅支援の実際 掃除</li> <li>6. 在宅支援の実際 調理</li> <li>7. 生活支援の実際 洗濯</li> <li>8. 生活支援の実際 衣類の補修 管理</li> <li>9. 生活支援の実際 家庭管理 余暇 生きがい</li> <li>10. 在宅介護計画と介護過程の展開</li> <li>11. 地域包括ケアシステムについて 介護業務と法律的諸問題</li> <li>12. 在宅生活での人生の最終段階における支援</li> <li>13. まとめ</li> </ol> <p>※ 5～8は、学びと演習の相乗効果を高めるため、土曜に1時間目から4時間目までの集中講義とする。日程は履修生の都合を勘案して後期授業の初日に調整する。集中講義はできるだけ欠席することがないように、体調を整えておくこと。なお、やむを得ず欠席となった場合は補講を行う。</p>			

科目名	在宅支援	後期	1 単位
サブタイトル	その人らしい生活の実現	演習	
担当者	木村 あい		

[ 成績評価方法 ]

演習の態度 (20%)・課題の提出 (50%)、発表 (30%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

課題については添削し返却する。  
発表についてはその場でコメントする。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。

成績評価方法:課題、発表

学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。

成績評価方法:演習の態度、課題

学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びととも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。

成績評価方法:演習の態度、課題、発表

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢

成績評価方法:演習の態度、課題、発表

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢

成績評価方法:演習の態度、課題、発表

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力

成績評価方法:演習の態度、課題、発表

[ 教科書(ISBN) ]

書籍名:すでに購入している生活支援技術 I を使用します 著者名: 出版社名: ISBN:

[ 参考書(ISBN) ]

科目名	児童・家庭福祉	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	曾田 里美		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他	○	実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 児童が権利の主体であることを踏まえ、児童・家庭及び妊産婦の生活とそれを取り巻く社会状況について理解する。</li> <li>2. 児童福祉の歴史と児童観の変遷や制度の発展過程について理解する。</li> <li>3. 児童や家庭福祉に係る法制度について理解する。</li> <li>4. 児童や家庭福祉領域における支援の仕組みと方法、社会福祉士の枠割について理解する。</li> <li>5. 児童・家庭及び妊産婦の生活課題を踏まえて、適切な支援のあり方を理解する。</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>少子化の進行、地域や家庭における子育て機能の低下、児童虐待など児童に関するさまざまな問題が生じています。そこで、児童・家庭の生活実態とこれらを取り巻く社会情勢、児童福祉のニーズについて概観するとともに、児童・家庭福祉制度の発展過程、児童の権利保障の歩みについて学びます。また、児童・家庭に対する相談援助を行っているそれぞれの分野で必要となる法制度や具体的サービスの内容について学びを深めます。</p> <p>適宜国家試験の過去問題や模擬問題を利用した小テストを行い、内容の理解と国家試験対策に努めます。また、授業の中で、子どもやその家族との関わり、関係機関との連携などのあり方など担当教員が児童福祉施設での実践経験から得た知見を伝えていきます。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回の講義について予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4時間程度)。 毎回の授業内容を復習し、次回の授業内容についてはテキストの該当か所を読んで予習して授業に臨んでください。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 児童・家庭福祉の定義、児童・家庭の定義と権利</li> <li>2. 児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会環境</li> <li>3. 児童・家庭福祉の歴史</li> <li>4. 児童・家庭に対する法制度</li> <li>5. 児童・家庭に対する支援における関係機関と専門職の役割</li> <li>6. 児童・家庭に対する支援の実際① 母子保健・障害児支援</li> <li>7. 児童・家庭に対する支援の実際② 子育て支援・健全育成</li> <li>8. 児童・家庭に対する支援の実際③ 保育</li> <li>9. 児童・家庭に対する支援の実際④ 社会的養護</li> <li>10. 児童・家庭に対する支援の実際⑤ 児童虐待</li> <li>11. 児童・家庭に対する支援の実際⑥ 非行問題・心理的支援</li> <li>12. 児童・家庭に対する支援の実際⑦ ひとり親家庭</li> <li>13. まとめ・理解度確認試験の解説</li> </ol>			

科目名	児童・家庭福祉	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	曾田 里美		
<p>[ 成績評価方法 ] 理解度確認試験(70%)、小テスト(15%)、授業態度(15%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 小テストは毎回の授業の終わりに実施し、次回の授業の始めに解説します。理解度確認試験については、終了後に解答の解説を行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:理解度確認試験、小テスト</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:理解度確認試験、小テスト</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:理解度確認試験、小テスト</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:理解度確認試験、小テスト</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:理解度確認試験、小テスト</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:理解度確認試験、小テスト</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 書籍名:児童・家庭福祉 著者名:岩崎 晋也 出版社名:ミネルヴァ書房 ISBN:9784623092703</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	社会学と社会システム	後期	2 単位
サブタイトル	現代社会と社会福祉	講義	
担当者	中西 久雄		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会の特性を理解する</li> <li>2. 生活の多様性について理解する</li> <li>3. 人と社会の関係について理解する</li> <li>4. 社会問題とその背景について理解する</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>「社会変動」、「社会システム」、「社会的役割」、「社会集団と組織」の基礎知識を身につけていく。さらに、「家族」、「地域」、「都市」、「産業」等の社会変動の理解を通して、社会福祉のニーズを理解していく。</p> <p>この授業では、社会福祉士国家試験科目の「社会学と社会システム」で及第点を得点するための、基礎知識・ノウハウを身に付けていく。「社会学と社会システム」は他の科目に比べて出題範囲が広い。よって過去の出題傾向を分析した上で、的を絞って学習する必要がある。特に、よく出題される「社会変動」「社会システム」「社会的役割」「社会集団と組織」の基礎知識を身に付けることを目標とする。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>指定教科書の該当箇所について、各回予習復習合わせて4時間程度準備すること。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会学の視点</li> <li>2. 社会構造と社会変動</li> <li>3. 社会システム</li> <li>4. 地域</li> <li>5. 市民社会と公共性－社会問題－</li> <li>6. 災害と復興</li> <li>7. 社会的役割</li> <li>8. 生活と人生</li> <li>9. 家族とジェンダー</li> <li>10. 経済システム</li> <li>11. 自己と他者－相互作用－</li> <li>12. 社会集団と組織</li> <li>13. 社会関係</li> </ol>			

科目名	社会学と社会システム	後期	2 単位
サブタイトル	現代社会と社会福祉	講義	
担当者	中西 久雄		

[ 成績評価方法 ]

授業参加度(30%)、期末テスト(70%)。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

テストは終了後解説を行う。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。  
成績評価方法:上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。  
成績評価方法:上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。  
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_: 責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]

[ 参考書(ISBN) ]

書籍名:社会学と社会システム 著者名:日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集 出版社名:中央法規出版  
ISBN:9784805882337

書籍名:新・社会福祉士養成講座 3 社会理論と社会システム 第3版 著者名:社会福祉士養成講座編集委員会 編集 出版社名:中央法規出版 ISBN:9784805839300

書籍名:「あたりまえ」を疑う社会学 質的調査のセンス 著者名:好井裕明/著 出版社名:光文社 ISBN:9784334033439

科目名	社会福祉調査の基礎	後期	2 単位
サブタイトル	社会調査を通じて、思い込みを捨て、客観的に社会を把握・理解する。	講義	
担当者	湯川 宗紀		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 社会調査についての理解を深め、社会調査の必要性と社会調査に対するリテラシーを身につけることを目標とします。</p> <p>[授業概要] 「社会調査」と聞くと何か難しく、普段の自分の生活とは関係無いようなものに思えるかもしれませんが。しかし、社会には数多くのデータが氾濫し、自分自身も意識しないうちにカウントされ利用されている現実があります。</p> <p>この授業では現代社会の実態を客観的に見ることに、例えば若者(受講者のみなさん)の未来はどれほど暗いのか、格差社会が叫ばれる中、どれくらいの方が貧困にあえいでいるのか、どのような人がどのようなことに苦しんでいるのか等、いくつかの事例から社会調査の目的と意義、社会調査から現実社会を読み解いていきます。</p> <p>なお、受講者の興味関心、習熟状況、社会動向の変化により講義内容や講義の進み具合が変わる場合があります。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習あわせて4時間程度 予習 新聞を読み、ネットやワイドショーではなくニュース番組をきちんと見る 復習 講義内容を復習する</p> <p>[授業計画] 1. オリエンテーション 2. 社会調査の意義と目的 3. 量的調査の方法1 量的データから見る日本の現状 4. 量的調査の方法2 量的データから導き出されるみなさんの未来 5. 様々な質的調査法と留意点 6. 質的調査の方法 質的データから見る日本の現状 7. 量的データの分析方法・統計法1 8. 量的データの分析方法・統計法2 9. 質問紙作成の留意点(社会調査における倫理・個人情報の保護) 10. 社会調査の実施に当たってのITの活用方法1 Excelでの計算・関数 11. 社会調査の実施に当たってのITの活用方法2 Excelでのデータ集計 12. 社会調査の実施に当たってのITの活用方法3 Excelでのデータ検定 13. 社会調査についてのまとめ</p>			

科目名	社会福祉調査の基礎	後期	2 単位
サブタイトル	社会調査を通じて、思い込みを捨て、客観的に社会を把握・理解する。	講義	
担当者	湯川 宗紀		
<p>[ 成績評価方法 ] 課題レポート(30点)、期末レポート(70点)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] テストは講義中に正解を解説する レポートはレポート回収後に模範例を紹介する</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:課題レポートにより評価する</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:期末レポートにより評価する</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:期末レポートにより評価する</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:期末レポートにより評価する</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:課題レポートにより評価する</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:期末レポートにより評価する</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:期末レポートにより評価する</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:期末レポートにより評価する</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 書籍名:社会福祉調査の基礎 著者名:日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集 出版社名:中央法規出版 ISBN:9784805882351</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	社会福祉特講 I	前期	2 単位
サブタイトル	児童福祉のための基礎知識	講義	
担当者	下司 実奈、曾田 里美、馬場 幹子、内 正子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標] 児童福祉に関する基礎知識を学習し、支援を実行することの基盤を身につける。</p> <p>[授業概要] 児童福祉がどういった歴史のもと、変化を遂げてきたのかを学び、現在、児童福祉はどういった課題に向き合っているのかを学ぶ。 乳幼児の発達を保障するために必要な基礎知識を様々な側面からアプローチして学ぶ。 児童福祉に関する実務経験のある教員が講義します。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習合わせて4時間程度、前回・次回の課題について学習する。 普段の生活においても児童に関心を持ち、児童と関わる機会に授業での学びを復習し活用する。</p> <p>[授業計画] 1. オリエンテーション(下司) 2. 児童福祉(曾田) 3. 児童と遊び(下司) 4. 養護を必要とする児童への支援(曾田)児童教育の変遷(下司) 5. 食育と児童(馬場) 6. 食育と児童(馬場) 7. 食育と児童(馬場) 8. 児童と福祉(曾田) 9. 乳幼児保育の歴史と現状(下司) 10. 乳幼児の保健(内) 11. 乳幼児の保健(内) 12. 保育における心理学(下司) 13. まとめ(下司)</p>			

科目名	社会福祉特講 I	前期	2 単位
サブタイトル	児童福祉のための基礎知識	講義	
担当者	下司 実奈、曾田 里美、馬場 幹子、内 正子		

[ 成績評価方法 ]

授業態度(50%)・提出物(50%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

試験について解答を解説する。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。

成績評価方法:授業態度及び提出物

学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。

成績評価方法:授業態度及び提出物

学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びととも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。

成績評価方法:授業態度及び提出物

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢

成績評価方法:授業態度及び提出物

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢

成績評価方法:授業態度及び提出物

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法:授業態度及び提出物

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力

成績評価方法:授業態度及び提出物

[ 教科書(ISBN) ]

[ 参考書(ISBN) ]

科目名	社会福祉特講Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	家族が抱える生活問題と家族支援	講義	
担当者	植戸 貴子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]          家族が抱える多様な生活問題(貧困・虐待・DV・社会的孤立など)の実態を理解し、問題発生メカニズムを読み解き、問題解決に向けた家族支援の方策を多角的・総合的に見出せるようになることを目標とする。</p> <p>[授業概要]          今日、わが国において注目されている「家族が抱える多様な生活問題」の現状を理解し、生活問題の発生メカニズムを「家族システム」の視点から読み解き、「家族の生活問題」を「社会の問題」と結びつけて考察できるようになることを目指す。その上で、ソーシャルワーカー(社会福祉士・精神保健福祉士)として、ケアワーカー(介護福祉士)として、家族の生活問題の解決に向けて、ミクロレベル(家族に対する直接的な働きかけ)、メゾレベル(家族と関わる支援機関や支援ネットワークに対する働きかけ)、マクロレベル(地域社会や行政に対する働きかけ)といった多角的なアプローチで支援する方策について学ぶ。さらに、「家族とは何か」「家族を支援するとはどういうことか」についても考察する。授業では、家族の生活問題をよりリアルに理解できるよう、新聞記事・DVD・手記なども教材として活用する。          毎回の授業では、担当教員のソーシャルワーカーとしての実践経験、地域における家族支援経験、行政の福祉施策への参画経験などを活かして、具体的な事例などを紹介しながら、多様な生活問題を多面的に考察できるよう授業を展開する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]          各回、予習復習合わせて4時間程度の主体的な学修を行うこと。具体的には、家族が直面する生活問題に関心を持ち、専門書・新聞記事・ニュース・テレビ番組・映画・小説・エッセイなど、幅広いツールを活用し、また家族・友人など身近な人たちとの普段の交流を通して、家族の生活問題への理解を深めるよう心がけること。</p> <p>[授業計画]          1. オリエンテーション          2. 「家族」とは何か:家族観の基礎的理解          3. 家族心理学の基礎的理解          4. 家族のライフサイクルの基礎的理解          5. 家族が抱える生活問題:貧困・経済格差          6. 家族が抱える生活問題:虐待(児童・高齢者・障害者)          7. 家族が抱える生活問題:暴力(DV・家族間暴力など)          8. 家族が抱える生活問題:介護負担(二重介護・老々介護・老障介護・ヤングケアラー・介護殺人など)          9. 家族が抱える生活問題:引きこもり・社会的孤立(8050問題・孤独死など)          10. 家族に対する支援:家族カウンセリング          11. 家族に対する支援:家族会・家族教室・ソーシャルサポートネットワーク          12. 家族に対する支援:家族支援のための施策・制度          13. まとめ</p>			

科目名	社会福祉特講Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	家族が抱える生活問題と家族支援	講義	
担当者	植戸 貴子		

[ 成績評価方法 ]

レポート(60%)・授業への取り組み及び振り返り(40%)で評価。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

授業への取り組み及び振り返りへの評価はその場で、翌週の授業で、最終回の授業でフィードバックする。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。

成績評価方法:振り返り・レポート

学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。

成績評価方法:振り返り・レポート

学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。

成績評価方法:振り返り・レポート

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢

成績評価方法:振り返り・レポート

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法:振り返り・レポート

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法:振り返り・レポート

[ 教科書(ISBN) ]

[ 参考書(ISBN) ]

科目名	社会福祉特講Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	家族が抱える生活問題と家族支援	講義	
担当者	植戸 貴子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <p>家族が抱える多様な生活課題(貧困・虐待・DV・社会的孤立など)の実態を理解し、問題発生メカニズムを読み解き、問題解決に向けた家族支援の方策を多角的・総合的に見出せるようになることを目標とする。</p> <p>[授業概要]</p> <p>今日、わが国において注目されている「家族が抱える多様な生活問題」の現状を理解し、生活問題の発生メカニズムを「家族システム」の視点から読み解き、「家族の生活問題」を「社会の問題」と結びつけて考察できるようになることを目指す。その上で、ソーシャルワーカー(社会福祉士・精神保健福祉士)として、ケアワーカー(介護福祉士)として、家族の生活問題の解決に向けて、ミクロレベル(家族に対する直接的な働きかけ)、メゾレベル(家族と関わる支援機関や支援ネットワークに対する働きかけ)、マクロレベル(地域社会や行政に対する働きかけ)といった多面的なアプローチで支援する方策について学ぶ。さらに、「家族とは何か」「家族を支援するとはどういうことか」についても考察する。授業では、家族の生活問題をよりリアルに理解できるよう、新聞記事・DVD・手記なども教材として活用する。</p> <p>毎回の授業では、担当教員のソーシャルワーカーとしての実践経験、地域における家族支援経験、行政の福祉施策への参画経験などを活かして、具体的な事例などを紹介しながら、多様な生活問題を多面的に考察できるよう授業を展開する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回、予習復習合わせて4時間程度の主体的な学修を行うこと。具体的には、家族が直面する生活問題に関心を持ち、専門書・新聞記事・ニュース・テレビ番組・映画・小説・エッセイなど、幅広いツールを活用し、また家族・友人など身近な人たちとの普段の交流を通して、家族の生活問題への理解を深めるよう心がけること。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 「家族」とは何か: 家族観の基礎的理解</li> <li>3. 家族心理学の基礎的理解</li> <li>4. 家族のライフサイクルの基礎的理解</li> <li>5. 家族が抱える生活問題: 貧困・経済格差</li> <li>6. 家族が抱える生活問題: 虐待(児童・高齢者・障害者)</li> <li>7. 家族が抱える生活問題: 暴力(DV・家族間暴力など)</li> <li>8. 家族が抱える生活問題: 介護負担(二重介護・老老介護・老障介護・ヤングケアラー・介護殺人など)</li> <li>9. 家族が抱える生活問題: 引きこもり・社会的孤立(8050問題・孤独死など)</li> <li>10. 家族に対する支援: 家族カウンセリング</li> <li>11. 家族に対する支援: 家族会・家族教室・ソーシャルサポートネットワーク</li> <li>12. 家族に対する支援: 家族支援のための施策・制度</li> <li>13. まとめ</li> </ol>			

科目名	社会福祉特講Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	家族が抱える生活問題と家族支援	講義	
担当者	植戸 貴子		
<p>[ 成績評価方法 ] レポート(60%)、授業への取り組み及び振り返り(40%)で評価。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 授業への取り組み及び振り返りへの評価はその場で、翌週の授業で、最終回の授業でフィードバックする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:振り返り・レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:振り返り・レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:振り返り・レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:振り返り・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:振り返り・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:振り返り・レポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	社会福祉特講Ⅲ	前期	2 単位
サブタイトル	高齢者福祉と医療、女性と労働	講義	
担当者	清水 弥生		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標] 実習で必要となる高齢者福祉および医療や社会保障制度についての知識を身につけ、実際に応用できる。</p> <p>[授業概要] 介護保険や医療保険、労働法、ワークライフバランス等に関する社会政策を学ぶ。個々の法律や育児休業制度等について理解するだけでなく、女性の労働を社会的に支えている北欧、フランス等の仕組みを学ぶ。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 次回の学習課題について調べ、授業後は復習し他の授業との関連性について整理しておく。各回、予習復習合わせて4時間程度。</p> <p>[授業計画] 1.オリエンテーション 2.介護保険制度の概要 3.高齢者福祉の現状 4.医療保険制度の概要 5.外部講師による特別講義 6.外部講義の振り返り 7.医療保険各論 8.生活保護制度の現状 9.女性労働の実情—ジェンダーの視点から 10.育児休業法と男女雇用機会均等法 11.諸外国の女性労働と子育て支援 12.スウェーデンの労働政策と子育て支援 13.まとめ</p>			

科目名	社会福祉特講Ⅲ	前期	2 単位
サブタイトル	高齢者福祉と医療、女性と労働	講義	
担当者	清水 弥生		
<p>[ 成績評価方法 ] 授業中の課題(50%)・レポート(50%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 課題については、授業中に補足、解説します。 レポートは後日返却します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:授業中の課題・レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:授業中の課題・レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:授業中の課題・レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:授業中の課題・レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:授業中の課題・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業中の課題・レポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	社会福祉特講Ⅲ	前期	2 単位
サブタイトル	高齢者福祉と医療、女性と労働	講義	
担当者	清水 弥生		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[ 到達目標 ]  実習で必要となる高齢者福祉および医療や社会保障制度についての知識を身につけ、実際に応用できる。</p> <p>[ 授業概要 ]  介護保険や医療保険、労働法、ワークライフバランス等に関する社会政策を学ぶ。個々の法律や育児休業制度等について理解するだけでなく、女性の労働を社会的に支えている北欧、フランス等の仕組みを学ぶ。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]  次回の学習課題について調べ、授業後は復習し他の授業との関連性について整理しておく。各回、予習復習合わせて4時間程度。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.オリエンテーション</li> <li>2.介護保険制度の概要</li> <li>3.高齢者福祉の現状</li> <li>4.医療保険制度の概要</li> <li>5.外部講師による特別講義</li> <li>6.外部講義の振り返り</li> <li>7.医療保険各論</li> <li>8.生活保護制度の現状</li> <li>9.女性労働の実情－ジェンダーの視点から</li> <li>10.育児休業法と男女雇用機会均等法</li> <li>11.諸外国の女性労働と子育て支援</li> <li>12.スウェーデンの労働政策と子育て支援</li> <li>13.まとめ</li> </ol>			

科目名	社会福祉特講Ⅲ	前期	2 単位
サブタイトル	高齢者福祉と医療、女性と労働	講義	
担当者	清水 弥生		
<p>[ 成績評価方法 ] 授業中の課題(50%)・レポート(50%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 課題については、授業中に補足、解説します。 レポートは後日返却します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:授業中の課題・レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:授業中の課題・レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:授業中の課題・レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:授業中の課題・レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:授業中の課題・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業中の課題・レポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	社会福祉特講Ⅳ	前期	2 単位
サブタイトル	社会的養護の子どもたちの生活と支援	講義	
担当者	曾田 里美		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]            家族のもとを離れて施設や里親家庭で生活する社会的養護の子どもたちの背景や実情を理解するとともに、子どもたちの置かれている状況に想像力を働かせ、必要な関わりや支援について考察することができる。</p> <p>[授業概要]            児童養護施設、児童虐待、里親、生い立ちの整理、子どもの貧困など社会的養護に関連する映像や新聞記事などを通して、子どもやその家族の実態や問題の背景について理解を深めていきます。これらの題材に対して多様な観点からグループディスカッションを行い、問題や子ども・家族の捉え方について気づきを得ながら共感的視点を身につけていきます。また、子どもや家族の立場にたって必要な支援を考察していきます。            担当教員の児童福祉現場での実践経験やそこで得た知見を伝えながら、社会的養護の実情を多面的に理解、考察できるように授業を展開します。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]            各回の講義について予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4時間程度)            毎回の授業内容を復習して理解するとともに、日頃から授業に関するニュースなど社会の出来事に関心をもつようにしてください。</p> <p>[授業計画]            1. オリエンテーション            2. 社会的養護の体系①・施設養護            3. 社会的養護の体系②・家庭養護            4. 施設における生活と支援            5. 児童養護施設の事例            6. 「こうのとりのゆりかご」とは            7. 「こうのとりのゆりかご」の実際            8. 乳児院の事例            9. ライフストーリーワーク(生い立ちの整理)とは            10. 生活場面におけるライフストーリーワーク            11. 社会的養護における真実告知            12. 里親家庭の事例            13. まとめ</p>			

科目名	社会福祉特講Ⅳ	前期	2 単位
サブタイトル	社会的養護の子どもたちの生活と支援	講義	
担当者	曾田 里美		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業の参加状況 (20%)、毎回の授業の振り返り (30%)、レポート試験 (50%)</p> <p>[ 課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法 ]  振り返りレポートについて次回の授業でフィードバックします。</p> <p>[ オフィスアワー (質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP) ]</p> <p>学科DP番号 / DP内容: 福祉1-2 / 多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。  成績評価方法: 毎回の授業の振り返り、レポート試験</p> <p>学科DP番号 / DP内容: 福祉2-3 / 福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。  成績評価方法: 毎回の授業の振り返り、レポート試験</p> <p>学科DP番号 / DP内容: 福祉3-3 / 誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びととも対等かつ民主的な関係性 (パートナーシップ) を形成し、協働していく力を有している。  成績評価方法: 毎回の授業の振り返り、レポート試験</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等 / 資質・能力等の内容: 協働性 / 立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する (協働する) 能力・姿勢  成績評価方法: 毎回の授業の振り返り、レポート試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等 / 資質・能力等の内容: 多様性理解 / 自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法: 毎回の授業の振り返り、レポート試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等 / 資質・能力等の内容: 問題発見力 / 現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法: 毎回の授業の振り返り、レポート試験</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ]</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ]</p>			

科目名	社会福祉特講Ⅳ		前期	2 単位
サブタイトル	社会的養護の子どもたちの生活と支援		講義	
担当者	曾田 里美			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)			反転授業	
ディスカッション・ディベート	○		グループワーク	○
プレゼンテーション			実習、フィールドワーク	
その他			実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]            家族のもとを離れて施設や里親家庭で生活する社会的養護の子どもたちの背景や実情を理解するとともに、子どもたちの置かれている状況に想像力を働かせ、必要な関わりや支援について考察することができる。</p> <p>[授業概要]            児童養護施設、児童虐待、里親、生い立ちの整理、子どもの貧困など社会的養護に関連する映像や新聞記事などを通して、子どもやその家族の実態や問題の背景について理解を深めていきます。これらの題材に対して多様な観点からグループディスカッションを行い、問題や子ども・家族の捉え方について気づきを得ながら共感的視点を身につけていきます。また、子どもや家族の立場にたって必要な支援を考察していきます。            担当教員の児童福祉現場での実践経験やそこで得た知見を伝えながら、社会的養護の実情を多面的に理解、考察できるように授業を展開します。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]            各回の講義について予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4時間程度)            毎回の授業内容を復習して理解するとともに、日頃から授業に関するニュースなど社会の出来事に関心をもつようにしてください。</p> <p>[授業計画]            1. オリエンテーション            2. 社会的養護の体系①・施設養護            3. 社会的養護の体系②・家庭養護            4. 施設における生活と支援            5. 児童養護施設の事例            6. 「こうのとりのゆりかご」とは            7. 「こうのとりのゆりかご」の実際            8. 乳児院の事例            9. ライフストーリーワーク(生い立ちの整理)とは            10. 生活場面におけるライフストーリーワーク            11. 社会的養護における真実告知            12. 里親家庭の事例            13. まとめ</p>				

科目名	社会福祉特講Ⅳ	前期	2 単位
サブタイトル	社会的養護の子どもたちの生活と支援	講義	
担当者	曾田 里美		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業の参加状況 (20%)、毎回の授業の振り返り (30%)、レポート試験 (50%)</p> <p>[ 課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法 ]  振り返りレポートについて次回の授業でフィードバックします。</p> <p>[ オフィスアワー (質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP) ]</p> <p>学科DP番号 / DP内容: 福祉1-2 / 多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。  成績評価方法: 毎回の授業の振り返り、レポート試験</p> <p>学科DP番号 / DP内容: 福祉2-3 / 福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。  成績評価方法: 毎回の授業の振り返り、レポート試験</p> <p>学科DP番号 / DP内容: 福祉3-3 / 誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びととも対等かつ民主的な関係性 (パートナーシップ) を形成し、協働していく力を有している。  成績評価方法: 毎回の授業の振り返り、レポート試験</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等 / 資質・能力等の内容: 協働性 / 立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する (協働する) 能力・姿勢  成績評価方法: 毎回の授業の振り返り、レポート試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等 / 資質・能力等の内容: 多様性理解 / 自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法: 毎回の授業の振り返り、レポート試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等 / 資質・能力等の内容: 問題発見力 / 現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法: 毎回の授業の振り返り、レポート試験</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ]</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ]</p>			

科目名	社会福祉特講Ⅴ	後期	2 単位
サブタイトル	私たちの生活の中の心理学	講義	
担当者	下司 実奈		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標] 心理学はどのように誕生し育ってきた学問なのか、また、人々の生活にどのように役立っているのかを知り、自分の心とからだ、人の心とからだへの想像力を育てる。</p> <p>[授業概要] 人の心とからだの関係について学び、対人援助の過程で必要とされる心理学的な視点と方法について気付きを得る。アセスメントや介入の実際を紹介しながら自己への気付き、人への気付きを促していく。臨床心理士の経験の中でクライアントとご家族から学んだことを伝える。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 学習内容を理解すること。 授業に関する新聞やニュース、TV番組等に関心をもって視聴すること。予習復習合わせて各回1時間程度をかけることが望ましい。</p> <p>[授業計画] 1.臨床心理学の歴史 2.想像力 3.睡眠と心理学 4.自律神経 自尊感情 5.アイデンティティとは 6.うつ病 産後うつ 小児うつ 7.DV 8.PTSD 9.発達障害 10.発達障害 11.心理検査 12.認知行動療法入門 13.まとめ</p>			

科目名	社会福祉特講Ⅴ	後期	2 単位
サブタイトル	私たちの生活の中の心理学	講義	
担当者	下司 実奈		

[ 成績評価方法 ]

授業態度(40%)・プレゼーション課題(60%)を総合して評価する。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

フィードバックは授業中に行う。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。  
成績評価方法:授業態度 プレゼーション課題

学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びとの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。  
成績評価方法:授業態度 プレゼーション課題

学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。  
成績評価方法:授業態度 プレゼーション課題

学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。  
成績評価方法:授業態度 プレゼーション課題

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢

成績評価方法:授業態度 プレゼーション課題

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢

成績評価方法:授業態度 プレゼーション課題

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法:授業態度 プレゼーション課題

[ 教科書(ISBN) ]

[ 参考書(ISBN) ]

科目名	社会福祉特講Ⅴ	後期	2 単位
サブタイトル	私たちの生活の中の心理学	講義	
担当者	下司 実奈		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[ 到達目標 ] 心理学はどのように誕生し育ってきた学問なのか、また、人々の生活にどのように役立っているのかを知り、自分の心とからだ、人の心とからだへの想像力を育てる。</p> <p>[ 授業概要 ] 人の心とからだの関係について学び、対人援助の過程で必要とされる心理学的な視点と方法について気付きを得る。アセスメントや介入の実際を紹介しながら自己への気付き、人への気付きを促していく。臨床心理士の経験の中でクライアントとご家族から学んだことを伝える。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ] 学習内容を理解すること。 授業に関する新聞やニュース、TV番組等に関心をもって視聴すること。予習復習合わせて各回1時間程度をかけることが望ましい。</p> <p>[ 授業計画 ] 1.臨床心理学の歴史 2.想像力 3.睡眠と心理学 4.自律神経 自尊感情 5.アイデンティティとは 6.うつ病 産後うつ 小児うつ 7.DV 8.PTSD 9.発達障害 10.発達障害 11.心理検査 12.認知行動療法入門 13.まとめ</p>			

科目名	社会福祉特講Ⅴ	後期	2 単位
サブタイトル	私たちの生活の中の心理学	講義	
担当者	下司 実奈		

[ 成績評価方法 ]  
 授業態度(40%)・プレゼンテーション課題(60%)を総合して評価する。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  
 フィードバックは授業中に行う。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  
 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]  
 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。  
 成績評価方法:受講態度 レポート 筆記試験

学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。  
 成績評価方法:受講態度 レポート 筆記試験

学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。  
 成績評価方法:受講態度 レポート 筆記試験

学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。  
 成績評価方法:受講態度 レポート 筆記試験

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢  
 成績評価方法:受講態度 レポート 筆記試験

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  
 成績評価方法:受講態度 レポート 筆記試験

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  
 成績評価方法:受講態度 レポート 筆記試験

[ 教科書(ISBN) ]

[ 参考書(ISBN) ]

科目名	社会福祉の原理と政策 I	前期	2 単位
サブタイトル	社会福祉学の基礎	講義	
担当者	渡辺 晴子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会福祉の原理をめぐる思想・哲学と理論について説明できる。</li> <li>2. 社会福祉の歴史および理論の変遷をふまえ、日本の社会福祉の特性について説明できる。</li> <li>3. 社会問題と社会構造の関係の視点から、現代の社会問題について説明できる。</li> <li>4. 人間の理解を基礎として、尊厳の保持と自立について説明できる。</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>社会福祉士・精神保健福祉士養成カリキュラムの「社会福祉の原理・基盤・政策を理解する科目」として、社会福祉学の基礎である社会福祉の歴史、思想・哲学、理論について体系的に理解するとともに、現代の社会問題とその構造的背景について学修する。</p> <p>また、介護福祉士養成カリキュラムの「人間の尊厳と自立」として、人間の理解を基礎に、尊厳の保持と自立について理解し、介護福祉の倫理的課題への対応能力の基礎を養う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回についての予習・復習(4時間程度)</p> <p>【予習】教科書の指定範囲を熟読し、コミュニケーションカードの課題に取り組む。</p> <p>【復習】授業を振り返り、理解が不十分な点や関心を抱いた点、新たに学修した専門用語などを再確認する。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 社会福祉の原理</li> <li>3. 社会福祉の歴史①: 日本(萌芽期～発展期)</li> <li>4. 社会福祉の歴史②: 日本(成熟期～転換期)</li> <li>5. 社会福祉の歴史③: 欧米</li> <li>6. 現代の社会問題①: 社会問題と社会構造</li> <li>7. 現代の社会問題②: 格差と貧困</li> <li>8. 現代の社会問題③: 親密圏における暴力と社会的孤立</li> <li>9. 社会福祉の思想と哲学①: 福祉実践の先駆者たち</li> <li>10. 社会福祉の思想と哲学②: 社会福祉の価値観、人間の尊厳と自立</li> <li>11. 社会福祉の理論①: 日本における社会福祉の理論</li> <li>12. 社会福祉の理論②: 福祉国家の理論</li> <li>13. まとめ</li> </ol>			

科目名	社会福祉の原理と政策 I	前期	2 単位
サブタイトル	社会福祉学の基礎	講義	
担当者	渡辺 晴子		
<p>[ 成績評価方法 ] コミュニケーションカード(30%)、レポート(20%)、試験(50%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 原則、授業内にフィードバックする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:コミュニケーションカード、レポート、試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びとの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:コミュニケーションカード、レポート、試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:コミュニケーションカード、レポート、試験</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:コミュニケーションカード、レポート、試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:コミュニケーションカード、レポート、試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:コミュニケーションカード、レポート、試験</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 書籍名:社会福祉の原理と政策 著者名:岩崎 晋也 出版社名:ミネルヴァ書房 ISBN:9784623090488</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 書籍名:社会福祉用語辞典[第9版] 著者名:山縣 文治 出版社名:ミネルヴァ書房 ISBN:9784623065431 書籍名:社会福祉小六法2025[令和7年版] 著者名:ミネルヴァ書房編集部編 出版社名:ミネルヴァ書房 ISBN:9784623098729</p>			

科目名	社会福祉の原理と政策Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	現代社会における福祉政策	講義	
担当者	渡辺 晴子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 福祉政策を捉える基本的な視点について説明できる。</li> <li>2. 福祉政策におけるニーズと資源をふまえて、福祉政策の構成要素・機能・過程について説明できる。</li> <li>3. 福祉政策の動向と課題、関連施策について説明できる。</li> <li>4. 福祉サービスの供給と利用過程について説明できる。</li> <li>5. 国際比較の視点から、日本の福祉政策の特性について説明できる。</li> <li>6. 人間の理解を基礎として、尊厳の保持と自立について説明できる。</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>社会福祉士・精神保健福祉士養成カリキュラムの「社会福祉の原理・基盤・政策を理解する科目」として、福祉政策を捉える基本的な視点(理論)、機能、過程、財政および福祉サービスの供給と利用の過程について理解するとともに、福祉政策と関連施策の動向と課題、国際比較の視点から日本の福祉政策の特性について学修する。</p> <p>また、介護福祉士養成カリキュラムの「人間の尊厳と自立」として、人間の理解を基礎に、尊厳の保持と自立について理解し、介護福祉の倫理的課題への対応能力の基礎を養う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回についての予習・復習(4時間程度)</p> <p>【予習】教科書の指定範囲を熟読し、コミュニケーションカードの課題に取り組む。</p> <p>【復習】授業を振り返り、理解が不十分な点や関心を抱いた点、新たに学修した専門用語などを再確認する。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 福祉サービスの供給と利用①: 社会福祉のしくみ</li> <li>3. 福祉サービスの供給と利用②: 公的部門</li> <li>4. 福祉サービスの供給と利用③: 民間部門</li> <li>5. 福祉サービスの供給と利用④: 利用方式の多様化と支援</li> <li>6. 福祉政策の理論</li> <li>7. 福祉政策の機能①: 福祉政策の構成要素と機能</li> <li>8. 福祉政策の機能②: 福祉政策の過程</li> <li>9. 福祉政策における財政</li> <li>10. 福祉政策の動向と課題</li> <li>11. 関連施策の動向と課題</li> <li>12. 福祉政策の国際比較</li> <li>13. まとめ</li> </ol>			

科目名	社会福祉の原理と政策Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	現代社会における福祉政策	講義	
担当者	渡辺 晴子		
<p>[ 成績評価方法 ]  コミュニケーションカード(30%)、レポート(20%)、試験(50%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  原則、授業内にフィードバックする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。  成績評価方法:コミュニケーションカード、レポート、試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。  成績評価方法:コミュニケーションカード、レポート、試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。  成績評価方法:コミュニケーションカード、レポート、試験</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:コミュニケーションカード、レポート、試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  成績評価方法:コミュニケーションカード、レポート、試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:コミュニケーションカード、レポート、試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:コミュニケーションカード、レポート、試験</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  書籍名:社会福祉の原理と政策 著者名:岩崎 晋也 出版社名:ミネルヴァ書房 ISBN:9784623090488</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  書籍名:社会福祉用語辞典[第9版] 著者名:山縣 文治 出版社名:ミネルヴァ書房 ISBN:9784623065431  書籍名:社会福祉小六法[令和7年版] 著者名:ミネルヴァ書房編集部編 出版社名:ミネルヴァ書房 ISBN:9784623098729</p>			

科目名	社会保障 I	前期	2 単位
サブタイトル	私達の暮らしを支える仕組みを学ぶ	講義	
担当者	清水 弥生		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	○
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>目標は1.個や集団、社会の単位で人間を理解する視点を養い、生活と社会の関係性を体系的に捉える 2. 社会保障の概念や対象及びその理念について、その発達過程も含めて理解する 3. 現代社会における社会保障制度の役割と意義、取り組むべき課題について理解する 4. 社会保障制度の体系と概要について理解する 5. 社会保障制度の財政について理解するの5点である。</p> <p>[授業概要]</p> <p>社会保障 I では、各社会福祉制度と直接間接に関わり、私たちの暮らしを支えるさまざまな制度について学ぶ。最初に、社会保障の考え方、枠組みについて説明し、社会保障の歴史について触れる。その後、年金制度ならびに、日本が直面する年金制度の課題について講義していく。適宜、新聞記事や映像資料を使用する。また、国家試験問題を利用して、小テストを行い、内容の振り返りに役立てる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>新聞を毎日読む、ニュースを見る等社会を理解する基本的な知識を身につけておく。予習および復習に重点を置き、授業で学んだ内容を教科書やプリントで確認しておく。各回、予習復習合わせて4時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会における社会保障制度の現状、社会と生活のしくみ</li> <li>2. 社会保障の理念、対象と制度の発達</li> <li>3. 社会保障の概念と範囲、社会保険と社会扶助の関係</li> <li>4. 社会保障の役割と意義</li> <li>5. 社会保障制度の体系</li> <li>6. 日本の年金制度①年金とはなにか</li> <li>7. 日本の年金制度②国民年金の仕組み</li> <li>8. 日本の年金制度③国民年金の給付の種類</li> <li>9. 日本の年金制度④厚生年金の仕組み</li> <li>10. 日本の年金制度⑤厚生年金の給付の種類</li> <li>11. 年金制度の今後の課題</li> <li>12. 社会保障と財政</li> <li>13. まとめ</li> </ol>			

科目名	社会保障 I	前期	2 単位
サブタイトル	私達の暮らしを支える仕組みを学ぶ	講義	
担当者	清水 弥生		

[ 成績評価方法 ]

授業中に行う小テスト・小レポート(20%)、試験(80%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

小テストや小レポートは授業中に解説する。  
試験は答案回収後解説する。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。

成績評価方法:授業中に行う小テスト・小レポート、試験

学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。

成績評価方法:授業中に行う小テスト・小レポート、試験

学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。

成績評価方法:授業中に行う小テスト・小レポート、試験

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢

成績評価方法:授業中に行う小テスト・小レポート、試験

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法:授業中に行う小テスト・小レポート、試験

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法:授業中に行う小テスト・小レポート、試験

[ 教科書(ISBN) ]

書籍名:はじめての社会保障[第21版] 著者名:椋野 美智子 出版社名:有斐閣 ISBN:9784641222342

[ 参考書(ISBN) ]

科目名	社会保障Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	私達の暮らしを支える仕組みを学ぶ	講義	
担当者	清水 弥生		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	○
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>この授業では、1. 医療保険制度の具体的内容について理解する 2. 労働保険の具体的内容について理解する 3. 公的保険制度と民間保険制度の関係について理解する 4. 諸外国における社会保障制度の概要について理解することを目標とする。</p> <p>[授業概要]</p> <p>各社会福祉制度と直接間接に関わり、私たちの暮らしを支えるさまざまな制度について学ぶ。社会保障Ⅱでは、医療制度について理解し、労働保険や介護保険等を社会保障の枠組みから学んでいく。 適宜、新聞記事や映像資料を使用する。また、国家試験問題を利用して、小テストを行い、内容の振り返りに役立てる。社会保障Ⅰを履修しておくことが望ましい。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>新聞を毎日読む、ニュースを見る等社会を理解する基本的な知識を身につけておく。予習よりも復習に重点を置き、授業で学んだ内容を教科書やプリントで確認しておく。各回、予習復習合わせて4時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>日本の医療保険制度①医療保障制度とはなにか</li> <li>日本の医療保険制度②国民健康保険の目的および対象</li> <li>日本の医療保険制度③国民健康保険の給付</li> <li>日本の医療保険制度④健康保険の目的および対象</li> <li>日本の医療保険制度⑤健康保険の給付</li> <li>日本の医療保険制度⑥各種共済組合の医療保険、後期高齢者医療制度</li> <li>医療保険制度の今後の課題</li> <li>労働保険制度の概要①雇用保険制度</li> <li>労働保険制度の概要②労災保険制度</li> <li>公的保険制度と民間保険制度の関係</li> <li>諸外国における社会保障制度の概要</li> <li>障害者福祉と障害者保健福祉制度</li> <li>まとめ</li> </ol>			

科目名	社会保障Ⅱ	後期	2単位
サブタイトル	私達の暮らしを支える仕組みを学ぶ	講義	
担当者	清水 弥生		
<p>[ 成績評価方法 ] 授業中に行う小テスト・小レポート(20%)、試験(80%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 小テストは授業中に解答の解説を行います。試験は答案を回収後、解説を行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:授業中に行う小テスト・小レポート、試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:授業中に行う小テスト・小レポート、試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:授業中に行う小テスト・小レポート、試験</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:授業中に行う小テスト・小レポート、試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:授業中に行う小テスト・小レポート、試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業中に行う小テスト・小レポート、試験</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 書籍名:はじめての社会保障[第21版] 著者名:棕野 美智子 出版社名:有斐閣 ISBN:9784641222342</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	障害者福祉	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	植戸 貴子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <p>本科目の目的・ねらいは、①障害の概念と特性を踏まえ、障害者とその家族の生活とこれを取り巻く社会環境について理解する、②障害者福祉の歴史と障害観の変遷、制度の発展過程について理解する、③障害者に対する法制度と支援の仕組みについて理解する、④障害による生活課題を踏まえ、社会福祉士及び精神保健福祉士としての適切な支援のあり方を理解する、の4点である。</p> <p>また到達目標は、①障害の概念と特性が理解できる、②障害者の生活実態やこれを取り巻く社会環境について理解できる、③障害者福祉の歴史や障害者に対する法制度について理解できる、④障害者と家族等の支援における関係機関と専門性の役割について理解できる、⑤障害者と家族等に対する支援の実際を理解できる、の5点である。</p> <p>[授業概要]</p> <p>障害の概念と特性、障害者の生活実態とこれを取り巻く社会環境、障害者福祉の歴史、障害者に対する法制度について理解する。また、障害者と家族等の支援における関係機関と専門職の役割及び障害者と家族等に対する支援の実際を理解する。毎回の授業では、担当教員の障害者施設でのソーシャルワーカーとしての実践経験や地域で暮らす障害者と家族の地域活動への支援経験を活かして、障害者や家族の生活実態や支援のあり方を具体的に考えられるような講義を展開していく。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回、予習復習合わせて4時間程度の主体的な学修を行うこと。具体的には、前回の授業内容や小テストを復習し理解するとともに、次回の授業の予習をしておくこと。また、新聞記事・ニュースやボランティア活動等を通して、障害のある人たちの福祉課題に関心を持つこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 障害概念と特性の理解および障害の基礎的理解(ICF、障害の定義と特性、障害の医学的・心理的側面の基礎的理解)</li> <li>2. 障害者の生活実態とこれを取り巻く社会環境</li> <li>3. 障害者福祉の歴史: 障害者福祉の基本的理念と障害観および障害者処遇の変遷</li> <li>4. 障害者福祉の歴史: 障害者権利条約・障害者基本法・障害者福祉制度の発展過程および障害者福祉の現状と施策</li> <li>5. 障害者に対する法制度: 障害者総合支援法-1(概要・障害福祉サービス・相談支援)</li> <li>6. 障害者に対する法制度: 障害者総合支援法-2(障害支援区分・支給決定・自立支援医療・補装具・地域生活支援事業・障害福祉計画)</li> <li>7. 障害者に対する法制度: 身体障害者福祉法・知的障害者福祉法・精神保健福祉法</li> <li>8. 障害者に対する法制度: 児童福祉法・発達障害者支援法・障害者虐待防止法</li> <li>9. 障害者に対する法制度: 障害者差別解消法・バリアフリー法・障害者雇用促進法・障害者優先調達推進法など</li> <li>10. 障害者と家族等の支援における関係機関および関連する専門職等の役割</li> <li>11. 障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援(障害者の就労の支援を含む)</li> <li>12. 障害領域における社会福祉士および精神保健福祉士の役割と障害者・家族等への支援の実際(多職種連携・協働を含む)</li> <li>13. まとめ</li> </ol>			

科目名	障害者福祉	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	植戸 貴子		
<p>[ 成績評価方法 ] 試験(70%)・小テストおよびレポート課題(20%)・授業への取り組み状況(10%)で評価。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 小テストおよびレポート課題の評価は、翌週の授業において解答解説等によってフィードバックする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:小テスト・試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:授業への取り組み・試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:授業への取り組み・試験</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業への取り組み・試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:試験・小テスト</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:試験</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 書籍名:最新社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座・第8巻「障害者福祉」第2版 著者名:一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟 出版社名:中央法規出版 ISBN:9784824301512</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	障害の理解	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	木村 あい		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>障害のある人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、障害のある人の地域での生活を理解し、本人のみならず家族や地域を含めた周囲の環境への支援について理解するための基礎的な知識を習得する学習とする。</p> <p>[授業概要]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 障害のある人の生活を支援するという観点から、障害の概念や障害の特性に応じた制度の基礎的な知識を身につける。</li> <li>2 医学的・心理的側面から、障害による心身への影響や心理的な変化を理解できる。</li> <li>3 ライフステージや障害の特性を踏まえ、機能の変化が生活に及ぼす影響を理解し、QOLを高める支援を考察できる。</li> <li>4 地域でのサポート体制や、多種職連携・協働による支援の基礎的な知識を身につける。</li> <li>5 障害のある人を支える家族の課題について理解し、家族の受容過程や介護力に応じた支援を考察できる。</li> </ol> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>予習・復習を4時間程度しておくこと。 日頃から社会の動きに関心を持つこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 障害の基礎的理解</li> <li>2 障害の医学的・心理的側面の基礎的理解</li> <li>3 身体障害の基本的理解</li> <li>4 身体障害者の心理的特徴と支援、家族の状況と家族への支援①</li> <li>5 身体障害者の心理的特徴と支援、家族の状況と家族への支援②</li> <li>6 身体障害者の心理的特徴と支援、家族の状況と家族への支援③</li> <li>7 精神障害の基本的理解 精神障害者の心理的特徴と支援、家族の状況と家族への支援</li> <li>8 知的障害の基本的理解 知的障害者の心理的特徴と支援、家族の状況と家族への支援</li> <li>9 発達障害の基本的理解 発達障害者の心理的特徴と支援、家族の状況と家族への支援</li> <li>10 難病の基本的理解</li> <li>11 障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援 生活上の課題と支援のあり方、自立支援</li> <li>12 連携と協働 地域におけるサポート体制 多種職連携と協働</li> <li>13 まとめ</li> </ol>			

科目名	障害の理解	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	木村 あい		
<p>[ 成績評価方法 ]  テスト(70%)、授業に対する取り組み(30%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  授業内でコメントする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。  成績評価方法:テスト</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。  成績評価方法:テスト</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。  成績評価方法:授業に対する取り組み、テスト</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。  成績評価方法:授業に対する取り組み、テスト</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:授業に対する取り組み、テスト</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢  成績評価方法:授業に対する取り組み、テスト</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:授業に対する取り組み、テスト</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  書籍名:障害の理解 第2版 著者名:介護福祉士養成講座編集委員会 出版社名:中央法規出版 ISBN:9784805884034</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	心理学と心理的支援	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	下司 実奈		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○

[ 到達目標 ]

社会福祉専門職として、より有効な支援を提供するために、相手を知ること、そして自分を知ることが心理学を通して学ぶ。科学的な視点を基礎として、人が自分を認識しながら生きていくための様々な理論や方法を実践の場を想定しながら考えていく。

[ 授業概要 ]

人はどうやって外界を認知していくのか、認知から生まれる感情、行動、思考の流れを知るための基礎知識を学ぶ。次に障害や疾患など課題を抱える人々に対してこれまで蓄積されてきた支援内容にその根拠と共に学ぶ。

[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]

manabaに提示する授業ノートを見て、テキストに目を通す。疑問点についてチェックする。授業後、できるだけ早く、manabaに提示した復習ノートに授業ノートを参照しながら答えを記入する。次の授業の冒頭に答え合わせをし、復習ノート、授業ノートに書き加える。予習復習各1時間程度。

[ 授業計画 ]

1. 感覚と知覚
2. 記憶 ワーキングメモリー
3. 脳 動機づけ
4. フロイトの心的装置 防衛機制
5. ストレス
6. 愛着(ボウルビィとマーラーの理論を中心に)
7. 愛着(愛着を支えるもの)
8. 発達と支援(乳幼児の発達)
9. 発達と支援(発達に課題を抱える人々への支援)
10. 条件付けと行動分析
11. 心理療法
12. 心理検査
13. まとめ

科目名	心理学と心理的支援	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	下司 実奈		
<p>[ 成績評価方法 ]  受講態度(20%)・レポート(20%)・筆記試験(60%)により総合的に評価する</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  毎回、前回の復習ノートの答え合わせを行う。  試験の解答を解説する時間を設ける。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。  成績評価方法:受講態度 レポート 筆記試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。  成績評価方法:受講態度 レポート 筆記試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。  成績評価方法:受講態度 レポート 筆記試験</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢  成績評価方法:受講態度 レポート 筆記試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:受講態度 レポート 筆記試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:受講態度 レポート 筆記試験</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  書籍名:心理学 第5版補訂版 著者名:鹿取 廣人 編 出版社名:東京大学出版会 ISBN:9784130121170</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	生活支援技術 I (基礎)	前期	2 単位
サブタイトル	基礎介護技術	演習	
担当者	木村 あい		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.生活を支える介護技術の基本的な知識と技術を身につけることができる。</li> <li>2.生活場面における生活支援技術の意義が理解できる。</li> <li>3.実践する技術の根拠が理解できる。</li> <li>4.観察・アセスメント・考察できる能力を身につけることができる。</li> <li>5.安全・安楽・プライバシーに留意した生活支援技術が実践できる。</li> <li>6.その人らしさについて考え、自立を促す生活支援技術を身につけることができる。</li> <li>7.福祉用具の意義、その目的や適切な使用方法を理解できる。</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>介護福祉士に必要な生活場面における介護の基本的な知識と技術について学ぶ。生活支援技術の習得においては、介護実習室で介護者として技術を実践し、その振り返りから、その人らしさを尊重し、潜在能力を引き出すための技法を考察する。また、対象者役の体験を通して気づいた点を自己の技術に活かしていけるよう考察する。この過程を通し、対象者の自立に向けた生活を支えるために必要な思考能力を養う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>前回の授業内容を復習して理解し、次回の授業の予習をしておく。  こころからだ！と連動した授業なので、講義内容を理解しておく。  (予習・復習を含めて4時間程度)</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 介護者の心得 観察・アセスメント・記録</li> <li>2. 生活支援の理解、生活支援と福祉用具の意義と活用</li> <li>3. ボディメカニクス・感染予防(名定)</li> <li>4. 自立に向けた居室環境の整備 ベッドメイキング</li> <li>5. 自立に向けた移動の介護①:移動の意義と目的</li> <li>6. 自立に向けた移動の介護②:移動の意義と目的・移動に関する利用者のアセスメント</li> <li>7. 自立に向けた移動の介護③:安全で的確な移動・移乗の介護</li> <li>8. 自立に向けた移動の介護④:安全で気兼ねなく動けることを支える介護</li> <li>9. 廃用症候群・シーツ交換・安楽な体位</li> <li>10.自立に向けた身じたくの介護①:整容、自立に向けた身じたくの介護とその意義と目的・身じたくのアセスメント</li> <li>11.自立に向けた身じたくの介護②:衣生活を調整する能力のアセスメントと介護</li> <li>12.自立に向けた身じたくの介護③:整容行動、衣生活を調整する能力のアセスメントと介護</li> <li>13.自立に向けた身じたくの介護④:生活習慣と装いの楽しみ</li> <li>14.自立に向けた身じたくの介護⑤:生活習慣と装いの楽しみを支える介護</li> <li>15.自立に向けた食事の介護①:食事の意義と目的</li> <li>16.自立に向けた食事の介護②:食事に関する利用者のアセスメント</li> <li>17.自立に向けた食事の介護③:「おいしく食べる」こと</li> <li>18.自立に向けた食事の介護④:「おいしく食べる」ことを支える介護</li> <li>19.自立に向けた排泄の介護①:排泄の意義と目的</li> <li>20.自立に向けた排泄の介護②:排泄に関する利用者のアセスメント</li> <li>22.自立に向けた排泄の介護④:安全で的確な排泄の介護の工夫</li> <li>23.自立に向けた排泄の介護④:気持ちよい排泄</li> <li>24.自立に向けた排泄の介護⑥:気持ちよい排泄を支える介護の工夫</li> <li>25.自立に向けた生活支援の工夫</li> <li>26.自立に向けた生活支援の振り返り まとめ</li> </ol>			

科目名	生活支援技術 I (基礎)	前期	2 単位
サブタイトル	基礎介護技術	演習	
担当者	木村 あい		

[ 成績評価方法 ]  
 授業参加度20%、提出物20%、実技試験40%、筆記試験20%

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  
 提出物はコメントを返し、適宜必要に応じて個別面接を行いフィードバックする。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  
 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]  
 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。  
 成績評価方法:提出物、実技試験、筆記試験

学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。  
 成績評価方法:授業参加度、提出物、実技試験、筆記試験

学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。  
 成績評価方法:授業参加度、実技試験、筆記試験

学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。  
 成績評価方法:授業参加度、提出物20%

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  
 成績評価方法:授業参加度、提出物、実技試験、筆記試験

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢  
 成績評価方法:授業参加度、提出物、実技試験、筆記試験

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  
 成績評価方法:授業参加度、提出物、実技試験、筆記試験

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  
 成績評価方法:授業参加度、提出物、実技試験、筆記試験

[ 教科書(ISBN) ]

書籍名:生活支援技術 I 第2版 著者名:介護福祉士養成講座編集委員会 出版社名:中央法規出版 ISBN:9784805883952  
 書籍名:生活支援技術 II 第2版 著者名:介護福祉士養成講座編集委員会 出版社名:中央法規出版 ISBN:9784805883969  
 書籍名:生活支援技術 III 第2版 著者名:介護福祉士養成講座編集委員会 出版社名:中央法規出版 ISBN:9784805883976

[ 参考書(ISBN) ]

科目名	生活支援技術Ⅱ(応用)	後期	2 単位
サブタイトル	状態・状況に応じた介護	演習	
担当者	津田 理恵子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[ 到達目標 ] 人間の尊厳の保持ができ、その人の状態・状況に合った生活支援技術や知識を習得できる。</p> <p>[ 授業概要 ] 介護福祉士や看護師の資格を持って5年以上、実践現場での経験がある教員が生活支援技術の指導をする。尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めた適切な生活支援技術を用いて、安全に支援できる技術や知識について習得できるよう支援する。支援の現場は100人いれば100通りの関わり方が求められる。実際に当事者と関わる機会を設けることによって、個別支援の難しさと同時に、人間的関わりがベースにあるケアの大切さや信頼を培うことの重要性を学ぶ機会とする。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ] 生活支援技術Ⅰの基本を実践し評価する場を設け、基本に必要な知識と技術を身につけておく。イメージトレーニングや各留意点など2時間程度予習復習に充てる。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.オリエンテーション 感覚機能が低下している人の介護</li> <li>2.自立に向けた入浴・清潔の保持の介護</li> <li>3.4.運動機能が低下している人の介護 利用者の状態・状況に応じた移動における介護の留意点</li> <li>5.6. 利用者の状態・状況に応じた食事の介護の留意点 認知・知覚能力が低下している人の介護</li> <li>7.8.利用者の状態・状況に応じた食事の介助の留意点 感染予防、誤嚥・窒息の防止のための日常生活の留意点 脱水の予防のための日常生活の留意点</li> <li>9.10.利用者の状態・状況に応じた移動介護の留意点 感覚機能が低下している人の介護 運動機能が低下している人の介護</li> <li>11.12.利用者の状態・状況に応じた身支度介護の留意点</li> <li>13.14.利用者の状態・状況に応じた排泄の介護の留意点 認知・知覚能力が低下している人の介護</li> <li>15.16.利用者の状態・状況に応じた排泄の介護の留意点(学外特別講師) 便秘・下痢の予防のための日常生活の留意点 尿回数が多い人への日常生活の留意点・失禁時の介護の留意点</li> <li>17.18.利用者の状態・状況に応じた清潔に関連した 感覚機能が低下している人の介護</li> <li>19.20.利用者の状態・状況に応じた休息・睡眠に関連した介護の留意点</li> <li>21.22.利用者の状態・状況に応じたターミナル期の心と身体の介護</li> <li>23.24.人生の最終段階に関連した介護の留意点</li> <li>25..26実技評価・まとめ</li> </ol>			

科目名	生活支援技術Ⅱ(応用)	後期	2単位
サブタイトル	状態・状況に応じた介護	演習	
担当者	津田 理恵子		

[ 成績評価方法 ]

実技試験40点、筆記試験40%、レポート課題20点

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

レポート課題にはコメントを返す。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。

成績評価方法:実技試験

学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。

成績評価方法:実技試験

学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。

成績評価方法:実技試験、筆記試験、レポート課題

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢

成績評価方法:実技試験、筆記試験、レポート課題

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢

成績評価方法:実技試験

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法:実技試験、筆記試験、レポート課題

[ 教科書(ISBN) ]

書籍名:生活支援技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 著者名:介護福祉士養成講座編集委員会(編) 出版社名:中央法規出版 ISBN:9784805883952

[ 参考書(ISBN) ]

科目名	生活支援技術Ⅲ(応用)	前期	2 単位
サブタイトル	状態・状況に応じた介護	演習	
担当者	津田 理恵子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[ 到達目標 ] 人間の尊厳の保持ができ、その人の状態・状況に合った生活支援技術や知識を習得できる。</p> <p>[ 授業概要 ] 尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めた適切な生活支援技術を用いて、安全に支援できる技術や知識について習得できるよう支援する。支援の現場は100人いれば100通りの関わり方が求められる。実際に当事者と関わる機会を設けることによって、個別支援の難しさと同時に、人間的関わりがベースにあるケアの大切さや信頼を培うことの重要性を学ぶ機会とする。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ] 生活支援技術Ⅰ・Ⅱの基本を実践し評価する場を設け、基本に必要な知識と技術を身につけておく。イメージトレーニングや各留意点など4時間程度予習復習に充てる。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.オリエンテーション</li> <li>2.感覚機能が低下している人の介護</li> <li>3.運動機能が低下している人の介護</li> <li>4.利用者の状態・状況に応じた移動における介助の留意点</li> <li>5.利用者の状態・状況に応じた食事の介助の留意点 認知・知覚能力が低下している人の介護</li> <li>6.利用者の状態・状況に応じた食事の介助の留意点 誤嚥・窒息の防止のための日常生活の留意点 脱水の予防のための日常生活の留意点</li> <li>7.利用者の状態・状況に応じた移動介助の留意点(学外特別講師) 感覚機能が低下している人の介護 運動機能が低下している人の介護</li> <li>8.利用者の状態・状況に応じた身支度介助の留意点</li> <li>9.利用者の状態・状況に応じた排泄の介助の留意点 認知・知覚能力が低下している人の介護</li> <li>10.利用者の状態・状況に応じた排泄の介助の留意点 便秘・下痢の予防のための日常生活の留意点 尿回数が多い人への日常生活の留意点・失禁時の介護の留意点</li> <li>11.利用者の状態・状況に応じた清潔に関連した 感覚機能が低下している人の介護</li> <li>12.利用者の状態・状況に応じた休息・睡眠/ターミナル・人生の最終章に関連した介助の留意点</li> <li>13.実技評価・まとめ</li> </ol>			

科目名	生活支援技術Ⅲ(応用)	前期	2 単位
サブタイトル	状態・状況に応じた介護	演習	
担当者	津田 理恵子		

[ 成績評価方法 ]

実技試験40点、筆記試験40点、レポート課題20点などの総合評価

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

レポート課題にはコメントを返す。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。

成績評価方法:実技試験、レポート課題

学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。

成績評価方法:筆記試験、レポート課題

学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。

成績評価方法:実技試験、筆記試験、レポート課題

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢

成績評価方法:実技試験、筆記試験、レポート課題

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢

成績評価方法:実技試験、筆記試験、レポート課題

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力

成績評価方法:実技試験、筆記試験、レポート課題

[ 教科書(ISBN) ]

書籍名:生活支援技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 著者名:介護福祉士養成講座編集委員会=編集 出版社名:中央法規出版 ISBN:978-4-8058-5766-3

書籍名:書いて覚える!介護福祉士国家試験合格ドリル2026 著者名:中央法規介護福祉士受験対策研究会 出版社名:ISBN:978-4-8243-0211-3

[ 参考書(ISBN) ]

科目名	生活支援技術Ⅳ(個別介護技術)	後期	2 単位
サブタイトル	事例に応じた個別介護技術	演習	
担当者	名定 慎也		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	○
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.対象となる人の心身の状況を把握し、個別的支援のできる介護技術や知識について修得する。</li> <li>2.環境を整えることによって潜在能力を引き出し、その人の自立・自律を尊重した生活支援技術を身に着ける。</li> <li>3.安全への配慮・プライバシー保護・その人らしさや楽しみとなる生活について考え実践できる。</li> <li>4.生活場面において、多職種連携やチームの一員として役割を果たすことができる能力を養う。</li> <li>5.ターミナルケアでの多職種連携、介護技術、グリーフケア等介護福祉士の役割の実践を理解する。</li> <li>6.医療行為ではない支援による自立や生活範囲の拡大への個別支援を習得する。</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>尊厳の保持の観点から、利用者の状況に合わせ、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、適切な介護技術を用いて、個別介護技術や知識について習得する。これらを教員のケア経験を活かして指導する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>これまで学習、実習体験で習得した生活支援技術の復習をしておく。授業内容を復習し、次回の授業の予習として教科書の内容を確認しておくこと。予習復習を合わせて4時間程度の学修をしておく。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 特性に応じた生活支援技術</li> <li>3. 自立に向けた身じたくの介護</li> <li>4. 自立に向けた身じたくの介護(事例)</li> <li>5. 自立に向けた移動の介護</li> <li>6. 自立に向けた移動の介護(事例)</li> <li>7. 自立に向けた食事の介護</li> <li>8. 自立に向けた食事の介護(事例)</li> <li>9. 自立に向けた排泄の介護</li> <li>10. 自立に向けた排泄の介護(事例)</li> <li>11. 自立に向けた入浴・清潔・整容の介護</li> <li>12. 自立に向けた入浴・清潔・整容の介護(事例)</li> <li>13. 休息・睡眠の介護</li> <li>14. 休息・睡眠の介護(事例)</li> <li>15. 人生の最終段階における介護</li> <li>16. 人生の最終段階における介護(事例)</li> <li>17. 個別介護計画に基づく介護過程の展開(事例1)</li> <li>18. 個別介護計画に基づく介護過程の展開(事例2)</li> <li>19. 個別介護計画に基づく介護過程の展開(事例3)</li> <li>20. 福祉用具を活用した介護</li> <li>21. 福祉用具を活用した介護(事例)</li> <li>22. チームアプローチへの協働の実際</li> <li>23. チームアプローチへの協働の実際(事例)</li> <li>24. 緊急時の対応・応急手当・心肺蘇生への対応</li> <li>25. 緊急時の対応・応急手当・心肺蘇生への対応(事例)</li> <li>26. まとめ</li> </ol>			

科目名	生活支援技術Ⅳ(個別介護技術)	後期	2 単位
サブタイトル	事例に応じた個別介護技術	演習	
担当者	名定 慎也		

[ 成績評価方法 ]

実技試験(20%) 筆記試験(60%)レポート(10%)授業への取り組み(10%)の総合評価

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

- ・実技試験と筆記試験等で評価します。実技試験は講評します。
- ・レポートは添削してフィードバックします。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。

成績評価方法:実技試験、筆記試験

学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。

成績評価方法:レポート、授業への取り組み

学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。

成績評価方法:実技試験、筆記試験、レポート、授業への取り組み

学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。

成績評価方法:筆記試験、授業への取り組み

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢

成績評価方法:実技試験、授業への取り組み

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢

成績評価方法:筆記試験、レポート

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法:実技試験、筆記試験、レポート、授業への取り組み

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法:実技試験、筆記試験、レポート、授業への取り組み

[ 教科書(ISBN) ]

書籍名:生活支援技術Ⅰ 第2版 著者名:介護福祉士養成講座編集委員会 出版社名:中央法規出版 ISBN:9784805883952

書籍名:生活支援技術Ⅱ 第2版 著者名:介護福祉士養成講座編集委員会 出版社名:中央法規出版 ISBN:9784805883969

[ 参考書(ISBN) ]

科目名	生活支援技術Ⅴ(家政)	前期	2単位
サブタイトル		演習	
担当者	古田 貴美子、竹内 美貴		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>①高齢者や障害者の生活支援、ADLやQOLの維持・向上のために必要な衣生活・食生活に関する基礎的な知識と技術を身に付け、介護福祉士の仕事に役立てることができる。</p> <p>②特に健康面に影響のある食生活では、調理の介護を重点とし咀嚼・嚥下能力などに応じた食生活支援ができるようになる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>高齢者や障がい者の生活の質の向上に役立つ家事の知識と技術を講義と実習から身に付ける。  衣生活では、衣服の管理(洗濯や保管)、衣服の着方などの知識を学び、裁縫の基礎知識を得るために小物製作を行う。初回に、必要な洋裁用具や材料について説明する。  食生活では、食生活の支援が人間の尊厳と深く関わる行為であるため、健康状態や個別的ニーズに合った食事提供ができるよう調理支援に必要な知識と調理技術を習得する。食料費は別途徴収あり。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回の授業についての予習復習を合わせて2時間程度。  前回の授業内容の復習を行うこと。  実習時のレポートは次回までの授業時間外に仕上げておいてください。</p> <p>[授業計画]</p> <p>1.2.自立に向けた家事の介護、衣服の管理(古田)  3.4.裁縫の基本(手縫い)(古田)  5.6.小物製作(ミシン縫い)(古田)  7.8.自立に向けた家事の介護(栄養・調理)(竹内)  9.10.食生活について(食品衛生を含む)(竹内)  11.12.調理支援のための基礎知識について(竹内)  13.14.基本的な調理実習(竹内)  15.16.基本的な組み合わせ献立(竹内)  17.18.介護食の実習(単品)(竹内)  19.20.介護食の実習(組み合わせ献立)(竹内)  21.22.コントロール食の献立(竹内)  23.24.行事食の献立(竹内)  25.26.介護食の献立作成について(竹内)</p>			

科目名	生活支援技術Ⅴ(家政)	前期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	古田 貴美子、竹内 美貴		
<p>[ 成績評価方法 ] レポート(衣生活分野は課題作品含む)(70%)、授業態度(30%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] レポートは、添削を行い返却します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:レポート、授業態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:レポート、授業態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:レポート、授業態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:レポート、授業態度</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:レポート、授業態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:レポート、授業態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:レポート、授業態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:レポート、授業態度</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 書籍名:生活支援技術Ⅰ 第2版 著者名:介護福祉士養成講座編集委員会 出版社名:中央法規出版 ISBN:9784805883952 書籍名:改訂 生活支援のための調理実習 著者名:田崎 裕美 出版社名:建帛社 ISBN:9784767933955</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 書籍名:福祉のための家政学 著者名:中川 英子 出版社名:建帛社 ISBN:9784767933795</p>			

科目名	精神医学と精神医療 I	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	酒井 亮		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[ 到達目標 ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・精神疾患の症状を理解し、その分類方法について理解する。</li> <li>・精神疾患の要因を理解し、診断方法と治療方法について理解する。</li> </ul> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>精神科医としての臨床経験を有する教員が、その経験を活かして以下の通りに授業を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神医学の歴史について学ぶ。</li> <li>2. 精神疾患の症状、要因、診断方法について学ぶ。</li> <li>3. 精神疾患の治療方法について学ぶ。</li> </ol> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・精神医学の基礎である「脳の働き」について自主学习しておく。</li> <li>各回、予習復習合わせて2時間程度。</li> </ul> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神医学の歴史</li> <li>2. 現在の精神医学の概念</li> <li>3. 精神疾患の症状と状態①</li> <li>4. 精神疾患の症状と状態②</li> <li>5. 精神疾患の身体的要因①</li> <li>6. 精神疾患の身体的要因②</li> <li>7. 精神疾患の心理社会的要因①</li> <li>8. 精神疾患の心理社会的要因②</li> <li>9. 精神疾患の診断方法①</li> <li>10. 精神疾患の診断方法②</li> <li>11. 精神疾患の治療方法①</li> <li>12. 精神疾患の治療方法②</li> <li>13. まとめ</li> </ol>			

科目名	精神医学と精神医療 I	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	酒井 亮		
<p>[ 成績評価方法 ] レポート課題(100%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 授業の中で課題を提出し、解説を行う。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:精神疾患に病む人々が、歴史の変遷の中でどのように扱われ、現在に至るのかを理解できること</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:精神疾患に病む人々が、歴史の変遷の中でどのように扱われ、現在に至るのかを理解できること</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:精神疾患に病む人々が、歴史の変遷の中でどのように扱われ、現在に至るのかを理解できること</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:精神疾患を正しく評価し、理解することで、精神医療における福祉の役割が何かを考察できること</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:精神疾患を正しく評価し、理解することで、精神医療における福祉の役割が何かを考察できること</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:精神疾患を正しく評価し、理解することで、精神医療における福祉の役割が何かを考察できること</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:精神疾患を正しく評価し、理解することで、精神医療における福祉の役割が何かを考察できること</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	精神医学と精神医療Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	酒井 亮		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・代表的な精神疾患について、症状、要因、診断について理解する。</li> <li>・代表的な精神疾患について、病理と治療について理解する。</li> </ul> <p>[授業概要]</p> <p>精神科医としての臨床経験を有する教員が、その経験を活かして以下の通りに授業を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 代表的な精神疾患の症状と診断について学ぶ。</li> <li>2. 代表的な精神疾患の心理学的理解について学ぶ。</li> <li>3. 代表的な精神疾患の治療について学ぶ。</li> </ol> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>代表的な精神疾患である「認知症」、「統合失調症」、「気分障害」について自主学習しておく。各回、予習復習合わせて2時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 認知症①</li> <li>2. 認知症②</li> <li>3. 統合失調症①</li> <li>4. 統合失調症②</li> <li>5. 気分障害①</li> <li>6. 気分障害②</li> <li>7. ストレス関連障害①</li> <li>8. ストレス関連障害②</li> <li>9. 不安障害①</li> <li>10. 不安障害②</li> <li>11. 知的障害, 発達障害①</li> <li>12. 知的障害, 発達障害②</li> <li>13. まとめ</li> </ol>			

科目名	精神医学と精神医療Ⅱ	後期	2単位
サブタイトル		講義	
担当者	酒井 亮		
<p>[ 成績評価方法 ] レポート課題(100%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 授業中に課題を提出し、解説を行う。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:代表的な精神疾患について、身体的、心理的、社会的な視点で理解できること</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:代表的な精神疾患について、身体的、心理的、社会的な視点で理解できること</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:代表的な精神疾患について、身体的、心理的、社会的な視点で理解できること</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:代表的な精神疾患について、精神医療における予防、治療、リハビリについて考察できること</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:代表的な精神疾患について、精神医療における予防、治療、リハビリについて考察できること</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:代表的な精神疾患について、精神医療における予防、治療、リハビリについて考察できること</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:代表的な精神疾患について、精神医療における予防、治療、リハビリについて考察できること</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	精神障害リハビリテーション論	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	瀧本 優子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <p>精神保健福祉における専門的援助技術を学び、精神障害者リハビリテーションの対象者の特性と様々な分野におけるリハビリテーションの理論や実践を事例を通し具体的に理解する力を身につける。</p> <p>[授業概要]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神障害者を対象とした精神障害リハビリテーションを精神保健福祉士の視点で理解させる。</li> <li>2. 社会生活支援の一環としての精神障害リハビリテーションの様々な支援について理解させる。</li> <li>3. 精神障害リハビリテーションについて具体的事例に基づき理解させる。</li> </ol> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回の授業のテーマについて記載のあるテキストの部分を読み、配布資料のまとめの問題をおさらいするために、4時間程度の予習復習をして授業に臨んでください。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神障害リハビリテーションとは</li> <li>2. 精神障害リハビリテーションとソーシャルワーク</li> <li>3. ICFを活用した課題分析</li> <li>4. 精神障害リハビリテーションの理念・定義・基本原則</li> <li>5. 精神障害リハビリテーションの構成と展開</li> <li>6. 精神障害リハビリテーションのプログラムの概要</li> <li>7. 医学的リハビリテーションプログラム</li> <li>8. 職業的リハビリテーションプログラム</li> <li>9. 社会的リハビリテーションプログラム</li> <li>10. 教育的リハビリテーションプログラム</li> <li>11. 家族支援プログラム</li> <li>12. ソーシャルワークとSST(social skills training)</li> <li>13. 当事者主体のプログラム</li> <li>14. 多職種連携とチームアプローチの実際</li> <li>15. まとめ</li> </ol>			

科目名	精神障害リハビリテーション論	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	瀧本 優子		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業への取り組み姿勢(授業態度)20%、試験やレポート80%  成績評価については、必要に合わせた形で各自へのフィードバックを行う。  また疑問点などはメールにて対応を行う。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  遠隔授業になった場合はZoomを用いた授業形態で上記計画を実施します。  授業の課題に関してはmanabaやメールにてフィードバックを行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  書籍名:精神障害リハビリテーション論 著者名:福祉臨床シリーズ編集委員会 出版社名:弘文堂 ISBN:9784335611292</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	精神保健福祉制度論	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	田中 希世子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標] 精神保健福祉に関連する法制度について理解する。</p> <p>[授業概要] 精神保健福祉法、医療観察法をはじめとし、生活支援に関する制度、経済的支援に関する制度等精神保健福祉に関連する法制度について、その概要と課題の理解を促していく。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 障害者福祉、精神障害者福祉に関心をもち、日頃から関連するニュースなどに触れておくこと。 前回の講義内容について、テキストや配布資料をもとに復習する。 各回について予習復習を2時間程度行う。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 精神障害者に関する制度・施策の理解(1)</li> <li>3. 精神障害者に関する制度・施策の理解(2)</li> <li>4. 精神障害者の医療に関する制度(1)</li> <li>5. 精神障害者の医療に関する制度(2)</li> <li>6. 精神障害者の医療に関する制度(3)</li> <li>7. 精神障害者の生活支援に関する制度(1)</li> <li>8. 精神障害者の生活支援に関する制度(2)</li> <li>9. 事例検討(1)</li> <li>10. 事例検討(2)</li> <li>11. 精神障害者の経済的支援</li> <li>12. 精神障害者と生活困窮</li> <li>13. まとめ</li> </ol>			

科目名	精神保健福祉制度論	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	田中 希世子		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業への参加度・・・50%  課題・発表・・・30%  最終試験・・・20%  授業への参加度・・・授業中の積極的な発言や意見、グループ討議への積極的参加等により評価します。  課題・発表・・・課題への取り組み、期日内提出、課題内容の発表  最終試験・・・指定されたテーマについて、授業内容をよく理解し、要点をおさえてまとめられているか評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  最終試験については、回収後、回答の解説を行う。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。  成績評価方法:レポート・プレゼンテーション内容、授業参加状況</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。  成績評価方法:レポート・プレゼンテーション内容、授業参加状況</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。  成績評価方法:レポート・プレゼンテーション内容、授業参加状況</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:レポート・プレゼンテーション内容、授業参加状況</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:レポート・プレゼンテーション内容、授業参加状況</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:レポート・プレゼンテーション内容、授業参加状況</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  書籍名:精神保健福祉制度論 著者名:日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集 出版社名:中央法規出版  ISBN:9784805882559</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	精神保健福祉の原理 I	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	田中 希世子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障害者福祉の基本的枠組みについて理解する。</li> <li>・精神疾患や精神障害をもつ当事者の社会的立場や処遇内容の変遷をふまえ、それに対する問題意識をもつ価値観を体得する。</li> </ul> <p>[授業概要]</p> <p>本授業では、障害者福祉の基本的枠組みについて学ぶとともに、精神障害に係る歴史や法制度等を学ぶなかで、ソーシャルワーク専門職である精神保健福祉士の存在意義やソーシャルワーク専門職としてのものの見方や考え方等について理解する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>障害者福祉、精神障害者福祉に関心を持ち、日頃から関連するニュースなどに触れておくこと。 前回の講義内容について、テキストや配布資料をもとに復習する。 各回について予習復習を2時間程度行う。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 障害の捉え方(1)</li> <li>3. 障害の捉え方(2)</li> <li>4. 障害の捉え方(3)</li> <li>5. 障害者福祉の理念(1)</li> <li>6. 障害者福祉の理念(2)</li> <li>7. 障害者福祉の理念(3)</li> <li>8. 精神保健福祉の歴史的展開(1)</li> <li>9. 精神保健福祉の歴史的展開(2)</li> <li>10. 事例検討</li> <li>11. 精神障害と精神障害者の概念(1)</li> <li>12. 精神障害と精神障害者の概念(2)</li> <li>13. まとめ</li> </ol>			

科目名	精神保健福祉の原理 I	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	田中 希世子		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業への参加度・・・50%  課題・発表・・・30%  最終試験・・・20%  授業への参加度・・・授業中の積極的な発言や意見、グループ討議への積極的参加等により評価します。  課題・発表・・・課題への取り組み、期日内提出、課題内容の発表  最終試験・・・指定されたテーマについて、授業内容をよく理解し、要点をおさえてまとめられているか評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  最終試験については、回収後、回答の解説を行う。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。  成績評価方法:レポート・プレゼンテーション内容、授業参加状況</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。  成績評価方法:レポート・プレゼンテーション内容、授業参加状況</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。  成績評価方法:レポート・プレゼンテーション内容、授業参加状況</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:レポート・プレゼンテーション内容、授業参加状況</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:レポート・プレゼンテーション内容、授業参加状況</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:レポート・プレゼンテーション内容、授業参加状況</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  書籍名:精神保健福祉の原理 著者名:日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集 出版社名:中央法規出版  ISBN:9784805882566</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	精神保健福祉の原理Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	田中 希世子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障害者福祉の基本的枠組みについて理解する。</li> <li>・精神疾患や精神障害をもつ当事者の社会的立場や処遇内容の変遷をふまえ、それに対する問題意識をもつ価値観を体得する。</li> </ul> <p>[授業概要]</p> <p>本授業では、障害者福祉の基本的枠組みについて学ぶとともに、精神障害に係る歴史や法制度等を学ぶなかで、ソーシャルワーク専門職である精神保健福祉士の存在意義やソーシャルワーク専門職としてのものの見方や考え方等について理解する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>障害者福祉、精神障害者福祉に関心を持ち、日頃から関連するニュースなどに触れておくこと。 前回の講義内容について、テキストや配布資料をもとに復習する。 各回について予習復習を2時間程度行う。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 障がい者福祉の現状と課題</li> <li>3. 諸外国における排除の歴史とその後の展開</li> <li>4. 日本における排除の歴史と構造(1)</li> <li>5. 日本における排除の歴史と構造(2)</li> <li>6. 日本の社会的障壁をめぐる課題とその克服への取り組み</li> <li>7. 精神障害者の生活特性(1)</li> <li>8. 精神障害者の生活特性(2)</li> <li>9. 精神保健福祉の原理と理念</li> <li>10. 事例検討</li> <li>11. 精神保健福祉士の役割と機能(1)</li> <li>12. 精神保健福祉士の役割と機能(2)</li> <li>13. まとめ</li> </ol>			

科目名	精神保健福祉の原理Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	田中 希世子		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業への参加度・・・50%  課題・発表・・・30%  最終試験・・・20%  授業への参加度・・・授業中の積極的な発言や意見、グループ討議への積極的参加等により評価します。  課題・発表・・・課題への取り組み、期日内提出、課題内容の発表  最終試験・・・指定されたテーマについて、授業内容をよく理解し、要点をおさえてまとめられているか評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  最終試験については、回収後、回答の解説を行う。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。  成績評価方法:レポート・プレゼンテーション内容、授業参加状況</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。  成績評価方法:レポート・プレゼンテーション内容、授業参加状況</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。  成績評価方法:レポート・プレゼンテーション内容、授業参加状況</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:レポート・プレゼンテーション内容、授業参加状況</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:レポート・プレゼンテーション内容、授業参加状況</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:レポート・プレゼンテーション内容、授業参加状況</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  書籍名:精神保健福祉の原理 著者名:日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集 出版社名:中央法規出版  ISBN:9784805882566</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	専門演習 I	前期	2 単位
サブタイトル	障害者・高齢者のソーシャルワーク	演習	
担当者	植戸 貴子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]  相談援助職(ソーシャルワーカー)に求められる基本的な姿勢(価値観・倫理観・視点・態度)を身につけることを目指す。より具体的には、新聞や専門雑誌の記事及び相談援助事例や現場実践報告などを読み・聞くことを通して、また関心のあるテーマについて研究することを通して、福祉課題を抽出し、ソーシャルワークの視点で考察できるようになることを目標とする。</p> <p>[授業概要]  福祉サービス利用者やその家族に対する、生活支援や相談援助をテーマにする。まず、利用者・家族の心理・行動や社会環境の中にある生活問題を理解し、生活全体をとらえる視点を養う。その上で、利用者や家族が必要とするサービスや支援につながる「相談援助活動」(ソーシャルワーク)のあり方について学ぶ。そこでは特に、利用者を「できない人」「弱者」として上から見るのではなく、「対等な市民」として尊重する基本姿勢を大切にす。新聞記事を読んだり、利用者・家族や現場の社会福祉士のお話を直接伺ったり、相談援助事例を読み解いたり、また希望があれば、施設を見学したり、利用者・家族の地域での支援活動や外部の学習会に参加したりできるようにする。利用者・家族が直面するさまざまな生活課題について、またその支援のあり方について、一緒に考えていくゼミにしたいと考えている。障害者分野の生活支援・相談援助を中心とするが、高齢者等の分野も必要に応じて取り上げ、幅広い利用者の相談援助について学ぶ。</p> <p>毎回の授業では、担当教員の障害者施設や高齢者施設でのソーシャルワーカーとしての実践経験や福祉援助職へのスーパービジョン経験などを活かして、相談援助実践に求められる価値・倫理、専門的知識、専門的技術について、具体的な事例等を紹介しながら実践的に理解できるような授業を展開する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]  各回、予習復習合わせて2時間程度の主体的な学修を行うこと。具体的には、社会福祉について幅広い関心を持ち、新聞記事・専門雑誌・学外セミナーやボランティア活動などを通して、様々な福祉課題について主体的に学ぶ姿勢を持つこと。</p> <p>[授業計画]  1. オリエンテーション  2. 図書館の活用法を学ぶ  3. 新聞記事から学ぶ社会福祉の課題①  4. 新聞記事から学ぶ社会福祉の課題②  5. ソーシャルワークにおける人間理解①  6. ソーシャルワークにおける人間理解②  7. ソーシャルワークにおける社会環境の理解①  8. ソーシャルワークにおける社会環境の理解②  9. 事例を通して学ぶ障害者と家族の生活ニーズ  10. 当事者・家族から学ぶ障害者と家族の生活ニーズ(学外特別講師)  11. 事例を通して学ぶ高齢者と家族の生活ニーズ  12. 映像から学ぶ社会福祉  13. まとめ</p>			

科目名	専門演習 I	前期	2 単位
サブタイトル	障害者・高齢者のソーシャルワーク	演習	
担当者	植戸 貴子		

[ 成績評価方法 ]

授業中の課題への取り組み(25%)、ゼミ発表の内容(25%)、授業内レポート(50%)で評価。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

ゼミ発表、授業内レポートの評価については、その場で、翌週の授業で、あるいは学科期末の授業においてフィードバックする。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。

成績評価方法:発表・レポート

学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。

成績評価方法:課題への取り組み姿勢・レポート

学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びととも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。

成績評価方法:課題への取り組み姿勢

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢

成績評価方法:課題への取り組み姿勢

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢

成績評価方法:発表・レポート

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢

成績評価方法:課題への取り組み姿勢

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法:発表・レポート

[ 教科書(ISBN) ]

[ 参考書(ISBN) ]

科目名	専門演習 I	前期	2 単位
サブタイトル	対人支援の実践～支援者のあり方を考える	演習	
担当者	木村 あい		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分自身を理解し受け入れる(自己覚知)。</li> <li>・他者を理解し受け入れる。</li> <li>・自らが人生の主役として、大人として責任をもった行動ができるようになる。</li> <li>・対人支援の実践者として、自らの実践基盤と支援者としてのあり方の確立を図る。</li> <li>・社会福祉士の倫理綱領を理解し、専門職としての自覚を持つ。</li> <li>・卒業論文を執筆する力を身につける。</li> </ul> <p>[授業概要]</p> <p>対人支援は価値、知識、技術を身につけたとしても、実践に活かされなければ意味をなさない。相手を理解し、寄り添い支援するにあたり、自らの実践基盤と支援者としてのあり方を追究する。</p> <p>興味関心のあるテーマについて調べ報告するプロセスを通して、自分自身の考えを他者に理解してもらう方法と、他者の意見に傾聴することの重要性を学んでいく。自分と他者との価値観の違いに気づき、一人ひとりの存在を実感する。さらに、フィールドワークとして地域の高齢者のニーズに関連した関わりを持つことにより、支援者としての在り方を追究していく。</p> <p>また、自らが経験した実践を振り返り、深く考察する。4年生でまとめる、卒業論文に向けて文献検索や論文の書き方、調査方法等を学ぶ。</p> <p>教員の高齢の知的障がいのある人の入所施設や海外ボランティアの経験や事例を通して、ディスカッションやグループワーク、ロールプレイを行う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>日頃から授業に関する新聞、ニュース等に関心をもつこと。    関心領域のセミナー等に参加すること。    各回、予習復習合わせて2時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション 授業の進め方、自己紹介</li> <li>2. 多角面からのものの見方や考え方</li> <li>3. 社会福祉の価値や倫理を考える①</li> <li>4. 社会福祉の価値や倫理を考える②</li> <li>5. 社会福祉とは何か</li> <li>6. 文献検索の方法</li> <li>7. ソーシャルワークにおける人間の理解(フィールドワーク)</li> <li>8. ソーシャルワークにおける環境の理解(フィールドワーク)</li> <li>9. 高齢者や障がいのある人の生活とニーズの理解(フィールドワーク)</li> <li>10. 支援者としての視点</li> <li>11. 専門職としての姿勢を学ぶ①(フィールドワーク)</li> <li>12. 専門職としての姿勢を学ぶ②(フィールドワーク)</li> <li>13. 様々な人々の生活について</li> </ol>			

科目名	専門演習 I	前期	2 単位
サブタイトル	対人支援の実践～支援者のあり方を考える	演習	
担当者	木村 あい		
<p>[ 成績評価方法 ]  レポート(30%)、課題発表(30%)、授業への取り組み(40%)  レポートは授業内でコメントするか、後日添削して返却する。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  基本的に授業時間内で解説します。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びととも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	専門演習 I	前期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	下司 実奈		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ] 自分の研究したいテーマを見つけ卒業論文へとつなぐ。</p> <p>[ 授業概要 ] ゼミのテーマ:「発達を支援する一専門家としての力量を高めるためにー」 人は人らしく生きるために生涯、発達を続けます。子どもを育てる、人を育てるということは社会の大切なプロジェクトであり、同時にそれぞれが育っていくプロセスでもあります。 地域で他の専門職(保健師・教師・セラピスト等)と共に子どもや家族を支援していくことを学生の皆さんそれぞれ興味関心のある切り口から、学習していきましょう。長年勤務してきた障害児施設や、現在臨床現場で出会っている多くの子どもたちと家族の方々から学んだ実践の知識とスキルを、そして子どもの成長する力、人の成長し続ける力を信じる大切さを、臨床心理士としての視点も加えて伝えていきたいと考えています。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ] 社会で起きている様々な事象を知ろうとし、疑問点について皆と考える素材提出ができるよう、各回予習復習合わせて2時間程度準備する。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 文献講読とプレゼンテーション</li> <li>3. 文献講読とプレゼンテーション</li> <li>4. 文献講読とプレゼンテーション</li> <li>5. 文献検索の実際</li> <li>6. 文献検索の実際</li> <li>7. 論文講読と発表及びディスカッション</li> <li>8. 論文講読と発表及びディスカッション</li> <li>9. 論文講読と発表及びディスカッション</li> <li>10. 論文講読と発表及びディスカッション</li> <li>11. 論文講読と発表及びディスカッション</li> <li>12. 施設現場見学</li> <li>13. 施設現場見学</li> </ol>			

科目名	専門演習 I	前期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	下司 実奈		
<p>[ 成績評価方法 ]  受講態度 (50%)・レポート(50%)を総合して評価する</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  レポートは後日返却してフィードバックする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。  成績評価方法:受講態度 レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。  成績評価方法:受講態度 レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びととも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。  成績評価方法:受講態度 レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:受講態度 レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢  成績評価方法:受講態度 レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:受講態度 レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:受講態度 レポート</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ]</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ]</p>			

科目名	専門演習 I	前期	2 単位
サブタイトル	社会政策的観点から考える	演習	
担当者	清水 弥生		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>卒業論文執筆の準備段階として、調査、研究、発表の技法を学び、議論する中で、自分の関心のある研究分野、対象を探ることができるようになる。ゼミでの学びの中で社会政策的観点で考えることができるようになること、ソーシャルリフォームの視点を持つことができるようになることが3年次ゼミの目標である。</p> <p>[授業概要]</p> <p>私たちが安心して暮らすための、生活を支えるさまざまな社会制度・政策は、実際にどのように行われ、どのような問題があるのだろうか。例えば、高齢者に関わる制度がめまぐるしく変化しているが、それはどのような影響を高齢者の生活に及ぼすのだろうか。様々な問題を、文献講読、新聞記事、NPO等の見学等を通して、深く考え批判考察する技能を身につけていきたい。</p> <p>授業では、医療福祉、高齢者福祉、ジェンダー問題、在住外国人、北欧福祉国家の現状等に関するいくつかの社会政策の課題の中から、ゼミ生の関心・テーマに沿っていくつかを選び、勉強していく。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>新聞を毎日読む、ニュースを見る等、社会を理解するための基本的な知識を身につける。その上で社会福祉関連の文献を日常的に読みこなせるよう読書習慣をつけておく。各回、予習復習合わせて2時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 図書館利用と文献検索の方法</li> <li>3. レジューメ・レポートの書き方</li> <li>4. 新聞記事から学ぶ社会福祉の課題①</li> <li>5. 新聞記事から学ぶ社会福祉の課題②</li> <li>6. 新聞記事から学ぶ社会福祉の課題③</li> <li>7. 個別のテーマに沿った文献講読と発表①</li> <li>8. 個別のテーマに沿った文献講読と発表②</li> <li>9. 個別のテーマに沿った文献講読と発表③</li> <li>10. 講義に関するディスカッション</li> <li>11. 社会福祉施設見学準備</li> <li>12. 施設見学など</li> <li>13. 見学振り返り・前期のまとめ</li> </ol>			

科目名	専門演習 I	前期	2 単位
サブタイトル	社会政策的観点から考える	演習	
担当者	清水 弥生		

[ 成績評価方法 ]

授業中の課題への取り組み(40%)、ゼミ発表の内容(30%)、課題レポート(30%)による評価。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

・レポートは授業内、もしくは個別にフィードバックする。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。

成績評価方法:授業中の課題への取り組み、ゼミ発表の内容、課題レポート

学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。

成績評価方法:授業中の課題への取り組み、ゼミ発表の内容、課題レポート

学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びととも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。

成績評価方法:授業中の課題への取り組み、ゼミ発表の内容、課題レポート

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢

成績評価方法:授業中の課題への取り組み、ゼミ発表の内容、課題レポート

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢

成績評価方法:授業中の課題への取り組み、ゼミ発表の内容、課題レポート

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢

成績評価方法:授業中の課題への取り組み、ゼミ発表の内容、課題レポート

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法:授業中の課題への取り組み、ゼミ発表の内容、課題レポート

[ 教科書(ISBN) ]

[ 参考書(ISBN) ]

科目名	専門演習 I	前期	2 単位
サブタイトル	子どもをとりまく問題と支援	演習	
担当者	曾田 里美		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <p>子どもをとりまく様々な生活問題、それに対するサービスや支援について学び、考察できるようになる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>近年子どもをとりまく問題は、児童虐待に代表されるように、深刻かつ複雑化しています。子どもは自身のしんどさやつらさに気づき、それを訴え、自ら解決していくことは困難です。支援者として子どもの置かれた状況や子どもの思いに想像力を働かせ、「子どもの最善の利益」を追究する視点が求められます。本演習では、子どもをとりまく様々な問題について、主に文献購読や個別発表を通して、その実情や背景を理解していくとともに、その支援のあり方について考察していきます。授業の中で、子どもやその家族との関わり、関係機関との連携のあり方など担当教員の児童福祉施設での実践経験から得た知見を伝えていきます。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4時間程度)。 日頃から新聞、雑誌、TVニュース等で授業に関連する出来事に関心をもつようにしてください。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 子どもをとりまく問題(映像を通して)</li> <li>3. 子どもをとりまく問題(新聞記事を通して)</li> <li>4. 文献(論文)の探し方</li> <li>5. レジューメ、レポートの書き方</li> <li>6. 文献講読と個別発表、ディスカッション</li> <li>7. 文献講読と個別発表、ディスカッション</li> <li>8. 文献講読と個別発表、ディスカッション</li> <li>9. 文献講読と個別発表、ディスカッション</li> <li>10. 児童福祉のトピックス</li> <li>11. 施設見学など</li> <li>12. 施設見学など</li> <li>13. まとめ</li> </ol>			

科目名	専門演習 I	前期	2 単位
サブタイトル	子どもをとりまく問題と支援	演習	
担当者	曾田 里美		

[ 成績評価方法 ]

レポート等の課題(50%)、授業中の態度・ディスカッション等への参加(50%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

レポートは後日添削して返却します。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。

成績評価方法:レポート等の課題、授業でのディスカッション

学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。

成績評価方法:レポート等の課題、授業でのディスカッション

学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。

成績評価方法:レポート等の課題、授業でのディスカッション

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢

成績評価方法:レポート等の課題、授業でのディスカッション

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢

成績評価方法:レポート等の課題、授業でのディスカッション

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢

成績評価方法:レポート等の課題、授業でのディスカッション

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法:レポート等の課題、授業でのディスカッション

[ 教科書(ISBN) ]

[ 参考書(ISBN) ]

科目名	専門演習 I	前期	2 単位
サブタイトル	高齢者福祉	演習	
担当者	津田 理恵子		

[アクティブラーニング授業]

PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	○

[到達目標]

- ①高齢者一人ひとりの福祉を追求する意義とそのための支援が理解できる。
- ②介護予防・介護負担軽減に向けた支援が理解できる。
- ③卒業論文で取り組むテーマの方向性が明確になる。

[授業概要]

高齢者の福祉の実現に向けた回想法実践やドッグセラピーの経験がある教員が、生きがいの特徴について学んだうえで、福祉の実現につながる生きがいの再獲得に向けた支援について指導します。回想法の学びを深めるために、地域での回想法ボランティアグループと交流します。さらに、回想法などのアクティビティケアを通して、介護予防やその人らしさを尊重した支援につながるアセスメント能力を育んでいきます。そして、介護負担感の軽減にも役立つ、社会福祉専門職としての対人支援能力習得に向けて指導します。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

下記の予習・復習を各回2時間程度  
 高齢者を取り巻くさまざまな課題について理解するために普段から新聞記事を読む。  
 スモールステップを身に付けるために、目標設定と振り返りを習慣づける。  
 自己の問題意識が明確になるよう自主的に学習する。

[授業計画]

1. オリエンテーション
2. グループワーク
3. 福祉の概念
4. 生きがい
5. 社会福祉を取り巻く課題
6. 卒業生との交流
7. 心理・社会的介入
8. 回想法
9. 他学年との交流
10. 地域作りに向けた活動(フィールドワーク)
11. 文献検索
12. 回想法(フィールドワーク)
13. グループワーク

科目名	専門演習 I	前期	2 単位
サブタイトル	高齢者福祉	演習	
担当者	津田 理恵子		

[ 成績評価方法 ]

授業中の課題40%、授業参加度30%、レポート30%

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

レポートや課題にはコメントを記入してフィードバックする。個別面談を適宜行う。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。

成績評価方法:授業参加度、レポート

学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。

成績評価方法:授業中の課題、授業参加度、レポート

学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びととも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。

成績評価方法:授業中の課題、授業参加度、レポート

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢

成績評価方法:授業参加度

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢

成績評価方法:授業参加度、レポート

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢

成績評価方法:授業参加度

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法:授業中の課題、授業参加度、レポート

[ 教科書(ISBN) ]

[ 参考書(ISBN) ]

科目名	専門演習 I	前期	2 単位
サブタイトル	働きやすい福祉・介護労働環境づくり	演習	
担当者	名定 慎也		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[ 到達目標 ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉及び介護福祉現場の労働環境について理解する。</li> <li>・働きやすい職場づくりに何が必要か考察し自分の意見を持つことができる。</li> <li>・研究について自分が関心のあるテーマを見つけていく。</li> </ul> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>福祉・介護人材が不足する中、「今後仕事で重視すること」(令和2年度 社会福祉士・介護福祉士・精神保健福祉士就労状況調査より)には、「職場の雰囲気や人間関係」「心身の健康状態の維持」「給与や賃金の水準」等が挙げられている。職場を離職する理由も同様である。長く働ける職場、やりがいをもって楽しく働ける職場づくりは社会福祉施設及び労働者の大きな課題となっている。授業では、社会福祉及び介護福祉現場の状況を、国の調査や文献、新聞などを読み解き理解する。また、先輩や現場の方々の話を聴いたり、実際に福祉現場を訪問したりし、福祉関連職の現状と課題を把握し理解を深める。そして、働きやすい環境づくりにはどのような要素が必要なのかグループワークやプレゼンテーションを行いながら、私たちができることを考察していく。学習を通し、関心のあるテーマや自分の研究テーマを見つけていく。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>新聞、雑誌、TVニュース等授業に関する出来事に関心を持っておく。 各回について予習復習合わせて2時間程度行う。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 社会福祉・介護福祉の働く場</li> <li>3. 社会福祉・介護福祉の労働環境</li> <li>4. 社会福祉・介護福祉の労働者を取り巻く状況</li> <li>5. 介護労働実態調査を読み解く①</li> <li>6. 介護労働実態調査を読み解く②</li> <li>7. 社会福祉士・介護福祉士・精神保健福祉士就労状況調査を読み解く①</li> <li>8. 社会福祉士・介護福祉士・精神保健福祉士就労状況調査を読み解く②</li> <li>9. 介護現場職員の実際(フィールドワーク)</li> <li>10. 福祉施設等の実際(フィールドワーク)</li> <li>11. 個別発表とディスカッション</li> <li>12. 個別発表とディスカッション</li> <li>13. まとめ</li> </ol>			

科目名	専門演習 I	前期	2 単位
サブタイトル	働きやすい福祉・介護労働環境づくり	演習	
担当者	名定 慎也		

[ 成績評価方法 ]

授業への取り組み(30%)、課題・レポート(50%)、発表(20%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

レポートは後日添削して返却します。  
発表・プレゼンテーションについては講評にてフィードバックします。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。

成績評価方法:授業への取り組み、課題・レポート、発表

学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。

成績評価方法:授業への取り組み、課題・レポート、発表

学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びととも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。

成績評価方法:授業への取り組み、課題・レポート、発表

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢

成績評価方法:授業への取り組み、発表

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢

成績評価方法:授業への取り組み、課題・レポート

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢

成績評価方法:授業への取り組み、発表

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法:授業への取り組み、課題・レポート、発表

[ 教科書(ISBN) ]

書籍名:配布資料 著者名: 出版社名: ISBN:

[ 参考書(ISBN) ]

書籍名:適宜紹介 著者名: 出版社名: ISBN:

科目名	専門演習 I	前期	2 単位
サブタイトル	ソーシャルワーク実践とは	演習	
担当者	川端 麗子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ] 文献研究、フィールドワーク、ディスカッションを通して、ソーシャルワークに求められる多角的な視点を養い、自分の研究したいテーマを決めていく。</p> <p>[ 授業概要 ] 専門演習の共通のテーマを「ソーシャルワーク実践」とし、各自関心のあるテーマを自由に設定し、どのようなソーシャルワーク実践が求められるのかを考える。 多様なテーマで議論を行い、それによりソーシャルワーク実践を捉える多角的視力を身に着けることを目的とする。 教員の専門分野は「多文化ソーシャルワーク」であり、外国ルーツの人たちの生活課題に対して、ミクロ・メゾ・マクロ領域におけるソーシャルワーク実践のあり方を研究している。研究活動の中で、NPO法人を立ち上げ、外国ルーツの人たちへの相談支援、子どもの学習支援、多文化共生のまちづくり活動等に取り組み、組織運営にも携わっているため、より実践的な学びが可能となる。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ] 各回、予習・復習合わせて2時間程度の学修を行う。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 図書館の活用</li> <li>3. 文献講読</li> <li>4. 文献講読</li> <li>5. 文献講読</li> <li>6. 文献講読</li> <li>7. 文献講読</li> <li>8. 文献講読</li> <li>9. 文献講読</li> <li>10. 多文化ソーシャルワークの実際(学外特別講師)</li> <li>11. フィールドワーク</li> <li>12. まとめ1</li> <li>13. まとめ2</li> </ol>			

科目名	専門演習 I	前期	2 単位
サブタイトル	ソーシャルワーク実践とは	演習	
担当者	川端 麗子		

[ 成績評価方法 ]

「課題発表(50%)、授業態度(50%)」

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

基本的に授業時間内で解説する。課題内容によっては適宜KISSシステムを通じて行う。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。

成績評価方法:授業中の取り組み、課題

学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。

成績評価方法:授業中の取り組み、課題

学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。

成績評価方法:授業中の取り組み、課題

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢

成績評価方法:授業中の取り組み、課題

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢

成績評価方法:授業中の取り組み、課題

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢

成績評価方法:授業中の取り組み、課題

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法:授業中の取り組み、課題

[ 教科書(ISBN) ]

[ 参考書(ISBN) ]

科目名	専門演習 I	前期	2 単位
サブタイトル	地域社会を「知ること」と「つくること」	演習	
担当者	渡辺 晴子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>1. 地域社会を「知ること」と「つくること」について、ゼミの仲間や地域における多様な主体と協働して、積極的に学びを深めることができる。</p> <p>2. 4年次の卒業論文に向けて、調査・研究および口頭発表・論文執筆の方法を体験的に学ぶとともに、自分の研究テーマを設定することができる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>8050問題、ひきこもり、ごみ屋敷、ダブルケア、ヤングケアラーなど、私たちをとりまく地域生活課題はますます複雑化・複合化している。このような背景のもと、国は「地域共生社会の実現」を掲げて、これからの社会福祉のあり方を模索している。ここでいう「地域共生社会」とは、地域に暮らす住民や多様な主体が地域生活課題に気づき、ともに解決することに加えて、一人ひとりの暮らしと生きがいおよびその基盤である地域をともにつくっていくことを実現する社会を意味する。</p> <p>ゼミでは、まず身近な地域社会を「知ること」から始め、その上で地域生活課題とストレスをふまえながら、地域共生社会を「つくること」に関する学びを深めていきたい。</p> <p>3年次前期は、地域社会を「知ること」について、身近な地域社会をフィールドに設定し、①既存資料の分析、②地域踏査、③社会福祉調査(質的・量的調査)を理論的・実践的に学ぶ。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回についての予習・復習(2時間程度)</p> <p>日頃から国内外の社会状況や社会福祉の動向、身近な地域社会に関心を持ち、基本的な知識を身につけておく。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 図書館の利用と文献検索の方法</li> <li>3. レジューメ・レポートの書き方</li> <li>4. 地域社会をとりまく現状と課題①</li> <li>5. 地域社会をとりまく現状と課題②</li> <li>6. 個別テーマによる文献購読・発表・ディスカッション①</li> <li>7. 個別テーマによる文献購読・発表・ディスカッション②</li> <li>8. 個別テーマによる文献購読・発表・ディスカッション③</li> <li>9. 地域社会を知る方法①: 3つの方法</li> <li>10. 地域社会を知る方法②: フィールドワークの計画・準備</li> <li>11. 地域社会を知る方法③: フィールドワークの実施</li> <li>12. 地域社会を知る方法④: フィールドワークの振り返り</li> <li>13. まとめ</li> </ol>			

科目名	専門演習 I	前期	2 単位
サブタイトル	地域社会を「知ること」と「つくること」	演習	
担当者	渡辺 晴子		
<p>[ 成績評価方法 ] 授業における学修状況(70%)、レポート(30%)により総合的に評価する。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 原則、授業内にフィードバックする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:授業における発表・ディスカッション・グループワーク、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:授業における発表・ディスカッション・グループワーク、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:授業における発表・ディスカッション・グループワーク、レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業における発表・ディスカッション・グループワーク、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業における発表・ディスカッション・グループワーク、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業における発表・ディスカッション・グループワーク、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業における発表・ディスカッション・グループワーク、レポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	専門演習Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	障害者・高齢者のソーシャルワーク	演習	
担当者	植戸 貴子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[ 到達目標 ]  相談援助職(ソーシャルワーカー)に求められる基本的な姿勢(価値観・倫理観・視点・態度)を身につけることを目指す。より具体的には、新聞や専門雑誌の記事及び相談援助事例や現場実践報告などを読み・聞くことを通して、また関心のあるテーマについて研究することを通して、福祉課題を抽出し、ソーシャルワークの視点で考察できるようになることを目標とする。</p> <p>[ 授業概要 ]  福祉サービス利用者やその家族に対する、生活支援や相談援助をテーマにする。まず、利用者・家族の心理・行動や社会環境の中にある生活問題を理解し、生活全体をとらえる視点を養う。その上で、利用者や家族が必要とするサービスや支援になが「相談援助活動」(ソーシャルワーク)のあり方について学ぶ。ここでは特に、利用者を「できない人」「弱者」として上から見るのではなく、「対等な市民」として尊重する基本姿勢を大切に。新聞記事を読んだり、利用者・家族や現場の社会福祉士のお話を直接伺ったり、相談援助事例を読み解いたり、また希望があれば、施設を見学したり、利用者・家族の地域での支援活動や外部の学習会に参加したりできるようにする。利用者・家族が直面するさまざまな生活課題について、またその支援のあり方について、一緒に考えていくゼミにしたいと考えている。障害者分野の生活支援・相談援助を中心とするが、高齢者等の分野も必要に応じて取り上げ、幅広い利用者の相談援助について学ぶ。</p> <p>毎回の授業では、担当教員の障害者施設や高齢者施設でのソーシャルワーカーとしての実践経験や福祉援助職へのスーパービジョン経験などを活かして、相談援助実践に求められる価値・倫理、専門的知識、専門的技術について、具体的な事例等を紹介しながら実践的に理解できるような授業を展開する。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]  各回、予習復習合わせて2時間程度の主体的な学修を行うこと。具体的には、社会福祉について幅広い関心を持ち、新聞記事・専門雑誌・学外セミナーやボランティア活動などを通して、様々な福祉課題について主体的に学ぶ姿勢を持つこと。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 事例を通して学ぶソーシャルワークの視点と価値①</li> <li>3. 事例を通して学ぶソーシャルワークの視点と価値②</li> <li>4. 卒業生との交流</li> <li>5. 統計資料を通して学ぶ社会福祉の課題①</li> <li>6. 統計資料を通して学ぶ社会福祉の課題②</li> <li>7. 自由テーマによる個人研究の発表①</li> <li>8. 自由テーマによる個人研究の発表②</li> <li>9. DVD学習</li> <li>10. 先行研究レビューと文献講読の方法を学ぶ</li> <li>11. 文献講読①</li> <li>12. 文献講読②</li> <li>13. まとめ</li> </ol>			

科目名	専門演習Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	障害者・高齢者のソーシャルワーク	演習	
担当者	植戸 貴子		

[ 成績評価方法 ]

授業中の課題への取り組み(25%)、ゼミ発表の内容(25%)、授業内レポート(50%)で評価。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

ゼミ発表、授業内レポートの評価については、その場で、翌週の授業で、あるいは学科期末の授業においてフィードバックする。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。

成績評価方法:課題への取り組み姿勢・発表

学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。

成績評価方法:課題への取り組み姿勢・発表・レポート

学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。

成績評価方法:課題への取り組み姿勢・発表

学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。

成績評価方法:課題への取り組み姿勢・レポート

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢

成績評価方法:課題への取り組み姿勢

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢

成績評価方法:課題への取り組み姿勢・レポート

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法:レポート

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力

成績評価方法:課題への取り組み姿勢

[ 教科書(ISBN) ]

[ 参考書(ISBN) ]

科目名	専門演習Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	対人支援の実践～支援者のあり方を考える	演習	
担当者	木村 あい		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分自身を理解し受け入れる(自己覚知)。</li> <li>・他者を理解し受け入れる。</li> <li>・自らが人生の主演として、大人として責任をもった行動ができるようになる。</li> <li>・対人支援の実践者として、自らの実践基盤と支援者としてのあり方の確立を図る。</li> <li>・社会福祉士の倫理綱領を理解し、専門職としての自覚を持つ。</li> <li>・卒業論文を執筆する力を身につける。</li> </ul> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>対人支援は価値、知識、技術を身につけたとしても、実践に活かされなければ意味をなさない。相手を理解し、寄り添い支援するに当たり、自らの実践基盤と支援者としてのあり方を追究する。</p> <p>興味関心のあるテーマについて調べ報告するプロセスを通して、自分自身の考えを他者に理解をしてもらう方法と、他者の意見に傾聴することの重要性を学んでいく。自分と他者との価値観の違いに気づき、一人ひとりの存在を実感する。さらに、フィールドワークとして地域の人のニーズに関連した関わりを持つことにより、支援者としての在り方を追究していく。</p> <p>また、自らが経験した実践を振り返り、深く考察する。4年生でまとめる、卒業論文に向けて文献検索や論文の書き方、調査方法を学ぶ。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>日頃から授業に関する新聞、ニュース等に関心をもつこと。</p> <p>関心領域のセミナー等に参加すること。</p> <p>各回、予習復習合わせて2時間程度。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後期授業の進め方・オリエンテーション</li> <li>2. 関心領域の研究を学ぶ①(フィールドワーク)</li> <li>3. 関心領域の研究を学ぶ②(フィールドワーク)</li> <li>4. 関心領域の研究を学ぶ③(ゲストスピーカー)</li> <li>5. 関心領域の研究を学ぶ④(フィールドワーク)</li> <li>6. 関心領域の文献講読と発表・議論①</li> <li>7. 関心領域の文献講読と発表・議論②</li> <li>8. 関心領域の文献講読と発表・議論③</li> <li>9. 論文の執筆について①</li> <li>10. 論文の執筆について②</li> <li>11. 論文の執筆について③</li> <li>12. 卒業論文に向けて①</li> <li>13. 卒業論文に向けて② まとめ</li> </ol>			

科目名	専門演習Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	対人支援の実践～支援者のあり方を考える	演習	
担当者	木村 あい		

[ 成績評価方法 ]

レポート(30%)、課題発表(30%)、授業への取り組み(40%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

基本的に授業時間内で解説します。また、添削して返却します。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。

成績評価方法:レポート、課題発表

学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。

成績評価方法:レポート、課題発表

学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。

成績評価方法:レポート、課題発表、授業への取り組み

学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。

成績評価方法:レポート、課題発表、授業への取り組み

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢

成績評価方法:授業への取り組み

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢

成績評価方法:レポート、課題発表、授業への取り組み

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法:レポート、課題発表、授業への取り組み

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力

成績評価方法:レポート、課題発表、授業への取り組み

[ 教科書(ISBN) ]

[ 参考書(ISBN) ]

科目名	専門演習Ⅱ	後期	2単位
サブタイトル		演習	
担当者	下司 実奈		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 自分の研究したいテーマを見つけ卒業論文へとつなぐ。</p> <p>[授業概要] ゼミのテーマ:「発達を支援する一専門家としての力量を高めるためにー」 人は人らしく生きるために生涯、発達を続けます。子どもを育てる、人を育てるということは社会の大切なプロジェクトであり、同時にそれぞれが育っていくプロセスでもあります。 地域で他の専門職(保健師・教師・セラピスト等)と共に子どもや家族を支援していくことを学生の皆さんそれぞれ興味関心のある切り口から、学習していきます。長年勤務してきた障害児施設や、現在臨床現場で出会っている多くの子どもたちと家族の方々から学んだ実践の知識とスキルを、そして子どもの成長する力、人の成長し続ける力を信じる大切さを、臨床心理士としての視点も加えて伝えていきたいと考えています。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 社会で起きている様々な事象を知ろうとし、疑問点について皆と考える素材提出ができるよう、各回予習復習合わせて2時間程度準備する。</p> <p>[授業計画] 1. 対人援助を学ぶワークショップ 2. 対人援助を学ぶワークショップ 3. 論文の書き方 4. 論文の書き方 5. 論文の書き方 6. 研究テーマに基づいた発表会 7. 研究テーマに基づいた発表会 8. 研究テーマに基づいた発表会 9. 研究テーマに基づいた発表会 10. 研究テーマに基づいた発表会 11. 研究テーマに基づいた発表会 12. 卒業論文のテーマを決める 13. 卒業論文のテーマを決める</p>			

科目名	専門演習Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	下司 実奈		
<p>[ 成績評価方法 ]  受講態度(50%)・レポート(50%)を総合して評価する</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  レポートは後日返却してフィードバックする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。  成績評価方法:受講態度 レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。  成績評価方法:受講態度 レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。  成績評価方法:受講態度 レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。  成績評価方法:受講態度 レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  成績評価方法:受講態度 レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:受講態度 レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:受講態度 レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  成績評価方法:受講態度 レポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	専門演習Ⅱ	後期	2単位
サブタイトル	社会政策的観点から考える	演習	
担当者	清水 弥生		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>卒業論文執筆の準備段階として、調査、研究、発表の技法を学び、議論する中で、自分の関心のある研究分野、対象を探ることができるようになる。ゼミでの学びの中で社会政策的観点で考えることができるようになること、ソーシャルリフォームの視点を持つことができるようになることが3年次ゼミの目標である。</p> <p>[授業概要]</p> <p>私たちが安心して暮らすための、生活を支えるさまざまな社会制度・政策は、実際にどのように行われ、どのような問題があるのだろうか。例えば、高齢者に関わる制度がめまぐるしく変化しているが、それはどのような影響を高齢者の生活に及ぼすのだろうか。様々な問題を、文献講読、新聞記事、NPO等の見学等を通して、深く考え批判考察する技能を身につけていきたい。</p> <p>授業では、医療福祉、高齢者福祉、ジェンダー問題、在住外国人、北欧福祉国家の現状等に関するいくつかの社会政策の課題の中から、ゼミ生の関心・テーマに沿っていくつかを選び、勉強していく。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>新聞を毎日読む、ニュースを見る等、社会を理解するための基本的な知識を身につける。その上で社会福祉関連の文献を日常的に読みこなせるよう読書習慣をつけておく。各回、予習復習合わせて2時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各自の研究テーマ選択についてのガイダンス</li> <li>2. 個別研究発表①</li> <li>3. 個別研究発表②</li> <li>4. 個別研究発表③</li> <li>5. 個別研究発表④</li> <li>6. 個別研究発表⑤</li> <li>7. 外部講師による講義</li> <li>8. 講義の振り返りとディスカッション</li> <li>9. 福祉現場で働く卒業生との交流</li> <li>10. 交流の振り返りと4年生・就職への展望</li> <li>11. 卒業論文作成に向けて 個別指導</li> <li>12. 卒業論文作成に向けて 来年度の課題</li> <li>13. まとめ</li> </ol>			

科目名	専門演習Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	社会政策的観点から考える	演習	
担当者	清水 弥生		

[ 成績評価方法 ]

授業中の課題への取り組み(40%)、ゼミ発表の内容(30%)、課題レポート(30%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

・レポートは授業内、もしくは個別にフィードバックする。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。

成績評価方法:授業中の課題への取り組み、ゼミ発表の内容、課題レポート

学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。

成績評価方法:授業中の課題への取り組み、ゼミ発表の内容、課題レポート

学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。

成績評価方法:授業中の課題への取り組み、ゼミ発表の内容、課題レポート

学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。

成績評価方法:授業中の課題への取り組み、ゼミ発表の内容、課題レポート

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢

成績評価方法:授業中の課題への取り組み、ゼミ発表の内容、課題レポート

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢

成績評価方法:授業中の課題への取り組み、ゼミ発表の内容、課題レポート

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法:授業中の課題への取り組み、ゼミ発表の内容、課題レポート

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力

成績評価方法:授業中の課題への取り組み、ゼミ発表の内容、課題レポート

[ 教科書(ISBN) ]

[ 参考書(ISBN) ]

科目名	専門演習Ⅱ	後期	2単位
サブタイトル	子どもをとりまく問題と支援	演習	
担当者	曾田 里美		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標] 子どもをとりまく様々な生活問題、それに対するサービスや支援について学び、その学びの中から卒業論文作成に向けて、各自関心あるテーマを絞ることができる。</p> <p>[授業概要] 近年、子どもをとりまく問題は、児童虐待に代表されるように、深刻かつ複雑化しています。子どもは自身のしんどさやつらさに気づき、それを訴え、自ら解決していくことは困難です。支援者として子どもの置かれた状況や子どもの思いに想像力を働かせ、「子どもの最善の利益」を追究する視点が求められます。 本演習では、子どもをとりまく様々な問題について、各自テーマを決めて調べて、レジュメにまとめて発表します。ゼミメンバーの子どもの取り巻く様々な問題に対する研究発表を通して、その実情や背景を理解していくとともに、その支援のあり方についてディスカッションしながら考察していきます。 授業の中で、子どもやその家族との関わり、関係機関との連携のあり方など担当教員の児童福祉施設での実践経験から得た知見を伝えていきます。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4時間程度) 日頃から新聞、雑誌、TVニュース等で授業に関連する出来事に関心をもつようにしてください。</p> <p>[授業計画] 1. オリエンテーション 2. 各自研究テーマを考える 3. 図書館ガイダンス(文献検索について) 4. 自由テーマによる研究、発表 5. 自由テーマによる研究、発表 6. 自由テーマによる研究、発表 7. 自由テーマによる研究、発表 8. 施設見学・子どもとの交流など 9. 施設見学・子どもとの交流など 10. 卒業生との交流 11. 卒業論文の作成に向けて 12. 先輩との交流 13. まとめ</p>			

科目名	専門演習Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	子どもをとりまく問題と支援	演習	
担当者	曾田 里美		

[ 成績評価方法 ]

レポート等の課題(50%)、授業中の態度・ディスカッション等への参加(50%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

レポートは後日添削して返却します。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。

成績評価方法:レポート等の課題、授業でのディスカッション

学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。

成績評価方法:レポート等の課題、授業でのディスカッション

学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びとの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。

成績評価方法:レポート等の課題、授業でのディスカッション

学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。

成績評価方法:レポート等の課題、授業でのディスカッション

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢

成績評価方法:レポート等の課題、授業でのディスカッション

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢

成績評価方法:レポート等の課題、授業でのディスカッション

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法:レポート等の課題、授業でのディスカッション

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力

成績評価方法:レポート等の課題、授業でのディスカッション

[ 教科書(ISBN) ]

[ 参考書(ISBN) ]

科目名	専門演習Ⅱ	後期	2単位
サブタイトル	高齢者福祉	演習	
担当者	津田 理恵子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	○

[到達目標]

- ①一人ひとりの福祉を追求する意義とそのための支援が理解できる。
- ②介護予防・介護負担軽減に向けた支援が理解できる。
- ③卒業論文で取り組むテーマの方向性が明確になる。

[授業概要]

高齢者の福祉の実現に向けた回想法実戦の経験がある教員が、福祉の実現につながる生きがいの再獲得に向けた支援について指導します。地域で開催している回想法や認知症カフェ、サロンや高齢者施設などでのフィールドワークや、卒業生や他学年との交流を通して、一人ひとりの問題意識が明確になるように指導します。そのうえで、一人ひとりが明らかにしたい課題を追求できる力が身につくように指導します。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

下記の予習・復習を各回2時間程度  
 社会福祉を取り巻く課題を理解するために普段から新聞記事を読む。  
 卒業研究が計画的に行えるように自主的に文献検索に取り組む。  
 自己の問題意識が明確になるよう自主的に学習し自分の考えを定期的に整理する。

[授業計画]

1. オリエンテーション
2. 夏休みの課題発表
3. 地域づくりへの取り組み(フィールドワーク)
4. グループワーク
5. 自分史ノート
6. 回想法体験
7. 卒業生との交流
8. 実践現場から学ぶ(フィールドワーク)
9. 先輩から学ぶ
10. 研究・自己の問題意識とテーマ
11. 卒業研究への取り組み方
12. 文献ファイルの作成・研究計画書作成・個別面談
13. 各自で問題意識を持ったテーマについて発表・まとめ

科目名	専門演習Ⅱ	後期	2単位
サブタイトル	高齢者福祉	演習	
担当者	津田 理恵子		

[ 成績評価方法 ]  
授業中の課題40%、授業参加度30%、レポート30%

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  
レポートや課題にはコメントを記入してフィードバックする。個別面談を適宜行う。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]  
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。  
成績評価方法:授業中の課題、授業参加度

学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。  
成績評価方法:授業中の課題、授業参加度

学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。  
成績評価方法:授業中の課題、授業参加度

学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。  
成績評価方法:授業中の課題、授業参加度、レポート

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  
成績評価方法:授業中の課題、授業参加度、レポート

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  
成績評価方法:授業中の課題、授業参加度、レポート

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  
成績評価方法:授業中の課題、授業参加度、レポート

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  
成績評価方法:授業中の課題、授業参加度、レポート

[ 教科書(ISBN) ]

[ 参考書(ISBN) ]

科目名	専門演習Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	働きやすい福祉・介護労働環境づくり	演習	
担当者	名定 慎也		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉及び介護福祉現場の労働環境について理解を深める。</li> <li>・働きやすい職場づくりに何が必要か考察し自分の意見を持つことができる。</li> <li>・卒業論文で取り組むテーマの方向性を明確化していく。</li> <li>・研究の進め方・論文執筆の基本的な作法を理解する。</li> </ul> <p>[授業概要]</p> <p>福祉人材不足の中、長く働ける職場、やりがいをもって楽しく働ける職場づくりは社会福祉施設及び労働者の大きな課題となっている。授業では、前期に学んだ、社会福祉及び介護福祉現場の状況を踏まえ、働きやすい福祉労働環境づくりについてさらに理解を深める。</p> <p>データの分析や福祉現場の見学、先輩や専門職の話を聴いたりし情報を収集しながら、ゼミ生でディスカッションを重ね、個々の学生が問題意識をもって福祉現場の課題について考えられるようにする。あわせて、研究の進め方・論文執筆の基本的な作法を学習しながら、卒業論文で取り組むテーマの方向性を明確化していく。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>新聞、雑誌、TVニュース等授業に関する出来事に関心を持っておく。 各回について予習復習合わせて2時間程度行う。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 社会福祉・介護福祉の労働環境の課題①</li> <li>3. 社会福祉・介護福祉の労働環境の課題②</li> <li>4. 社会福祉・介護福祉の労働環境の課題③</li> <li>5. 研究の進め方① 研究・論文とは</li> <li>6. 研究の進め方② 先行研究・文献の収集</li> <li>7. 研究の進め方③ 論文の構成</li> <li>8. 介護現場職員の実際(フィールドワーク)</li> <li>9. 介護労働環境の実際(フィールドワーク)</li> <li>10. 個別研究に向けた発表</li> <li>11. 個別研究に向けた発表</li> <li>12. 個別研究に向けた発表</li> <li>13. まとめ</li> </ol>			

科目名	専門演習Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	働きやすい福祉・介護労働環境づくり	演習	
担当者	名定 慎也		

[ 成績評価方法 ]

授業への取り組み(30%)、課題・レポート(50%)、発表(20%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

レポートは後日添削して返却します。  
発表・プレゼンテーションについては講評にてフィードバックします。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。

成績評価方法:授業への取り組み、発表

学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。

成績評価方法:授業への取り組み、課題・レポート、発表

学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。

成績評価方法:授業への取り組み、発表

学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。

成績評価方法:授業への取り組み、課題・レポート、発表

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢

成績評価方法:授業への取り組み、課題・レポート、発表

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢

成績評価方法:授業への取り組み、課題・レポート、発表

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法:授業への取り組み、課題・レポート、発表

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力

成績評価方法:授業への取り組み、課題・レポート、発表

[ 教科書(ISBN) ]

書籍名:配布資料 著者名: 出版社名: ISBN:

[ 参考書(ISBN) ]

書籍名:適宜紹介 著者名: 出版社名: ISBN:

科目名	専門演習Ⅱ	後期	2単位
サブタイトル	ソーシャルワーク実践とは	演習	
担当者	川端 麗子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 文献研究、フィールドワーク、ディスカッションを通して、ソーシャルワークに求められる多角的な視点を養い、研究を進め、卒業論文の素地を作成する。</p> <p>[授業概要] 専門演習の共通のテーマを「ソーシャルワーク実践」とし、各自関心のあるテーマを自由に設定し、どのようなソーシャルワーク実践が求められるのかを考える。 多様なテーマで議論を行い、それによりソーシャルワーク実践を捉える多角的視力を身に着けることを目的とする。 教員の専門分野は「多文化ソーシャルワーク」であり、外国ルーツの人たちの生活課題に対して、ミクロ・メゾ・マクロ領域におけるソーシャルワーク実践のあり方を研究している。研究活動の中で、NPO法人を立ち上げ、外国ルーツの人たちへの相談支援、子どもの学習支援、多文化共生のまちづくり活動等に取り組み、組織運営にも携わっているため、より実践的な学びが可能となる。 理論と実践の円環性への学びを深め、ソーシャルワークに求められることを追求する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習・復習合わせて2時間程度の学修を行う。</p> <p>[授業計画] 1. オリエンテーション 2. 研究発表 3. 研究発表 4. 研究発表 5. 研究発表 6. 研究発表 7. 研究発表 8. 研究発表 9. 研究発表 10. 当事者研究とは(学外特別講師) 11. フィールドワーク 12. まとめ1 13. まとめ2</p>			

科目名	専門演習Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	ソーシャルワーク実践とは	演習	
担当者	川端 麗子		

[ 成績評価方法 ]

「課題発表(50%)、授業態度(50%)」

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

基本的に授業時間内で解説する。課題内容によっては適宜KISSシステムを通じて行う。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。

成績評価方法:授業中の取り組み、課題

学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。

成績評価方法:授業中の取り組み、課題

学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びとの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。

成績評価方法:授業中の取り組み、課題

学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。

成績評価方法:授業中の取り組み、課題

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_: 責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢

成績評価方法:授業中の取り組み、課題

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢

成績評価方法:授業中の取り組み、課題

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法:授業中の取り組み、課題

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力

成績評価方法:授業中の取り組み、課題

[ 教科書(ISBN) ]

[ 参考書(ISBN) ]

科目名	専門演習Ⅱ	後期	2単位
サブタイトル	地域社会を「知ること」と「つくること」	演習	
担当者	渡辺 晴子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>1. 地域社会を「知ること」と「つくること」について、ゼミの仲間や地域における多様な主体と協働して、積極的に学びを深めることができる。</p> <p>2. 4年次の卒業論文に向けて、調査・研究および口頭発表・論文執筆の方法を体験的に学ぶとともに、自分の研究テーマを設定することができる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>8050問題、ひきこもり、ごみ屋敷、ダブルケア、ヤングケアラーなど、私たちをとりまく地域生活課題はますます複雑化・複合化している。このような背景のもと、国は「地域共生社会の実現」を掲げて、これからの社会福祉のあり方を模索している。ここでいう「地域共生社会」とは、地域に暮らす住民や多様な主体が地域生活課題に気づき、ともに解決することに加えて、一人ひとりの暮らしと生きがいおよびその基盤である地域をともにつくっていくことを実現する社会を意味する。</p> <p>ゼミでは、まず身近な地域社会を「知ること」から始め、その上で地域生活課題とストレスをふまえながら、地域共生社会を「つくること」に関する学びを深めていきたい。</p> <p>3年後期は、地域共生社会を「つくること」について、①「地域共生社会」の概念を理解すること、②地域福祉活動の担い手(住民や専門職)の話聞くこと、③地域福祉活動に参加することなどを通して、地域共生社会のあり方を考えていく。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回についての予習・復習(2時間程度)</p> <p>日頃から国内外の社会状況や社会福祉の動向、身近な地域社会に関心を持ち、基本的な知識を身につけておく。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>オリエンテーション</li> <li>地域共生社会の考え方と展開①</li> <li>地域共生社会の考え方と展開②</li> <li>地域共生社会の考え方と展開③</li> <li>個別テーマによる文献購読・発表・ディスカッション①</li> <li>個別テーマによる文献購読・発表・ディスカッション②</li> <li>個別テーマによる文献購読・発表・ディスカッション③</li> <li>地域共生社会をつくる実践①:フィールドワークの計画・準備</li> <li>地域共生社会をつくる実践②:フィールドワークの実施①</li> <li>地域共生社会をつくる実践③:フィールドワークの実施②</li> <li>地域共生社会をつくる実践④:フィールドワークの振り返り</li> <li>卒業論文の作成に向けて</li> <li>まとめ</li> </ol>			

科目名	専門演習Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	地域社会を「知ること」と「つくること」	演習	
担当者	渡辺 晴子		
<p>[ 成績評価方法 ] 授業における学修状況(70%)、レポート(30%)により総合的に評価する。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 原則、授業内にフィードバックする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:授業における発表・ディスカッション・グループワーク、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:授業における発表・ディスカッション・グループワーク、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びとの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:授業における発表・ディスカッション・グループワーク、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:授業における発表・ディスカッション・グループワーク、レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:授業における発表・ディスカッション・グループワーク、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業における発表・ディスカッション・グループワーク、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:授業における発表・ディスカッション・グループワーク、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:授業における発表・ディスカッション・グループワーク、レポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 書籍名:増進型地域福祉への展開ー幸福を生み出す福祉をつくるー 著者名:小野達也・朝倉美江編著 出版社名:同時代社 ISBN:9784886839305</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	ソーシャルワーク演習		前期	1 単位
サブタイトル			演習	
担当者	植戸 貴子			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク		○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業		○
<p>[到達目標]</p> <p>本科目の目的・ねらいは、①ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性を踏まえ、社会福祉士及び精神保健福祉士として求められる基礎的な能力を涵養する、②ソーシャルワークの価値規範と倫理を実践的に理解する、③ソーシャルワークの実践に必要なコミュニケーション能力を養う、④ソーシャルワークの展開過程において用いられる、知識と技術を実践的に理解する、の4点である。</p> <p>到達目標は、①社会福祉士及び精神保健福祉士として求められる基礎的な能力(自己覚知など)を習得する、②ソーシャルワークの価値規範と倫理が実践的に理解できる、③ソーシャルワークの実践に必要な基本的なコミュニケーション能力・基本的な面接技術・グループダイナミクスの活用方法を習得する、④ソーシャルワークの展開過程について理解するとともに、そこで用いられるソーシャルワークの記録やプレゼンテーションの技術などの知識と技術を習得する、とする。</p> <p>[授業概要]</p> <p>個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導(ロールプレイング等)を中心とする演習形態により行う。具体的な学習内容は、①自己覚知、②基本的なコミュニケーション技術、③基本的な面接技術、④ソーシャルワークの展開過程、⑤ソーシャルワークの記録、⑥グループダイナミクスの活用、⑦プレゼンテーション技術、とする。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回、予習復習合わせて2時間程度の主体的な学修を行うこと。また、文学やドキュメントなどを通して人間の生き方への関心を高めておくこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーションとアイスブレーキング</li> <li>2. 自己理解・自己覚知と他者理解</li> <li>3. 基本的なコミュニケーション技術:言語的技術(質問、促し、言い換え、感情の反映、繰り返し、要約等)</li> <li>4. 基本的なコミュニケーション技術:非言語技術(表情、態度、身振り、位置取り等)</li> <li>5. 基本的な面接技術:面接の構造化・場の設定(面接室、生活場面、自宅等)・ツールの活用(電話、e-mail等)</li> <li>6. 事例を通して学ぶソーシャルワークの展開過程(ケースの発見とインテーク)</li> <li>7. 事例を通して学ぶソーシャルワークの展開過程(アセスメントとプランニング)</li> <li>8. 事例を通して学ぶソーシャルワークの展開過程(支援の実施とモニタリング)</li> <li>9. 事例を通して学ぶソーシャルワークの展開過程(支援の終結と事後評価及びアフターケア)</li> <li>10. ソーシャルワークの記録(支援経過の把握と管理)</li> <li>11. グループダイナミクスの活用:グループワークの構成(グループリーダー・コリーダー・グループメンバー)とグループワークの展開過程(準備期・開始期・作業期・終結期)</li> <li>12. プレゼンテーション技術:個人プレゼンテーションとグループプレゼンテーション</li> <li>13. まとめ</li> </ol>				

科目名	ソーシャルワーク演習	前期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	植戸 貴子		
<p>[ 成績評価方法 ] 授業内レポート及び提出課題(50%)、授業参加度(50%)の総合評価。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] レポートの評価は、翌週の授業においてフィードバックする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:振り返りレポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:ディスカッション・振り返りレポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:ディスカッション・発表</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:ディスカッション・発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:振り返りレポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:ディスカッション</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	ソーシャルワーク演習		前期	1 単位
サブタイトル			演習	
担当者	曾田 里美			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク		○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業		○
<p>[到達目標]</p> <p>本科目の目的・ねらいは、①ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性を踏まえ、社会福祉士及び精神保健福祉士として求められる基礎的な能力を涵養する、②ソーシャルワークの価値規範と倫理を実践的に理解する、③ソーシャルワークの実践に必要なコミュニケーション能力を養う、④ソーシャルワークの展開過程において用いられる、知識と技術を実践的に理解する、の4点である。</p> <p>到達目標は、①社会福祉士及び精神保健福祉士として求められる基礎的な能力(自己覚知など)を習得する、②ソーシャルワークの価値規範と倫理が実践的に理解できる、③ソーシャルワークの実践に必要な基本的なコミュニケーション能力・基本的な面接技術・グループダイナミクスの活用方法を習得する、④ソーシャルワークの展開過程について理解するとともに、そこで用いられるソーシャルワークの記録やプレゼンテーションの技術などの知識と技術を習得する、とする。</p> <p>[授業概要]</p> <p>個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導(ロールプレイング等)を中心とする演習形態により行う。具体的な学習内容は、①自己覚知、②基本的なコミュニケーション技術、③基本的な面接技術、④ソーシャルワークの展開過程、⑤ソーシャルワークの記録、⑥グループダイナミクスの活用、⑦プレゼンテーション技術、とする。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回、予習復習合わせて2時間程度の主体的な学修を行うこと。また、文学やドキュメントなどを通して人間の生き方への関心を高めておくこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーションとアイスブレーキング</li> <li>2. 自己理解・自己覚知と他者理解</li> <li>3. 基本的なコミュニケーション技術:言語的技術(質問、促し、言い換え、感情の反映、繰り返し、要約等)</li> <li>4. 基本的なコミュニケーション技術:非言語技術(表情、態度、身振り、位置取り等)</li> <li>5. 基本的な面接技術:面接の構造化・場の設定(面接室、生活場面、自宅等)・ツールの活用(電話、e-mail等)</li> <li>6. 事例を通して学ぶソーシャルワークの展開過程(ケースの発見とインテーク)</li> <li>7. 事例を通して学ぶソーシャルワークの展開過程(アセスメントとプランニング)</li> <li>8. 事例を通して学ぶソーシャルワークの展開過程(支援の実施とモニタリング)</li> <li>9. 事例を通して学ぶソーシャルワークの展開過程(支援の終結と事後評価及びアフターケア)</li> <li>10. ソーシャルワークの記録(支援経過の把握と管理)</li> <li>11. グループダイナミクスの活用:グループワークの構成(グループリーダー・コリーダー・グループメンバー)とグループワークの展開過程(準備期・開始期・作業期・終結期)</li> <li>12. プレゼンテーション技術:個人プレゼンテーションとグループプレゼンテーション</li> <li>13. まとめ</li> </ol>				

科目名	ソーシャルワーク演習	前期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	曾田 里美		
<p>[ 成績評価方法 ] 授業内レポート及び提出課題(50%)、授業参加度(50%)の総合評価。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] レポートの評価は、翌週の授業においてフィードバックする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	ソーシャルワーク演習(専門) I	前期	2 単位
サブタイトル	ソーシャルワークの価値・倫理、知識、技術	演習	
担当者	植戸 貴子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○

[到達目標]

本科目の目的・ねらいは、①ソーシャルワーク実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていける能力を習得する、②社会福祉士等の福祉専門職に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力を養う、③支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的支援について実践的に理解する、④地域の特性や課題を把握し解決するための、地域アセスメントや評価等の仕組みを実践的に理解する、⑤ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについて実践的に理解する、⑥実習を通じて体験した事例について、事例検討や事例研究を行い、意義や方法を具体的に理解する、⑦実践の質の向上を図るため、スーパービジョンについて体験的に理解する、の7点である。到達目標は、①支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援を実践的に習得する、②具体的な場面及び過程について実践的に理解できる、③具体的なソーシャルワークの技法について実践的に理解できる、④地域福祉の基盤整備と開発について実践的に理解できる、⑤ソーシャルワークに係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的かつ学術的な知識及び技術として習得する、とする。

[授業概要]

個別指導並びに集団指導を通して、実技指導(ロールプレイング等)を中心とする演習形態により行う。具体的な学習内容は、実習前には①人間関係の形成とコミュニケーションの基礎、②支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援(集団に対する支援事例を含む)、③具体的なソーシャルワークの場面及び過程、④具体的なソーシャルワークの技法(アウトリーチ、チームアプローチ(チームマネジメント)、ネットワークング、コーディネート、ネゴシエーション、ファシリテーション、プレゼンテーション、ソーシャルアクション)、実習後には、⑤事例研究・事例検討、⑥スーパービジョン、とする。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

各回、予習復習合わせて2時間程度の主体的な学修を行うこと。具体的には、前回の授業の内容を復習し、ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ・Ⅱ及びソーシャルワークの理論と方法Ⅰ・Ⅱで学習した理論に照らし合わせて理解しておくこと。

[授業計画]

1. オリエンテーションとアイスブレイキング
2. 人間関係の形成とコミュニケーションの基礎
3. 支援を必要とする人が抱える複合的な課題及び総合的かつ包括的な支援の理解
4. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 児童虐待
5. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 障害者虐待
6. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 高齢者虐待
7. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: ひきこもり
8. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 貧困
9. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 認知症
10. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 終末期ケア
11. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 災害時ソーシャルワーク
12. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 危機介入による権利擁護活動
13. ソーシャルワークの場面と過程の理解
14. 事例を通して学ぶソーシャルワークの場面と過程: ケースの発見とインテーク
15. 事例を通して学ぶソーシャルワークの場面と過程: アセスメント
16. 事例を通して学ぶソーシャルワークの場面と過程: プランニング
17. 事例を通して学ぶソーシャルワークの場面と過程: 支援の実施とモニタリング
18. 事例を通して学ぶソーシャルワークの場面と過程: 支援の終結と事後評価・アフタケア
19. 具体的なソーシャルワークの技法の理解
20. 事例を通して学ぶソーシャルワークの技法: アウトリーチ
21. 事例を通して学ぶソーシャルワークの技法: チームアプローチ(チームマネジメント)
22. 事例を通して学ぶソーシャルワークの技法: ネットワーキング
23. 事例を通して学ぶソーシャルワークの技法: コーディネーション
24. 事例を通して学ぶソーシャルワークの技法: ファシリテーション
25. 事例研究・事例検討とスーパービジョン
26. まとめ

科目名	ソーシャルワーク演習(専門) I	前期	2 単位
サブタイトル	ソーシャルワークの価値・倫理、知識、技術	演習	
担当者	植戸 貴子		

[ 成績評価方法 ]  
授業における課題への取り組み(20%)、レポート(80%)で評価。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  
レポートの評価は、翌週の授業においてフィードバックする。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]  
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。

成績評価方法:グループディスカッション・振り返りレポート

学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。

成績評価方法:ディスカッション・振り返りレポート

学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。

成績評価方法:振り返りレポート

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢

成績評価方法:ディスカッション

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢

成績評価方法:ディスカッション・振り返りレポート

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢

成績評価方法:ディスカッション・発表

[ 教科書(ISBN) ]

[ 参考書(ISBN) ]

科目名	ソーシャルワーク演習(専門) I	前期	2 単位
サブタイトル	ソーシャルワークの価値・倫理、知識、技術	演習	
担当者	曾田 里美		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○

[到達目標]

本科目の目的・ねらいは、①ソーシャルワーク実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていける能力を習得する、②社会福祉士等の福祉専門職に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力を養う、③支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的支援について実践的に理解する、④地域の特性や課題を把握し解決するための、地域アセスメントや評価等の仕組みを実践的に理解する、⑤ミクロ・メソ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについて実践的に理解する、⑥実習を通じて体験した事例について、事例検討や事例研究を行い、意義や方法を具体的に理解する、⑦実践の質の向上を図るため、スーパービジョンについて体験的に理解する、の7点である。到達目標は、①支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援を実践的に習得する、②具体的な場面及び過程について実践的に理解できる、③具体的なソーシャルワークの技法について実践的に理解できる、④地域福祉の基盤整備と開発について実践的に理解できる、⑤ソーシャルワークに係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的かつ学術的な知識及び技術として習得する、とする。

[授業概要]

個別指導並びに集団指導を通して、実技指導(ロールプレイング等)を中心とする演習形態により行う。具体的な学習内容は、実習前には①人間関係の形成とコミュニケーションの基礎、②支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援(集団に対する支援事例を含む)、③具体的なソーシャルワークの場面及び過程、④具体的なソーシャルワークの技法(アウトリーチ、チームアプローチ(チームマネジメント)、ネットワークング、コーディネート、ネゴシエーション、ファシリテーション、プレゼンテーション、ソーシャルアクション)、実習後には、⑤事例研究・事例検討、⑥スーパービジョン、とする。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

各回、予習復習合わせて2時間程度の主体的な学修を行うこと。具体的には、前回の授業の内容を復習し、ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ・Ⅱ及びソーシャルワークの理論と方法Ⅰ・Ⅱで学習した理論に照らし合わせて理解しておくこと。

[授業計画]

1. オリエンテーションとアイスブレーキング
2. 人間関係の形成とコミュニケーションの基礎
3. 支援を必要とする人が抱える複合的な課題及び総合的かつ包括的な支援の理解
4. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 児童虐待
5. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 障害者虐待
6. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 高齢者虐待
7. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: ひきこもり
8. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 貧困
9. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 認知症
10. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 終末期ケア
11. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 災害時ソーシャルワーク
12. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 危機介入による権利擁護活動
13. ソーシャルワークの場面と過程の理解
14. 事例を通して学ぶソーシャルワークの場面と過程: ケースの発見とインテーク
15. 事例を通して学ぶソーシャルワークの場面と過程: アセスメント
16. 事例を通して学ぶソーシャルワークの場面と過程: プランニング
17. 事例を通して学ぶソーシャルワークの場面と過程: 支援の実施とモニタリング
18. 事例を通して学ぶソーシャルワークの場面と過程: 支援の終結と事後評価・アフタケア
19. 具体的なソーシャルワークの技法の理解
20. 事例を通して学ぶソーシャルワークの技法: アウトリーチ
21. 事例を通して学ぶソーシャルワークの技法: チームアプローチ(チームマネジメント)
22. 事例を通して学ぶソーシャルワークの技法: ネットワーキング
23. 事例を通して学ぶソーシャルワークの技法: コーディネーション
24. 事例を通して学ぶソーシャルワークの技法: ファシリテーション
25. 事例研究・事例検討とスーパービジョン
26. まとめ

科目名	ソーシャルワーク演習(専門) I	前期	2 単位
サブタイトル	ソーシャルワークの価値・倫理、知識、技術	演習	
担当者	曾田 里美		

[ 成績評価方法 ]  
授業における課題への取り組み(20%)、レポート(80%)で評価。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  
レポートの評価は、翌週の授業においてフィードバックする。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]  
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。

成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート

学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。

成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート

学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。

成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢

成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢

成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢

成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート

[ 教科書(ISBN) ]

[ 参考書(ISBN) ]

科目名	ソーシャルワーク演習(専門) I		前期	2 単位
サブタイトル			演習	
担当者	下司 実奈			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク		○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業		○
<p>[到達目標]</p> <p>本科目の目的・ねらいは、①ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性を踏まえ、社会福祉士及び精神保健福祉士として求められる基礎的な能力を涵養する、②ソーシャルワークの価値規範と倫理を実践的に理解する、③ソーシャルワークの実践に必要なコミュニケーション能力を養う、④ソーシャルワークの展開過程において用いられる、知識と技術を実践的に理解する、の4点である。</p> <p>到達目標は、①社会福祉士及び精神保健福祉士として求められる基礎的な能力(自己覚知など)を習得する、②ソーシャルワークの価値規範と倫理が実践的に理解できる、③ソーシャルワークの実践に必要な基本的なコミュニケーション能力・基本的な面接技術・グループダイナミクスの活用方法を習得する、④ソーシャルワークの展開過程について理解するとともに、そこで用いられるソーシャルワークの記録やプレゼンテーションの技術などの知識と技術を習得する、とする。</p> <p>[授業概要]</p> <p>個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導(ロールプレイング等)を中心とする演習形態により行う。具体的な学習内容は、①自己覚知、②基本的なコミュニケーション技術、③基本的な面接技術、④ソーシャルワークの展開過程、⑤ソーシャルワークの記録、⑥グループダイナミクスの活用、⑦プレゼンテーション技術、とする。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回、予習復習合わせて2時間程度の主体的な学修を行うこと。また、文学やドキュメントなどを通して人間の生き方への関心を高めておくこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーションとアイスブレーキング</li> <li>2. 自己理解・自己覚知と他者理解</li> <li>3. 基本的なコミュニケーション技術:言語的技術(質問、促し、言い換え、感情の反映、繰り返し、要約等)</li> <li>4. 基本的なコミュニケーション技術:非言語技術(表情、態度、身振り、位置取り等)</li> <li>5. 基本的な面接技術:面接の構造化・場の設定(面接室、生活場面、自宅等)・ツールの活用(電話、e-mail等)</li> <li>6. 事例を通して学ぶソーシャルワークの展開過程(ケースの発見とインテーク)</li> <li>7. 事例を通して学ぶソーシャルワークの展開過程(アセスメントとプランニング)</li> <li>8. 事例を通して学ぶソーシャルワークの展開過程(支援の実施とモニタリング)</li> <li>9. 事例を通して学ぶソーシャルワークの展開過程(支援の終結と事後評価及びアフターケア)</li> <li>10. ソーシャルワークの記録(支援経過の把握と管理)</li> <li>11. グループダイナミクスの活用:グループワークの構成(グループリーダー・コリーダー・グループメンバー)とグループワークの展開過程(準備期・開始期・作業期・終結期)</li> <li>12. プレゼンテーション技術:個人プレゼンテーションとグループプレゼンテーション</li> <li>13. まとめ</li> </ol>				

科目名	ソーシャルワーク演習(専門) I	前期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	下司 実奈		
<p>[ 成績評価方法 ] 授業内レポート及び提出課題(50%)、授業参加度(50%)の総合評価。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] レポートの評価は、翌週の授業においてフィードバックする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:授業内レポート及び提出課題 授業参加度</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:授業内レポート及び提出課題 授業参加度</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:授業内レポート及び提出課題 授業参加度</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:授業内レポート及び提出課題 授業参加度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業内レポート及び提出課題 授業参加度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:授業内レポート及び提出課題 授業参加度</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	ソーシャルワーク演習(専門) I	前期	2 単位
サブタイトル	ソーシャルワークの価値・倫理、知識、技術	演習	
担当者	川端 麗子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○

[到達目標]

本科目の目的・ねらいは、①ソーシャルワーク実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていける能力を習得する、②社会福祉士等の福祉専門職に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力を養う、③支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的支援について実践的に理解する、④地域の特性や課題を把握し解決するための、地域アセスメントや評価等の仕組みを実践的に理解する、⑤ミクロ・メソ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについて実践的に理解する、⑥実習を通じて体験した事例について、事例検討や事例研究を行い、意義や方法を具体的に理解する、⑦実践の質の向上を図るため、スーパービジョンについて体験的に理解する、の7点である。到達目標は、①支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援を実践的に習得する、②具体的な場面及び過程について実践的に理解できる、③具体的なソーシャルワークの技法について実践的に理解できる、④地域福祉の基盤整備と開発について実践的に理解できる、⑤ソーシャルワークに係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的かつ学術的な知識及び技術として習得する、とする。

[授業概要]

個別指導並びに集団指導を通して、実技指導(ロールプレイング等)を中心とする演習形態により行う。具体的な学習内容は、実習前には①人間関係の形成とコミュニケーションの基礎、②支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援(集団に対する支援事例を含む)、③具体的なソーシャルワークの場面及び過程、④具体的なソーシャルワークの技法(アウトリーチ、チームアプローチ(チームマネジメント)、ネットワークング、コーディネート、ネゴシエーション、ファミリーテーション、プレゼンテーション、ソーシャルアクション)、実習後には、⑤事例研究・事例検討、⑥スーパービジョン、とする。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

各回、予習復習合わせて2時間程度の主体的な学修を行うこと。具体的には、前回の授業の内容を復習し、ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ・Ⅱ及びソーシャルワークの理論と方法Ⅰ・Ⅱで学習した理論に照らし合わせて理解しておくこと。

[授業計画]

1. オリエンテーションとアイスブレイキング
2. 人間関係の形成とコミュニケーションの基礎
3. 支援を必要とする人が抱える複合的な課題及び総合的かつ包括的な支援の理解
4. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 児童虐待
5. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 障害者虐待
6. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 高齢者虐待
7. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: ひきこもり
8. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 貧困
9. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 認知症
10. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 終末期ケア
11. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 災害時ソーシャルワーク
12. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 危機介入による権利擁護活動
13. ソーシャルワークの場面と過程の理解
14. 事例を通して学ぶソーシャルワークの場面と過程: ケースの発見とインテーク
15. 事例を通して学ぶソーシャルワークの場面と過程: アセスメント
16. 事例を通して学ぶソーシャルワークの場面と過程: プランニング
17. 事例を通して学ぶソーシャルワークの場面と過程: 支援の実施とモニタリング
18. 事例を通して学ぶソーシャルワークの場面と過程: 支援の終結と事後評価・アフタケア
19. 具体的なソーシャルワークの技法の理解
20. 事例を通して学ぶソーシャルワークの技法: アウトリーチ
21. 事例を通して学ぶソーシャルワークの技法: チームアプローチ(チームマネジメント)
22. 事例を通して学ぶソーシャルワークの技法: ネットワーキング
23. 事例を通して学ぶソーシャルワークの技法: コーディネーション
24. 事例を通して学ぶソーシャルワークの技法: ファシリテーション
25. 事例研究・事例検討とスーパービジョン
26. まとめ

科目名	ソーシャルワーク演習(専門) I	前期	2 単位
サブタイトル	ソーシャルワークの価値・倫理、知識、技術	演習	
担当者	川端 麗子		
<p>[ 成績評価方法 ] 授業における課題への取り組み(20%)、レポート(80%)で評価。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] レポートの評価は、翌週の授業においてフィードバックする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:授業中の課題、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びとの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:授業中の課題、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:授業中の課題、レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題、レポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	ソーシャルワーク演習(専門)Ⅱ	後期	2単位
サブタイトル	ソーシャルワークの価値・倫理、知識、技術	演習	
担当者	植戸 貴子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○

[到達目標]

本科目の目的・ねらいは、①ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得する、②社会福祉士等の福祉専門職に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力を養う、③支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について実践的に理解する、④地域の特性や課題を把握し解決するための、地域アセスメントや評価等の仕組みを実践的に理解する、⑤ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについて実践的に理解する、⑥実習を通じて体験した事例について、事例検討や事例研究を実際に行い、その意義や方法を具体的に理解する、⑦実践の質の向上を図るため、スーパービジョンについて体験的に理解する、の7点とする。

到達目標は、①支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援を実践的に理解する、②地域福祉の基盤整備と開発について実践的に理解する、③ソーシャルワークに係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的かつ学術的な知識及び技術として習得する、とする。

[授業概要]

個別指導並びに集団指導を通して、実技指導(ロールプレイング等)を中心とする演習形態により行う。具体的な学習内容は、実習前には、①支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援(集団に対する支援事例を含む)、②地域福祉の基盤整備と開発(地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握、地域アセスメント、地域福祉の計画、組織化、社会資源の活用・調整・開発、サービスの評価)、実習後には、③事例研究・事例検討、④スーパービジョン、とする。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

毎回、予習復習合わせて2時間程度の主体的な学修を行うこと。具体的には、前回の授業を復習し、ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ・Ⅱ及びソーシャルワークの理論と方法Ⅰ・Ⅱで学習した理論に照らし合わせて理解しておくこと。

[授業計画]

1. オリエンテーションとアイスブレイキング
2. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 子育て支援
3. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 障害児の発達支援と家族支援
4. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 社会的養護を必要とする児童と家族への支援
5. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 福祉・教育等の連携による児童・家庭支援
6. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 障害者の親亡き後に向けた支援
7. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 障害者の生活と就労の一体的支援
8. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 障害者の地域移行支援
9. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 要介護高齢者と家族介護者への支援
10. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 地域で孤立する高齢者への支援
11. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 成年後見制度の利用に向けた支援
12. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 生活困窮者に対する支援
13. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 外国にルーツを持つ人々への支援
14. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 複合的な課題を持つ家族への支援
15. 地域福祉の基盤整備と開発の理解
16. 地域福祉の基盤整備と開発: 地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握
17. 地域福祉の基盤整備と開発: 地域アセスメントの意義と手法
18. 地域福祉の基盤整備と開発: 地域アセスメントの実際
19. 地域福祉の基盤整備と開発: 地域福祉の計画及び地域の組織化
20. 地域福祉の基盤整備と開発: 社会資源の活用・調整・開発
21. 地域福祉の基盤整備と開発: サービスの評価
22. ソーシャルワーク実習体験を踏まえた事例研究・事例検討の意義と方法及び実際
23. ソーシャルワーク実習体験を踏まえた個別スーパービジョン
24. ソーシャルワーク実習体験を踏まえたピアスーパービジョン
25. ソーシャルワーク実習体験を踏まえたグループスーパービジョン
26. まとめ

科目名	ソーシャルワーク演習(専門)Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	ソーシャルワークの価値・倫理、知識、技術	演習	
担当者	植戸 貴子		

[ 成績評価方法 ]  
授業における課題への取り組み(20%)、レポート(80%)で評価。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  
レポートの評価は、翌週の授業においてフィードバックする。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]  
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。  
成績評価方法:ディスカッション・振り返りレポート

学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。  
成績評価方法:ディスカッション・発表

学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びととも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。  
成績評価方法:ディスカッション

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  
成績評価方法:ディスカッション・振り返りレポート

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  
成績評価方法:ディスカッション・振り返りレポート

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  
成績評価方法:ディスカッション

[ 教科書(ISBN) ]

[ 参考書(ISBN) ]

科目名	ソーシャルワーク演習(専門)Ⅱ	後期	2単位
サブタイトル	ソーシャルワークの価値・倫理、知識、技術	演習	
担当者	曾田 里美		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]          本科目の目的・ねらいは、①ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得する、②社会福祉士等の福祉専門職に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力を養う、③支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について実践的に理解する、④地域の特性や課題を把握し解決するための、地域アセスメントや評価等の仕組みを実践的に理解する、⑤ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについて実践的に理解する、⑥実習を通じて体験した事例について、事例検討や事例研究を実際に行い、その意義や方法を具体的に理解する、⑦実践の質の向上を図るため、スーパービジョンについて体験的に理解する、の7点とする。</p> <p>到達目標は、①支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援を実践的に理解する、②地域福祉の基盤整備と開発について実践的に理解する、③ソーシャルワークに係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的かつ学術的な知識及び技術として習得する、とする。</p>			
<p>[授業概要]          個別指導並びに集団指導を通して、実技指導(ロールプレイング等)を中心とする演習形態により行う。具体的な学習内容は、実習前には、①支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援(集団に対する支援事例を含む)、②地域福祉の基盤整備と開発(地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握、地域アセスメント、地域福祉の計画、組織化、社会資源の活用・調整・開発、サービスの評価)、実習後には、③事例研究・事例検討、④スーパービジョン、とする。</p>			
<p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]          毎回、予習復習合わせて2時間程度の主体的な学修を行うこと。具体的には、前回の授業を復習し、ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ・Ⅱ及びソーシャルワークの理論と方法Ⅰ・Ⅱで学習した理論に照らし合わせて理解しておくこと。</p>			
<p>[授業計画]          1. オリエンテーションとアイスブレイキング          2. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 子育て支援          3. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 障害児の発達支援と家族支援          4. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 社会的養護を必要とする児童と家族への支援          5. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 福祉・教育等の連携による児童・家庭支援          6. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 障害者の親亡き後に向けた支援          7. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 障害者の生活と就労の一体的支援          8. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 障害者の地域移行支援          9. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 要介護高齢者と家族介護者への支援          10. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 地域で孤立する高齢者への支援          11. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 成年後見制度の利用に向けた支援          12. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 生活困窮者に対する支援          13. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 外国にルーツを持つ人々への支援          14. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 複合的な課題を持つ家族への支援          15. 地域福祉の基盤整備と開発の理解          16. 地域福祉の基盤整備と開発: 地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握          17. 地域福祉の基盤整備と開発: 地域アセスメントの意義と手法          18. 地域福祉の基盤整備と開発: 地域アセスメントの実際          19. 地域福祉の基盤整備と開発: 地域福祉の計画及び地域の組織化          20. 地域福祉の基盤整備と開発: 社会資源の活用・調整・開発          21. 地域福祉の基盤整備と開発: サービスの評価          22. ソーシャルワーク実習体験を踏まえた事例研究・事例検討の意義と方法及び実際          23. ソーシャルワーク実習体験を踏まえた個別スーパービジョン          24. ソーシャルワーク実習体験を踏まえたピアスーパービジョン          25. ソーシャルワーク実習体験を踏まえたグループスーパービジョン          26. まとめ</p>			

科目名	ソーシャルワーク演習(専門)Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	ソーシャルワークの価値・倫理、知識、技術	演習	
担当者	曾田 里美		

[ 成績評価方法 ]  
授業における課題への取り組み(20%)、レポート(80%)で評価。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  
レポートの評価は、翌週の授業においてフィードバックする。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]  
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。  
成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート

学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。  
成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート

学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びととも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。  
成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  
成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  
成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  
成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート

[ 教科書(ISBN) ]

[ 参考書(ISBN) ]

科目名	ソーシャルワーク演習(専門)Ⅱ	後期	2単位
サブタイトル	ソーシャルワークの価値・倫理、知識、技術	演習	
担当者	下司 実奈		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]          本科目の目的・ねらいは、①ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得する、②社会福祉士等の福祉専門職に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力を養う、③支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について実践的に理解する、④地域の特性や課題を把握し解決するための、地域アセスメントや評価等の仕組みを実践的に理解する、⑤ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについて実践的に理解する、⑥実習を通じて体験した事例について、事例検討や事例研究を実際に行い、その意義や方法を具体的に理解する、⑦実践の質の向上を図るため、スーパービジョンについて体験的に理解する、の7点とする。</p> <p>到達目標は、①支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援を実践的に理解する、②地域福祉の基盤整備と開発について実践的に理解する、③ソーシャルワークに係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的かつ学術的な知識及び技術として習得する、とする。</p>			
<p>[授業概要]          個別指導並びに集団指導を通して、実技指導(ロールプレイング等)を中心とする演習形態により行う。具体的な学習内容は、実習前には、①支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援(集団に対する支援事例を含む)、②地域福祉の基盤整備と開発(地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握、地域アセスメント、地域福祉の計画、組織化、社会資源の活用・調整・開発、サービスの評価)、実習後には、③事例研究・事例検討、④スーパービジョン、とする。</p>			
<p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]          毎回、予習復習合わせて2時間程度の主体的な学修を行うこと。具体的には、前回の授業を復習し、ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ・Ⅱ及びソーシャルワークの理論と方法Ⅰ・Ⅱで学習した理論に照らし合わせて理解しておくこと。</p>			
<p>[授業計画]          1. オリエンテーションとアイスブレイキング          2. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 子育て支援          3. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 障害児の発達支援と家族支援          4. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 社会的養護を必要とする児童と家族への支援          5. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 福祉・教育等の連携による児童・家庭支援          6. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 障害者の親亡き後に向けた支援          7. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 障害者の生活と就労の一体的支援          8. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 障害者の地域移行支援          9. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 要介護高齢者と家族介護者への支援          10. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 地域で孤立する高齢者への支援          11. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 成年後見制度の利用に向けた支援          12. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 生活困窮者に対する支援          13. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 外国にルーツを持つ人々への支援          14. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 複合的な課題を持つ家族への支援          15. 地域福祉の基盤整備と開発の理解          16. 地域福祉の基盤整備と開発: 地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握          17. 地域福祉の基盤整備と開発: 地域アセスメントの意義と手法          18. 地域福祉の基盤整備と開発: 地域アセスメントの実際          19. 地域福祉の基盤整備と開発: 地域福祉の計画及び地域の組織化          20. 地域福祉の基盤整備と開発: 社会資源の活用・調整・開発          21. 地域福祉の基盤整備と開発: サービスの評価          22. ソーシャルワーク実習体験を踏まえた事例研究・事例検討の意義と方法及び実際          23. ソーシャルワーク実習体験を踏まえた個別スーパービジョン          24. ソーシャルワーク実習体験を踏まえたピアスーパービジョン          25. ソーシャルワーク実習体験を踏まえたグループスーパービジョン          26. まとめ</p>			

科目名	ソーシャルワーク演習(専門)Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	ソーシャルワークの価値・倫理、知識、技術	演習	
担当者	下司 実奈		

[ 成績評価方法 ]  
授業における課題への取り組み(20%)、レポート(80%)で評価。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  
レポートの評価は、翌週の授業においてフィードバックする。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]  
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。  
成績評価方法:授業における課題への取り組み レポート

学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。  
成績評価方法:授業における課題への取り組み レポート

学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びととも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。  
成績評価方法:授業における課題への取り組み レポート

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  
成績評価方法:授業における課題への取り組み レポート

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  
成績評価方法:授業における課題への取り組み レポート

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  
成績評価方法:授業における課題への取り組み レポート

[ 教科書(ISBN) ]

[ 参考書(ISBN) ]

科目名	ソーシャルワーク演習(専門)Ⅱ	後期	2単位
サブタイトル	ソーシャルワークの価値・倫理、知識、技術	演習	
担当者	川端 麗子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]          本科目の目的・ねらいは、①ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得する、②社会福祉士等の福祉専門職に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力を養う、③支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について実践的に理解する、④地域の特性や課題を把握し解決するための、地域アセスメントや評価等の仕組みを実践的に理解する、⑤ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについて実践的に理解する、⑥実習を通じて体験した事例について、事例検討や事例研究を実際に行い、その意義や方法を具体的に理解する、⑦実践の質の向上を図るため、スーパービジョンについて体験的に理解する、の7点とする。</p> <p>到達目標は、①支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援を実践的に理解する、②地域福祉の基盤整備と開発について実践的に理解する、③ソーシャルワークに係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的かつ学術的な知識及び技術として習得する、とする。</p>			
<p>[授業概要]          個別指導並びに集団指導を通して、実技指導(ロールプレイング等)を中心とする演習形態により行う。具体的な学習内容は、実習前には、①支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援(集団に対する支援事例を含む)、②地域福祉の基盤整備と開発(地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握、地域アセスメント、地域福祉の計画、組織化、社会資源の活用・調整・開発、サービスの評価)、実習後には、③事例研究・事例検討、④スーパービジョン、とする。</p>			
<p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]          毎回、予習復習合わせて2時間程度の主体的な学修を行うこと。具体的には、前回の授業を復習し、ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ・Ⅱ及びソーシャルワークの理論と方法Ⅰ・Ⅱで学習した理論に照らし合わせて理解しておくこと。</p>			
<p>[授業計画]          1. オリエンテーションとアイスブレイキング          2. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 子育て支援          3. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 障害児の発達支援と家族支援          4. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 社会的養護を必要とする児童と家族への支援          5. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 福祉・教育等の連携による児童・家庭支援          6. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 障害者の親亡き後に向けた支援          7. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 障害者の生活と就労の一体的支援          8. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 障害者の地域移行支援          9. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 要介護高齢者と家族介護者への支援          10. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 地域で孤立する高齢者への支援          11. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 成年後見制度の利用に向けた支援          12. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 生活困窮者に対する支援          13. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 外国にルーツを持つ人々への支援          14. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 複合的な課題を持つ家族への支援          15. 地域福祉の基盤整備と開発の理解          16. 地域福祉の基盤整備と開発: 地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握          17. 地域福祉の基盤整備と開発: 地域アセスメントの意義と手法          18. 地域福祉の基盤整備と開発: 地域アセスメントの実際          19. 地域福祉の基盤整備と開発: 地域福祉の計画及び地域の組織化          20. 地域福祉の基盤整備と開発: 社会資源の活用・調整・開発          21. 地域福祉の基盤整備と開発: サービスの評価          22. ソーシャルワーク実習体験を踏まえた事例研究・事例検討の意義と方法及び実際          23. ソーシャルワーク実習体験を踏まえた個別スーパービジョン          24. ソーシャルワーク実習体験を踏まえたピアスーパービジョン          25. ソーシャルワーク実習体験を踏まえたグループスーパービジョン          26. まとめ</p>			

科目名	ソーシャルワーク演習(専門)Ⅱ	後期	2単位
サブタイトル	ソーシャルワークの価値・倫理、知識、技術	演習	
担当者	川端 麗子		
<p>[ 成績評価方法 ] 「授業課題(20%)、レポート(80%)」</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] レポートの評価は、翌週の授業においてフィードバックする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしなが、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:授業中の課題、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:授業中の課題、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びととも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:授業中の課題、レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容.:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:授業中の課題、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容.:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業中の課題、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容.:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:授業中の課題、レポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	ソーシャルワーク演習(専門)Ⅲ		後期	2 単位
サブタイトル			演習	
担当者	坂本 茉衣子			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)			反転授業	
ディスカッション・ディベート	○		グループワーク	○
プレゼンテーション	○		実習、フィールドワーク	
その他			実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標] 精神障害者についての理解を深め、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる</p> <p>[授業概要] 精神保健福祉援助の知識と技術に関する他の講義科目や実習科目との関連性を考慮しながら、精神保健福祉士に求められる相談援助の関する基礎的な知識と技術について実践的に修得する。同時に事例を活用し相談援助を概念化、理論化し体系立てていく能力を滋養する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 学習内容に応じて、専門科目、共通科目などに広く関心を持ち、知識を整理しすぐに引き出せるように準備しておくこと。各回について予習復習を2時間程度行う。</p> <p>[授業計画] 1. オリエンテーション 2. 福祉とは何か? 障害とは何か?(グループワーク) 3. 精神保健福祉援助事例(自己覚知) 4. 精神障害当事者について事前学習 5. 精神障害当事者から学ぶ① 6. 精神障害当事者から学ぶ② 7. 事後学習・事前学習 8. 現場の精神保健福祉士から学ぶ 9. 事後学習 10. 精神保健福祉援助事例(演習) 11. 課題別事例から学ぶ① 12. 課題別事例から学ぶ② 13. まとめ</p>				

科目名	ソーシャルワーク演習(専門)Ⅲ	後期	2単位
サブタイトル		演習	
担当者	坂本 茉衣子		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業への参加度・・・50%  課題・レポート・・・50%  授業への参加度・・・授業の出席及び授業中の積極的な姿勢(発言や意見、グループ討議への積極的参加等)により評価します。  課題・・・課題への取り組み、期限内提出、課題内容の発表  レポート・・・指定されたテーマについて、要点をおさえてまとめられているか評価する。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  レポートは添削して返却するとともに、試験は実施後に解説を実施します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。  成績評価方法:基本的な知識はテストやレポートにて評価するが、講義内でのディスカッションや発表などの主体的に学び周囲と共に高めあっていく力なども授業態度で評価していく。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。  成績評価方法:基本的な知識はテストやレポートにて評価するが、講義内でのディスカッションや発表などの主体的に学び周囲と共に高めあっていく力なども授業態度で評価していく。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。  成績評価方法:基本的な知識はテストやレポートにて評価するが、講義内でのディスカッションや発表などの主体的に学び周囲と共に高めあっていく力なども授業態度で評価していく。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。  成績評価方法:基本的な知識はテストやレポートにて評価するが、講義内でのディスカッションや発表などの主体的に学び周囲と共に高めあっていく力なども授業態度で評価していく。</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢  成績評価方法:基本的な知識はテストやレポートにて評価するが、講義内でのディスカッションや発表などの主体的に学び周囲と共に高めあっていく力なども授業態度で評価していく。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:基本的な知識はテストやレポートにて評価するが、講義内でのディスカッションや発表などの主体的に学び周囲と共に高めあっていく力なども授業態度で評価していく。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:基本的な知識はテストやレポートにて評価するが、講義内でのディスカッションや発表などの主体的に学び周囲と共に高めあっていく力なども授業態度で評価していく。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	ソーシャルワーク演習(専門)Ⅳ	前期	2単位
サブタイトル		演習	
担当者	阪田 憲二郎		

[アクティブラーニング授業]

PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○

[到達目標]

精神保健福祉士の業務及び倫理について学びを深めたうえで、事例等を通して実践内容について検討を進める中で、支援に必要な専門的視点や技術を習得する。

[授業概要]

- ・精神保健福祉士の業務や倫理について学びを深める。
- ・事例等を通して精神障がいを抱える人々の生活や生活上の困難について把握し、支援内容等について検討を進める中で、精神保健福祉士として必要となる専門的な視点や技術について学習する。
- ・本科目担当者は精神科ソーシャルワーカー・精神保健福祉士として精神科診療所で18年間の勤務経験があり、実務経験のある教員であるので、より実践的な観点から精神保健福祉士の役割等を解説するものとする。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

精神保健福祉専門科目をはじめ、共通科目他関連科目について何度も復習し、いつでも知識として取り出すことができるように準備しておくこと。  
各回について予習復習を2時間程度行う。

[授業計画]

1. 支援の場に応じた相談援助の理解①窓族からの精神科受診相談、医療保護入院における受診・受療支援について理解する。□
2. 支援の場に応じた相談援助の理解②窓機関連携における地域生活支援、アルコール依存症者の回復に向けた支援について理解する。□
3. 支援の場に応じた相談援助の理解③窓理教育プログラムによる家族支援、被災地の精神科病院の受援活動について理解する。□
4. 支援の場に応じた相談援助の理解④窓機介入からの地域生活支援、措置入院からの就労支援について理解する。□
5. 支援の場に応じた相談援助の理解⑤窓アサポーターの養成と活動支援、精神保健福祉ボランティアの養成と活動支援について理解する。□
6. 支援の場に応じた相談援助の理解⑥窓きこもりの若者支援、多機関連携による認知症高齢者への危機介入について理解する。□
7. 支援の場に応じた相談援助の理解⑦窓域移行支援と福祉サービスの利用支援、自殺予防のための電話相談と普及啓発について理解する。□
8. 支援の場に応じた相談援助の理解⑧窓族に対するかかわりと受診・受療に向けた支援、精神医療審査会における退院請求への対応について理解する。□
9. 支援の場に応じた相談援助の理解⑨窓災者支援とコミュニティ再生に向けた働きかけ、障害福祉計画の立案について理解する。□
10. 支援の場に応じた相談援助の理解⑩窓活困窮者への地域生活支援、障害者虐待防止法に基づく取り組みについて理解する。□
11. 支援の場に応じた相談援助の理解⑪窓童虐待が疑われる要保護児童と家族への支援、メンタルヘルズ課題のある中学生への連携による支援について理解する。□
12. 支援の場に応じた相談援助の理解⑫窓理的配慮に基づく支援、触法障害者への支援について理解する。□
13. 支援の場に応じた相談援助の理解⑬窓ームリダクションに基づくリカバリー支援、医療観察法に基づく連携による支援について理解する。□

科目名	ソーシャルワーク演習(専門)Ⅳ	前期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	阪田 憲二郎		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業への参加度・・・50%  課題・レポート・・・50%  授業への参加度・・・授業中の積極的な姿勢(発言や意見、グループ討議への積極的参加等)により評価します。  課題・・・課題への取り組み、期日内提出、課題内容の発表  レポート・・・指定されたテーマについて、要点をおさえてまとめられているか評価する。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  グループ指導及び個別面談において、各自の取り組み等の評価をフィードバックする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。  成績評価方法:グループディスカッション・レポート発表</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。  成績評価方法:グループディスカッション・レポート発表</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。  成績評価方法:グループディスカッション・レポート発表</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢  成績評価方法:グループディスカッション・レポート発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法:グループディスカッション・レポート発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:グループディスカッション・レポート発表</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  書籍名:ソーシャルワーク演習[精神専門] 著者名:日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集 出版社名:中央法規出版  ISBN:9784805882580</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	ソーシャルワーク演習(専門) V		後期	2 単位
サブタイトル			演習	
担当者	阪田 憲二郎			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)			反転授業	
ディスカッション・ディベート	○		グループワーク	○
プレゼンテーション	○		実習、フィールドワーク	
その他			実務経験のある教員による授業	○

[到達目標]

精神保健福祉援助実習におけるそれぞれの個別的な体験を、精神保健福祉相談援助に係る知識と技術として一般化し、実践的な知識・技術として習得する。

[授業概要]

精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術を専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができるよう、精神保健福祉実習における体験を用いて学習する。この授業の担当者は、精神科ソーシャルワーカー精神保健福祉士として精神科診療所で18年間の勤務経験があり、実務経験のある教員であるので、より実践的な観点から精神保健福祉士の役割等を解説するものとする。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

精神保健福祉専門科目をはじめ、共通科目他関連科目について何度も復習し、いつでも知識として取り出すことができるように準備しておくこと。  
各回について予習復習を2時間程度行う。

[授業計画]

1. ソーシャルワーク実践のための力の獲得①精神保健福祉士が行なう援助について、実習から学んだケースワーク事例の概要を各自出し合ってグループで検討を行なう□
2. ソーシャルワーク実践のための力の獲得②精神保健福祉士が行なう援助について、実習から学んだグループワーク事例の概要を各自出し合ってグループで検討を行なう□
3. ソーシャルワーク実践のための力の獲得③精神保健福祉士が行なう援助について、実習から学んだコミュニティワーク事例の概要を各自出し合ってグループで検討を行なう□
4. ソーシャルワーク実践のための力の獲得④精神科医療機関における個別援助技術について、実習事例からグループで検討を行なう①(第1グループによる事例提示)□
5. ソーシャルワーク実践のための力の獲得⑤精神科医療機関における個別援助技術について、実習事例からグループで検討を行なう②(第2グループによる事例提示)□
6. ソーシャルワーク実践のための力の獲得⑥精神科医療機関における個別援助技術について、実習事例からグループで検討を行なう③(第3グループによる事例提示)□
7. ソーシャルワーク実践のための力の獲得⑦障害福祉サービス事業所における個別援助技術について、実習事例からグループで検討を行なう①(第1グループによる事例提示)□
8. ソーシャルワーク実践のための力の獲得⑧障害福祉サービス事業所における個別援助技術について、実習事例からグループで検討を行なう②(第2グループによる事例提示)□
9. ソーシャルワーク実践のための力の獲得⑨障害福祉サービス事業所における個別援助技術について、実習事例からグループで検討を行なう③(第3グループによる事例提示)□
10. ソーシャルワーク実践のための力の獲得⑩実習における集団援助技術事例について、グループで検討を行なう①(第1グループによる事例提示)□
11. ソーシャルワーク実践のための力の獲得⑪実習における集団援助技術事例について、グループで検討を行なう②(第2グループによる事例提示)□
12. ソーシャルワーク実践のための力の獲得⑫実習における地域援助技術事例について、グループで検討を行なう①(第1グループによる事例提示)□
13. ソーシャルワーク実践のための力の獲得⑬実習における地域援助技術事例について、グループで検討を行なう②(第2グループによる事例提示)□

科目名	ソーシャルワーク演習(専門) V	後期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	阪田 憲二郎		

[ 成績評価方法 ]

授業への参加度・・・50%

課題・レポート・・・50%

授業への参加度・・・授業中の積極的な姿勢(発言や意見、グループ討議への積極的参加等)により評価します。

課題・・・課題への取り組み、期日内提出、課題内容の発表

レポート・・・指定されたテーマについて、要点をおさえてまとめられているか評価する。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

グループ指導及び個別面談において、各自の取り組み等の評価をフィードバックする。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。

成績評価方法:グループディスカッション・レポート発表

学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。

成績評価方法:グループディスカッション・レポート発表

学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。

成績評価方法:グループディスカッション・レポート発表

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢

成績評価方法:グループディスカッション・レポート発表

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法:グループディスカッション・レポート発表

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法:グループディスカッション・レポート発表

[ 教科書(ISBN) ]

書籍名:ソーシャルワーク演習[精神専門] 著者名:日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集 出版社名:中央法規出版

ISBN:9784805882580

[ 参考書(ISBN) ]

科目名	ソーシャルワーク実習 I	前期～後期	4 単位
サブタイトル		実習	
担当者	渡辺 晴子、植戸 貴子、清水 弥生、曾田 里美、下司 実奈、川端 麗子、砂田 貴彦		

[アクティブラーニング授業]

PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	

[到達目標]

1. ソーシャルワークの実践に必要な各科目の知識と技術を統合し、社会福祉士としての価値と倫理に基づく支援を行うための実践能力を養う。
2. 支援を必要とする人や地域の状況を理解し、その生活上の課題(ニーズ)について把握する。
3. 生活上の課題(ニーズ)に対応するため、支援を必要とする人の内的資源やフォーマル・インフォーマルな社会資源を活用した支援計画の作成、実施及びその評価を行う。
4. 施設・機関等が地域社会の中で果たす役割を実践的に理解する。
5. 総合的かつ包括的な支援における多職種・多機関、地域住民等との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。

[授業概要]

1. 実習方法: 指定実習同一施設・事業者・機関・団体・病院等において、180時間(23日間)実施
2. 実習時期: 前期は6月に10日間、後期は10月に13日間実施
3. 実習先の選定と配属: 実習要件を満たす大学指定の施設・事業者・機関・団体・病院等。但し、実習生から希望分野を聴取するとともに、通勤距離・宿泊(夜勤を含む)・必要経費等を総合的に判断して配属する。
4. 実習指導の概要: 実習担当教員は、実習指導者との密接な連携のもとに、実習生が実習指導者から適切な実習指導が受けられるように連絡調整するとともに、巡回訪問指導・電話指導・メール指導・一斉登校日等を通じて実習生の実習状況を把握しながら個別指導を十分行う。  
実習施設・機関においては、実習指導者(社会福祉士有資格者でかつ実務経験を経て実習指導者講習を修了した者)が福祉現場での実践経験を活かして、福祉専門職としての価値と倫理を実践的に理解し、福祉課題の解決に必要な知識や技術をより具体的に修得・活用できるよう指導する。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

前日までの実習を振り返り、具体的な実習課題を意識しながら、自分の持てる力(相談援助の価値・倫理、知識、技術、及び各領域の専門知識)を最大限に発揮するよう努めること。

[授業計画]

1. 利用者やその関係者(家族・親族、友人等)、施設・事業者・機関・団体、住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係の形成
2. 利用者やその関係者(家族・親族、友人等)との援助関係の形成
3. 利用者や地域の状況を理解し、その生活上の課題(ニーズ)の把握、支援計画の作成と実施及び評価
4. 利用者やその関係者(家族・親族、友人等)への権利擁護活動とその評価
5. 多職種連携及びチームアプローチの実践的理解
6. 当該実習先が地域社会の中で果たす役割の理解及び具体的な地域社会への働きかけ
7. 地域における分野横断的・業種横断的な関係形成と社会資源の活用・調整・開発に関する理解
8. 施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際(チームマネジメントや人材管理の理解を含む。)
9. 社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任の理解
10. ソーシャルワーク実践に求められるアウトリーチ、ネットワーキング、コーディネーション、ネゴシエーション、ファシリテーション、プレゼンテーション、ソーシャルアクション等の技術の実践的理解

科目名	ソーシャルワーク実習 I	前期～後期	4 単位
サブタイトル		実習	
担当者	渡辺 晴子、植戸 貴子、清水 弥生、曾田 里美、下司 実奈、川端 麗子、砂田 貴彦		
<p>[ 成績評価方法 ] 実習日誌等の内容(30%)、実習への取り組み(20%)、実習先評価(50%)で評価。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] グループ指導及び個別面談において、実習の取り組み状況の評価をフィードバックする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:実習日誌・実習先評価</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:実習日誌・実習への取り組み・実習先評価</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:実習への取り組み・実習先評価</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:実習日誌・実習への取り組み・実習先評価</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:実習への取り組み・実習先評価</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:実習への取り組み・実習先評価</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:実習日誌・実習への取り組み・実習先評価</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	ソーシャルワーク実習Ⅱ	後期	2単位
サブタイトル		実習	
担当者	渡辺 晴子、植戸 貴子、清水 弥生、曾田 里美、下司 実奈、川端 麗子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ソーシャルワークの実践に必要な各科目の知識と技術を統合し、社会福祉士としての価値と倫理に基づく支援を行うための実践能力を養う。</li> <li>2. 支援を必要とする人や地域の状況を理解し、その生活上の課題(ニーズ)について把握する。</li> <li>3. 生活上の課題(ニーズ)に対応するため、支援を必要とする人の内的資源やフォーマル・インフォーマルな社会資源を活用した支援計画の作成、実施及びその評価を行う。</li> <li>4. 施設・機関等が地域社会の中で果たす役割を実践的に理解する。</li> <li>5. 総合的かつ包括的な支援における多職種・多機関、地域住民等との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習方法: 指定実習先(施設・事業者・機関・団体・病院等)において、60時間(8日間)実施</li> <li>2. 実習時期: 春期休暇中の2~3月に8日間実施</li> <li>3. 実習先の選定と配属: 実習要件を満たす大学指定の施設・事業者・機関・団体・病院等。但し、実習生から希望分野を聴取するとともに、通勤距離・宿泊(夜勤を含む)・必要経費等を総合的に判断して配属する。なお、ソーシャルワーク実習Ⅰにおいて配属された実習先とは異なるサービスを提供している施設や事業所、異なる対象に対してサービスを提供している施設や事業所、主たる対象が同じであっても提供するサービス内容や地域の中で果たす機能が異なる施設や事業所に配属する。</li> <li>4. 実習指導の概要: 実習担当教員は、実習指導者との密接な連携のもとに、実習生が実習指導者から適切な実習指導が受けられるように連絡調整するとともに、巡回訪問指導・電話指導・メール指導を通じて実習生の実習状況を把握しながら個別指導を十分行う。</li> </ol> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>前日までの実習を振り返り、具体的な実習課題を意識しながら、自分の持てる力(相談援助の価値・倫理、知識、技術、及び各領域の専門知識)を最大限に発揮するよう努めること。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 利用者やその関係者(家族・親族、友人等)、施設・事業者・機関・団体、住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係の形成</li> <li>2. 利用者やその関係者(家族・親族、友人等)との援助関係の形成</li> <li>3. 利用者や地域の状況を理解し、その生活上の課題(ニーズ)の把握、支援計画の作成と実施及び評価</li> <li>4. 利用者やその関係者(家族・親族、友人等)への権利擁護活動とその評価</li> <li>5. 多職種連携及びチームアプローチの実践的理解</li> <li>6. 当該実習先が地域社会の中で果たす役割の理解及び具体的な地域社会への働きかけ</li> <li>7. 地域における分野横断的・業種横断的な関係形成と社会資源の活用・調整・開発に関する理解</li> <li>8. 施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際(チームマネジメントや人材管理の理解を含む。)</li> <li>9. 社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任の理解</li> <li>10. ソーシャルワーク実践に求められるアウトリーチ、ネットワーキング、コーディネート、ネゴシエーション、ファシリテーション、プレゼンテーション、ソーシャルアクション等の技術の実践的理解</li> </ol>			

科目名	ソーシャルワーク実習Ⅱ	後期	2単位
サブタイトル		実習	
担当者	渡辺 晴子、植戸 貴子、清水 弥生、曾田 里美、下司 実奈、川端 麗子		

[ 成績評価方法 ]

実習日誌等の内容(30%)、実習への取り組み(20%)、実習先評価(50%)で評価。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

グループ指導及び個別面談において、実習の取り組み状況の評価をフィードバックする。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。

成績評価方法:実習への取り組み・実習先評価

学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。

成績評価方法:実習日誌・実習先評価

学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。

成績評価方法:実習への取り組み・実習先評価

学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。

成績評価方法:実習への取り組み・実習先評価

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法:実習日誌・実習先評価

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法:実習日誌・実習への取り組み・実習先評価

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力

成績評価方法:実習への取り組み・実習先評価

[ 教科書(ISBN) ]

[ 参考書(ISBN) ]

科目名	ソーシャルワーク実習Ⅲ	前期～後期	7 単位
サブタイトル		実習	
担当者	植戸 貴子、阪田 憲二郎		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]          ソーシャルワーク実習Ⅲ(精神保健福祉士実習)を通して、精神保健福祉援助並びに障害者等の相談援助に係る専門知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する</p> <p>[授業概要]          ソーシャルワーク実習Ⅲ(精神保健福祉士実習)を通して精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活実態や生活上の課題について把握する。精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握など、総合的に対応できる能力を習得する。総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職の連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。          精神保健福祉士実習演習担当教員講習会を修了した教員による巡回指導を実施する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]          既習の専門科目、共通科目、関連科目の内容に関して繰り返し学び覚えて、実習先で遭遇するさまざまな機関や機能、人々やできごとが理解できるよう、いつでも利用可能な知識になるよう準備しておくこと</p> <p>[授業計画]          1. 精神科病院等医療機関の実習においては、次の事項を経験し、実習先の実習指導者による指導を受ける          ①入院時または急性期の患者及びその家族への相談援助          ②退院または地域移行・地域支援に向けた、患者及びその家族への相談援助          ③治療中の患者及びその家族への相談援助          ④多職種や病院外の関係機関との連携を通じた援助          ⑤日常生活や社会生活上の問題に関する患者及びその家族への相談援助</p> <p>2. 地域の障害福祉サービス事業所の実習においては、次の事項をできる限り経験し、実習先の実習指導者の指導を受ける          ①利用者やその関係者、施設・機関・事業者・団体、住民やボランティアなどとの基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成          ②利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成          ③利用者やその関係者(家族・親族・友人等)との支援関係の形成          ④利用者やその関係者への権利擁護及び支援とその評価          ⑤精神医療・保健・福祉に係る多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実際          ⑥精神保健福祉士としての職業倫理と法的義務への理解          ⑦施設・機関・事業者・団体等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解          ⑧施設・機関・事業者・団体の経営やサービスの管理運営の実際          ⑨当該実習先が地域社会の中の施設・機関・事業者・団体等であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解</p> <p>3. 巡回指導等を通して、実習事項について学生及び実習指導者との連絡調整を行い、学生の実習状況についての把握とともに実習中の個別指導を十分に行う</p> <p>帰校日指導については、遠隔授業で行う予定</p>			

科目名	ソーシャルワーク実習Ⅲ	前期～後期	7 単位
サブタイトル		実習	
担当者	植戸 貴子、阪田 憲二郎		

[ 成績評価方法 ]

実習機関による評価(50%)、実習記録の内容(20%)、巡回指導、帰校日指導等における指導内容(30%)により総合的に評価する

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

巡回指導及び帰校日指導の内容等をもとに、あらためて相互に検証します。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。

成績評価方法:実習機関による評価、実習記録の内容、巡回指導及び帰校日指導等における指導内容

学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。

成績評価方法:実習機関による評価、実習記録の内容、巡回指導及び帰校日指導等における指導内容

学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。

成績評価方法:実習機関による評価、実習記録の内容、巡回指導及び帰校日指導等における指導内容

学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。

成績評価方法:実習機関による評価、実習記録の内容、巡回指導及び帰校日指導等における指導内容

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢

成績評価方法:実習機関による評価、実習記録の内容、巡回指導及び帰校日指導等における指導内容

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法:実習機関による評価、実習記録の内容、巡回指導及び帰校日指導等における指導内容

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法:実習機関による評価、実習記録の内容、巡回指導及び帰校日指導等における指導内容

[ 教科書(ISBN) ]

書籍名:ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習[精神専門] 著者名:日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集 出版社名:中央法規出版 ISBN:9784805882597

[ 参考書(ISBN) ]

科目名	ソーシャルワーク実習指導 I	後期	2 単位
サブタイトル	相談援助実習のための事前学習	演習	
担当者	下司 実奈、清水 弥生、植戸 貴子、曾田 里美、川端 麗子、渡辺 晴子		

[アクティブラーニング授業]

PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	○

[到達目標]

1. 社会福祉士として求められる知識、技術、倫理について理解する。
2. 技術を修得するための相談援助実習の意義について理解する。
3. 正しく技術を使うための専門職倫理について実践的に理解する。

[授業概要]

相談援助実習を履修するための必須授業である。

低所得者福祉分野、児童福祉分野、障害児・者福祉分野、高齢者福祉分野、医療福祉分野等から学外講師を招聘して、社会福祉現場の実状について講義を聞いたり、実際に社会福祉現場を見学したりして、その役割や機能、利用者の特性やニーズ、またそこで働く職員の職種や仕事内容を理解していく。翌年度に相談援助実習を履修するために、自分に何が求められているのか、必要な知識、技術、倫理を明確に把握し、実習に向けて準備を行うための授業である。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

予習(1時間)

- ・新聞、雑誌、TVニュース等で社会福祉に関する出来事に関心を持っておく。
- ・サービスマーケティング等に参加し社会福祉現場を理解するための準備をしておく。

復習(1時間)

- ・授業レポート作成を通して授業内容をまとめておく。
- ・他の講義等で学んだこととの関連性を整理しておく。

[授業計画]

1. 相談援助実習指導の意義
2. 実習分野に関する基本的な理解①低所得者福祉分野A-学外講師
3. 実習分野に関する基本的な理解②低所得者福祉分野B-学外講師
4. 実習分野に関する基本的な理解③児童福祉分野-学外講師
5. 実習分野に関する基本的な理解④高齢者福祉分野-学外講師
6. 実習分野に関する基本的な理解⑤障害児・者福祉分野-学外講師
7. 実習分野に関する基本的な理解⑥医療福祉分野-学外講師
8. 実習分野に関する基本的な理解⑦地域福祉分野-学外講師
9. 社会福祉現場の見学実習-直前オリエンテーション
10. 社会福祉現場の見学実習-見学と体験・現場での質疑応答
11. 社会福祉現場の見学実習報告会と体験の共有
12. 3年生による相談援助実習報告会
13. 相談援助実習を希望するにあたって
14. 希望調査に対する個別面談

科目名	ソーシャルワーク実習指導 I	後期	2 単位
サブタイトル	相談援助実習のための事前学習	演習	
担当者	下司 実奈、清水 弥生、植戸 貴子、曾田 里美、川端 麗子、渡辺 晴子		

[ 成績評価方法 ]

合計9回の授業レポートの点数を平均して評価する。  
レポートに不備があった場合は書き直しての提出を求めることがある。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

・レポートは、原則として提出した1週間後に添削、評価して返却します。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。

成績評価方法:授業レポート

学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。

成績評価方法:授業レポート

学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。

成績評価方法:授業レポート

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢

成績評価方法:授業レポート

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢

成績評価方法:授業レポート

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢

成績評価方法:授業レポート

[ 教科書(ISBN) ]

書籍名:総合的な実践力を獲得するソーシャルワーク実習 著者名:伊藤大介他 出版社名:中央法規出版 ISBN:4824301270

[ 参考書(ISBN) ]

科目名	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ		前期	2単位
サブタイトル	ソーシャルワーク実習Ⅰに関わる事前・事中・事後指導		演習	
担当者	曾田 里美、植戸 貴子、渡辺 晴子、清水 弥生、下司 実奈、川端 麗子、砂田 貴彦			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)			反転授業	
ディスカッション・ディベート	○		グループワーク	○
プレゼンテーション	○		実習、フィールドワーク	○
その他			実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ソーシャルワーク実習の意義について理解する</li> <li>2. 社会福祉士として求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を養う</li> <li>3. ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための基礎的な能力を習得する</li> <li>4. 実習を振り返り、実習で得た具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる総合的な能力を涵養する</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>ソーシャルワーク実習を履修するための必須授業として、事前・実習中及び事後の指導を行う。具体的には、まず実習と実習指導の意義(スーパービジョンも含め)を理解し、実際に実習を行う実習分野と施設・事業者・機関・地域社会等や対象となる利用者の特性・ニーズ・必要な支援などについて基本的な事柄を学び、実習分野・実習先についての理解を深める。また、実習先で関わる他の職種の専門性や業務に関する基本的な理解および実習先で必要とされるソーシャルワークの価値規範と倫理・知識及び技術に関する理解を深め、実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等についても学ぶ。さらに、実習記録への記録内容及び記録方法について学習する。実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画書を作成し、実習後評価を行う。実習中に実習担当教員は巡回指導を行う。実習後、実習体験や実習記録を踏まえた課題の整理と実習総括レポートを作成する。</p> <p>毎回の授業では、担当教員の福祉現場での実践経験や指導経験を活かして、福祉専門職としての価値と倫理を実践的に理解し、福祉課題の解決に必要な知識や技術をより具体的に修得・活用できるような授業を展開する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回、予習復習合わせて2時間程度の主体的な学修を行うこと。具体的には、これまで学んできた相談援助及び各分野の専門的価値・知識・技術を駆使して、実習における学びを最大限に有意義なものにできるよう、授業外においても自主学習に励むこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習先で必要とされるソーシャルワークに係る知識と技術に関する理解①</li> <li>2. 実習先で必要とされるソーシャルワークに係る知識と技術に関する理解②</li> <li>3. 実習先で必要とされるソーシャルワークに係る知識と技術に関する理解③</li> <li>4. 実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務・個人情報保護法等の理解</li> <li>5. 「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解①</li> <li>6. 「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解②</li> <li>7. 実習生・実習担当教員による実習計画書案の検討と作成①</li> <li>8. 実習生・実習担当教員による実習計画書案の検討と作成②</li> <li>9. 実習先事前訪問(実習計画書案提示と意見聴取)</li> <li>10. 実習生・実習担当教員による実習計画書の作成</li> <li>11. 一斉登校日による実習分野別による個別指導及び集団指導</li> <li>12. 巡回訪問指導</li> <li>13. 前半実習の課題整理</li> </ol>				

科目名	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	前期	2 単位
サブタイトル	ソーシャルワーク実習Ⅰに関わる事前・事中・事後指導	演習	
担当者	曾田 里美、植戸 貴子、渡辺 晴子、清水 弥生、下司 実奈、川端 麗子、砂田 貴彦		

[ 成績評価方法 ]

授業態度・課題への取り組み(30%)、授業内の発表内容(30%)、実習計画書等の内容(40%)で評価。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

課題への取り組み、発表内容、実習計画書等の評価は、その場で、または学期末の個別面談においてフィードバックする。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。

成績評価方法:授業内の発表・実習計画書

学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。

成績評価方法:課題への取り組み・授業内発表・実習計画書

学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。

成績評価方法:課題への取り組み・授業内発表

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢

成績評価方法:課題への取り組み

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢

成績評価方法:課題への取り組み・授業内の発表

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢

成績評価方法:授業内の発表

[ 教科書(ISBN) ]

[ 参考書(ISBN) ]

科目名	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ		後期	2 単位
サブタイトル	ソーシャルワーク実習Ⅰに関する事前・事中・事後指導		演習	
担当者	川端 麗子、植戸 貴子、清水 弥生、曾田 里美、下司 実奈、渡辺 晴子、砂田 貴彦			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)			反転授業	
ディスカッション・ディベート	○		グループワーク	○
プレゼンテーション	○		実習、フィールドワーク	○
その他			実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ソーシャルワーク実習の意義について理解する</li> <li>2. 社会福祉士として求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を養う</li> <li>3. ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための基礎的な能力を習得する</li> <li>4. 実習を振り返り、実習で得た具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる総合的な能力を涵養する</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>ソーシャルワーク実習を履修するための必須授業として、事前・実習中及び事後の指導を行う。具体的には、まず実習と実習指導の意義(スーパービジョンも含め)を理解し、実際に実習を行う実習分野と施設・事業者・機関・地域社会等や対象となる利用者の特性・ニーズ・必要な支援などについて基本的な事柄を学び、実習分野・実習先についての理解を深める。また、実習先で関わる他の職種の専門性や業務に関する基本的な理解および実習先で必要とされるソーシャルワークの価値規範と倫理・知識及び技術に関する理解を深め、実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等についても学ぶ。さらに、実習記録への記録内容及び記録方法について学習する。実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画書を作成し、実習後評価を行う。実習中に実習担当教員は巡回指導を行う。実習後、実習体験や実習記録を踏まえた課題の整理と実習総括レポートを作成する。また、実習を振り返っての報告会及び評価を行う。最後に実習を振り返っての評価を行い、全体総括会を開く。</p> <p>毎回の授業では、担当教員の福祉現場での実践経験や指導経験を活かして、福祉専門職としての価値と倫理を実践的に理解し、福祉課題の解決に必要な知識や技術をより具体的に修得・活用できるような授業を展開する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回、予習復習合わせて2時間程度の主体的な学修を行うこと。具体的には、これまで学んできた相談援助及び各分野の専門的価値・知識・技術を駆使して、実習における学びを最大限に有意義なものにできるよう、授業外においても自主学習に励むこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術に関する理解①</li> <li>2. 実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術に関する理解②</li> <li>3. 実習生・実習担当教員による実習修正計画書の検討と作成①</li> <li>4. 実習生・実習担当教員による実習修正計画書の検討と作成②</li> <li>5. 「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解</li> <li>6. 一斉登校日による実習分野別による個別指導及び集団指導</li> <li>7. 巡回訪問指導</li> <li>8. 実習統括報告書作成①</li> <li>9. 実習統括報告書作成②</li> <li>10. 実習評価分野別総括会</li> <li>11. 実習報告会①</li> <li>12. 実習報告会②</li> <li>13. 実習評価全体統括会</li> </ol>				

科目名	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	後期	2 単位
サブタイトル	ソーシャルワーク実習Ⅰに関する事前・事中・事後指導	演習	
担当者	川端 麗子、植戸 貴子、清水 弥生、曾田 里美、下司 実奈、渡辺 晴子、砂田 貴彦		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業態度・課題への取り組み(30%)、授業内の発表内容(30%)、実習計画書等の内容(30%)、実習報告会のプレゼン・レポート(10%)で評価。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  課題への取り組み、発表内容、実習計画書等の評価は、その場で、または学期末の個別面談においてフィードバックする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。  成績評価方法:課題への取り組み</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。  成績評価方法:課題への取り組み・授業内の発表</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びととも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。  成績評価方法:課題への取り組み</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:実習計画書</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:課題への取り組み・実習計画書</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  成績評価方法:課題への取り組み</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	ソーシャルワーク実習指導Ⅳ		後期	2 単位
サブタイトル			演習	
担当者	阪田 憲二郎			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)			反転授業	
ディスカッション・ディベート	○		グループワーク	○
プレゼンテーション			実習、フィールドワーク	
その他			実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <p>精神保健福祉援助実習の意義について理解する。  精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する。  精神保健福祉援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解する。  精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握など総合的に対応できる能力を習得する。</p> <p>[授業概要]</p> <p>精神保健福祉援助実習は、大学で学んできた精神保健福祉の理論を、実践現場において総合的且つ包括的に理解していく過程です。また、相談援助にかかる専門的な知識や技術についても、具体的且つ実際に理解し、体得することができる機会となります。</p> <p>本科目では、精神保健福祉援助実習を実施するにあたり、精神保健福祉援助実習の意義について理解するとともに、実習に対する基本的な知識等の習得を図ることを目的とします。</p> <p>また、精神科医療機関に見学をおこない、現場で働く精神保健福祉士のかたからお話を伺うことにより、精神保健福祉士の役割や支援の意義等に関する理解の深化を図ります。</p> <p>本科目担当者は、精神科ソーシャルワーカー・精神保健福祉士として精神科診療所で18年間の勤務経験があり、実務経験のある教員であるので、より実践的な観点から精神保健福祉士の役割等を解説するものとする。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>前回の講義内容について、資料等をもとに復習を行い、疑問等があれば、次回授業時に質問してください。  各回について予習復習を2時間程度行ってください。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 精神保健福祉援助実習について(1)</li> <li>3. 精神保健福祉援助実習について(2)</li> <li>4. 精神保健福祉援助実習の意義と目的</li> <li>5. 実習日誌の書き方</li> <li>6. 精神保健福祉士の業務</li> <li>7. ソーシャルワーク支援の実際(1)</li> <li>8. ソーシャルワーク支援の実際(2)</li> <li>9. 見学実習施設の理解</li> <li>10. 見学実習</li> <li>11. 見学実習後の振り返り</li> <li>12. ソーシャルワーク支援の実際(3)</li> <li>13. ソーシャルワーク支援の実際(4)</li> </ol>				

科目名	ソーシャルワーク実習指導Ⅳ	後期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	阪田 憲二郎		

[ 成績評価方法 ]

授業への参加度・・・50%

課題・レポート・・・50%

授業への参加度・・・授業中の積極的な姿勢(発言や意見、グループ討議への積極的参加等)により評価する。

課題・・・課題への取り組み、期日内提出、課題内容の発表

レポート・・・指定されたテーマについて、要点をおさえてまとめられているか評価する。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

グループ指導及び個別面談において、各自の取り組み等の評価をフィードバックする。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。

成績評価方法:グループディスカッション・レポート発表

学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。

成績評価方法:グループディスカッション・レポート発表

学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。

成績評価方法:グループディスカッション・レポート発表

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢

成績評価方法:グループディスカッション・レポート発表

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢

成績評価方法:グループディスカッション・レポート発表

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法:グループディスカッション・レポート発表

[ 教科書(ISBN) ]

書籍名:ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習[精神専門] 著者名:日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集 出版社名:中央法規出版 ISBN:9784805882597

[ 参考書(ISBN) ]

科目名	ソーシャルワーク実習指導Ⅴ	前期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	阪田 憲二郎		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○

[ 到達目標 ]

精神保健福祉援助実習に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し、実践的な技術等を体得する。具体的な体験や援助活動を専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

[ 授業概要 ]

精神保健福祉援助実習は、大学で学んできた精神保健福祉の理論を、実践現場において総合的且つ包括的に理解していく過程です。また、相談援助にかかる専門的知識や技術についても、具体的且つ実際に理解し、体得することができる機会となります。

本科目では、精神保健福祉援助実習を実施するにあたり、精神保健福祉援助実習の意義について理解するとともに、実習に対する基本的な知識等の習得を図ることを目的とします。

また、精神保健福祉援助実習中は、巡回指導及び帰校日指導を行います。個別指導及び集団指導を通じて、精神保健福祉援助に必要な知識と技術について具体的且つ実践的に学習します。

本科目担当者は精神科ソーシャルワーカー・精神保健福祉士として精神科診療所で18年間の勤務経験があり、実務経験のある教員であるので、より実践的な観点から精神保健福祉士の役割等を解説するものとする。

[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]

精神保健福祉援助実習に必要な知識を得る為の文献や資料の収集等を行うこと。  
各回について予習復習を2時間程度行う。

[ 授業計画 ]

1. オリエンテーション
2. 実習の流れ、学習ポイントの理解・医療機関
3. 実習計画書の作成・医療機関(1)
4. 実習計画書の作成・医療機関(2)
5. 実習施設の理解・医療機関(1)
6. 実習施設の理解・医療機関(2)
7. 実習の流れ、学習ポイントの理解・施設
8. 実習計画書の作成・施設(1)
9. 実習計画書の作成・施設(2)
10. 実習施設の理解・施設(1)
11. 実習施設の理解・施設(2)
12. 実習直前指導(1)
13. 実習直前指導(2)

科目名	ソーシャルワーク実習指導Ⅴ	前期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	阪田 憲二郎		
<p>[ 成績評価方法 ]  出席及び授業態度 50%  課題の取り組み・発表 50%  出席及び受講態度・・・授業中の積極的な発言や意見、グループ討議への積極的参加等により評価します。  課題・発表・・・課題への取り組み、期日内提出、課題内容の発表</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  グループ指導及び個別面談において、実習の取り組みについて状況の評価をフィードバックする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。  成績評価方法:グループディスカッション・レポート発表</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。  成績評価方法:グループディスカッション・レポート発表</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。  成績評価方法:グループディスカッション・レポート発表</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法:グループディスカッション・レポート発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:グループディスカッション・レポート発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:グループディスカッション・レポート発表</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  書籍名:ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習[精神専門] 著者名:日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集 出版社名:中央法規出版 ISBN:9784805882597</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	ソーシャルワーク実習指導Ⅵ		後期	2 単位
サブタイトル			演習	
担当者	阪田 憲二郎			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)			反転授業	
ディスカッション・ディベート	○		グループワーク	○
プレゼンテーション	○		実習、フィールドワーク	
その他			実務経験のある教員による授業	○
<p>[ 到達目標 ]  精神保健福祉援助実習の経験、実習記録、実習先の実習指導者の指導内容を踏まえて、精神保健福祉援助実践に向けての自分自身の課題を整理し、実習総括をする</p> <p>[ 授業概要 ]  精神保健福祉援助実習は、大学で学んできた精神保健福祉の理論を、実践現場において総合的且つ包括的に理解していく過程です。また、相談援助にかかる専門的な知識や技術についても、具体的且つ実際に理解し、体得することができる機会となります。</p> <p>本科目では、精神保健福祉援助実習を実施するにあたり、精神保健福祉援助実習の意義について理解するとともに、実習に対する基本的な知識等の習得を図ることを目的とします。</p> <p>また、精神保健福祉援助実習中は、巡回指導及び帰校日指導を行います。個別指導及び集団指導を通じて、精神保健福祉援助に必要な知識と技術について具体的且つ実践的に学習します。</p> <p>本科目担当者は精神科ソーシャルワーカー・精神保健福祉士として精神科診療所で18年間の勤務経験があり、実務経験のある教員であるので、より実践的な観点から精神保健福祉士の役割等を解説するものとする。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]  精神保健福祉援助実習に必要な知識を得る為の文献や資料の収集等を行うこと。  各回について予習復習を2時間程度行う。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習振り返り(1)</li> <li>2. 実習振り返り(2)</li> <li>3. 実習報告書の作成(医療機関)</li> <li>4. 実習報告書の作成(医療機関)</li> <li>5. 実習報告書の作成(福祉施設)</li> <li>6. 実習報告書の作成(福祉施設)</li> <li>7. 実習報告会資料作成(1)</li> <li>8. 実習報告会資料作成(2)</li> <li>9. 実習報告会(1)</li> <li>10. 実習報告会(2)</li> <li>11. 実習報告会(3)</li> <li>12. 実習報告会(4)</li> <li>13. 実習総合まとめ ～ ソーシャルワーカーとは ～</li> </ol>				

科目名	ソーシャルワーク実習指導Ⅵ	後期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	阪田 憲二郎		
<p>[ 成績評価方法 ]  出席及び授業態度 50%  課題の取り組み・発表 50%  出席及び受講態度・・・授業中の積極的な発言や意見、グループ討議への積極的参加等により評価します。  課題・発表・・・課題への取り組み、期日内提出、課題内容の発表</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  グループ指導及び個別面談において、実習の取り組みについて状況の評価をフィードバックする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。  成績評価方法:グループディスカッション・レポート発表</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。  成績評価方法:グループディスカッション・レポート発表</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。  成績評価方法:グループディスカッション・レポート発表</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法:グループディスカッション・レポート発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:グループディスカッション・レポート発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:グループディスカッション・レポート発表</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  書籍名:ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習[精神専門] 著者名:日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集 出版  社名:中央法規出版 ISBN:9784805882597</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	ソーシャルワーク実習指導Ⅶ	後期	1 単位
サブタイトル	ソーシャルワーク実習Ⅱに関する事前・事中・事後指導	演習	
担当者	川端 麗子、植戸 貴子、渡辺 晴子、清水 弥生、曾田 里美、下司 実奈		

[アクティブラーニング授業]

PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	

[到達目標]

1. ソーシャルワーク実習の意義について理解する
2. 社会福祉士として求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を養う
3. ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための基礎的な能力を習得する
4. 実習を振り返り、実習で得た具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる総合的な能力を涵養する

[授業概要]

ソーシャルワーク実習Ⅱを履修するための必須授業として、事前・実習中及び事後の指導を行う。具体的には、まず実習と実習指導の意義(スーパービジョンも含め)を理解し、実際に実習を行う実習分野と施設・事業者・機関・地域社会等や対象となる利用者の特性・ニーズ・必要な支援などについて基本的な事柄を学び、実習分野・実習先についての理解を深める。また、実習先で関わる他の職種の専門性や業務に関する基本的な理解および実習先で必要とされるソーシャルワークの価値規範と倫理・知識及び技術に関する理解を深め、実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等についても学ぶ。さらに、実習記録への記録内容及び記録方法について学習する。実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画書を作成し、実習後評価を行う。実習中に実習担当教員は巡回指導を行う。実習後、実習体験や実習記録を踏まえた課題の整理と実習総括レポートを作成する。また、実習を振り返っての報告会及び評価を行う。最後に実習を振り返っての評価を行い、全体総括会を開く。

毎回の授業では、担当教員の福祉現場での実践経験や指導経験を活かして、福祉専門職としての価値と倫理を実践的に理解し、福祉課題の解決に必要な知識や技術をより具体的に修得・活用できるような授業を展開する。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

各回、予習復習合わせて2時間程度の主体的な学修を行うこと。具体的には、これまで学んできた相談援助及び各分野の専門的価値・知識・技術を駆使して、実習における学びを最大限に有意義なものにできるよう、授業外においても自主学習に励むこと。

[授業計画]

1. 実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術に関する理解
2. 実習生・実習担当教員による実習修正計画書の検討と作成
3. 「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解
4. 事前訪問オリエンテーションにおけるソーシャルワーク実習Ⅰとの連続性の説明
5. 巡回訪問指導
6. 実習評価分野別総括会
7. 実習報告会

科目名	ソーシャルワーク実習指導Ⅶ	後期	1 単位
サブタイトル	ソーシャルワーク実習Ⅱに関する事前・事中・事後指導	演習	
担当者	川端 麗子、植戸 貴子、渡辺 晴子、清水 弥生、曾田 里美、下司 実奈		

[ 成績評価方法 ]

授業態度・課題への取り組み(30%)、授業内の発表内容(30%)、実習計画書等の内容(30%)、実習報告会のプレゼン・レポート(10%)で評価。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

課題への取り組み、発表内容、実習計画書等の評価は、その場で、または個別面談においてフィードバックする。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。

成績評価方法:授業内の発表・実習計画書

学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。

成績評価方法:授業内の発表・報告会

学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びととも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。

成績評価方法:授業への取り組み・授業内の発表

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢

成績評価方法:授業への取り組み・授業内の発表

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢

成績評価方法:授業への取り組み・実習計画書

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法:授業内の発表・実習計画書

[ 教科書(ISBN) ]

[ 参考書(ISBN) ]

科目名	ソーシャルワークの基盤と専門職 I	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	川端 麗子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他	<small>学生の質問・質問を授業内容に組み込んだ双方向の授業形態 ○</small>	実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <p>①社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけを理解する  ②ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程について理解する  ③ソーシャルワークの価値規範と倫理について理解する</p> <p>[授業概要]</p> <p>ソーシャルワーカーにとって必要な価値・知識・技術について学ぶ。ソーシャルワークの基盤となる考え方、ソーシャルワークの原理、歴史、倫理綱領等について学ぶことを通して、ソーシャルワークにおける基本的視座を理解する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回、予習・復習を合わせて2時間程度行うこと。予習では次回の範囲の教科書を読み、復習では配布のレジュメ内容の理解を深めるようにする。授業中に課題を出し、定期的に理解度を確認するため、予復習の習慣を身につけておくこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>オリエンテーション</li> <li>社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけ: 社会福祉士及び介護福祉士法、精神保健福祉士法、社会福祉士及び精神保健福祉士の専門性</li> <li>ソーシャルワークの概念:ソーシャルワークの定義</li> <li>ソーシャルワークの基盤となる考え方: ソーシャルワークの原理1(社会正義、人権尊重)、 ソーシャルワークの原理2(集団的責任、多様性の尊重)</li> <li>ソーシャルワークの基盤となる考え方: ソーシャルワークの理念1(当事者主権、尊厳の保持) ソーシャルワークの理念2(権利擁護、自立支援)</li> <li>ソーシャルワークの基盤となる考え方: ソーシャルワークの理念3(ソーシャルインクルージョン、ノーマライゼーション)</li> <li>事例検討(DVD視聴)</li> <li>ソーシャルワークの形成過程1(慈善組織協会、セツルメント運動)</li> <li>ソーシャルワークの形成過程2(医学モデルから生活モデルへ)</li> <li>ソーシャルワークの形成過程3(ソーシャルワークの統合化)</li> <li>ソーシャルワークの形成過程4(日本におけるソーシャルワークの形成過程)</li> <li>まとめ1</li> <li>まとめ2</li> </ol>			

科目名	ソーシャルワークの基盤と専門職 I	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	川端 麗子		
<p>[ 成績評価方法 ] 「試験(70%)、授業中の課題(30%)」</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 授業中に出した課題は次回授業にてフィードバックし、定期試験は試験終了後に解説を行う。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:試験、授業中の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:試験、授業中の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:試験、授業中の課題</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:試験、授業中の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:試験、授業中の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:試験、授業中の課題</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 書籍名:ソーシャルワークの基盤と専門職(共通・社会専門) 著者名:日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集 出版社名:中央法規出版 ISBN:9784805882412</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 書籍名:ソーシャルワーカー 著者名:井手 英策 出版社名:筑摩書房 ISBN:9784480072474</p>			

科目名	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	川端 麗子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他	学生の意見・質問を授業内容に組み込んだ双方向の授業形態 ○	実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <p>①社会福祉士の職域と求められる役割について理解する。  ②ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について理解する。  ③ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について理解する。  ④総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容について理解する。</p> <p>[授業概要]</p> <p>相談援助の全体像を学ぶ中で、ソーシャルワーカーがミクロ・メゾ・マクロ領域で担う役割を学ぶ。それらを踏まえて、ソーシャルワーカーが活躍するさまざまな実践について具体的に学び、自分なりのソーシャルワーカー像を持てるようにする。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回、予習・復習を合わせて2時間程度行うこと。予習では次回の範囲の教科書を読み、復習では配布のレジュメ内容の理解を深めるようにする。授業中に課題を出し、定期的に理解度を確認するため、予復習の習慣を身につけておくこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>オリエンテーション</li> <li>ソーシャルワークの倫理: 専門職倫理の概念</li> <li>ソーシャルワークの倫理: 倫理綱領(ソーシャルワーカーの倫理綱領、社会福祉士の倫理綱領、精神保健福祉士の倫理綱領)、倫理的ジレンマ</li> <li>ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲1: ソーシャルワーク専門職の概念と範囲</li> <li>ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲2: 社会福祉士の職域(行政関係、福祉関係、医療関係、教育関係、司法関係、独立型事務所等、社会福祉士の職域拡大) ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲3: 福祉行政等における専門職(福祉事務所の現業員、査察指導員、社会福祉主事、児童福祉司、身体障害者福祉司、知的障害者福祉司等) ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲4: 民間の施設・組織における専門職(施設長、生活相談員、社会福祉協議会の職員、地域包括支援センターの職員、スクールソーシャルワーカー、医療ソーシャルワーカー等)</li> <li>ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲5: 諸外国の動向(欧米諸国の動向、その他諸外国における動向)</li> <li>ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク (1)ミクロ・メゾ・マクロレベルの意味・対象 (2)ミクロ・メゾ・マクロレベルへの介入・連関性 (3)ミクロ・メゾ・マクロレベルの支援の実際</li> <li>総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容: ジェネラリストの視点に基づく総合的かつ包括的な支援の意義と内容(多機関による包括的支援体制、フォーマル・インフォーマルな社会資源との協働体制、ソーシャルサポートネットワーク)</li> <li>総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容: ジェネラリストの視点に基づく多職種連携及びチームアプローチの意義と内容(多職種連携及びチームアプローチの意義)</li> <li>総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容: ジェネラリストの視点に基づく多職種連携及びチームアプローチの意義と内容(機関・団体間の合意形成と相互関係、利用者、家族の参画)</li> <li>実践事例(学外特別講師)</li> <li>まとめ1</li> <li>まとめ2</li> </ol>			

科目名	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	川端 麗子		
<p>[ 成績評価方法 ] 「試験(70%)、授業中の課題(30%)」</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 授業中に出した課題は次回授業にてフィードバックし、定期試験は試験終了後に解説を行う。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:試験、授業中の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:試験、授業中の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:試験、授業中の課題</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容.:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:試験、授業中の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容.:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:試験、授業中の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容.:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:試験、授業中の課題</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 書籍名:ソーシャルワークの基盤と専門職(共通・社会専門) 著者名:日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集 出版社名:中央法規出版 ISBN:9784805882412</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 書籍名:どうせ社会は変えられないなんてだれが言った? 著者名:井手 英策 出版社名:小学館 ISBN:9784093888196</p>			

科目名	ソーシャルワークの理論と方法(専門) I	前期	2 単位
サブタイトル	相談支援の実際	講義	
担当者	坂本 茉衣子		

[アクティブラーニング授業]

PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○

[到達目標]

精神保健福祉士は従来医療の範疇で遇されてきた精神障害者の社会的復権等が中心的な業務であったが、2010年末の精神保健福祉士法の改正により、業務の範疇をより実践に即した形で広げ、地域での実践に大きくシフトした。これにより地域生活を中心とした支援に法的な根拠が与えられ、精神保健福祉の専門的領域に加えて、地域社会あるいは地域生活を支援するというジェネリックな視点や機能が求められている。よって精神保健福祉士に求められるものは支援力だけではなく人間力、表現力、想像力と多岐にわたる。よって授業では、これまでの精神科医療偏重の制度から地域生活支援へと大きくパラダイムの変換が求められている時代に即応する精神保健福祉士の在り方を学び、その実力を養う。

[授業概要]

精神科病院と地域の指定特定相談支援事業所で現在も実務を行っている精神保健福祉士として、現場の楽しさや、精神保健福祉委領域の課題を現場のリアルな内容を現在学んでいる知識と結びつけるような教育を行う。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

最低限度教科書を各回、予習復習合わせて2時間程度

[授業計画]

1. 前期授業のガイダンス
2. 精神医療保健福祉の歴史
3. 精神医療保健福祉の動向
4. 精神障害者支援の理念～地域での支援を中心に～
5. 精神障害者の人権と人権擁護
6. 精神科リハビリテーションの概念
7. 精神科リハビリテーションの理念
8. 精神科リハビリテーションの構成
9. 精神科リハビリテーションのプロセス～地域におけるリハビリを中心に～
10. 地域におけるリハビリテーション活動の実際①～西宮市地域移行推進事業～
11. 地域におけるリハビリテーション活動の実際②～当事者主体について～
12. コミュニティソーシャルワークにおける多職種連携・協働
13. まとめ

科目名	ソーシャルワークの理論と方法(専門) I	前期	2 単位
サブタイトル	相談支援の実際	講義	
担当者	坂本 茉衣子		

[ 成績評価方法 ]  
授業への取り組み姿勢(授業態度・レポート等)30%、試験70%

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  
レポートは添削して返却するとともに、試験は実施後に解説を実施します。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]  
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。  
成績評価方法:基本的な知識はテストやレポートにて評価するが、講義内でのディスカッションや発表などの主体的に学び周囲と共に高めあっていく力なども授業態度で評価していく。

学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。  
成績評価方法:基本的な知識はテストやレポートにて評価するが、講義内でのディスカッションや発表などの主体的に学び周囲と共に高めあっていく力なども授業態度で評価していく。

学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。  
成績評価方法:基本的な知識はテストやレポートにて評価するが、講義内でのディスカッションや発表などの主体的に学び周囲と共に高めあっていく力なども授業態度で評価していく。

学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。  
成績評価方法:基本的な知識はテストやレポートにて評価するが、講義内でのディスカッションや発表などの主体的に学び周囲と共に高めあっていく力なども授業態度で評価していく。

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  
成績評価方法:基本的な知識はテストやレポートにて評価するが、講義内でのディスカッションや発表などの主体的に学び周囲と共に高めあっていく力なども授業態度で評価していく。

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢  
成績評価方法:基本的な知識はテストやレポートにて評価するが、講義内でのディスカッションや発表などの主体的に学び周囲と共に高めあっていく力なども授業態度で評価していく。

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  
成績評価方法:基本的な知識はテストやレポートにて評価するが、講義内でのディスカッションや発表などの主体的に学び周囲と共に高めあっていく力なども授業態度で評価していく。

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  
成績評価方法:基本的な知識はテストやレポートにて評価するが、講義内でのディスカッションや発表などの主体的に学び周囲と共に高めあっていく力なども授業態度で評価していく。

[ 教科書(ISBN) ]  
書籍名:精神保健福祉の理論と相談援助の展開(1) 第2版(精神保健福祉士シリーズ 5) 著者名:古屋 龍太(編集) 出版社名:福祉臨床シリーズ編集委員会 ISBN:

[ 参考書(ISBN) ]

科目名	ソーシャルワークの理論と方法(専門)Ⅱ	後期	2単位
サブタイトル		講義	
担当者	坂本 茉衣子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <p>精神保健福祉士は従来医療の範疇で遇されてきた精神障害者の社会的復権等が中心的な業務であったが、2010年末の精神保健福祉士法の改正により、業務の範疇をより実践に即した形で広げ、地域での実践に大きくシフトした。これにより地域生活を中心とした支援に法的な根拠が与えられ、精神保健福祉の専門的領域に加えて、地域社会あるいは地域生活を支援するというジェネリックな視点や機能が求められている。よって精神保健福祉士に求められるものは知識はもちろん、想像力、共感力、提言力、人間力とより多くのものが求められる。よって授業では、これまでの精神科医療偏重の制度から地域生活支援へと大きくパラダイムの変換が求められている時代に即応する精神保健福祉士の相談援助活動の在り方を学び、その実力を養う。</p> <p>[授業概要]</p> <p>精神科病院と地域の指定特定相談支援事業所で現在も実務を行っている精神保健福祉士として、現場の実務と学んだことを結びつけながらより深い学びを提供するとともに、精神保健福祉士として備えるべき福祉に対する概念を学生自身によって掘り下げることができる教育を行う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>最低限度教科書の予習復習合わせて2時間程度</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後期授業のガイダンス</li> <li>2. 地域の精神保健福祉士の業務</li> <li>3. 相談支援事業の業務の実際</li> <li>4. 地域移行支援について</li> <li>5. 兵庫県の地域移行支援について</li> <li>6. 地域を基盤としたリハビリテーション</li> <li>7. セルフヘルプ・家族会</li> <li>8. 精神障害者のチームによるケアマネジメント</li> <li>9. 地域を基盤にした支援の具体的展開</li> <li>10. 事例による地域を基盤にした支援の検討</li> <li>11. コミュニティソーシャルワークからみた包括的総合的支援の意義</li> <li>12. 地域生活を支援する包括的支援の意義と展開</li> <li>13. まとめ</li> </ol>			

科目名	ソーシャルワークの理論と方法(専門)Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	坂本 茉衣子		
<p>[ 成績評価方法 ] 授業への取り組み姿勢(授業態度/レポート等)30%、試験70%</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] レポートは添削して返却するとともに、試験は実施後に解説を実施します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:基本的な知識はテストやレポートにて評価するが、講義内でのディスカッションや発表などの主体的に学び周囲と共に高めあっていく力なども授業態度で評価していく。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:基本的な知識はテストやレポートにて評価するが、講義内でのディスカッションや発表などの主体的に学び周囲と共に高めあっていく力なども授業態度で評価していく。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:基本的な知識はテストやレポートにて評価するが、講義内でのディスカッションや発表などの主体的に学び周囲と共に高めあっていく力なども授業態度で評価していく。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:基本的な知識はテストやレポートにて評価するが、講義内でのディスカッションや発表などの主体的に学び周囲と共に高めあっていく力なども授業態度で評価していく。</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:基本的な知識はテストやレポートにて評価するが、講義内でのディスカッションや発表などの主体的に学び周囲と共に高めあっていく力なども授業態度で評価していく。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:基本的な知識はテストやレポートにて評価するが、講義内でのディスカッションや発表などの主体的に学び周囲と共に高めあっていく力なども授業態度で評価していく。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:基本的な知識はテストやレポートにて評価するが、講義内でのディスカッションや発表などの主体的に学び周囲と共に高めあっていく力なども授業態度で評価していく。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:基本的な知識はテストやレポートにて評価するが、講義内でのディスカッションや発表などの主体的に学び周囲と共に高めあっていく力なども授業態度で評価していく。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 書籍名:精神保健福祉の理論と相談援助の展開(1) 第2版(精神保健福祉士シリーズ 5) 著者名:古屋 龍太(編集) 出版社名:福祉臨床シリーズ編集委員会(編集) ISBN:</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	ソーシャルワークの理論と方法 I	前期	2 単位
サブタイトル	人と環境の交互作用に関する理論とソーシャルワークの展開過程	講義	
担当者	徳山 磨貴		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <p>①人と環境の交互作用に関する理論を理解する  ②ソーシャルワークの過程(援助プロセス)について理解する  ③ソーシャルワーカーとして考え、行動する際の「よりどころ」となる視点が持てるようになる  ④前期終了の頃には、一連の援助プロセスに沿って自分なりの支援計画を立てることができるようになる</p> <p>[授業概要]</p> <p>ソーシャルワーカーの強みである「人とその環境が交互に作用している状況に焦点を当てる」という視点の根拠となる理論的知識について学ぶ。それらをふまえて、「ケースの発見」「エンゲージメント」「アセスメント」「プランニング」「支援の実施」「モニタリング」「支援の終結」「結果評価」「アフターケア」というソーシャルワークの展開過程(援助プロセス)について学ぶ。担当教員の医療ソーシャルワーカーとしての実践経験をふまえ、事例を多く取り入れながら、理論や援助プロセスに対する理解が深められるよう講義を進めていく。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回、予習・復習合わせて4時間程度の学習を行うこと。予習は、提示された次回の範囲の教科書を読んでおくこと。復習は、講義で使用したパワーポイント資料や教科書を見直し、理解を深めた上で、授業内に毎回提示する課題に取り組み、期日までに提出を行うこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.ソーシャルワーカーが学ぶ理論</li> <li>2.システム理論、生態学理論</li> <li>3.バイオ・サイコ・ソーシャルモデル、マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク</li> <li>4.ソーシャルワークの過程(ケースの発見とエンゲージメント)</li> <li>5.ソーシャルワークの過程(アセスメントの意義と目的)</li> <li>6.ソーシャルワークの過程(アセスメントの方法、アセスメントの留意点)</li> <li>7.ソーシャルワークの過程(プランニングの意義と目的)</li> <li>8.ソーシャルワークの過程(プランニングのプロセスと方法、プランニングの留意点)</li> <li>9.ソーシャルワークの過程(支援の実施とモニタリング)</li> <li>10.ソーシャルワークの過程(効果測定)</li> <li>11.ソーシャルワークの過程(支援の終結)</li> <li>12.ソーシャルワークの過程(支援の結果評価とアフターケア)</li> <li>13.前期講義内容のふりかえり、質疑応答</li> </ol>			

科目名	ソーシャルワークの理論と方法 I	前期	2 単位
サブタイトル	人と環境の交互作用に関する理論とソーシャルワークの展開過程	講義	
担当者	徳山 磨貴		

[ 成績評価方法 ]

毎回の授業課題(60%)、前期の最終レポート(40%)から総合的に評価する。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

毎回の授業課題は、締め切り後に採点をし、次回授業内で解説を行う。最終レポートについても採点、評価を行った後に、解説を掲載する。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。

成績評価方法:授業内課題と最終レポート

学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。

成績評価方法:授業内課題と最終レポート

学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。

成績評価方法:授業内課題と最終レポート

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢

成績評価方法:授業内課題と最終レポート

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢

成績評価方法:授業内課題と最終レポート

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢

成績評価方法:授業内課題と最終レポート

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法:授業内課題と最終レポート

[ 教科書(ISBN) ]

書籍名:ソーシャルワークの理論と方法[共通科目] 著者名:日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集 出版社名:中央法規出版 ISBN:9784805882429

[ 参考書(ISBN) ]

科目名	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ		後期	2 単位
サブタイトル			講義	
担当者	植戸 貴子			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○	
ディスカッション・ディベート		グループワーク		
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業	○	
<p>[到達目標]</p> <p>本科目の目的・ねらいは、①ソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について理解する、②コミュニティワークの概念とその展開について理解する、③ソーシャルワークにおけるスーパービジョンについて理解する、の3点である。</p> <p>到達目標は、①ソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について理解できる、②ソーシャルワークの記録の意義・目的・方法・実際に理解できる、③ケアマネジメントの原則・意義・方法について理解できる、④集団を活用した支援の意義・目的・原則・展開過程やセルフヘルプグループの支援について理解できる、⑤コミュニティワークの意義・目的・展開について理解できる、⑥スーパービジョンとコンサルテーションの意義・目的・方法について理解できる、の6点である。</p> <p>[授業概要]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について学ぶ(ケースの発見、インテーク、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング、支援の終結と事後評価、アフターケア)。</li> <li>2. ソーシャルワークの記録の意義・目的・方法・実際に理解できる。</li> <li>3. ケアマネジメントの原則・意義・方法について学ぶ。</li> <li>4. 集団を活用した支援(グループワーク)の意義・目的・原則・展開過程、およびセルフヘルプグループについて学ぶ。</li> <li>5. コミュニティワークの意義・目的・展開について学ぶ。</li> <li>6. スーパービジョン及びコンサルテーションの意義・目的・方法について学ぶ。</li> </ol> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回、予習復習合わせて4時間程度の主体的な学修を行うこと。具体的には、前回の授業内容や小テストを復習し理解するとともに、次回の授業の予習をしておくこと。また文学やドキュメントなどを通して人間の生き方への関心を高めておくこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ソーシャルワークの過程</li> <li>2. ソーシャルワークの実践モデル: 治療モデル・ストレングスモデル・生活モデル</li> <li>3. ソーシャルワークのアプローチ: 心理社会的アプローチ・機能的アプローチ・問題解決アプローチ・課題中心アプローチ・行動変容アプローチ</li> <li>4. ソーシャルワークのアプローチ: 認知アプローチ・危機介入アプローチ・エンパワメントアプローチ・ナラティブアプローチ・解決志向アプローチ・その他のアプローチ</li> <li>5. ソーシャルワークの面接</li> <li>6. ソーシャルワークの記録</li> <li>7. ケア(ケース)マネジメント</li> <li>8. 集団を活用した支援</li> <li>9. コミュニティワーク</li> <li>10. ソーシャルアドミニストレーション</li> <li>11. ソーシャルアクション</li> <li>12. スーパービジョンとコンサルテーション</li> <li>13. まとめ</li> </ol>				

科目名	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	植戸 貴子		
<p>[ 成績評価方法 ] 試験(70%)、小テストおよびレポート課題(20%)、授業への取り組み(10%)で評価。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 小テストおよびレポート課題の評価は、翌週の授業でフィードバックする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:小テスト・試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:試験</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業への取り組み・試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業への取り組み・試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:小テスト・試験</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 書籍名:ソーシャルワークの理論と方法[共通科目] 著者名:日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集 出版社名:中央法規出版 ISBN:9784805882429</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ		前期	2 単位
サブタイトル			講義	
担当者	植戸 貴子			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○	
ディスカッション・ディベート		グループワーク		
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業	○	
<p>[到達目標]</p> <p>「ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ・Ⅱ」及び「ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ・Ⅱ」で学んだことを踏まえて、ソーシャルワークに関する理論と方法の理解を深めることを目指す。</p> <p>①ソーシャルワークにおける援助関係の形成の意義・概念・形成方法・面接技法・アウトリーチについて理解できる。</p> <p>②ソーシャルワークにおける社会資源の活用・調整・開発およびソーシャルアクションについて理解できる。</p> <p>③ネットワークの形成(ネットワーキングとコーディネーション)について理解できる。</p> <p>④ソーシャルワークに関連する方法(ネゴシエーション、ファシリテーション、プレゼンテーション)及びケースカンファレンスについて理解できる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>1. ソーシャルワークにおける援助関係の形成(援助関係の意義と概念および形成方法、面接技術、アウトリーチ)について学ぶ。</p> <p>2. ソーシャルワークにおける社会資源の活用・調整・開発およびソーシャルアクションについて学ぶ。</p> <p>3. ネットワークの形成(ネットワーキングとコーディネーション)について学ぶ。</p> <p>4. ソーシャルワークに関連する方法(ネゴシエーション、ファシリテーション、プレゼンテーション)およびケースカンファレンスについて学ぶ。</p> <p>毎回の授業では、担当教員の障害者施設や高齢者施設でのソーシャルワーカーとしての実践経験や福祉援助職へのスーパービジョン経験などを活かして、ソーシャルワーク実践に求められる価値・倫理、専門的知識、専門的技術について、具体的な事例等を紹介しながら実践的に理解できるような授業を展開する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回、予習復習合わせて4時間程度の主体的な学修を行うこと。具体的には、前回の授業内容や小テストを復習し理解するとともに、次回の授業の予習をしておくこと。また文学やドキュメントなどを通して人間の生き方への関心を高めておくこと。</p> <p>[授業計画]</p> <p>1. 援助関係の意義と概念:ソーシャルワーカーとクライアントシステムの関係</p> <p>2. 援助関係の形成方法:自己覚知と他者理解、コミュニケーションとラポール</p> <p>3. 面接技術:面接の意義・目的・方法・留意点及び面接の場面・構造と面接の技法</p> <p>4. アウトリーチ:アウトリーチの意義・目的・方法・留意点、アウトリーチを必要とする対象、ニーズの掘り起こし</p> <p>5. 社会資源の活用・調整・開発:社会資源の活用・調整・開発の意義、目的、方法、留意点</p> <p>6. 社会資源の活用・調整・開発:ニーズの集約・提言・計画策定・実施・評価</p> <p>7. ソーシャルアクション:ソーシャルアクションの意義・目的・方法・留意点</p> <p>8. ネットワーキング:ネットワーキングの意義・目的・方法・留意点、セーフティネットの構築とネットワーキング及び家族・住民・サービス提供者間のネットワーキング</p> <p>9. ネットワーキング:重層的な範囲(ミクロ・メゾ・マクロ)におけるネットワーキング、多様な分野の支援機関とのネットワーキング</p> <p>10. コーディネーション:コーディネーションの意義・目的・方法・留意点</p> <p>11. ソーシャルワークに関連する方法:ネゴシエーション、ファシリテーション、プレゼンテーションの意義・目的・方法・留意点</p> <p>12. ケースカンファレンス:ケースカンファレンスの意義・目的・留意点・運営と展開</p> <p>13. まとめ</p>				

科目名	ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	植戸 貴子		
<p>[ 成績評価方法 ] 試験(70%)、小テストおよびレポート課題(20%)、授業への取り組み(10%)で評価。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 小テストおよびレポート課題の評価は、翌週の授業において解答解説等によってフィードバックする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:授業への取り組み</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:試験</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業への取り組み</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:試験</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 書籍名:ソーシャルワークの理論と方法(社会専門) 著者名:日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集 出版社名:中央法規出版 ISBN:9784805882498</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ		前期	2 単位
サブタイトル			講義	
担当者	植戸 貴子			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○	
ディスカッション・ディベート		グループワーク		
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業	○	
<p>[到達目標]</p> <p>「ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ・Ⅱ」及び「ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ・Ⅱ」で学んだことを踏まえて、ソーシャルワークに関する理論と方法の理解を深め、本科目で修得したことを実践的に応用できるようになることを目指す。</p> <p>①事例分析・事例検討・事例研究の意義・目的・方法・留意点が理解できる。</p> <p>②ソーシャルワークにおける総合的包括的な支援の必要性や考え方が理解できる。</p> <p>③ソーシャルワークにおける家族支援や地域支援の実際について理解できる。</p> <p>④ソーシャルワークにおける非常時や災害時支援の必要性や実際について理解できる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>1. 事例分析(事例分析、事例検討及び事例研究)について学ぶ。</p> <p>2. ソーシャルワークにおける総合的かつ包括的な支援の実際(総合的かつ包括的な支援の考え方、家族支援の実際、地域支援の実際、非常時や災害時支援の実際等)について学ぶ。</p> <p>毎回の授業では、担当教員の障害者施設や高齢者施設でのソーシャルワーカーとしての実践経験や福祉援助職へのスーパービジョン経験などを活かして、ソーシャルワーク実践に求められる価値・倫理、専門的知識、専門的技術について、具体的な事例等を紹介しながら実践的に理解できるような授業を展開する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回、予習復習合わせて4時間程度の主体的な学習を行うこと。具体的には、前回の授業内容や小テストを復習し理解するとともに、次回の授業の予習をしておくこと。また文学やドキュメントなどを通して人間の生き方への関心を高めておくこと。</p> <p>[授業計画]</p> <p>1. 事例分析:事例分析の意義・目的</p> <p>2. 事例検討・事例研究:事例検討及び事例研究の意義・目的・方法・留意点</p> <p>3. 総合的かつ包括的な支援の考え方:多様化、複雑化した生活課題への対応</p> <p>4. 総合的かつ包括的な支援の考え方:今日的な地域福祉課題への対応</p> <p>5. 総合的かつ包括的な支援の考え方:分野、領域を横断する支援</p> <p>6. 家族支援の実際:家族が抱える複合的な生活課題</p> <p>7. 家族支援の実際:家族支援の目的・方法・留意点</p> <p>8. 地域支援の実際:地域が抱える課題</p> <p>9. 地域支援の実際:多機関協働</p> <p>10. 地域支援の実際:地域住民との協働</p> <p>11. 地域支援の実際:地域アセスメント</p> <p>12. 非常時や災害時支援の実際:非常時や災害時の生活課題と支援の目的・方法・留意点</p> <p>13. まとめ</p>				

科目名	ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	植戸 貴子		
<p>[ 成績評価方法 ] 試験(70%)、小テストおよびレポート課題(20%)、授業への取り組み(10%)で評価。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 小テストおよびレポート課題の評価は、翌週の授業において解答解説等によってフィードバックする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:授業への取り組み・試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:授業への取り組み・試験</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:授業への取り組み・試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:小テスト・試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:試験</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 書籍名:ソーシャルワークの理論と方法(社会専門) 著者名:日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集 出版社名:中央法規出版 ISBN:9784805882498</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル	ソーシャルワークにおけるエンパワメント	演習	
担当者	植戸 貴子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>3回生の「専門演習Ⅰ・Ⅱ」において修得した各自の問題意識を卒業論文として完成させる。</li> <li>各自の研究テーマを授業内で分かち合い、意見交換することを通して、他の学生の研究テーマについても問題意識を持ち、知識を深めるとともに、多面的・総合的な考察力を培う。</li> <li>卒業論文作成のための現地調査及び文献研究、資料の分析、執筆の方法などを、グループ指導及び個別指導を通して学ぶ。</li> <li>教員による個別指導を通して、卒業論文のテーマに関する自分の考えを深め、視野を広げる。</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>教員によるグループ指導及び個別指導とする。</p> <p>毎回の授業では、担当教員の障害者施設や高齢者施設でのソーシャルワーカーとしての実践経験や福祉援助職へのスーパービジョン経験などを活かして、ソーシャルワーカーに求められる価値・倫理、専門的知識、専門的技術について、具体的な事例等を紹介しながら実践的に理解できるような授業を展開する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回、予習復習合わせて2時間程度の主体的な学修を行うこと。具体的には、社会福祉に関する自分の問題意識を明確に持ち、日常的にそれを探究するための自己学習を行うとともに、読解力・文章構成力の向上に努めること。</p> <p>[授業計画]</p> <p><b>【前期】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>オリエンテーション</li> <li>卒業論文のテーマ設定に関する指導</li> <li>卒業論文の作成プロセスに関する指導</li> <li>論文のスタイルに関する指導</li> <li>卒業論文の執筆要領に関する指導</li> <li>文献の探し方に関する指導</li> <li>統計資料の読み方に関する指導</li> <li>アンケート調査に関する指導</li> <li>聞き取り調査に関する指導</li> <li>卒業論文のテーマに関する発表に向けての指導</li> <li>各自の卒業論文のテーマに関する発表に向けての指導①</li> <li>各自の卒業論文のテーマに関する発表に向けての指導②</li> <li>各自の卒業論文作成作業に関する指導</li> </ol> <p><b>【後期】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>オリエンテーション</li> <li>各自の卒業論文作成の指導①</li> <li>各自の卒業論文作成の指導②</li> <li>各自の卒業論文作成の指導③</li> <li>各自の卒業論文作成の指導④</li> <li>各自の卒業論文作成の指導⑤</li> <li>各自の卒業論文作成の指導⑥</li> <li>卒業論文発表会の発表資料作成に関する指導</li> <li>卒業論文発表会の発表資料作成の指導①</li> <li>卒業論文発表会の発表資料作成の指導②</li> <li>卒業論文発表会の準備に関する指導</li> <li>卒業論文発表会①</li> <li>卒業論文発表会②</li> </ol>			

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル	ソーシャルワークにおけるエンパワメント	演習	
担当者	植戸 貴子		
<p>[ 成績評価方法 ] 卒業論文 (50%)、研究プロセス (30%)、発表 (20%) で評価。</p> <p>[ 課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法 ] 卒業論文作成に向けた取り組みの評価は、その場で、または翌週の授業でフィードバックする。卒業論文の内容についての評価は、個別指導においてフィードバックする。卒業論文の発表の評価は、卒論発表会の場でフィードバックする。</p> <p>[ オフィスアワー (質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP) ]</p> <p>学科DP番号 / DP内容: 福祉1-1 / 多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法: 卒業論文の内容・発表</p> <p>学科DP番号 / DP内容: 福祉2-1 / 家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法: 卒業論文の内容・研究のプロセス・発表</p> <p>学科DP番号 / DP内容: 福祉2-3 / 福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法: 発表</p> <p>学科DP番号 / DP内容: 福祉3-1 / 家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法: 研究プロセス・発表</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等 / 資質・能力等の内容: 主体性 / 自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 研究プロセス</p> <p>教育目標が示す資質・能力等 / 資質・能力等の内容: 表現力 / 自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 研究プロセス・卒業論文の内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等 / 資質・能力等の内容: 論理的思考力 / 筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 研究プロセス・卒業論文の内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等 / 資質・能力等の内容: 計画・実行力 / 課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 研究プロセス</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ]</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ]</p>			

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル		演習	
担当者	下司 実奈		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]  深めたいテーマについて過去の経験と学習した内容を踏まえ、新たな情報収集を行い、分析・考察して4年間の集大成とする。</p> <p>[ 授業概要 ]  1. 研究テーマの決定  2. 先行文献検索  3. 調査・観察・記録等資料収集  4. 論文執筆</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]  各自のテーマに基づいて資料を集め読む。</p> <p>[ 授業計画 ]  1. 研究テーマの決定  2. 研究テーマの決定  3. 先行文献検索  4. 先行文献検索  5. 先行文献検索  6. 先行文献検索  7. 調査・観察・記録等資料収集  8. 調査・観察・記録等資料収集  9. 調査・観察・記録等資料収集  10. 論文執筆  11. 論文執筆  12. 論文執筆  13. 論文執筆  14. 論文執筆  15. 考察  16. 考察  17. 考察  18. 考察  19. 考察  20. 振り返り  21. 資料整理  22. 発表会資料作成  23. 発表会資料作成  24. リハーサル  25. 反省  26. まとめ</p>			

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル		演習	
担当者	下司 実奈		
<p>[ 成績評価方法 ]  受講態度(30%)  論文(70%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  個別に面談にてフィードバックする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。  成績評価方法:受講態度 論文</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。  成績評価方法:受講態度 論文</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。  成績評価方法:受講態度 論文</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。  成績評価方法:受講態度 論文</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:受講態度 論文</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法:受講態度 論文</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:受講態度 論文</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  成績評価方法:受講態度 論文</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル	社会政策と社会福祉	演習	
担当者	清水 弥生		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>専門演習Ⅱで習得した知識、課題を調べ学習、思考を深める力を発展させ、卒業論文を完成させることができる。 ゼミ生個人の研究内容をゼミで発表し、討論することによって、自分の研究課題を客観的に捉え、幅広い視野をもち科学的論理的に議論する力を身につける。</p> <p>[授業概要]</p> <p>3年生の社会福祉演習Ⅱで明確化された各自の研究課題について</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文献・資料を検索、収集、もしくは調査、分析する中で、いくつかの課題を設定する。</li> <li>2. 研究計画、研究方法等について助言・指導を受ける。</li> <li>3. それらの課題について調べ、考察した結果をゼミで発表し、討論していく。</li> <li>4. 論文構成、論文執筆の方法等について助言・指導を受ける。</li> <li>5. その結果を卒業論文として完成させる。</li> </ol> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>日常的な読書習慣をつけておく。前年の社会福祉演習で絞ったテーマについて幅広く文献を読み込み、研究対象について調べておく。各回、2時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 卒業論文のテーマ設定について</li> <li>3. 論文執筆の方法について</li> <li>4. 文献・資料検索の方法と指導</li> <li>5. 定性的調査・定量的調査について</li> <li>6. 研究計画について指導①</li> <li>7. 研究計画について指導②</li> <li>8. 論文構成について①</li> <li>9. 論文構成について②</li> <li>10. 中間発表とディスカッション①</li> <li>11. 中間発表とディスカッション②</li> <li>12. 中間発表とディスカッション③</li> <li>13. 前期のまとめ</li> <li>14. 研究・執筆活動の確認①</li> <li>15. 研究・執筆活動の確認②</li> <li>16. 卒業論文提出に向けての指導①</li> <li>17. 卒業論文提出に向けての指導②</li> <li>18. 卒業論文提出に向けての指導③</li> <li>19. 卒業論文提出に向けての指導④</li> <li>20. 卒業論文提出に向けての指導⑤</li> <li>21. 卒業論文提出に向けての指導⑥</li> <li>22. 卒業論文提出前最終確認</li> <li>23. 卒業論文発表会の準備①レジュメ作成</li> <li>24. 卒業論文発表会の準備②予備練習</li> <li>25. 卒業論文発表会</li> <li>26. 1年間のまとめ</li> </ol>			

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル	社会政策と社会福祉	演習	
担当者	清水 弥生		

[ 成績評価方法 ]

研究プロセス(30%)、発表(20%)、卒業論文(50%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

論文執筆中は授業内で、完成後は評価して返却する。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。

成績評価方法:研究プロセス、発表、卒業論文

学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。

成績評価方法:研究プロセス、発表、卒業論文

学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。

成績評価方法:研究プロセス、発表、卒業論文

学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。

成績評価方法:研究プロセス、発表、卒業論文

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢

成績評価方法:研究プロセス、発表、卒業論文

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢

成績評価方法:研究プロセス、発表、卒業論文

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法:研究プロセス、発表、卒業論文

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力

成績評価方法:研究プロセス、発表、卒業論文

[ 教科書(ISBN) ]

[ 参考書(ISBN) ]

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル		演習	
担当者	曾田 里美		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[ 到達目標 ]  各自のテーマで調査研究し、論文にまとめることができる。作成途中で研究内容について発表することを通してプレゼンテーションできるようになる。</p> <p>[ 授業概要 ]  3回生の「基礎演習」での学習内容に基づいて、各自が問題意識をもったテーマについて卒業論文を作成します。各自が研究内容についてレジメを作成して発表し、メンバー間でディスカッションを行います。その過程のなかで、お互いのテーマを通して、子どもをとりまくさまざまな問題についてその実情や支援のあり方を一緒に考察します。  授業の中で、子どもやその家族との関わり、関係機関との連携などのあり方など担当教員が児童福祉施設での実践経験から得た知見を伝えていきます。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]  各回の講義について予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4時間程度)  日頃から授業や自身の研究テーマに関するニュース等に関心を持ち、著書、論文を読み、卒論作成に活かすようにしてください。</p> <p>[ 授業計画 ]  &lt;前期&gt;  1. 卒業論文を書くために  2. テーマの発表  3. 研究計画書の作成  4. 研究計画書の発表  5. 研究計画書の発表  6. 研究計画書の発表  7. 文献検索、資料収集  8. 文献検索、資料収集  9. 研究活動の報告・発表  10. 研究活動の報告・発表  11. 研究活動の報告・発表  12. 卒業論文の書き方  13. 夏休みの課題の確認  &lt;後期&gt;  14. 論文作成の中間発表  15. 論文作成の中間発表  16. 論文作成の中間発表  17. 各自の論文の考察  18. 各自の論文の考察  19. 各自の論文の考察  20. 各自の論文の考察  21. 論文の要旨作成  22. 論文の要旨作成  23. 卒業論文発表会の準備  24. 卒業論文発表会  25. 卒業論文発表会  26. まとめ</p>			

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル		演習	
担当者	曾田 里美		
<p>[ 成績評価方法 ] 卒業論文 (50%)、研究プロセス (30%)、発表 (20%)</p> <p>[ 課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法 ] 卒業論文は1章ごとに提出し、後日添削して返却します。</p> <p>[ オフィスアワー (質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP) ]</p> <p>学科DP番号 / DP内容: 福祉1-1 / 多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法: 卒業論文、ゼミや発表会でのプレゼンテーション、授業等でのディスカッション</p> <p>学科DP番号 / DP内容: 福祉2-1 / 家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法: 卒業論文、ゼミや発表会でのプレゼンテーション、授業等でのディスカッション</p> <p>学科DP番号 / DP内容: 福祉2-3 / 福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法: 卒業論文、ゼミや発表会でのプレゼンテーション、授業等でのディスカッション</p> <p>学科DP番号 / DP内容: 福祉3-1 / 家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法: 卒業論文、ゼミや発表会でのプレゼンテーション、授業等でのディスカッション</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等 / 資質・能力等の内容: 主体性 / 自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 卒業論文、ゼミや発表会でのプレゼンテーション、授業等でのディスカッション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等 / 資質・能力等の内容: 表現力 / 自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 卒業論文、ゼミや発表会でのプレゼンテーション、授業等でのディスカッション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等 / 資質・能力等の内容: 論理的思考力 / 筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 卒業論文、ゼミや発表会でのプレゼンテーション、授業等でのディスカッション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等 / 資質・能力等の内容: 計画・実行力 / 課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 卒業論文、ゼミや発表会でのプレゼンテーション、授業等でのディスカッション</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ]</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ]</p>			

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル		演習	
担当者	木村 あい		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標] 卒業論文作成を通し、社会福祉専門職として必要となる価値・知識・技術に対する総合的な理解の深化を図る。</p> <p>[授業概要] ・各自設定した卒論テーマに沿って、卒論作成、完成をめざす。 ・教員によるグループ指導及び個別指導を行う。 ・定期的にグループ討議をおこない、卒業論文作成を通して各学生が得た専門知識等について、情報交換、情報共有の場を設ける。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 前回の授業内容について復習をおこなうとともに、指示された課題についてしっかりと取り組みましょう。 各回について予習復習を2時間程度行ってください。</p> <p>[授業計画] 1. オリエンテーション 2. 卒業論文作成にあたって 3. 論文作成指導 4. 論文作成指導 5. 論文作成指導 6. 論文作成指導 7. 論文作成指導 8. 論文作成指導 9. 中間発表会(1) 10. 中間発表会(2) 11. 中間発表会(3) 12. 論文内容の振り返り 13. 前期のまとめ 14. 研究活動の報告・発表(1) 15. 研究活動の報告・発表(2) 16. 論文作成指導 17. 論文作成指導 18. 論文作成指導 19. 論文作成指導 20. 論文作成指導 21. 論文作成指導 22. 卒業論文発表会資料作成 23. 卒業論文発表会発表準備 24. 卒業論文発表会発表準備 25. 卒業論文発表会 26. 卒業論文発表会</p>			

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル		演習	
担当者	木村 あい		
<p>[ 成績評価方法 ] 卒業論文 (50%)、研究プロセス (30%)、発表 (20%)</p> <p>[ 課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法 ] 適宜、学んだこと、各自でまとめたことを文章化して提出してもらいます。 確認後、内容等について検討、相互に検証します。</p> <p>[ オフィスアワー (質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP) ]</p> <p>学科DP番号／DP内容: 福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法: 卒業論文への取り組み、卒業論文、プレゼンテーション</p> <p>学科DP番号／DP内容: 福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法: 卒業論文への取り組み、卒業論文、プレゼンテーション</p> <p>学科DP番号／DP内容: 福祉2-3／福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法: 卒業論文への取り組み、卒業論文、プレゼンテーション</p> <p>学科DP番号／DP内容: 福祉3-1／家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法: 卒業論文への取り組み、卒業論文、プレゼンテーション</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 卒業論文への取り組み、卒業論文、プレゼンテーション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 卒業論文への取り組み、卒業論文、プレゼンテーション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 卒業論文への取り組み、卒業論文、プレゼンテーション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 計画・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 卒業論文への取り組み、卒業論文、プレゼンテーション</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ]</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ]</p>			

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル	卒業研究	演習	
担当者	津田 理恵子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <p>専門演習で深めた知識をもとに、各自の深めたいテーマで卒業研究に取り組み、論文にまとめ4年間の集大成として提出期限内に卒業論文を完成させる。 卒業論文発表に向けて、プレゼンテーション能力を身につける。</p> <p>[授業概要]</p> <p>回想法を活用した研究に取り組み、ケアマネージャーや看護師として病院や介護保険事業所で勤務したことがある教員が、現場での経験を踏まえ、社会福祉全般において学生が興味を抱いたテーマに沿った卒業研究に取り組むことを指導します。 卒業論文に取り組む過程において、ゼミ内で自らの研究課題について発表し、意見交換を通して研究内容を深め、研究テーマに関する文献検索をしポイントを整理し、研究方法(調査・実践・文献など)を決定し、それぞれが決定した方法にそって卒業研究に取り組みます。 その過程において、論文執筆の助言・指導や、卒業論文発表に向けた準備を指導します。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>社会福祉を取り巻く課題に興味を持ち、興味がある文献を読むなど、各回において2時間は卒業研究にむけた予習・復習に取り組むこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 卒業研究の進め方</li> <li>3. 研究方法について</li> <li>4. 卒業研究テーマの設定</li> <li>5. 研究計画書の作成</li> <li>6. 文献検索</li> <li>7. 卒業生との交流</li> <li>8. 文献・資料の整理</li> <li>9. 研究活動</li> <li>10. 研究活動・文献リスト作成</li> <li>11. 研究活動・章立て</li> <li>12. 研究活動・序論作成</li> <li>13. 研究活動・グループディスカッション</li> <li>14. 夏休みの課題の確認</li> <li>15. 卒業論文本文作成</li> <li>16. 他学年との交流</li> <li>17. 中間発表</li> <li>18. ディスカッション</li> <li>19. 卒業論文作成・目次・表紙</li> <li>20. パワーポイント作成</li> <li>21. 論文要旨・資料作成</li> <li>22. 卒業論文発表会の準備</li> <li>23. 発表抄録・原稿作成</li> <li>24. 発表練習</li> <li>25. 卒業論文発表会</li> <li>26. グループワーク・まとめ</li> </ol>			

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル	卒業研究	演習	
担当者	津田 理恵子		

[ 成績評価方法 ]

卒業論文(50%)、発表(20%)、研究プロセス(30%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

個別にコメントを返し、面談を適宜実施する。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容: 福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。

成績評価方法: 卒業論文、発表、研究プロセス

学科DP番号/DP内容: 福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。

成績評価方法: 卒業論文、発表、研究プロセス

学科DP番号/DP内容: 福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。

成績評価方法: 卒業論文、発表、研究プロセス

学科DP番号/DP内容: 福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。

成績評価方法: 卒業論文、授業参加度、研究プロセス

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢

成績評価方法: 卒業論文、発表、研究プロセス

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢

成績評価方法: 卒業論文、プレゼンテーション、研究プロセス

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法: 卒業論文、発表、研究プロセス

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力

成績評価方法: 卒業論文、発表、研究プロセス

[ 教科書(ISBN) ]

[ 参考書(ISBN) ]

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル		演習	
担当者	川端 麗子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]          専門演習Ⅱで作成した卒業論文のフレームワークを用いて論文を完成させる。論文作成過程では、ゼミメンバーによるディスカッションを経て、内容を精査させていく。論文では、フィールド調査による成果のまとめなどを踏まえて実践のあり方を提言する。</p> <p>[授業概要]          「専門演習Ⅱ」で取り組んだ内容に基づいて卒業論文を作成する。ゼミのメンバーそれぞれが論文設計についてプレゼンテーションを行い、ディスカッションを行う。          ディスカッションでは「1. フィールド調査で得たオリジナルデータの活用2. リサーチクエストにどのように迫ることができるか」に重きをおく。また、ゼミメンバーの共通テーマである「ソーシャルワーク実践」について議論を深める。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]          計画性をもって、卒業論文に取り組むこと。ゼミでの発表毎に内容をアップデートしておくこと。</p> <p>[授業計画]          1. オリエンテーション          2. フィールド調査の報告          3. フィールド調査の報告          4. フィールド調査の報告          5. フィールド調査の報告          6. アウトラインの発表          7. アウトラインの発表          8. 追加資料収集、フォローアップ調査          9. 追加資料収集、フォローアップ調査          10. 追加資料収集、フォローアップ調査          11. 中間発表とディスカッション          12. 中間発表とディスカッション          13. 中間発表とディスカッション          14. 中間発表とディスカッション          15. 前期のまとめ(遠隔授業)          16. リサーチクエストに対する答えの検証          17. リサーチクエストに対する答えの検証          18. リサーチクエストに対する答えの検証          19. リサーチクエストに対する答えの検証          20. 卒業論文提出に向けての指導          21. 卒業論文提出に向けての指導          22. 卒業論文提出に向けての指導          23. 卒業論文提出に向けての指導          24. 卒業論文提出に向けての指導          25. 卒業論文提出最終確認          26. 卒業論文発表会の準備          27. 卒業論文発表会の準備          28. 卒業論文発表会          29. 卒業論文発表会          30. まとめ</p>			

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル		演習	
担当者	川端 麗子		
<p>[ 成績評価方法 ] 「卒業論文(50%)、研究プロセス(30%)、発表(20%)」</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 課題について、直接指導を行う。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:卒業論文、フィールド調査、ディスカッション</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:卒業論文、フィールド調査、ディスカッション</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:卒業論文、フィールド調査、ディスカッション</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:卒業論文、フィールド調査、ディスカッション</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:卒業論文、フィールド調査、ディスカッション</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:卒業論文、フィールド調査、ディスカッション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:卒業論文、フィールド調査、ディスカッション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:卒業論文</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:卒業論文</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル	地域福祉実践・理論研究	演習	
担当者	渡辺 晴子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	

[到達目標]

1. 「専門演習Ⅰ・Ⅱ」において修得した各自の問題意識を卒業論文として完成させる。
2. 各自の研究テーマを授業内で分かち合い、意見交換することを通して、他の学生の研究テーマについても問題意識を持ち、知識を深めるとともに、多面的・総合的な考察力を培う。
3. 卒業論文作成のための現地調査、文献研究、資料の分析、執筆の方法などを、グループ指導および個別指導を通して学ぶ。
4. 教員による個別指導を通して、卒業論文のテーマに関する自分の考えを深め、視野を広げる。

[授業概要]

教員によるグループ指導および個別指導を通して学ぶ。各自の問題意識を出発点に、地域福祉の視点から、研究テーマに関する実践的・理論的知識を修得し考察を深めるとともに、卒業論文を作成・発表する。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

各回についての予習・復習(2時間程度)

具体的には、社会福祉に関する自分の問題意識を明確に持ち、日常的にそれを探究するための自己学習を行うとともに、読解力・文章構成力の向上に努める。

[授業計画]

【前期】

1. オリエンテーション
2. 卒業論文のテーマ設定に関する指導
3. 卒業論文の作成プロセスに関する指導
4. 論文のスタイルに関する指導
5. 卒業論文の執筆要領に関する指導
6. 文献の探し方に関する指導
7. 統計資料の読み方に関する指導
8. アンケート調査に関する指導
9. インタビュー調査に関する指導
10. 卒業論文のテーマに関する発表に向けての指導
11. 各自の卒業論文のテーマに関する発表に向けての指導①
12. 各自の卒業論文のテーマに関する発表に向けての指導②
13. 各自の卒業論文作成作業に関する指導

【後期】

1. オリエンテーション
2. 各自の卒業論文作成の指導①
3. 各自の卒業論文作成の指導②
4. 各自の卒業論文作成の指導③
5. 各自の卒業論文作成の指導④
6. 各自の卒業論文作成の指導⑤
7. 各自の卒業論文作成の指導⑥
8. 卒業論文発表会の発表資料作成に関する指導
9. 卒業論文発表会の発表資料作成の指導①
10. 卒業論文発表会の発表資料作成の指導②
11. 卒業論文発表会の準備に関する指導
12. 卒業論文発表会①
13. 卒業論文発表会②

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル	地域福祉実践・理論研究	演習	
担当者	渡辺 晴子		

[ 成績評価方法 ]

卒業論文の内容(50%)、研究プロセス(30%)、発表(20%)により総合的に評価する。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

卒業論文作成に向けた取り組みの評価は、その場で、または翌週の授業でフィードバックする。卒業論文の内容についての評価は、個別指導においてフィードバックする。卒業論文の発表の評価は、卒論発表会の場でフィードバックする。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。

成績評価方法:卒業論文の内容・研究プロセス・発表

学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。

成績評価方法:卒業論文の内容・研究プロセス・発表

学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。

成績評価方法:卒業論文の内容・研究プロセス・発表

学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。

成績評価方法:卒業論文の内容・研究プロセス・発表

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢

成績評価方法:卒業論文の内容・研究プロセス・発表

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢

成績評価方法:卒業論文の内容・研究プロセス・発表

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法:卒業論文の内容・研究プロセス・発表

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力

成績評価方法:卒業論文の内容・研究プロセス・発表

[ 教科書(ISBN) ]

[ 参考書(ISBN) ]

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル	働きやすい福祉・介護労働環境づくり	演習	
担当者	名定 慎也		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門演習ⅠⅡで習得した知識を基に、課題を調べ学習、思考し卒業論文を完成させる。</li> <li>・各自の研究テーマを授業内で共有し、情報・意見交換することで、社会福祉に対する、知識を深めるとともに、複眼的・総合的な考察力を身につける。</li> <li>・研究内容をゼミで発表し、討論することによって、自分の研究課題を客観的に捉え、科学的論理的に議論する力を身につける。</li> <li>・教員による個別指導を通して、卒業論文のテーマに関する自分の考えを深め、視野を広げる。</li> </ul> <p>[授業概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門演習Ⅱで明確化された各自の研究課題について分析考察を行い自分の考えを発表する</li> <li>・文献・資料を検索、収集、調査(フィールドワーク)、分析する中で課題を設定する。</li> <li>・研究計画、研究方法等について助言・指導を受ける。</li> <li>・自分の研究課題について追求し、考察した結果をゼミで発表し、討論し視野を広げる。</li> <li>・卒業論文執筆について助言・指導を受ける。</li> <li>・卒業論文として完成させ発表する。</li> </ul> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>専門演習Ⅱで興味を持った探求すべき課題について、先行研究や文献を幅広く読む。 社会福祉に関する自分の問題意識を明確にし、研究内容に関する学修を行うとともに、文章構成等、論文の書き方について学習しておく。 各回、予習復習合わせて2時間程度の学修を行う。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション(前期)</li> <li>2. 卒業論文のテーマ設定について</li> <li>3. 卒業論文執筆の方法について</li> <li>4. 先行研究・文献・資料検索の方法と指導</li> <li>5. 調査方法について(定性的調査・定量的調査)</li> <li>6. 研究計画について指導①</li> <li>7. 研究計画について指導②</li> <li>8. 論文構成について</li> <li>9. 各自、テーマに関する発表に向けての指導①</li> <li>10. 各自、テーマに関する発表に向けての指導②</li> <li>11. 各自、テーマに関する発表に向けての指導③</li> <li>12. 中間発表とディスカッション</li> <li>13. 前期のまとめ</li> <li>14. オリエンテーション(後期)</li> <li>15. 研究・執筆活動の確認</li> <li>16. 卒業論文作成の指導①</li> <li>17. 卒業論文作成の指導②</li> <li>18. 卒業論文作成の指導③</li> <li>19. 卒業論文作成の指導④</li> <li>20. 卒業論文作成の指導⑤</li> <li>21. 卒業論文作成の指導⑥</li> <li>22. 卒業論文最終確認及び指導</li> <li>23. 卒業論文発表会の抄録集作成</li> <li>24. 卒業論文発表会の予行演習</li> <li>25. 卒業論文発表会</li> <li>26. まとめ</li> </ol>			

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル	働きやすい福祉・介護労働環境づくり	演習	
担当者	名定 慎也		

[ 成績評価方法 ]

論文(50%)、研究プロセス(30%)、発表(20%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

卒業論文執筆中は授業内もしくは個別指導にてフィードバックする。  
卒業論文は発表後講評する。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。

成績評価方法:論文、研究プロセス、発表

学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。

成績評価方法:論文、研究プロセス、発表

学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。

成績評価方法:論文、研究プロセス、発表

学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。

成績評価方法:論文、研究プロセス、発表

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢

成績評価方法:論文、研究プロセス、発表

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢

成績評価方法:論文、研究プロセス、発表

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法:論文、研究プロセス、発表

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力

成績評価方法:論文、研究プロセス、発表

[ 教科書(ISBN) ]

[ 参考書(ISBN) ]

書籍名:適宜紹介 著者名: 出版社名: ISBN:

科目名	地域福祉と包括的支援体制 I	前期	2 単位
サブタイトル	地域共生社会の実現に向けた地域福祉の推進	講義	
担当者	渡辺 晴子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域社会の変化により多様化・複雑化した地域生活課題について説明できる。</li> <li>2. 地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制の考え方と展開について説明できる。</li> <li>3. 地域福祉ガバナンスの考え方、多職種連携・多機関協働の意義と実際について説明できる。</li> <li>4. 地域福祉の基本的な考え方、展開、動向について説明できる。</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>社会福祉士・精神保健福祉士養成カリキュラムの「複合化・複雑化した福祉課題及び包括的な支援を理解する科目」として、地域社会の変化と多様化・複雑化した地域生活課題を出発点に、地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制および地域福祉ガバナンスについて理解を深めるとともに、地域福祉の歴史の変遷、地域福祉の概念と理論、地域福祉の推進主体などの地域福祉の基本的な考え方と展開について学修する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回についての予習・復習(4時間程度)</p> <p>【予習】教科書の指定範囲を熟読し、コミュニケーションカードの課題に取り組む。</p> <p>【復習】授業を振り返り、理解が不十分な点や関心を抱いた点、新たに学修した専門用語などを再確認する。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション／地域社会の概念と理論</li> <li>2. 地域社会の変化と多様化・複雑化した地域生活課題</li> <li>3. 地域包括ケアシステムと生活困窮者自立支援制度の考え方</li> <li>4. 地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制①:法制度</li> <li>5. 地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制②:施策の展開</li> <li>6. 地域福祉ガバナンス</li> <li>7. 多職種連携・多機関協働のしくみ</li> <li>8. 多様な主体との協働</li> <li>9. 地域福祉の歴史</li> <li>10. 地域福祉の概念と理論①:主要な理論</li> <li>11. 地域福祉の概念と理論②:新たな展開</li> <li>12. 地域福祉の推進主体①:地方自治体と民間組織</li> <li>13. まとめ</li> </ol>			

科目名	地域福祉と包括的支援体制 I	前期	2 単位
サブタイトル	地域共生社会の実現に向けた地域福祉の推進	講義	
担当者	渡辺 晴子		
<p>[ 成績評価方法 ]  コミュニケーションカード(30%)、レポート(20%)、試験(50%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  原則、授業内にフィードバックする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。  成績評価方法:コミュニケーションカード、レポート、試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びとの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。  成績評価方法:コミュニケーションカード、レポート、試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。  成績評価方法:コミュニケーションカード、レポート、試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。  成績評価方法:コミュニケーションカード、レポート、試験</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  成績評価方法:コミュニケーションカード、レポート、試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:コミュニケーションカード、レポート、試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:コミュニケーションカード、レポート、試験</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  書籍名:地域福祉と包括的支援体制 著者名:日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集 出版社名:中央法規出版  ISBN:9784805882368</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	地域福祉と包括的支援体制Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	地域福祉を推進する制度とソーシャルワーカーの役割	講義	
担当者	渡辺 晴子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域を基盤としたソーシャルワークおよびソーシャルワーカーの役割について説明できる。</li> <li>2. 災害時における総合的かつ包括的な支援体制およびソーシャルワーカーの役割について説明できる。</li> <li>3. 地域福祉における主体と対象、住民の主体形成について説明できる。</li> <li>4. 福祉計画の意義・種類・策定・運用およびソーシャルワーカーの役割について説明できる。</li> <li>5. 福祉行財政システムおよびソーシャルワーカーの役割について説明できる。</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>社会福祉士・精神保健福祉士養成カリキュラムの「複合化・複雑化した福祉課題及び包括的な支援を理解する科目」として、地域を基盤としたソーシャルワークの方法と展開、災害時における総合的かつ包括的な支援体制をもとに地域福祉の推進について実践的理解を深めるとともに、福祉計画、福祉行財政システムなどの地域福祉の制度やしぐみについて学修する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回についての予習・復習(4時間程度)</p> <p>【予習】教科書の指定範囲を熟読し、コミュニケーションカードの課題に取り組む。</p> <p>【復習】授業を振り返り、理解が不十分な点や関心を抱いた点、新たに学修した専門用語などを再確認する。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション／地域福祉の推進主体②:多様な主体の参画</li> <li>2. 地域を基盤としたソーシャルワークの方法①:概念と理論</li> <li>3. 地域を基盤としたソーシャルワークの方法②:住民の主体形成</li> <li>4. 地域を基盤としたソーシャルワークの展開(事例検討)</li> <li>5. 災害時における総合的かつ包括的な支援体制①:法制度</li> <li>6. 災害時における総合的かつ包括的な支援体制②:支援の展開</li> <li>7. 地域福祉の実践現場から学ぶ(外部講師)</li> <li>8. 福祉計画の意義・種類・策定・運用①:福祉計画の意義・目的と展開</li> <li>9. 福祉計画の意義・種類・策定・運用②:地域福祉計画</li> <li>10. 福祉計画の意義・種類・策定・運用③:福祉計画の策定・実施・評価</li> <li>11. 福祉行財政システム①:国・都道府県・市町村の役割、福祉行政の組織と専門職の役割</li> <li>12. 福祉行財政システム②:福祉における財源</li> <li>13. まとめ</li> </ol>			

科目名	地域福祉と包括的支援体制Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	地域福祉を推進する制度とソーシャルワーカーの役割	講義	
担当者	渡辺 晴子		
<p>[ 成績評価方法 ] コミュニケーションカード(30%)、レポート(20%)、試験(50%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 原則、授業内にフィードバックする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:コミュニケーションカード、レポート、試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:コミュニケーションカード、レポート、試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:コミュニケーションカード、レポート、試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:コミュニケーションカード、レポート、試験</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:コミュニケーションカード、レポート、試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:コミュニケーションカード、レポート、試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:コミュニケーションカード、レポート、試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:コミュニケーションカード、レポート、試験</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 書籍名:地域福祉と包括的支援体制 著者名:日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集 出版社名:中央法規出版 ISBN:9784805882368</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	認知症の理解 I	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	小田 栄子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <p>認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、認知症の人を中心に据え、本人や家族、地域の力を生かした認知症ケアについて理解するための基礎的な知識を習得する。</p> <p>[授業概要]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本の認知症を取り巻く状況を理解する。</li> <li>2. 認知症の医学的・心理的側面の基礎知識を学ぶ。</li> <li>3. 当事者や家族が背負う認知症に伴う生活への影響と認知ケアの重要性を理解する。</li> <li>4. 多職種連携・協働の重要性を理解する。</li> <li>5. 個々の家庭における多様性を理解し、認知症の人を支える家族の支援、課題・家族の受容段階や介護力に応じた支援につなぐ。</li> <li>6. 地域で実際に起こっている様々な事例に基づく支援の展開を学ぶ。</li> </ol> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>以下3点を中心に、各回4時間程度予習復習の学習習慣を身につける。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 新聞やTVなどで高齢者の認知症に関する現状や課題を確認しておく。</li> <li>2. 高齢社会の人口動態、医療費問題、介護問題に関心を持ち、家族や友人と話し合う場を持つ。</li> <li>3. 授業ノートを整理する。</li> </ol> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション 認知症を取り巻く状況と推計を理解できる</li> <li>2. 認知症ケアの歴史や理念を含む、認知症を取り巻く社会的環境について理解する</li> <li>3. 医学的・心理的側面から認知症の原因疾患について 基礎知識 I を学ぶ</li> <li>4. 医学的・心理的側面から認知症の原因疾患について 基礎知識 II を学ぶ</li> <li>5. 認知症の診断方法と基準、認知症になる要因を学ぶ</li> <li>6. 段階に応じた心身の変化や心理症状を理解する</li> <li>7. 中核症状・周辺症状を理解する</li> <li>8. 認知症の心理的理解を深める・心の介護の重要性が理解できる</li> <li>9. 認知症の生活支援を行うための根拠となる知識を理解する</li> <li>10. 当事者ニーズの視点を学ぶ・認知症と環境との関係を理解する</li> <li>11. 認知症の人を中心に据えた認知症ケアの理念と視点を理解する</li> <li>12. 住み慣れた家で暮らすための家族支援と地域力を生かした支援とは</li> <li>13. まとめ 確認テスト</li> </ol>			

科目名	認知症の理解 I	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	小田 栄子		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業への取り組み(30%)、テスト(70%) の総合評価</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  次回授業でコメントする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。  成績評価方法:テスト</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びとの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。  成績評価方法:授業の感想、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。  成績評価方法:授業の感想、レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢  成績評価方法:授業の感想、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:授業の感想、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:授業の感想、レポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  書籍名:認知症の理解 第2版 著者名:介護福祉士養成講座編集委員会 出版社名:中央法規出版 ISBN:9784805884027</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	認知症の理解 I	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	小田 栄子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <p>認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、認知症の人を中心に据え、本人や家族、地域の力を生かした認知症ケアについて理解するための基礎的な知識を習得する。</p> <p>[授業概要]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本の認知症を取り巻く状況を理解する。</li> <li>2. 認知症の医学的・心理的側面の基礎知識を学ぶ。</li> <li>3. 当事者や家族が背負う認知症に伴う生活への影響と認知ケアの重要性を理解する。</li> <li>4. 多職種連携・協働の重要性を理解する。</li> <li>5. 個々の家庭における多様性を理解し、認知症の人を支える家族の支援、課題・家族の受容段階や介護力に応じた支援につなぐ。</li> <li>6. 地域で実際に起こっている様々な事例に基づく支援の展開を学ぶ。</li> </ol> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>以下3点を中心に、各回4時間程度予習復習の学習習慣を身につける。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 新聞やTVなどで高齢者の認知症に関する現状や課題を確認しておく。</li> <li>2. 高齢社会の人口動態、医療費問題、介護問題に関心を持ち、家族や友人と話し合う場を持つ。</li> <li>3. 授業ノートを整理する。</li> </ol> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション 認知症を取り巻く状況と推計を理解できる</li> <li>2. 認知症ケアの歴史や理念を含む、認知症を取り巻く社会的環境について理解する</li> <li>3. 医学的・心理的側面から認知症の原因疾患について 基礎知識 I を学ぶ</li> <li>4. 医学的・心理的側面から認知症の原因疾患について 基礎知識 II を学ぶ</li> <li>5. 認知症の診断方法と基準、認知症になる要因を学ぶ</li> <li>6. 段階に応じた心身の変化や心理症状を理解する</li> <li>7. 中核症状・周辺症状を理解する</li> <li>8. 認知症の心理的理解を深める・心の介護の重要性が理解できる</li> <li>9. 認知症の生活支援を行うための根拠となる知識を理解する</li> <li>10. 当事者ニーズの視点を学ぶ・認知症と環境との関係を理解する</li> <li>11. 認知症の人を中心に据えた認知症ケアの理念と視点を理解する</li> <li>12. 住み慣れた家で暮らすための家族支援と地域力を生かした支援とは</li> <li>13. まとめ 確認テスト</li> </ol>			

科目名	認知症の理解 I	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	小田 栄子		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業への取り組み(30%)、テスト(70%) の総合評価</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  次回授業でコメントする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。  成績評価方法:テスト</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。  成績評価方法:授業の感想、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。  成績評価方法:授業の感想、レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢  成績評価方法:授業の感想、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:授業の感想、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:授業の感想、レポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  書籍名:認知症の理解 第2版 著者名:介護福祉士養成講座編集委員会 出版社名:中央法規出版 ISBN:9784805884027</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	認知症の理解Ⅱ	前期	2 単位
サブタイトル	認知症の人への関わり方について	講義	
担当者	洪 愛子、藤田 冬子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 認知症を取り巻く状況を理解する。</li> <li>2. 認知症の医学的・心理的側面の基礎知識を学ぶ。</li> <li>3. 認知症に伴う生活への影響と認知ケアの重要性を学ぶ。</li> <li>4. 多職種協働・連携の重要性を理解する。</li> <li>5. 認知症の人を支える家族の課題について理解し、家族の受容段階や介護力に応じた支援につなぐ。</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、認知症の人を中心に据え、本人や家族、地域の力を生かした認知症ケアについて理解するための基礎的な知識を習得する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・老人保健施設での実習後、認知症の関わり方について課題を明確にしておく。</li> <li>・パーソンセンタードケアやユマニチュードなど有効な認知症ケアの関わり方を調べておく。</li> </ul> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション 本人主体の理念に基づいた認知症ケアの実践(洪愛子)</li> <li>2. 認知症の人へのかかわり方の基本(特徴的な心理・行動を配慮するためには)(藤田冬子)</li> <li>3. 気持ちの読み取り方を学ぶⅠ 特性を踏まえたアセスメント(藤田冬子)</li> <li>4. 気持ちの読み取り方を学ぶⅡ 本人主体の認知症ケア(藤田冬子)</li> <li>5. 認知症の早期発見・早期治療・早期予防(藤田冬子)</li> <li>6. 認知症の進行・種類に応じた介護アセスメントⅠ(初期・中期)(藤田冬子)</li> <li>7. 認知症の進行・種類に応じた介護アセスメントⅡ(後期・重度)(藤田冬子)</li> <li>8. 認知症の人を地域で支えるサポート体制(藤田冬子)</li> <li>9. 多職種協働・連携による支援・チームケア(藤田冬子)</li> <li>10. 権利擁護と成年後見制度、認知症高齢者の権利を保障する(藤田冬子)</li> <li>11. 家族の力を生かすⅠ 認知症の人の生活及び家族や社会とのかかわりや影響(演習)(藤田冬子)</li> <li>12. 家族の力を生かすⅡ 認知症の人を支える家族の課題(受容段階・介護力)と支援(藤田冬子)</li> <li>13. まとめ(藤田冬子)</li> </ol>			

科目名	認知症の理解Ⅱ	前期	2 単位
サブタイトル	認知症の人への関わり方について	講義	
担当者	洪 愛子、藤田 冬子		

[ 成績評価方法 ]

授業内容の確認課題 50% 確認テスト50%の総合評価

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  
授業中に解説をおこなう。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]  
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。  
成績評価方法:小テスト

学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。  
成績評価方法:小テスト、授業内容の学びを問うアンケート

学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びととも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。  
成績評価方法:小テスト、授業内容の学びを問うアンケート

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  
成績評価方法:小テスト 演習への参加状況、授業内容の学びを問うアンケート

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  
成績評価方法:小テスト 演習への参加状況、授業内容の学びを問うアンケート

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  
成績評価方法:小テスト 授業内容の学びを問うアンケート

[ 教科書 (ISBN) ]

書籍名:最新介護福祉士養成講座13認知症の理解 著者名:介護福祉士養成講座編集委員会 出版社名:中央法規出版  
ISBN:947-4-8058-8402-7

[ 参考書 (ISBN) ]

科目名	発達と老化の理解	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	砂田 貴彦		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間の生涯発達の観点から老年期を理解する。</li> <li>2. 加齢に伴う心と身体の変化について理解する。</li> <li>3. 高齢者に多い疾患について基本的な知識を身につける。</li> <li>4. 健康寿命に対する予防的概念を理解する。</li> <li>5. 健康維持や増進を含めた生活をするための基礎的知識を理解する。</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために、必要な基礎的知識を習得する学習とする。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「こころとからだ」「人体の構造と機能」「生活支援技術」などの授業内容を復習しておく。</li> <li>2. 高齢者支援に必要な根拠となる知識の重要性を確認しておく。</li> </ol> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 人間の成長と発達の基礎的理解</li> <li>3. 人間の発達段階と発達課題</li> <li>4. ライフサイクルの各期(乳幼児期、学童期、思春期、青年期、成人期、老年期)における身体的・心理的・社会的特徴と発達課題について理解する</li> <li>5. 老年期の発達課題と高齢者の心理</li> <li>6. 高齢者の定義・高齢者の生きがい・健康寿命について</li> <li>7. 老化に伴うこころとからだの変化と生活・身体機能・知的機能の変化</li> <li>8. 高齢者の疾患の特徴・高齢者に対するアセスメント・高齢者に多い疾患・生活習慣病</li> <li>9. 脳・神経の疾患・感覚器の疾患・歯・口腔内の疾患</li> <li>10. 骨・運動器系の疾患・消化器系の疾患・呼吸器の疾患</li> <li>11. 腎・泌尿器の疾患・代謝・内分泌系の疾患</li> <li>12. 循環器系・皮膚系疾患・感染症・先天性疾患</li> <li>13. 発達と老化の理解のまとめ</li> </ol>			

科目名	発達と老化の理解	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	砂田 貴彦		
<p>[ 成績評価方法 ]  筆記試験(70%)・レポート(10%)・発表(10%)・授業への取り組み(10%)の総合評価</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  授業内で随時フィードバックを行う。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。  成績評価方法:筆記試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。  成績評価方法:筆記試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。  成績評価方法:課題発表</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。  成績評価方法:グループワーク及び発表</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢  成績評価方法:グループワーク</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:ディスカッション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:筆記試験、レポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  書籍名:発達と老化の理解 第2版 著者名:介護福祉士養成講座編集委員会 出版社名:中央法規出版 ISBN:9784805884010</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	発達と老化の理解	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	砂田 貴彦		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間の生涯発達の観点から老年期を理解する。</li> <li>2. 加齢に伴う心と身体の変化について理解する。</li> <li>3. 高齢者に多い疾患について基本的な知識を身につける。</li> <li>4. 健康寿命に対する予防的概念を理解する。</li> <li>5. 健康維持や増進を含めた生活をするための基礎的知識を理解する。</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために、必要な基礎的知識を習得する学習とする。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「こころとからだ」「人体の構造と機能」「生活支援技術」などの授業内容を復習しておく。</li> <li>2. 高齢者支援に必要な根拠となる知識の重要性を確認しておく。</li> </ol> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 人間の成長と発達の基礎的理解</li> <li>3. 人間の発達段階と発達課題</li> <li>4. ライフサイクルの各期(乳幼児期、学童期、思春期、青年期、成人期、老年期)における身体的・心理的・社会的特徴と発達課題について理解する</li> <li>5. 老年期の発達課題と高齢者の心理</li> <li>6. 高齢者の定義・高齢者の生きがい・健康寿命について</li> <li>7. 老化に伴うこころとからだの変化と生活・身体機能・知的機能の変化</li> <li>8. 高齢者の疾患の特徴・高齢者に対するアセスメント・高齢者に多い疾患・生活習慣病</li> <li>9. 脳・神経の疾患・感覚器の疾患・歯・口腔内の疾患</li> <li>10. 骨・運動器系の疾患・消化器系の疾患・呼吸器の疾患</li> <li>11. 腎・泌尿器の疾患・代謝・内分泌系の疾患</li> <li>12. 循環器系・皮膚系疾患・感染症・先天性疾患</li> <li>13. 発達と老化の理解のまとめ</li> </ol>			

科目名	発達と老化の理解	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	砂田 貴彦		
<p>[ 成績評価方法 ] 筆記試験(70%)・レポート(10%)・発表(10%)・授業への取り組み(10%)の総合評価</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 授業内で随時フィードバックを行う。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:筆記試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:筆記試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:課題発表</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:グループワーク及び発表</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:グループワーク</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:ディスカッション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:筆記試験、レポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 書籍名:発達と老化の理解 第2版 著者名:介護福祉士養成講座編集委員会 出版社名:中央法規出版 ISBN:9784805884010</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	貧困に対する支援	後期	2 単位
サブタイトル	生活保護の出番～格差社会の セーフティネット	講義	
担当者	佐々木 勝一		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <p>①増加し続ける低所得者層の暮らしの実態を把握し、それを生み出す現代社会との関連を明らかにし、福祉需要に応えるセーフティネットを考えます。</p> <p>②セーフティネットとして重要な役割を果たしている生活保護制度を始めとした関連諸施策・法制度について理解し、改革すべき課題を考えます。</p> <p>③生活困窮者に対する相談支援活動、並びに関係機関との連携のあり方を考えるとともに、自立支援のための「自立支援プログラム」の意義と実際について理解します</p> <p>[授業概要]</p> <p>非正規雇用の増加、失業、低所得、離婚、家庭崩壊、ホームレス、多重債務、このような語句が日常に反乱するようになっていきます。特に、コロナ禍で、生活保護受給者は年々新記録を更新しています。社会福祉士として、多くの対象者の支援に関わり、年金や医療保険、雇用対策を充実させ、生活が困難になった人々への支援をきめ細かくしなければならないが、現実には厳しく他の社会保障・社会福祉諸制度では十分な対応が困難な現状を提示します。</p> <p>社会保障・社会福祉の「セーフティーネット」と言われている生活保護制度の役割について正しく理解します。また、低所得者支援、生活保護制度の制度や課題を理解し、社会福祉士に求められる役割について理解します。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の社会状況と貧困について関心を持ってください。</li> <li>・生活保護制度と憲法、その他の制度との関連について理解してください。</li> </ul> <p>各回、予習復習合わせて1時間程度必要です。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会における貧困問題、貧困・低所得者問題</li> <li>2. 生活保護法の概要(目的と原理、原則)</li> <li>3. 保護の基準と種類・内容</li> <li>4. 法の実施体制～国と地方</li> <li>5. 生活保護の決定・実施過程</li> <li>6. 被保護層の動向と課題</li> <li>7. 保護施設、関連施設</li> <li>8. 最低生活保障と自立助長</li> <li>9. 自立支援プログラムの意義と実際</li> <li>10. 低所得者対策と生活困窮者支援法</li> <li>11. 生活保護制度と裁判、政治</li> <li>12. 公的扶助をめぐる日本と諸外国の状況</li> <li>13. まとめ</li> </ol>			

科目名	貧困に対する支援	後期	2 単位
サブタイトル	生活保護の出番～格差社会の セーフティネット	講義	
担当者	佐々木 勝一		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業への参加姿勢(30%)、毎回のmanabaレポート(30%)、最終試験(40%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  毎回の授業で、manabaレポート提出を求めます。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。  成績評価方法:提出レポート内容、出席状況で評価します。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。  成績評価方法:提出レポート内容、出席状況で評価します。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。  成績評価方法:提出レポート内容、出席状況で評価します。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。  成績評価方法:提出レポート内容、出席状況で評価します。</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  成績評価方法:提出レポート内容、出席状況で評価します。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢  成績評価方法:提出レポート内容、出席状況で評価します。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:提出レポート内容、出席状況で評価します。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:提出レポート内容、出席状況で評価します。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  書籍名:貧困に対する支援 著者名:一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟 出版社名:中央法規 ISBN:978-4-8058-8247-4</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	福祉サービスの組織と経営	前期	2 単位
サブタイトル	社会福祉サービス供給組織の仕組と課題について	講義	
担当者	阿江 善春		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標] 福祉サービス供給組織の仕組に関して、①福祉サービスに係る組織や団体(社会福祉法人、医療法人、特定非営利活動法人、営利法人、市民団体、自治会など)、②福祉サービスの組織と経営に係る基礎理論、③福祉サービスの経営と管理運営について理解することを目標とします。</p> <p>[授業概要] 社会福祉士、施設運営責任者として、福祉サービスにおける組織・経営の意義、社会福祉法人を中心とする法人の意味、社会福祉サービス事業の戦略・計画と組織について講義します。さらに社会福祉サービス管理運営の基礎理論を概説し、サービス管理、人事管理・労務管理、会計管理・財務管理、情報管理についても言及します。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 日常的に新聞、雑誌、TVニュース等で社会福祉に関する出来事に関心を持ち、自分の感想を持っておくことが大切です。各回、予習復習合わせて1時間程度行ってください。</p> <p>[授業計画] 1. オリエンテーション・福祉サービスの理念 2. 福祉サービスにおける組織・経営・制度 3. 法人、特に社会福祉法人 4. 特定非営利活動法人、医療法人・営利法人・公益法人・協同組合等 5. 福祉サービスの戦略 6. 福祉サービス事業の計画と組織、ミッション 7. 福祉サービス管理運営の基礎理論、社会福祉事業の特殊性 8. 福祉サービス管理運営の方法①－社会福祉サービス管理、 9. 福祉サービス管理運営の方法②－社会福祉施設の人事管理・労務管理 10. 福祉サービス管理運営の方法③－社会福祉施設の会計管理・財務管理 11. 福祉サービス管理運営の方法④－情報管理の必要性和意義 12. 今後の社会福祉事業の展望と課題 13. まとめ</p>			

科目名	福祉サービスの組織と経営	前期	2 単位
サブタイトル	社会福祉サービス供給組織の仕組と課題について	講義	
担当者	阿江 善春		

[ 成績評価方法 ]

毎回の授業レポート20%、最終試験70パーセントの配分で評価する。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

毎回の授業でレポート提出を行います。また最終授業時に試験を行います。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。

成績評価方法:毎回の授業レポート(30%)、最終試験(70%)

学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。

成績評価方法:毎回の授業レポート(30%)、最終試験(70%)

学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。

成績評価方法:毎回の授業レポート(30%)、最終試験(70%)

学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びととも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。

成績評価方法:毎回の授業レポート(30%)、最終試験(70%)

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢

成績評価方法:毎回の授業レポート(30%)、最終試験(70%)

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢

成績評価方法:毎回の授業レポート(30%)、最終試験(70%)

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法:毎回の授業レポート(30%)、最終試験(70%)

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力

成績評価方法:毎回の授業レポート(30%)、最終試験(70%)

[ 教科書(ISBN) ]

書籍名:福祉サービスの組織と経営 著者名:一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟 出版社名:中央法規 ISBN:978-4-8058-8244-1

[ 参考書(ISBN) ]

科目名	福祉と人権	前期	1 単位
サブタイトル	人権・欠けがえのないもの	講義	
担当者	阿江 善春		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会における「人間」の理解を基礎とした人権の意義を知る。</li> <li>2. 社会福祉援助における人権の擁護の大切さを理解する。</li> <li>3. 様々な人権事例の検討を通して、自らの人権についても考える。</li> <li>4. 人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について学ぶ。</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>高齢者、障害者、児童など様々なハンディキャップを抱えた人々の暮らしに関わる中で、「人権」とは何か、どのような援助が必要なのかを検討した内容を提示する。事例や事件を素材として、「人権」について考える。今後の専門科目を学ぶ視点を確立することを目標とする。また、今日の新たな「人権」についても、知る事も重要である。オープン科目として開講する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>日々、世界で取り上げられる人権問題に関する講義を行います。普段から、社会事象について人権擁護の視点から考察することを忘れないでください。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人権の歴史(特に近・現代)</li> <li>2. 政治・経済・社会と人権(SDGsについて)</li> <li>3. 児童・高齢者と人権</li> <li>4. 障害者・マイノリティー・女性と人権</li> <li>5. 戦争・平和と人権</li> <li>6. 人権擁護活動と課題(事例集)</li> <li>7. まとめ、最終試験</li> </ol>			

科目名	福祉と人権	前期	1 単位
サブタイトル	人権・欠けがえのないもの	講義	
担当者	阿江 善春		

[ 成績評価方法 ]

毎回の授業レポート(30%)、最終試験(70%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

毎回の授業終了時のレポートを提出してもらいます。また最終授業で試験を行いません。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。

成績評価方法:毎回の授業レポート(30%)、最終試験(70%)

学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。

成績評価方法:毎回の授業レポート(30%)、最終試験(70%)

学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。

成績評価方法:毎回の授業レポート(30%)、最終試験(70%)

学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びととも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。

成績評価方法:毎回の授業レポート(30%)、最終試験(70%)

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢

成績評価方法:毎回の授業レポート(30%)、最終試験(70%)

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢

成績評価方法:毎回の授業レポート(30%)、最終試験(70%)

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法:毎回の授業レポート(30%)、最終試験(70%)

[ 教科書(ISBN) ]

[ 参考書(ISBN) ]

科目名	福祉と人権	前期	1 単位
サブタイトル	人権・欠けがえのないもの	講義	
担当者	阿江 善春		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会における「人間」の理解を基礎とした人権の意義を知る。</li> <li>2. 社会福祉援助における人権の擁護の大切さを理解する。</li> <li>3. 様々な人権事例の検討を通して、自らの人権についても考える。</li> <li>4. 人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について学ぶ。</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>高齢者、障害者、児童など様々なハンディキャップを抱えた人々の暮らしに関わる中で、「人権」とは何か、どのような援助が必要なのかを検討した内容を提示する。事例や事件を素材として、「人権」について考える。今後の専門科目を学ぶ視点を確立することを目標とする。また、今日の新たな「人権」についても、知る事も重要である。オープン科目として開講する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>日々、世界で取り上げられる人権問題に関する講義を行います。普段から、社会事象について人権擁護の視点から考察することを忘れないでください。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人権の歴史(特に近・現代)</li> <li>2. 政治・経済・社会と人権(SDGsについて)</li> <li>3. 児童・高齢者と人権</li> <li>4. 障害者・マイノリティー・女性と人権</li> <li>5. 戦争・平和と人権</li> <li>6. 人権擁護活動と課題(事例集)</li> <li>7. まとめ、最終試験</li> </ol>			

科目名	福祉と人権	前期	1 単位
サブタイトル	人権・欠けがえのないもの	講義	
担当者	阿江 善春		

[ 成績評価方法 ]

毎回の授業レポート(30%)、最終試験(70%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

毎回の授業終了時のレポートを提出してもらいます。また最終授業で試験を行いません。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。

成績評価方法:毎回の授業レポート(30%)、最終試験(70%)

学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。

成績評価方法:毎回の授業レポート(30%)、最終試験(70%)

学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。

成績評価方法:毎回の授業レポート(30%)、最終試験(70%)

学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びととも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。

成績評価方法:毎回の授業レポート(30%)、最終試験(70%)

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢

成績評価方法:毎回の授業レポート(30%)、最終試験(70%)

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢

成績評価方法:毎回の授業レポート(30%)、最終試験(70%)

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法:毎回の授業レポート(30%)、最終試験(70%)

[ 教科書(ISBN) ]

[ 参考書(ISBN) ]

科目名	保健医療と福祉	前期	2 単位
サブタイトル	医療保険と社会保障、医療ソーシャルワーク、対人援助と自己理解	講義	
担当者	阿江 善春		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>保険医療分野での相談援助業務に必要な知識の習得。 関係職種との連携・協働についての理解。</p> <p>[授業概要]</p> <p>本講義は社会福祉士、精神保健福祉士の国家試験における共通科目であるが、医療保険をはじめとする関係諸制度の理解と保健医療制度を構成している機関や職種、それとのチームワークやネットワークについて理解を深め将来の専門職としての自己形成に資してほしいと考えている。また身体(からだ)・社会(くらし)・精神(こころ)の全体像を理解できる力をつけること、対人援助職として自身の健康保持にも留意し授業をすすめる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>WHO(世界保健機関)の「健康に関する定義」で示されている身体・精神・社会の3本の柱の理解の為にも、事前学習として国家試験科目の内、医学・医療系と心理系の授業内容を復習しておくこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション(WHOの健康定義から)</li> <li>2. 対人援助業務の基本について</li> <li>3. 相談援助と社会(医療)保障</li> <li>4. 保険医療分野の政策(歴史と現状)</li> <li>5. 保険医療分野の政策(今後の方向)</li> <li>6. 保健医療領域の構成要素</li> <li>7. 保健医療に関わる制度(3福祉と公的扶助)</li> <li>8. 保健医療に関わる制度(5保険)</li> <li>9. 保険医療分野における連携(チームワーク)</li> <li>10. 保健医療分野における連携(ネットワーク)</li> <li>11. 医療SW業務指針、支援の実際</li> <li>12. 再びWHOの健康定義について</li> <li>13. 全体の振り返りと国試対策</li> </ol>			

科目名	保健医療と福祉	前期	2 単位
サブタイトル	医療保険と社会保障、医療ソーシャルワーク、対人援助と自己理解	講義	
担当者	阿江 善春		
<p>[ 成績評価方法 ] 毎回のレポートを兼ねた授業感想文(40%) 試験(60%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 試験終了後解説を行う。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:授業レポート30%、定期試験70%</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:授業レポート30%、定期試験70%</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:授業レポート30%、定期試験70%</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びととも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:授業レポート30%、定期試験70%</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:授業レポート50%、定期試験50%</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業レポート50%、定期試験50%</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:授業レポート50%、定期試験50%</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業レポート50%、定期試験50%</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 書籍名:保健医療と福祉 著者名:梅崎 薫 他 出版社名:中央法規 ISBN:978-4-8243-0156-7</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	ボランティア活動論	後期	2 単位
サブタイトル	ボランティア活動の理論と実際	講義	
担当者	木村 あい		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民社会の一員としての市民活動・ボランティア活動の役割が重要視されるなかで、ボランティアの理念と歴史と社会的意義について考えることができる。</li> <li>・ボランティア活動の形態や分野等の基礎的知識を習得できる。</li> <li>・ボランティアの実践方法と活動上の留意点が理解できる。</li> <li>・自らのボランティア活動の導入・実践に結びつけることができる。</li> </ul> <p>青年海外協力隊に参加経験のある教員が、海外でのボランティア経験を活かして、様々なボランティア活動の実際を説明する。</p> <p>[授業概要]</p> <p>ボランティア活動の理念や歴史等その基本的知識を学ぶとともに、ボランティア活動の形態・分野・活動方法・活動上の留意点などを実践的に学ぶ。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>前回の授業内容を復習し理解して、次回の授業の予習をしてくること。 予習・復習を含めて4時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション グループワーク</li> <li>2. ボランティアの理念、歴史</li> <li>3. ボランティア活動の形態と支援、ボランティア活動の留意点</li> <li>4. ボランティア活動の実際①(家庭におけるボランティア)</li> <li>5. ボランティア活動の実際②(地域におけるボランティア)グループワーク</li> <li>6. ボランティア活動の実際③(福祉施設におけるボランティア)グループワーク</li> <li>7. ボランティア活動の実際④(災害支援におけるボランティア①)</li> <li>8. ボランティア活動の実際⑤(災害支援におけるボランティア②)</li> <li>9. ボランティア活動の実際⑥(海外支援におけるボランティア)</li> <li>10. 青年海外協力隊の活動①</li> <li>11. 青年海外協力隊の活動②</li> <li>12. ボランティア活動の実際⑦(その他ボランティア)グループワーク</li> <li>13. ボランティア活動の課題と展望およびまとめ</li> </ol>			

科目名	ボランティア活動論	後期	2 単位
サブタイトル	ボランティア活動の理論と実際	講義	
担当者	木村 あい		
<p>[ 成績評価方法 ] 授業に対する取り組み(30%) レポート(70%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 提出課題に関しては、授業内でコメントする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:レポート、グループワーク</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:レポート、グループワーク</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:レポート、グループワーク</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:レポート、グループワーク</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:レポート、グループワーク</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:レポート、グループワーク</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:グループワーク</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:レポート、グループワーク</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:レポート、グループワーク</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 書籍名:資料を配布します。著者名: 出版社名: ISBN:</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	ボランティア活動論	後期	2 単位
サブタイトル	ボランティア活動の理論と実際	講義	
担当者	木村 あい		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民社会の一員としての市民活動・ボランティア活動の役割が重要視されるなかで、ボランティアの理念と歴史と社会的意義について考えることができる。</li> <li>・ボランティア活動の形態や分野等の基礎的知識を習得できる。</li> <li>・ボランティアの実践方法と活動上の留意点が理解できる。</li> <li>・自らのボランティア活動の導入・実践に結びつけることができる。</li> </ul> <p>青年海外協力隊に参加経験のある教員が、海外でのボランティア経験を活かして、様々なボランティア活動の実際を説明する。</p> <p>[授業概要]</p> <p>ボランティア活動の理念や歴史等その基本的知識を学ぶとともに、ボランティア活動の形態・分野・活動方法・活動上の留意点などを実践的に学ぶ。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>前回の授業内容を復習し理解して、次回の授業の予習をしてくること。 予習・復習を含めて4時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション グループワーク</li> <li>2. ボランティアの理念、歴史</li> <li>3. ボランティア活動の形態と支援、ボランティア活動の留意点</li> <li>4. ボランティア活動の実際①(家庭におけるボランティア)</li> <li>5. ボランティア活動の実際②(地域におけるボランティア)グループワーク</li> <li>6. ボランティア活動の実際③(福祉施設におけるボランティア)グループワーク</li> <li>7. ボランティア活動の実際④(災害支援におけるボランティア①)</li> <li>8. ボランティア活動の実際⑤(災害支援におけるボランティア②)</li> <li>9. ボランティア活動の実際⑥(海外支援におけるボランティア)</li> <li>10. 青年海外協力隊の活動①</li> <li>11. 青年海外協力隊の活動②</li> <li>12. ボランティア活動の実際⑦(その他ボランティア)グループワーク</li> <li>13. ボランティア活動の課題と展望およびまとめ</li> </ol>			

科目名	ボランティア活動論	後期	2 単位
サブタイトル	ボランティア活動の理論と実際	講義	
担当者	木村 あい		
<p>[ 成績評価方法 ] 授業に対する取り組み(30%) レポート(70%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 提出課題に関しては、授業内でコメントする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:レポート、グループワーク</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:レポート、グループワーク</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:レポート、グループワーク</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:レポート、グループワーク</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:レポート、グループワーク</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:レポート、グループワーク</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:グループワーク</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:レポート、グループワーク</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:レポート、グループワーク</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 書籍名:資料を配布します。著者名: 出版社名: ISBN:</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	リスクマネジメント	後期	1 単位
サブタイトル	安全の確保と感染予防	演習	
担当者	名定 慎也		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <p>転倒・転落などの事故、傷害など介護サービス上のトラブル、自然災害や火災、感染症の発生など多岐にわたるリスクに対する安全の確保や予防について、考え実践することができる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>介護施設、また在宅で障害者や高齢者の生活には、転倒・転落などの事故、傷害など介護サービス上のトラブル、自然災害や火災、感染症の発生などのリスクが多くある。生活支援者は、それら事故などの発生を常に念頭において、あらゆる事故を想定してリスクマネジメントをしなければならない。そのためには具体的にそれらの1つひとつについて、予防や安全管理体制を学び、実践力を養う必要がある。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>日常生活の中で、事故防止や安全対策・感染対策に関するニュース等に関心を持って聞いたり、新聞の切抜きを心がけ、介護現場におけるリスクマネジメントに興味を持つこと。 各回予習・復習を合わせて2時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 介護における安全の確保とリスクマネジメント(安全な生活の確保)</li> <li>2. 介護事故・アクシデント・インシデント</li> <li>3. 介護事故とリスク(事故防止と安全対策)</li> <li>4. 介護現場における危険と改善方法</li> <li>5. ヒヤリハット、報告書</li> <li>6. 高齢者の虐待、障害者の虐待</li> <li>7. 感染予防 感染症の知識と予防 手洗いやガウンテクニックの実際</li> <li>8. 清潔、不潔、汚染の区別</li> <li>9. 日常生活の安全(介護現場の実際)</li> <li>10. 災害介護・リスクマネジメント</li> <li>11. 災害時の対応や避難訓練</li> <li>12. 介護従事者としての健康と安全</li> <li>13. まとめ</li> </ol>			

科目名	リスクマネジメント	後期	1 単位
サブタイトル	安全の確保と感染予防	演習	
担当者	名定 慎也		

[ 成績評価方法 ]  
筆記試験(70%)・レポート(10%)・発表(10%)・授業への取り組み(10%)の総合評価

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  
課題に関しては、授業内でコメントする。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]  
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。  
成績評価方法:筆記試験・発表

学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。  
成績評価方法:レポート・授業への取り組み

学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びととも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。  
成績評価方法:レポート・発表・授業への取り組み

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  
成績評価方法:発表・授業への取り組み

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  
成績評価方法:筆記試験・レポート・授業への取り組み

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  
成績評価方法:筆記試験・レポート・発表・授業への取り組み

[ 教科書(ISBN) ]  
書籍名:介護の基本Ⅱ 第2版 著者名:介護福祉士養成講座編集委員会 出版社名:中央法規出版 ISBN:9784805883938

[ 参考書(ISBN) ]

科目名	リハビリテーション	後期	1 単位
サブタイトル	リハビリテーションの諸領域	演習	
担当者	鈴木 利明		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]</p> <p>リハビリテーションと障害に関する基本的な考え方、サービス体系のあり方、さらに、それぞれの障害に対するリハビリテーションの実際のあり方などを学び、理解し体験する。</p> <p>[ 授業概要 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. リハビリテーションの理念と基本原則について理解する。</li> <li>2. 社会的リハビリテーションの実施と社会資源について理解する。</li> <li>3. リハビリテーションの実際と関わるスタッフについて理解する。</li> <li>4. 寝たきり老人、認知老人のリハビリテーションについて理解し体験する。</li> <li>5. 各種障害に対するリハビリテーションについて理解し体験する。</li> </ol> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>前回の授業内容を復習し、理解して、次回以降の授業の予習をしておくこと。日頃から授業に関係するニュース等に関心を持つこと。</p> <p>各回、予習復習合わせて4時間程度。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. リハビリテーション概論       <ol style="list-style-type: none"> <li>1)リハビリテーション(医学):総論</li> <li>2)医学的リハビリテーションと物理医学</li> <li>3)リハビリテーションとQOL</li> </ol> </li> <li>2. リハビリテーション各論       <ol style="list-style-type: none"> <li>4)国際生活機能分類(ICF)とリハビリテーションアプローチ</li> <li>5)活動(Activity)と参加</li> </ol> </li> <li>3. リハビリテーションの実際と関わるスタッフ       <ol style="list-style-type: none"> <li>6)理学療法/作業療法/看護とチーム医療</li> </ol> </li> <li>4. 寝たきり老人、認知症老人のリハビリテーション       <ol style="list-style-type: none"> <li>7)高齢化による機能障害と廃用症候群</li> <li>8)ロコモティブシンドロームとフレイル</li> <li>9)ADLの自立性の獲得と維持</li> </ol> </li> <li>5. 各種障害に対するリハビリテーション       <ol style="list-style-type: none"> <li>10)脳卒中のリハビリテーション</li> <li>11)骨・関節疾患/脊髄損傷のリハビリテーション</li> <li>12)神経・筋疾患のリハビリテーション</li> <li>13)まとめ</li> </ol> </li> </ol>			

科目名	リハビリテーション	後期	1 単位
サブタイトル	リハビリテーションの諸領域	演習	
担当者	鈴木 利明		
<p>[ 成績評価方法 ]  試験(95%)  授業参加度(5%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  試験終了後解説を行う。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。  成績評価方法:試験と授業参加度の両方</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。  成績評価方法:試験と授業参加度の両方</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。  成績評価方法:試験と授業参加度の両方</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。  成績評価方法:試験と授業参加度の両方</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:試験と授業参加度の両方</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法:試験と授業参加度の両方</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:試験と授業参加度の両方</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  成績評価方法:試験と授業参加度の両方</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  書籍名:リハビリテーション ～レジュメ集～ 著者名:鈴木 利明 出版社名:自費出版 ISBN:なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			